王国のみ言

天宙平和統一国（天一国）創建のために

Rev. 01d

第１章 天宙平和統一国 7

1-1 天一国の位置付け 7
お父様による天一国の宣布..... 7
神の王国 7
王を主体とする王国 7
成約の王国 7
神の血統、精子による王国 7
霊的でも実体的でもある王国 7
神様が下さった権利による王国 7
国民に王冠と鉄の杖を与える王国 8

1-2 逆転の王国 8
多くの王から成る王国 8
上下逆さまの王国 8
キリストの共同相続者による王国..... 8
サタンにとって呪いの王国 8
神様と繋がり、人の思惑によって損なわれない王国 8

第２章 王国の原理 9

2-1 王国で育む第一祝福 9
自由と責任の王国..... 9
非中央集権のキリスト教は自由と責任に繋がる..... 9
自由と責任を感謝する伝統 9
自由と責任にもとづく国の運営..... 9
神様とサタンの違いは「自由と責任」か「独裁」か..... 9
個性完成に後押しする自由と責任..... 9
善を動機付ける自由と責任..... 9
公的な善を志向させる自由と責任 10
神様が人の心に刻まれた自由と責任 10
心に十戒を刻み付ける自由と責任 11
人への奉仕を後押しする自由と責任..... 11
豊かさをもたらす自由と責任..... 11
誠実な関係性で豊かになる..... 11
自由と責任が豊かさの源泉 11
パンのイーストになる自由と責任 12
機会平等・結果不平等 12
善なる競争が人を育む 13
競争の結果は不平等 13
自由と責任は機会平等・結果不平等 13
自由の律法に裁かれる 13

2-2 王国で育む第二祝福 13
天一国憲法 原則１：神の清い血統を維持せよ 13
神様の文明 14
相容れない神様とサタンの文明..... 14
王国の文明を作る..... 14
文明は政治機構を通して生活に適用される 14
思想が文明を作り、文明は本にもとづく 14
第二祝福を守る王国の文明 14
血統を汚してはならない 14
結婚を汚したサタンの文明 15
天一国では許されない姦通..... 15

2-3 王国で育む第三祝福 15
国民を守る平和軍・平和警察..... 15
神様の保護圏 15
国民みずから国を守る..... 15
弱者を守るために暴力を学ぶ 16
平和軍・平和警察は王国の文化 16
王国の文化 16
家族と隣人の安全に責任を持つ 16
平和軍・平和警察は隣人を愛するということ..... 17
危険を知らせる責任..... 17
格闘技の訓練が異なる人種に変える 17
平和軍・平和警察は第三祝福..... 18
万物を主管する..... 18
血統を守る義務 18
牧羊犬のように王国を守る..... 19
平和警察平和軍のロゴは AR-15 19
再臨主の経済学..... 19
天一国憲法 原則３：公金を乱用してはいけない... 19
自分が築いたものを自分で守る自由..... 19
自分が汗して稼いだものは自分が所有する..... 19
80%以上を餓死させた共産主義..... 19
神様の祝福が与えられた財産権 20
個人で資産を所有する王国..... 20
介入しない王国の経済 20
アメリカの初期共同体での顛末..... 20
介入しない経済..... 20
介入するサタンの王国 21
正当な取引を保証する王国..... 21
自由に経済活動できる王国 21
中産階級が花咲く王国 22
最も幸福な中産階級 22
中産階級を 60%に育てる王国..... 22
天一国憲法が作る中産階級の王国..... 23
30%の人を事業主にする天一国憲法 23

第３章 王国の主人の堕落 23

３-１ エデンの園に生じた中央集権志向 23

アダムを受け容れられなかった天使長 23

中央集権と等しい天使長の主張 23

「神の似姿」の喪失 23

神様のロゴス 23

神の似姿として思い描く 24

神様のロゴスを文章化した憲法 24

誰でも平等に神様の似姿としたユダヤ・キリスト教 24

人を動物より低くしたサタンの文明 24

ロゴスで戦う 25

取り除かれた神様のロゴス 25

能力に応じた階級組織の台頭 25

精神へのサタンの侵入 25

無意識の世界から排除された神様 25

善悪の判断基準を奪うサタン 25

ユダヤ・キリスト教の文化を奪われた空虚 26

夢を通して届く神様の声 26

３-２ 中央集権化の要求 26

権力を集中させて貧しい普通の人から盗む 26

搾取者を魅了する中央集権化された権力 26

３-３ サタンによる政体の変遷 26

主権国家から寡頭制への堕落 26

共和制と寡頭制の二者択一 27

社会主義、共産主義の誘惑 27

300 年で崩壊する民主主義 27

政府に対する絶えないお金の要求 27

国民を僕に決定付けたサタンの法律 27

第４章 王国の復帰 27

４-１ キリストによる贖罪と復活 28

キリストによる罪の償い 28

他の人の罪を贖えるのか 28

罪の三つの側面 28

神様にも許してあげられない「犯罪」 28

神様が悪を憎まれるという意味 29

十字架による救い 29

贖罪におけるキリストの役割 29

身代わりの償いの条件 30

キリストの身代わりに必要な「自由」 30

心情の十字架を負われたお父様 30

キリストをまとう 31

キリストしか埋められない大きな心の穴 31

キリストと共に行く 31

私がキリストに合わせる 31

自由意志でキリストをまとう 32

撤回された裁きの日 32

キリストと共に相続する 32

王はキリストの共同相続者 32

４-２ 三代王権で復帰する 33

お父様が予言された三代王権 33

三代とアベルカインを通して復帰する 33

二代目の犠牲で基盤を作る 33

アベルカインの勝利で王国が到来する 33

人類に復帰される三大祝福 34

４-３ 王冠を被る 34

再臨主から授かった王冠 34

王冠を被って王と王妃として立つ 34

キリストと共にあるものが王冠を受ける 34

王冠は主管性の権威と権利 35

王冠を被ってサタンに宣戦布告する 35

王冠を被って鉄の杖を持つ 35

奴隷思考を捨てる 35

王冠を諦めさせようとするサタンの戦術 35

王冠に投資して神様の祝福をいただく 36

神様の祝福を否定してはいけない 36

王冠にお父様の名前を刻む 36

韓氏オモニの失敗が変えた王冠摂理 36

４-４ 鉄の杖で支配する 36

組織化された悪を終わらせる 37

エリートをアベルとカインに分立する 37

アベル型革命とカイン型革命 37

韓国で進んでいたアベルカインの分立 37

鉄の杖で守る 38

鉄の杖で主権を取り戻す 38

兵役を通して武器を所持させる 38

国民皆兵で捕食者に立ち向かう 38

鉄の杖で支配する 39

ルカによる福音書 22 章の逸話 39

キリストによる鉄の杖の支配 39

鉄の杖は主権の印 40

お父様がバルカン砲を開発 40

鉄の杖がお父様の文化に繋げる 40

主権の文化は自然に繋がる 40

4-5 歴史が待ち望んだ王国を建てる 40
再臨主がもたらすまったく新しい王国..... 40
新しい歌を歌う.....41
神様と天一国の霊が宇宙に放たれる 41
お父様が興南収容所で作られた歌 41
サタンの支配下から立ち上がる..... 41
王国を創る人は準備されている..... 41
神様と聖書に関する啓蒙 41
開かれてきた有神論 41
芸術作品のような聖書 42
神様の働きかけ 42
王国を創建する.....42
サタンを終わらせる四騎士 42
お父様の示された神の王国を創建する 43
教会建設では実現し得ない王国..... 43
審判の後に創建される王国..... 43
我々の選択が結実する王国..... 43
誰のための王国か 44
誰にでも開かれた王国..... 44
信仰を強要しない王国..... 44
自由と責任の文化が王国への加入条件 44
共和制と自由な君主制が加入条件..... 45
悪には寛容でない王国..... 45

第５章 王国の運営 45

5-1 神様の権利 45
自然権にもとづく王国の運営..... 45

5-2 天一国合衆国憲法 45
相続者が発表する天法 45
建国の父も感謝する憲法..... 45
キリストを通して見る天一国憲法 46
天一国憲法は神の種 46
法的ではなく霊的な文書..... 46
天一国憲法が主権を確立する.....46
自然権を守る天一国憲法..... 46
天使長を主管する天一国憲法..... 46
世の明かりとして掲げる天一国憲法 47
十戒として本心を育む天一国憲法..... 47
天一国憲法を生かす 47
天一国憲法を学んで豊かになる..... 47
文明の没落を抑止する天一国憲法 48
憲法が自然権を守る 48
修正されない憲法が王国を守る 48
存在しない憲法修正プロセス..... 48
僕に修正出来ない天一国憲法 48
主権を守る天一国憲法..... 48

5-3 王の権利 48
天一国憲法 原則２：人権を侵してはならない..... 48
天一国主人..... 48
王の権利は神様が下さった自然権..... 49
すべての国民が王の権利を持つ 50
「アジュ」は主権の宣布 50
王の心構え..... 50

5-4 王国の政府 50
政府の役割と構造 50
僕（天使長）である政府 50
政府の二つの役割（１）独占禁止法の制定 51
政府の二つの役割（２）戦時の軍の編成..... 51
五権分立 51
地方分権 51
10%未満に制限された政府 52
天使長（公務員）の立場とその主管 52
主体になれない宦官 52
公務員は選挙で選ばれる..... 52
公務員は僕..... 52
国民に命運を握られた公務員..... 53
国民の目に露わな公務員 53
生産性を問われる公務員 53
無政府主義ではダメか？ 53
司法権（五権の一）.....54
判事ではなく陪審団員が裁く 54
死刑も執行する..... 55
立法権（五権の二）.....55
反独占法の制定と軍の編成は議会の責務 55
10 年で消滅する法律 55
独占を阻む王国 55
どの様な組織も消化する天一国 55
最低賃金を決めさせない..... 55
執行権（五権の三）.....56
介入しない自然の王国 56
政府は福祉を行わない..... 56
公立学校を作らせない 56
政府に環境保護をさせない..... 56
公的な土地所有をさせない..... 56
固定資産税を許さない..... 56
国に薬物の取り締まりをさせない..... 56

王国同士の交流 57
宣戦布告する 57
言論（五権の四） 57
私企業にメディアを所有させない 57
サタンの支配は国を盲目や唖、聾にする 57
メディアはオーナー個人が責任を持つ 58
金融（五権の五） 58
中央銀行を作らせない 58

第６章 王国の守護 58

6-1 サタンの侵入を阻む 58
常に必ずみ言に立ち返る 59
サタンの原動力は嫉妬と妬み 59
弱さが結果不平等を嫌がる 59
平等を求める心が三大祝福を遠ざける 59
サタンの文化は嫉妬と妬み 59
王国は機会平等・結果不平等 60
男女間の不平等を讒訴するフェミニズム 60
サタンの文明が第二祝福を破壊する 61
サタンを見極める 61
神かサタンかの二つ 61
共産主義者として登場する 61
R-K タイプの闘い 61
サイコパスかそうでないか 62
サタンは福祉で主権を奪う 62
衆愚政治に陥らせて主権を奪う 62
多数決が人権を奪う 63
天使長（政府）は常に嘘をつく 63
サタンの国家は暴力 63
中央集権化して共産主義や全体主義を作り出す 63
家庭を破壊して社会を潰す 64
夫婦、そして家庭を破壊する 64
黒人家庭と社会の破壊 64
神様から離れさせる 65
血統を奪う 65
御しやすい女性に侵入する 65
弱い女性を狙う 65
女子も武力を持つ 65
国民から銃を奪う 66
政府が国民を武装解除させる 66
略奪者は決して武器を手放さない 66
銃の所持は殺人率を下げる 67
国民の資産を奪う 67
中央銀行を作って搾取する 67
土地を搾取する 67
借金奴隷システムで搾取する 67
ビットコイン 67
市場を操作する 67
悪魔崇拝を通して侵入する 68
相対主義思想による攻撃 68
多文化主義による攻撃 68
千年王国の後のサタンの攻撃 68
世界政府で世界を主管する 68
サタンの手口 69

6-2 王国を育む 69
自由と責任で運営する 69
体制や階級を超越するキリスト 69
王国の運営は組織運営ではない 69
世代を超えて王国を育む 69
神様から受けた祝福を命がけで伝承する 69
王国の脅威は新しい世代 70
次世代の相続者を選択する 71
王冠を奪われてはならない 72
3 世代が共に生きる 72
血統を守って王国を守る 73
普通の人が王国を相続する 73
真のキリスト教徒を結集する 73
アベル圏キリスト教徒 73
政府が作った左派キリスト教徒 73
真のキリスト教徒　参戦勇士たち 73
参戦勇士の銃を奪おうとする政府 74
参戦勇士の軍隊を恐れる政府 74
真の価値を育む 74
真の価値を見極める 74
偽りの紙幣に優る仮想通貨 74
真の価値を育む 75

第７章 王としての備え 75

7-1 平和軍・平和警察を体現する 75
反エスタブリッシュメントだったイエス様 75
ためらわずに行動する 75
構え、撃て、狙え 75
インターネットを使って個々人が発信する 76
サタンに銃を向ける 76
後成遺伝子を発現する 77
レーガンの言った「力による平和」 77

自然の中で強くなる..... 77
聖書に描かれた強さ 78
弱いものを守る 78
全体主義者に膝を屈するな 78
自由と責任で切磋琢磨する 78
精神性と勤労意欲を育てる..... 78
柔術は天一国憲法に通じる 79
柔術は王国の文化 79
刀のように鍛える 80
鉄の杖で備える 80
武器の必要性 80
王と王妃の責任で守る 80
鉄の杖の文化を志向するコミュニティで備える 80
悪に銃で備える 81
迫害を覚悟する..... 81
7-2 聖霊と共に戦う 81
聖霊を受ける.....81
横的に支える聖霊 81
イエス様の聖霊とお父様の聖霊..... 82
神様との縦的な関係に依る聖霊 82
聖霊によって善悪を見極める..... 82
聖霊によって神霊の炎が燃える 82
聖霊によってキリストの目で見る..... 82
コミュニティの中で生きる 83
キリストとの関係性で生きる 83
神の王国を築くコミュニティ 83
コミュニティの関係性で生きる..... 83
自分の身は自分で守る 83
小さなことで分裂してはいけない 84
干渉してはいけない..... 84
お父様の観点で見る 84
神様との関係を自叙伝として書く..... 84
7-3 患難期を生き抜く..... 85
患難前期（2017/9/23 まで）.....85
危機に瀕している時（9/23） 85
「み言をいただく」姿勢を取る 86
自分の責任分担として備える..... 86
テクノロジーに依存してはいけない..... 87
自然を愛する 87
神様の備えられた地 87
患難後期.....87
海から上って来る獣..... 88
カトリック教会の問題..... 88
獣の数字 88
Facebook の問題 89
YouTube の策略 89
天の摂理の数..... 90
患難期後半の 3 年半 90
黙示録に描かれた総監察官 國進様 90

第１章　天宙平和統一国

マタイ 6 章 9: だから、あなたがたはこう祈りなさい。天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。 10 御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。 11 わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください。 12 わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしください。 13 わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。

1 - 1 天一国の位置付け

お父様による天一国の宣布

「神様が願う一つの国という意味です。神様が一番好む一つしかない国、私たちが好む一つしかない国、白人、黒人、黄色人が好む一つしかない国、二人が一つになってこそ天国になるのです」（第 42 回「真の子女の日　2001/11/15）

「『天一国』という言葉は、天宙平和統一国です。天一の『天』という字は、『二人』であり、『二つの世界』です。これは水平です。天の国と地上に、『人』です。天の人と地の人が二重構造になるのです。皆さんの心と体は、二重構造になっているでしょう？　心と体が一つになりましたか、なっていませんか？　闘っていますか、統一されましたか？　闘う群れは、『天一国』の国民になることはできません。……今からは、心と体が闘う人は、ここに入ってくることはできません」（2002/1/1）

神の王国

神の王国には宗教、政治、経済が付随するとしても、それらから神の国が生まれるのではありません。神の国は根本的に、人間と神様の関係性に基礎を置くのです。天一国憲法も同様です。（「待ち望む王国」 2016/12/18）

王を主体とする王国

王国は基本的に悪い政体だと教える西洋の教育を受けた人々にはこれを理解することが難しいかもしれません。たしかに王国は歴史を通して全体主義的なものが殆どです。また私たちは王国に住んでもいません。王国（Kingdom）はギリシャ語でバシリア（βασιλεία）という女性名詞です。これは王（バシリユース）からの派生語です。王国は対象的相対であり、王が主体的相対である点が興味深いところです。王国は王の周囲をまわるべき存在だということです。王国は領土、法、憲法などを持ちますが、同時に王の倫理、願いなどがその文化に反映します。王国に慣れていないので、それを理解することが難しいわけです。王国は王とその家庭、血統を中心軸として存在します。（「神の国」 2016/3/13）

成約の王国

マタイ 13 章 51 あなたがたは、これらのことが皆わかったか」。彼らは「わかりました」と答えた。 52 そこで、イエスは彼らに言われた、「それだから、天国のことを学んだ学者は、新しいものと古いものとを、その倉から取り出す一家の主人のようなものである」。

お父様が下さったのは「主人である私」です。キリストと共に相続する天一国の主人は倉から新しいものも古いものもすべて取り出すことができるのです。神様がアダムに約束されたものをイエス様はサタンを追い払ってすべて取り戻します。だから「天国のことを学んだ学者は、新しいものと古いものとを、その倉から取り出す一家の主人のようなものである」というのです。「倉から新しいものと古いものを取り出す」。新しいもの古いもののどちらも成就する。これを「成約」とお父様は呼ばれました。これは天一国の聖約です。神様と天一国国民との間で交わされた聖約だということです。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

神の血統、精子による王国

黙示録にはキリストの千年王国の後にサタンが再び現れてすべてをひっくり返そうとする時代が来る、とあります。この聖書の話とまったく同じようにサタンはやろうとします。しかし、彼は蘇生期と長生期のレベルの国ではうまく行きましたが、天一国、キリストと神の血統にある神の王国、千年王国は違ったタイプの王国なのです。それは全能の神の種からやって来ます。観念的な種からだけではなく、血統、精子から真の王から来るのです。ですから悪魔はそれを破壊しようとします。彼らが破壊しようとするとき、それは彼らが直面したことのあるどのような王国とも違います。彼らが今までに対したことのあるどの相手とも似ていません。彼らは異なる血統を相手にしています。（「教化される王国」 2016/9/18）

さて、なぜ血統を理解することが大切なのでしょうか。みなさん、覚えているでしょうか。神の国ができたとき、その王国というのはたった一人の王から来たものです。王から来てその種は継承されます。そして、その王国全体と領土はその王から来たものです。それが重要な理由は、その王は人だからです。ですからその人の文化を理解することが重要です。もしあなたが「偽りの」真の父を信じて従うなら、偽りの文化を学ぶことになります。神の王国とはかけ離れた偽りの文化です。その王から文化が出てくるのです。（「教化される王国」 2016/9/18）

霊的でも実体的でもある王国

王国の中心はもちろん王様です。それはイエス様であり、キリストです。神様の霊であり、キリストの霊です。「王国に居り、キリストの忍耐の中にいる」。キリストの忍耐とは人々に対するキリストの忍耐を意味します。霊的に待つ人々はキリストと共に忍耐している。マクロの国家的王国においては、それが物理的実体的王国であると同時に、霊的王国であることを忘れてはなりません。そのどちらを抜いても駄目なのです。霊的あるいは実体だけの王国ではいけません。（「最後の王国」 2017/7/30）

神様が下さった権利による王国

人々がそれ（神が与えた権利）を理解してその所有権を持つとき、自分の位置に立って政治的な悪魔崇拝に立ち向かうようになり、サタンの実際の働きに立ち向かうようになります。そして文字通り、そのような略奪者に対する武器となり、世界を平

和にするための活発な要素となるのです。そして自由と責任、主権と領土に基づいて本当の統一を成すのです。また隣人を愛し自分の先人を称えるのです。本当の文化、本当の文明、本当の道徳律に基づいて。それが本当の王国です。（「不死の王国」 2017/4/23）

国民に王冠と鉄の杖を与える王国

（黙示録 3 章）11 節にはっきり書いています。「あなたの冠をだれにも奪われるな」。そして「鉄の杖」も与えられる。サタン王国とはずいぶん違うところが面白い。サタンの王国ではその臣民に、王冠と鉄の杖（銃）を与えることなどあり得ない。彼らは主権も私有財産も与えない。国民に与えるつもりもない！法律で成文化する気もない！レバレント・ムーンの王権は今までの王国とは革命的に異なるものです。王冠を被るから頭がおかしいと思うなら、そういうあなたが狂っている。（「王国の王冠」 2017/10/8）

神様が私たちに王冠と鉄の杖の治める力と権限を下さる理由は何ですか？愛です。愛！父は息子、娘たちを愛しているから、自分の娘が性暴行されて、自分の妻が性暴行されることを願わないので、自分の夫人、娘たちに鉄の杖のパワーを下さるのです。女性もそのパワーと責任がどれくらい重要なのかを理解しなければいけないと分かりますか？
その内容を通しながら、皆さんは天一国の宗族の王と王妃になることにより、国を治めて保護する地上天国、神様に栄光をお返しすることができる国と、賛美をお返しすることができる、愛をお返しすることができる、美しい再臨主、地上天国を実践していくことができる皆さんとなりますように！アジュ、アジュ（「銃器所有神学論」 2017/12/20）

1 - 2 逆転の王国

キリストの王国はこれまでの王国を逆転した王国です。上にいる者が下に行く王国です。（「王国の力学」 2016/5/8）

多くの王から成る王国

天一国は多くの王からなる王国なのです。天一国はひとりの王がいて、そこに貴族がいて国民はそれらに仕えるというものではないのです。それはこれまでのサタン世界の王国です。神様の王国はそれとは 180 度反対の王国だということです、全く逆転したものなのです。（「逆さの王国」 2016/4/24）

上下逆さまの王国

国民の権力を理解することができますか。国民が天一国の王であり主権者であるというのです。まさに上下逆さまの王国です。長成期のアメリカはまさにこれでした。しかし今はそうではありません。（「逆さの王国」 2016/4/24）

天一国は逆さまの王国です。市民は王様です。市民は王様のすべての権利があります。領地を統治する権利、税金をかけられない権利、王国を防御する権利等天一国は、すなわち神様の王国は、王様の王国です。天での契約が地上でも行われるということをおぼえていますか？（「天一国文化」 2016/5/1）

千年王国は人類堕落歴史上に存在してきたこれらの国とは真逆の王国です。国民が「王」なのです。政治指導者が「僕」であり、「王」である国民に説明責任を負います。国民が「王」としての権利を持つのです。これまで王様だけが領土をもち、課税されず、自分の領土を守るための武力と武器をもつことを許されました。社会主義、共産主義、寡頭政治などの独裁制では国民がそのような「王」の権利をもつことなど決して許しません。しかし神の国ではそれが逆転します。国民が「王」の権利を持ち、その領地に課税は行われず、侵入する者を排除するための武力を有します。そして政治家はあくまでも「僕」なのです。政治指導者は国民に仕えなければなりません。（「生命の王国」 2016/6/5）

キリストの共同相続者による王国

天一国憲法はユダヤ・キリスト教文化を受け継いでいます。神中心文化であり、文鮮明師を再臨主として受け入れています。この再臨主こそが王権を樹立し、空前絶後の逆転の王国を創立されたのでした。そこでは神様が国民と誓約をかわし国民一人一人が（キリストの）共同相続者であり「王」としての権利を持ちます。そして僕（政府）は王（国民）を支配することは許されません。天使長（政府）は鎖でつながれているのです。（「王国の花婿」 2016/5/29）

サタンにとって呪いの王国

神様の愛に根ざす王国は自由と責任がその恵みでありキリストの共同相続者であるがゆえに、市民が王である逆さの国でした。政治支配階級の僕となってしまった人々には理解することが難しいのです。西洋文明の大半は現在そうであるというのです。世界的にもそうです。支配階級と大衆に分かれてしまっています。ですからキリストの共同相続人として文字通りキリストと共に統治することなど想像もできないのです。そこには王（国民）が居てまた王の王、王権が存在する。これが逆転の王国だというのです。サタン世界にとっては呪いのような王国です。サタン世界は、独裁、寡頭政治、社会主義、共産主義といううんざりするほど退屈で単調な支配形態を続けてきました。まったく退屈で単調だというのです。人類の運命や生活、人間性をことごとく破壊してきました。独裁、寡頭制、社会主義、共産主義・・・これを、世代を継いで延々と繰り返してきました。そのすべてが数家庭によってすべてを支配するパターンです。そして例外なく最後に破滅します。（「生命の王国」 2016/6/5）

神様と繋がり、人の思惑によって損なわれない王国

イエス様に従っていた人々は全く異なる王国に属していました。彼らが待ち望み、期待し、信じ希望していた王国は、全く異なるタイプの王国だったのです。全く逆さまの王国です。今まで暮らしてきた帝国の現実からは受け入れ難いものでした。当時の現実は皇帝アウグストゥスがいて、中央集権国家、政府があり、中央主導の教育、中央主導の福祉、その他すべてが中央主導でした。マネーサプライ（通貨供給量）から銀行業、貸付まですべてです。まさにそれは共産主義者の夢の世界です。人良さげに近寄ってきて「私たちは貧しい人のため思っている」など

と言っても、実際はそのようなことは考えていません。ただ中央集権社会の中でエリートになって、皆さんを支配し押しつぶしたいだけなのです。20 世紀の共産主義国家を見て下さい。100%失敗しています。惨めに失敗しているのです。
神様がもたらし、イエス様がもたらそうとしていた王国は、全くそれとは異なる王国です。人々が直接、神様とつながる世界です。人間の思惑、組織、宗教によって損なわれることのない、衰えることのない王国です。（「待ち望む王国」 2016/12/18）

第２章　王国の原理

自由な働きは、私達がロボットのようにならず、神様と愛を授受するために重要です。それは天一国憲法の根本です。神様が人間に与えた贈り物と言う点で。もちろん神様がその中心です。しかし、もしあなたが試練を受けた最後のときに立ち上がったことを神様が知っていたら･･･しかし神様はそれが起こるようにしたのでしょうか。神様は知ってはいたのです。しかし、それが起こるようにしたのではありません。（「名誉の王国」 2017/6/4）

2 - 1 王国で育む第一祝福

国家次元で聖句を解釈するときこの国の仕組みがわかります。繁栄と自由と責任をもたらす理由がわかるというのです。このような仕組みで動く国家は道徳性を持たざるを得ません。毎週日曜日に教会へ行く、どこかの教会に所属するなどというのではなく、天一国という自由と責任の地においては道徳が必要だというのです。（「王国の花婿」 2016/5/29）

自由と責任の王国

完ぺきな理想的エデンの園に自由と責任があったのとまったく同じように、神の国でも自由と責任があるのです。（「祝福された王国」 2016/07/24）

お父様、私たちはあなたの導きをお祈りいたしますが･･･このようなアベル型の革命に従う他の国々。そこでは普通の人々が立ち上がり、忘れ去られた賜物を、お父様が創造の頂点においてあなたの子供として与えてくださった自由と責任の生来の権利を捜し求め始めています。お父様、どうかそのような権利を私たちに所有させてください。そのような権利を獲得させてください。それらを私たちが天使長に与えることのないようにしてください。自分たちの魂を売り渡すことなく、自分自身をサタンの誘惑に売ることのないようにしてください。用心深く、正直で真実であるようにしてください。（「贖われた王国」 2016/11/13）

非中央集権のキリスト教は自由と責任に繋がる

宗教や宗派が問題ではなく、神様との関係が重要だとする非中央集権のキリスト教は、直接、自由意思、自由な選択と責任へとつながるのです。それが人間の運命であり、この星に住む者の運命なのです。（「王国の相続人」 2017/4/30）

キリストにあって自分たちの世界を他人に押し付けようとしないのが真実の人です。神様は私達に自由意思を与えました。神様は私達に、神様を選ぶのか拒否するのか選択する自由意思を与えているのです。最終的に私たちが責任を持つのです。最終的に自由意思が生きていても真の責任があります。（「王国の相続人」 2017/4/30）

自由と責任を感謝する伝統

感謝祭について、歴史的な内容を理解することが重要だと思いました。感謝祭を祝うとき、それは本来、自由と責任という神様の贈り物をお祝いすることなのですが、完全に失われてしまいました。この話を聞いたことがあった人がどれだけいるでしょうか。（中略）中央集権の天使長的な政府権力がすべてをめちゃくちゃにして生産性をだめにし、大規模な飢餓に陥ったという本当の歴史を教えません。ですからその日、その七面鳥の日に感謝を捧げることの真実に帰ることが非常に重要です。それは神様の贈り物である自由と責任のために感謝を捧げるということなのです。（「王国は近い」 2016/11/27）

自由と責任にもとづく国の運営

自由と責任の観点から王国について考える時、エデンの園で神様が与えられた法はただ一つでした。一つの法でアメリカが運営されることを想像できますか。アメリカには相当な数の法律があるでしょう。かつて成長期で勢いのあるアメリカ、道徳的で信仰的だったころのアメリカにはもっと法律は少なかったのです。そして隣人への奉仕、生徒や患者や顧客などに真心もって仕えることが重んじられていました。そのような基盤の上にアメリカは築かれていたのです。（「御国が来ますように」 2016/3/20）

神様とサタンの違いは「自由と責任」か「独裁」か

ここにキリスト教の基本的な問題があります。あまりに霊的関心を持ち過ぎた結果、イエス様の「御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」というみ言と相対しないのです。私たちは何が御国であり、何が御国でないかを知らなければなりません。その本質的区別は自由と責任と、独裁の区別です。（「待ち望む王国」 2016/12/18）

個性完成に後押しする自由と責任

善を動機付ける自由と責任

国のレベルで、神様が王国をもたらすとき、神様が王国の種をもたらすとき、神様が王国の始まりをもたらすとき、天一国憲法のようなものが、それは小さくて嘲られ無視されますが、それは発表されました。それは既に植えられて、空気の中に発表されています。既に植えられて今育っているところです。そして小さなものであってもやがて大きな木に育ちます。
そして空の鳥について話しましたが、鳥というのはスズメのようなかわいい良い鳥だけでなく、ワシやハゲワシのような鳥もいます。それは王国でも同じことです。なぜなら、そこは自由と責任の場所であり、人々はそこに来て住みますが、自由と責任と自由意

思を持っているからです。
そして中には悪を選択する人もいますが、以前それについて話したことを思い出してください。王国では悪は反対に動機づけされ、善が動機づけられます。なぜなら天使長からの救済措置はないからです。 福祉や女性の健康サービスとか、そういう形の救済はありません。人々は責任を持って行動しなければなりません。そうしなければ深刻な結果になります。ですから、自由で責任ある地域や場所では、あなたには決定する自由があります。自分の人生を破壊することに決めることもできますし、そういったことをすることもできますが、それに責任を持つことになります。そのための負担を支払わなければなりません。納税者や他の人があなたの代わりにそれを負担することはありません。（「逆転の王国」 2016/10/16）

公的な善を志向させる自由と責任

私たちは何処へ向かうべきでしょう。お父様は、天国はどのような所だとおっしゃいましたか？「基本的な見取り図」を繰り返し何度も述べられました。「平和軍」と「平和警察」です。そして裁判官も検事も不要な「良心ある社会」です。人々が各自の良心に従って生きる法律も不要になる社会です。（「自由社会」 2012/7/12）

ご父母様が言われる「良心ある社会」とは、それにもっとも近い例で言えば、「自己主管型社会」だったのです。この社会は僅かな条件で成立します。私有財産を保障する「最小の政府」と「自由市場」です。「自由な競争」も必要です。この３つの条件さえ整えば「自己主管型社会」が成立します。（「自由社会」 2012/7/12）

王国は自由の地です。神様の王国の基礎をごらんなさい。お父様は神様の王国はどのような所だとおっしゃいましたか。良心で暮らすとしたら、それは自由意志を持つことですか、持たないことですか。良心を持つということは選択の自由を得るということです。自分の信じることの正誤を、関係性や状況を理解する上で自分の道徳観にもとづいて決めることが出来るということではないですか。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

自由の要素、自由意志があるのです。愛はどうですか。自由意志なしに愛は存在しますか？愛するように強制することはできませんか。できない？神さまの王国は良心の王国、自由意志の王国です。自由意志があれば必ず愛を得ますか？少なくとも愛される可能性はあります。公平ではありません。ある者は愛され、ある者は愛されないから神様の王国は不公平ですか？ひどい神様ですね。だから、神様の王国では自分で何かをしなければなりません。そうしなければ何もあっちから与えられません。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

自由と責任の王国。善と正義と名誉の王国です。責任と勤勉、退廃主義を拒絶し政府による給付金などを当てにしない自由な共同体。自由意志と契約を守る誠実さをもち隣人を愛し仕え、兄弟を守り、額に汗して収穫を得る人々。これらすべての聖書的原理を神の国は兼ね備えていなければなりません。それは誰もが暮らしたいと思う王国です。過去、アメリカがその王国に最も近い国でした。皆がこの王国、機会に溢れる国、アメリカを夢見てやって来ました。天一国憲法では、はっきり天一国合衆国の名を謳っています。そこに様々な国が自由と責任を中心として集まり一つになるのです。政府は支配することも課税することもないのです。自由ではあるけれども責任ある世界です。その権利と自由をもたらしたのは創造主であることを知る世界です。キリスト教徒の描くディズニーランドのようなファンタジーの世界ではない、キリストと共に立って築いていく世界です。（「御国が来ますように」 2016/3/20）

天聖教 877（英語版）　自分では、だんだん下がりながら苦労ばかりしているように見えますが、だんだん高くなるのです。統一教会は、打たれながら大きくなります。一つの家に 10 人が住んでいるとすれば、**公的な目的**のために 10 人の反対を受けながらも我慢に我慢を重ねる人が、その家庭の主人になるのです。すなわち、天国の主人になるのです。(142-289, 1986.3.13)
ここでいう「公的な目的」は社会主義のそれではありません。自由と責任における「公的善」です。自分の後始末は自分でつけること、自分のことは自分で守ること、自分で魚を釣り、木に登り、星を見て天文学の計算をする、そして人工的で皮相的なビデオ・ゲームや韓国ドラマのとりこにならず、自然からダイナミックな感動を得ること、以上の事柄を子供たちに教えるのです。生きていることを実感するような本物の感動、神様への讃美を教えるのです。天国のことを考えると本当に喜びに包まれます。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

神様が人の心に刻まれた自由と責任

天一国憲法が描き出す神様との契約を愛すべきです。すなわち自由と責任、権力分散、勢力均衡、州の権利、私有財産の保護、国民の権利と主権、これらが、神様が人類に約束された事柄です―「あなた方に乳と蜜の流れる地を与える」―神様は繰り返しイスラエル人に主権を約束されました。
私たちは神様を愛さなければなりません。神様とその延長である地上のイエス様を愛するのです。唯一の神を愛するとき私たちは一つの焦点を得ます。訳も分からず何でもかんでも愛さなければ、と情感に流されることもないのです。一つの善の基準に生活の照準を合わせるべきです。人間が自分達で作った基準ではありません、そのようなものは善ではあり得ません。真なる善は、哲学でいう「至高善」、すなわち神様なのです。その至高善、神様が人間に与えたものが「自由と責任」だというのです。神様は悪なる神様ではありません。自由を下さったのです。私たちを奴隷として生んだのではありませんし、人口知能のようなものとして作り出した訳でもありません。自由と責任を下さいました。素晴らしいことではないですか。（「愛の王国」 2016/7/10）

自由と責任の社会において、そこに天一国憲法がなかったとしても「殺してはならない。盗んではならない。隣人に偽証してはならない」などのような戒めに従う人々もいるでしょう。なぜならすべての否定的な行動は破壊へとつながるからです。ビジネスをやっていて、このようなことをすれば失敗します。顧客の世話

をするのにこのようなことをしたら失敗します。誰もあなたと取引をしなくなります。あなたの行動の自然な過程が十戒に従っていきます。あなたは完全にはなれませんが、あなたの行動はそれに従って行きます。神様を除いて誰も完全な人はいません。神様によって与えられた自然法、聖書では心に記されているとありますが、 神様が与えた憲法と人権は私たちの心に記されています。（「贖われた者の王国」 2016/8/7）

心に十戒を刻み付ける自由と責任

人々を支配し、コントロールしようとするのはサタンがやることです。神様からの贈り物は自由と責任です。人々を自由と責任の状態に置いたとき、間違えば彼らは自分で責任を取らなければなりません。人々は、キリスト教徒でもなく、ユダヤ人でもなくても、最終的に十戒を守るようになるのです。自由なる市場において成功するには、人々を欺けないからです。成功するには人々を欺けないのです。お客様を大切に扱わなければなりません。他の競争相手以上の事をやらなければならないのです。（「王国の扉」 2016/10/9）

人への奉仕を後押しする自由と責任

また自由と責任の王国ではどれだけ人に尽くしたかによって成功が決まります。大いなるものは誰よりも仕えるものだとイエス様がいわれたように、ビジネスでも会社でも、ためにする者がその報酬を受けるのです。そこに政府は介入しません。良く仕えれば 30 倍、さらに良く仕えれば 60 倍、もっと使えるなら 100 倍の評価を得るということです。天一国では人に奉仕する分だけ祝福を受けるのです。逆転の王国です。有力政治家のコネで得をする、そのような社会ではないというのです。人に尽くした内容によって成功する社会です。（「生命の王国」 2016/6/5）

自分のビジネスに関っている人々に対して、ベストを尽くさなければなりません。あなた達は人々を大切に扱い、彼らのすべてを考慮していなければならないのです。彼らが良い経験をもつようにと心がけなければならないのです。そのような環境のなかでは、彼らがもし、聖書にアクセスができなくても、為に生きる事をもって人々を扱うような全体社会になります。相互に良い状況、関係を創りだすのです。あなたたちは人との橋渡しを燃やさず、詐欺者たちとの関係は持たず、彼らのとの橋渡しはカットし、正直な人々たちと共に働くことが、自由な市場において成功するためには重大なことなのです。（「王国の扉」 2016/10/9）

それで自由と責任の社会で暮らす場合、道徳的に行動しなければなりません。なぜなら、自由で道徳的で責任を持つ社会で誰かと商売をしたい場合、約束を守らなければなりません。ある人が自分と契約すると、彼は私がその契約の言葉を守って商品を届けるかどうかということを知ることができるでしょう。もし私が道徳的に行動しなければ、その相手は私のところに来なくなり、私の事業は失敗するでしょう。もし私が人を騙そうとするなら、捕まえられるでしょう。なぜならインターネットがあるからです。インターネットもそこにはあります。（「逆転の王国」 2016/10/16）

彼らは株式市場や金利を操って破壊する必要があるのです。アメリカが成功すれば、主権国家の成功を示すことになるので、アメリカを倒す必要があるのです。人々に自由と責任を与えれば、アジア人であろうと黒人であろうとベトナム人であろうとカンボジア人であろうと、白人でもラテン系でも関係ありません。神様が与えた自由と責任を持てば成功するのです。そして素晴らしいものを作り、革新的なものを作り、本当に道徳的になるのです。なぜなら、自由と責任においては人々を良く扱って、自分の評価に注意しなければならないからです。成功するには人に奉仕しなければなりません。（「日曜礼拝」 2017/1/15）

豊かさをもたらす自由と責任

天一国ではまた大きな豊かさを享受できるでしょう。なぜなら私たちは責任と誠実の原則に従って動き、勤勉の原則にしたがい信用に値する人として働きます。そして契約を誠実に守る人々です。こうした行動規範は人々に成功をもたらすに違いありません。次世代も必ず成功を納めるでしょう。こうしたことは学校では教えないことです。（「愛の王国」 2016/7/10）

誠実な関係性で豊かになる

成功を収めた各分野で最高の成果を収めた人たちは自己崇拝でそれを成し遂げたのではありません。5 ～10%の例外はあるにしても、大半の人は他人を騙すことなく、誠実さによって成し遂げたのです。誠実に働き誠実に創造した結果です。そうした人々は信仰の大切さを知っています。困難な時もそれでも信じてみる。その関係性の基礎の上に建てること、至高の力が必要であることを知っているというのです。神様が自由な世界に繁栄と豊かさを再びもたらして下さるときには富を築きなさい。悪魔の策略にはまらないようにすることが私たちの肝要です。神の国に戻り関係性を強固にするのです。私たちの群れの美しさを忘れてはなりません。（「王国の豊かさ」 2016/11/20）

法と規制ではなく、良心で神を求める国です。神様は王国の富を真に相続させたいと思っておられます。王国の真の現実は、富は、関係性であるということです。名誉を重んじる人々と共にあるとき、それが最も価値ある財産です。お金で豊かになるのではありません。あなた方の富が皆さんを豊かにするのです。ではどのような富でしょう。銀行預金ではありません。それは明くる日には消えているかも知れません。富とは名誉ある人々の間の人間関係です。道徳的な人々、有機栽培…。菜園にアクアポニックス（さかな畑）。買うとすれば 3 倍もお金がかかります。お金は貨幣に過ぎません。神様は金、銀をつくられました。真の富とは関係性を中心とするものであることを知ってもらいたいのです。優れた人と関係をもとうとすれば、この世ではなく、神様にこそ膝まずかなければなりません。（「王国の豊かさ」 2016/11/20）

自由と責任が豊かさの源泉

お分かりのように、裕福な人すべてが悪いわけではないからです。自由市場は善なる金持ちをたくさん生み出します。人に仕えることで利益を得ている人々です。独占とお金を盗むための、政

府との共謀によってではありません。それは全くの悪です。（「豊かな王国」 2017/7/23）

花嫁は多くいても花婿を迎え入れる準備ができていなければなりません。つまり天一国を受け入れる用意ができていないといけないのです。夜に人工衛星から写真を撮ると都市部の明かりが光って見えます。自由のない独裁国家ではその明かりがまばらです。自由な先進国では多くの明かりが点灯しているのがわかります。もちろんその明かりの下でいつも素晴らしいことが起きているとは限りません。多くの犯罪もなされていることでしょう。しかし象徴的に光の多い国は機会に恵まれた豊かな国です。闇からのがれてそこに行けばチャンスをつかむことができます。その明かりのもとは何だと思いますか。それは自由と責任だというのです。国家に豊かさと成功をもたらすものそれは自由と責任なのです。人が自由を持ち、またそれについての責任を負うときに繁栄します。政府という保護者（Big Daddy）に頼っていると最後には飼いならされてしまうのです。現行の銀行制度、世界政府構想、国連などがそれです。人間を養殖するようなものです。そこではつねに搾取が起きています。それは神様の御心ではありません。私たちは被造物を主管する自由な神の子です。キリストの共同相続人ということは王国に対しても支配する権利を持つということです。天一国ではそれが法律で守られるのです。（「王国の花婿」 2016/5/29）

彼らは裕福な人を憎まなければならないというのです。お金を持っている人は誰でも憎まなければならないのだと。実際、彼らのお金を取り上げてあなたにあげると約束した民主党に投票した人がいます。彼らはその聖句を利用するのです。イエス様はそのような話をしていないということを見てください。金持ちがどれほど悪いのか。いいえ、違う金持ちもいるのです。ここで言っている金持ちはローマ帝国で金持ちになっています。ローマ帝国で金持ちになる唯一の方法は、政府と共謀することです。天の王国で金持ちになる方法は、また天の王国で物質的に経済的に恵まれる方法は、他の人に仕えることによるものです。自由市場では、他の人に競争相手よりもっと良く仕えることによって恵みを受け経済的な報酬を得ます。より良い製品、商品、サービスを作れば生活に役立ちます。そのようにしてより裕福になるのです。他の人に良いことをすることで恵みを受けます。彼らを非難し、人々から盗むためにマフィアのような政府と共謀することによってではありません。（「豊かな王国」 2017/7/23）

真に天一国の仕組みと天一国憲法の描く自由と責任について「聞いて悟る」とき「実を結ぶ」のです。そしてその実は「百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなる」。これもこの聖句の謎です。イエス様はなぜ「百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなる」とおっしゃったのでしょうか。この点は天一国において非常に重要な問題です。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

パンのイーストになる自由と責任

自由な社会では海面が上昇するのですべての船も上昇します。すべての人の生活水準（が上がり）、繁栄と祝福が生まれます。どのような船を持っているかで格差が出るかも知れませんが、すべての人が上昇します。私たちは国のレベルでこれについて話しました。天一国憲法が責任を守り、天使長を追い出すとき、パン全体が膨らみ、すべてのものが上がります。パン全体が膨らみ、すべての人の水準が上がります。（「逆転の王国」 2016/10/16）

中央集権の天使長の政府を追い出した国では何が起こるでしょうか。裕福になるのです！繁栄するようになります。小、中規模のビジネスを、ばかげた制約なしに再び始められます。人々は神様が与えた贈り物を自由に追い求めるようになります。成功を収めるようになり、責任を持つようになります。それがあなたの得るものです。それで家庭は秩序を保つようになります。（「教化される王国」 2016/9/18）

しかし、私たちは天一国憲法に関してこれがどのようになるか話しました。自由と責任の法が発表されるとき、そしてそれが実現されるようになるとき、何が起こるでしょうか。たとえそのイーストを使用するのが最初は小さなものであっても、それは国全体に広がってパン全体が発酵します。つまりパンが膨らむのです。経済的には何を指しているかと言うと、自由社会、または自由経済システムにおいて、そこでは自由と責任を持ち、競争があり、これらの大ばか者の大銀行のような会社があって彼らが失敗し、愚かな判断をして人々を騙して、それで彼らは救済されないのです。失敗しても救済されません。そのような社会ではたくさんの自由があります。多くの活動があり、人々は事業を始めます。成功して、失敗して、もう一度始めてやり直して、成功して、失敗して・・・。成功のチャンスはずっと上がります。失敗してもまだチャンスがあるのです。それでおしまいということにはなりません。そしてそのような社会での経済的な面を例えるなら、海面が上昇して水面が上昇し、すべての船がそれと共に上昇するということです。ある人は小さな船、別の人はヨット、しかしそれに関わらず、すべての生活基準が上がります。（「逆転の王国」 2016/10/16）

狂ったように顧客のために奉仕し、為に生き、社会に良きものを提供し、人々の暮らしを向上させる。そうすると百倍の祝福を受けるでしょう。そこまで熱心ではない供給者がいれば顧客は比較してより熱心な供給者を祝福するというのです。機会は平等だけれども結果が異なるということです。自由な社会では無限の機会が存在します。共産国では仕事を自由に見つけることは難しいですが、自由な体制ではその自由に基づいて、雇い主が気に入らなければ職場を変えれば良いだけです。移動の自由があります。どれだけ他の為に生き、愛し、奉仕するかで成果は「百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなる」のです。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

機会平等・結果不平等

独占主義者が競争を嫌うのです。ですから彼らは大きな政府が欲しいのです。政府に力をもたせて、競争相手を殺したいのです。（「正義の王国」2016/3/27）

善なる競争が人を育む

本当に自由な所とは、自由に交換でき、勤勉で正直な人たちと信じる人たちと共に働くことを選べる所です。大きな会社で働くようなことや、特定の人たちと働くことを強いられるようなことはありません。本当に自由のある所には競争があります。競争の意味がわからない人たちはいつも社会主義に傾きます。若い時から競争することをしないからです。スポーツとか様々なことで競争をしないと、自然に競争することは悪い事だと思っています。小さい時から競争すれば、競争というのは必ずあなたを高め強めてくれます。競争は人間の本質を高く実現させてくれます。（「正義の王国」2016/3/27）

競争の結果は不平等

この円グラフは、保守派の思考と急進的リベラルの思考を現しています。保守派は安定した家庭を目的とします。競争の自由を受け入れる結果、不平等を受容し、自由市場を形成します。格闘技を学ぶことにより競争を受容することができます。競争がその本質の一部だからです。競争を避ける子供たち、それは怖いからです。その恐怖を克服して自分に挑戦しなさい。自分で潜在能力を抑え込んでいるのです。臆病になり怖がっているのは自分自身であると気づきなさい。それを直視しなければなりません。それを、格闘技を通して学ぶことができるのです。競争とその喜びを通して。幻想の中に生きることはできません。競争をくぐり抜けなければならないというのです。競争によって剣を研ぎ澄ますことができるのです。「鉄によって鉄を研ぐ」これは聖句です（箴言 27･17）強い相手と練習すると自分が研がれるのです。知らないうちに普通の人と比較するときスーパーマンのような者になります。（「教化される王国」2016/9/18）

格闘技が急進的リベラル派の思考を支持すると思いますか、不安定な家庭に通じます。幼児教育の破たん、競争を避ける、結果の平等。皆にトロフィーをあげるというのです。全員に金メダルというのです。真剣勝負でそのようなことはありえません。はっきり勝者と敗者に分かれるのです。敗者になったからといってそれで終わりではありません。再び訓練に励めばよいのです。その負けを元返すことができるのです。全員が金メダルを取ることはできません。金メダルは一つです。リベラル的思想では、みんな傷つかないようにというのです。それが社会主義を生むのです。中央集権化された政府が人々から力を奪い、政府そのものを武器として競争を恐れぬ人から力を奪って再分配しようとするのです。それはいまわしい悪です。卑怯な悪です。これをアイビーリーグなどの大学で教えているというのです。そこの教授たちを知っていますが、単位取得という強迫に屈しない本物の男、女の前では恐れを抱くのです。（「教化される王国」2016/9/18）

自由と責任は機会平等･結果不平等

真の自由と責任の地域、国ではすべての人が平等に裕福ではありません。しかし、それは重要ではありません。すべての人は平等なチャンスを持っているのです。自由です。あなたには責任もありますが自由もあります。財閥のようなところで働く必要はありません。あるいは多国籍企業。そのようなところで働く必要はありません。自分の事業を始めることができます。今まさに小さな事業を滅ぼしている、あらゆる抑制を行う息が詰まるような規制もありません。そのような社会で、あなたは豊かさを得て、そこでは水が上昇し、すべての船でもヨットでも、小さなボートでも関係なく上昇します。（「逆転の王国」 2016/10/16）

神様の王国を考えるとき、そこに必要な要素があります。自由意志と選択の自由です。何事も自分から始めなければなりません。そこに保証はありません。リスクがあります。物事にリスクがあり、保証はありません。愛を得ることが出来ないかも知れないし、食料を得ることが出来ないかも知れない。そんな世界に住みたいですか？（はい）どうして？われわれの話している天国の基礎となる要素を見るとき、強制のない、個人の選択に根ざしています。それが天国建設の思想的基盤です。
だから天一国憲法をみるとき、そこに違いが･･基礎がある。つまり自分の人生を作っていく上で、幸福を追求していく上で、選択の自由と良心、自由意志を持つこと、これが根っこにあるのです。しかし成功する保証はありません。経済的に成功する保証もありません。情緒的に成功する保証もありません。しかし最終的に愛を見つける可能性、人生に満足する可能性はあります。神様が計画されたものです。（「国進様質疑応答」2017/5/27）

自由の律法に裁かれる

「自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。あわれみを行わなかった者に対しては、仮借のないさばきが下される（ヤコブ 2：12-13）」 ジャマールは 33 ページにわたる文書をつくりました。それをもう公表しましたか？（公表しました）もしそれに何らかの価値があるとするならば、全員がそれを認めるでしょう。それに価値がなければ、それを見る人全員が、何だこれ、馬鹿じゃないかと言うことでしょう。もし価値が無ければ、人は「ああ、哀れな人だ。インターネット上のつまらないグループから追い出されただけでここまでするか」と言うでしょう。そうなることで彼（ジャマール）は自由の律法で裁かれることになるのです。だから神に委ねなさい。分かりますか。自由意志には結果が伴うということです。だから、この方向で行こうと決めたら、それに付随する結果を受け入れなければならないということです。また別の方向を選ぶなら、良きにつけ悪しきにつけその結果を受取るのです。だから素晴らしいといえます。
最も大切なことは、リーダーは何でもかんでも干渉してはいけないということです。それをするとすべての細かなことに巻き込まれてしまいます、誕生日にどんな髪型にすればよいかとか。だから、関わりながら巻き込まれない術を学ぶことが大切です。（「豊かな王国」 2017/7/23）

2-2 王国で育む第二祝福

天一国憲法 原則１：神の清い血統を維持せよ

性の区別は神が定めたものであり、男性は主体的配偶者であり、女性は対象的配偶者である。議会はこの神の定めに反する法律は制定してはならない。男女間で相互に貞節を守る結

婚は 、神の創造理想であり、天一国合衆国の政府は、この神の法に干渉する、もしくは反する法律を制定してはならない。男女間で相互に貞節を守る結婚 の成果は、子女を授かることであるので、議会は、生まれた者にも、未だ生まれていない者にも危害を及ぼすことを許容する法律を決して制定してはならない。新婚の夫婦にとって、結婚前の純潔を守ることが、理想的であるので、議会は、これに代わるほかの価値観に基づく行動様式を支持し、または、援助する法律を制定してはならない。（天一国合衆国憲法 原則１）

神様の文明

「キリストと共に立ち、迫害され嘲られても共に行く」これに異を唱える人はいないでしょう。我々はこれには反対しないのです。（天一国）文明の核心部分です。天一国憲法にも反対しないでしょう。核心だからです。天一国の法です。お父様の三代王権にも賛同するのです。お父様はどういうお方か。ここにも同意します。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

相容れない神様とサタンの文明

復帰路程において、時に、神学の言葉でいえば「倫理的なものの目的論的停止」です。これがありました。摂理上、神様がカナンの地の征服を命じられたような場合です。カナンの文明と神様の文明が全く相容れなかったからです。お互いに全く相容れない文化があるのです。共存できない文化です。いまヨーロッパで起きていることを見てください。ある文化は互いに相反的なのです。大きな紛争を起こすだけで油と酢のように混ざり合わないのです。ある種の文明は決して共存できません。（「不死の王国」 2017/4/23）

文明には境界が必要です。領土が必要です。そして共通の言語、共通の文化が必要です。そしてすべての文明は書籍の上にできています。どのような本を読んでいるかが重要だというのです。ダーウィン進化論、バートランド・ラッセルのニューモダンの影響を受けているのです。あらゆる文明は書籍の上に築かれているのです。どのような本を読むか、これによって文明の性質を変えることができます。たとえば新約聖書と旧約聖書は大きく異なっています。キリストの観点、キリストの生涯の観点で文脈を読まなければなりません。聖書とコーランを比べるとき、まったく異なる文明だということが分かります。（「不死の王国」 2017/4/23）

王国の文明を作る

どのような文明を作るのかということは重要ですので、私達の政治的な見方は非常に重要です。キリスト教の信仰がどのような政治的な見方を作り出すのか。このように様々な宗教を持ち出せば、それらが中央集権のキリスト教会、中央集権のキリスト教から来たものであることに気づくでしょう。もちろんそれが悪を作るのです。イスラム教や科学的進化の神は言うまでもなく。
もう一度言いますが、非常に多くの論説、ポイント、評価などがあるので、最終的にどんな文明をそれが作るのかという事が重要です。それが王国の福音について異なることです。これが私達の主張で、それに対してあなたの主張はこうで、これは合理的に言えることだなどという事だけではなく、それがどんな文明を作るのか、それが人間の自由と責任にとって最高の場所を作るのかといった事も見るのです。（「王国の相続人」 2017/4/30）

文明は政治機構を通して生活に適用される

しかしそれは（弁証学は）万能の解決策ではないということです。なぜなら、最後に最も強力な物は知的な議論だけではなく、それらの議論がどのような種類の文明を作り出すかということなのです。そういうわけで、自由社会が、天一国憲法が、キングズレポートが、日曜礼拝が、いつも私達はその思想がどのような文明を作り出すかということに焦点を当てているのです。なぜなら、知的な議論を行うだけでは十分ではなく、それで終わりではないからです。なぜなら、これらの考え方はすべて、最終的には現実の政治機構、現実の天使長的な機構、現実の文明、現実の世界のシステムとなるからです。それが圧政となろうと自由と責任となろうと、最終的にはすべての人の生活に適用されることになります。（「王国の相続人」 2017/4/30）

思想が文明を作り、文明は本にもとづく

重要なのは、思想が文明を作り、文明は本に基づいているという事を忘れてはならないという事なのです。すべての文明が本に基づいています。ヒッチンズの文明、20 世紀の文明は本に基づいていました。聖書に基づいていたのではなく、もちろんコーランは別ですが、本に基づいており、それはダーウィンにせよ、フロイトにせよ、ニーチェにせよ本に基づいていたのです。どの本に従うかが現れてくる文明の性質を決定します。そういうわけで、神様の王国では本が聖書に、原理に由来し、同じ根源に由来することが重要なのです。それが私達に自由と責任を与え、宇宙を創造した同じ神様が彼を拒否するか受け入れる選択肢を与えているのです。それが愛、慈悲、恩寵そして満足を与えてくれます。（「王国の相続人」 2017/4/30）

第二祝福を守る王国の文明

血統を汚してはならない

王国で「結婚」は重要です。天一国憲法の第一原則として「血統を汚してはならない」と示されています。政府、議会は家族の定義を変更することは憲法で禁じられているのです。神様は男と女が家庭を持つことを予定しておられ、社会学的にもそれが次世代を育てる環境として最も安全なものであるとされています。単なる宗教教義の話ではありません。統計的にもそれは証明されているのです。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

天一国の「僕」である政治家・役人は通常の家族以外の制度を法制化することは憲法で禁じられています。それは神様を中心とする理想である上に科学的実証的に通常の家族以外の制度、ゲイやレズビアン、トランスジェンダーが両親という家庭が危険であるからです。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

結婚を汚したサタンの文明

聖書とコーランを比べるとき、まったく異なる文明だということが分かります。社会の構成員から異なるのです。基本構成は夫と妻、妻、妻、妻なのです。離婚もでき、性奴隷を所有できるのです。実質、合法的売春が可能です。メッカへの巡礼の道はそのようになっています。一時的に結婚することで売春婦と合法的にセックスをして、その後で離婚すればよいというのです。このように社会構成単位の段階から異なっているのです。女性に対する見方が根本的に違うのです。その文明では 4 人の妻を持てるのです。それに対して聖書の伝統ではキリストの視点で見るとき、たしかに昔は複数の妻をもつ預言者もいましたが、イエス様ははっきりとこうおっしゃっています。神様は最初に男と女をつくられた。それぞれが親元を離れ、夫と妻になる。イエス様はこのように理想を明確に述べられたのです。（「不死の王国」2017/4/23）

天一国では許されない姦通

天一国では女性も鉄の杖のパワーがあります。だから天一国において、家に戻ってきたとき、万が一、妻が他の男とセックスしていたら二人を撃てば良いのです。それなら女性たちが浮気しないでしょ？そして、逆に女性が家に戻ったとき夫が女とセックスしていたら、女たちに銃器があればパンパンと二人を撃てば良いのです。それはもちろん違法ですが、でもおそらく裁判までいった時にすべてのその市民たちが無罪と言うでしょう。これは感情的な犯罪だったと、米国ではそう言います。感情の犯罪だった、だから無罪。不思議でしょ？そのような文化で姦通が主流になりますか？なりませんか？そのような文化で姦通がなくなります。
おそらく天一国憲法においてそれを合法としないでしょう。それは悪です。姦通をしたら。しかし、地域の法によって、また陪審員団を通して判決が出るので、審判を通してではなく陪審員団から判決が出ますから、陪審員団がその犯罪を理解すると無罪だということができます。私もそうです。私も家に戻ってきた時、私の妻が、私の夫が、別の人と寝ていたら二人を撃ちます。無罪。どういうことかわかりますね？天一国はそうなります。自動的に。自然的にそのようになります。そして悪が審判を受けるようになります。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

そのような社会で人は考えなしに浮気しますか、しませんか。中央組織に浮気をすれば殺される、そのような法はありません。陪審員団でその罪を見ながら私もそのようにする。次に浮気した者を撃っても無罪。
姦通がどれほど大きな罪なのか、人々は知りません。現代において、姦通して、通いながら浮気したりするからです。天一国はそのように恐ろしい国です。市民たちには、王と王妃たちのようにそのようなものすごいパワーがあります。判事は判決を出さないで陪審員団から。天一国には最も多くの自由があるが、また責任もあります。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

それは地域社会で自然に起きるのです。姦通を発見したら殺せ。そのようには言いませんが、そのような状況が起きたときに、私もその人の気持ちを理解する。その人の動機を理解する。はるかに心情的な世界です。
そのような世界で悪いことが何回か審判を受ければ、人たちはものすごく危険だと考える。ハリウッドはすべての人たちがお互いに隠してくれるから児童性暴行をしている組織も多いですが、今は暴露されていますね。その内容が暴露されて、この人たちが監獄に連れられて大きな罰を受けて、今はこいつらが震えています。
天一国憲法において、このようにしなさいという言葉はありませんが、市民たちが自分の心情世界とその内容について考えたら、「あの人の動機を理解することができる、私はその人を有罪とは言えない」と、こうすることもあります。浮気、姦通者達は気をつけなさい。恐ろしい国です。正午定着時代の国。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

2-3 王国で育む第三祝福

アダム・エバに始まる聖書のすべての話の流れにおいて、一貫した神様の祝福は「地を治めよ」でした。この「治めよ」という言葉のヘブライ語の原語の意味は「王の主権的統治」です。アダムに与えられた王国の初代王はアダムであり、アダムの血統が神の血統となるのです。（「神の国」 2016/3/13）

国民を守る平和軍・平和警察

私たちは小さな群れかも知れませんが平和警察、平和軍、主権を持つ者達の王国、自衛の権利を持ち、個人の権利を持ち王の宮たる自分自身を守ることができる者です。だれもそれを侵略することはできないというのです。すべての共産主義者たちはそれを憎むのです。私たちがこういう話をすることを憎みます。彼らにとってのただの所有物であって欲しいからです。（「生命の王国」 2016/6/5）

神様の保護圏

天聖経 120：神様は、生命の母体です。父母は、その子供の生命を育ててくれるというのです。生命の母体であり、愛の母体であり、保護の母体です。生命を保護してくれ、育ててくれ、愛してくれるというのです。それゆえ、幸福はどこから出てくるのでしょうか。保護圏が成立しなければ、命が危機にさらされるのです。命が危機にさらされると、愛も成立しないのです。

王国において、自己防衛の権利は単なる権利ではありません。それは責任であり生活様式であり、崇拝のあり方です。神様を愛し隣人を愛するのです。自己防衛の権利、その権利を練習し訓練することは、実際の宗教的な崇拝の行為ではありません。神様がそのような立場に立つことを願われたときに備えて強くなるために訓練することです。そのような生活様式は宗教的な権利です。お父様に喜びを捧げることです。子供が強くなってオオカミに食べられないようになるのを見て喜ばれるのです。（「王国の防衛権」2017/12/24）

国民みずから国を守る

「平和軍」「平和警察」とはなんでしょう。天上地上天国をご父母様が語られる時、なぜ繰り返し語られたのでしょう。私が思うに、現存するもので、最も理想に近いのはスイスの制度でしょう。

そこでは、成人すれば必要時には軍務に着くのです。もちろん職業のかたわらとして。個々人が家庭に機関銃などの兵器を保持し、必要とあらば国を守るため軍務に着くのです。「平和警察」はその国内警察版です。アメリカは建国当時に仕組みを創っていたのです。最初の 200 年間、警察業務はボランティアで行っていたのです。それが事実です。そして私たちはそれを失いました。（「自由社会」 2012/7/12）

聖書の記述に、天国に行くと「天使のようになる」とあります。天使は力を持つとともに天国では仕える者です。「平和警察」「平和軍」を想起して下さい。それはすべての市民・国民が為に生きる精神の発露として隣人を守る役割を「平和軍」「平和警察」を通して果たすということです。そこには連邦警察も連邦軍も存在しないのです。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

弱者を守るために暴力を学ぶ

洗脳を行う学校では暴力は悪いと教えられていますが、必ずしも悪いとは限りません。暴力について学び、暴力を制御することを学ぶことは非常に重要です。そうやって自分を守る方法を学びます。あなたや弱者を暴力的に攻撃するために暴力を利用しようとしている人に対しての暴力の力を学ぶのです。暴力についての知識と暴力の制御、そして支配、別の言葉では武力ですが、それは非常に重要な責任です。そして善良な人々は絶対にそのような責任を支配すべきなのです。というのも善良な人々は人を食い物にする搾取者ではないからであり、人を支配して上に立ちたいという病的な搾取者のようなことはしたくないからです。ただ本能的に人々を守りたいと思っているのです。積極的に人を食い物にし、弱者を食い物にしたいとは思っていません。弱い人を見るとかわいそうに感じて、その人たちを強くしてあげたいと思います。普通の人はそのようにします。（「王国の防衛権」 2017/12/24）

平和軍・平和警察は王国の文化

お父様が「平和警察」「平和軍」は天一国の文化規範だとおっしゃいました。学校に行くよりも毎日柔術を学ぶ方が子供たちにとってよほど良いというのです。いじめられることがありません。なぜなら反撃するからです。またそれは地域の安全と密接につながっています。それはまことに文化と自然な一体をなすものです。コミュニティの皆が学ばなければならないものです。勤勉さと訓練、結果の理解、意思決定の理解を自然に自分の物にしなければならないというのです。皆さんぐらいの年齢ではすでに柔術の黒帯を持っていなければならないのです。女性の皆さんもそうですよ。（「教化される王国」 2016/9/18）

王国の文化

幼い時から強くなるということは王国の文化の一部なのです。その文化とは名誉と誠実さを重んじ、約束を守り、熱心に訓練し、年長者を敬い、先生を敬う文化です。自分に幻想を抱いてはなりません。文化の自然な一部として成長するのです。お父様が言われる「平和警察」「平和軍」こそ天一国の主要な文化の根本であるのです。なぜなら自分の家、家族、コミュニティを守るということは重大な責任であるからです。ことに自由な社会ではなおさらです。（「教化される王国」 2016/9/18）

神様があなたを訓練するとき、王国の文化について考え、天一国の事を考えると、神様の王国の文化、天一国の文化は非常に違ったものだという事が分かります。北朝鮮で子供たちが楽器を演奏して、協調した踊りを踊っていたのを見たでしょうか。人民解放軍のバレーを作ろうとしていました。それは馬鹿げたことであり、奇妙なことでした。中国は確かに世界でトップの体操選手やシンクロナイズド・スイミング選手を輩出しているかもしれません。北朝鮮は明らかに強制的にやらせています。彼らの技術は高いのかもしれませんがそれは強制されているのです。それは平和警察、平和市民軍のような文化を生み出しません。神様の王国では、自分自身と自分の家族、隣人を守ることができるようになることは、あなたの義務、または責任なのです。なぜなら隣人を愛することになっているからです。（「不死の王国」 2017/4/23）

平和警察、平和市民軍は地域で管理されるかもしれませんが、ほとんどの場合、教育課程の一部になるのです。それは誰かが楽器の演奏の仕方を覚えるようなものではありません。実際に独裁者に対して戦う方法を学ぶということなのです。楽器では独裁者と戦うことはできません。この文化的な転換。その政府がどれほど暴君的であるか分かります。このような偽の芸術文化を作って民衆に強制しているのです。非常に天使長的であり、本当にねじまがった奇妙なことです。体制順応的な芸術家の頂点を作ろうとしています。同時に彼らは、権力を集中化し、法執行機関を集中化して自分たちのマフィアの牙城を真剣に守ろうとしています。彼らが何を作っているか見たでしょう。地上の地獄を作っているのです。お父様はこのような暴君、このような悪の下で生活されました。
イエス様が鞭を作って両替商を打ちのめさなければならなかったように、お父様ご自身もバルカン砲や空気銃を作って韓国政府と韓国の兵器産業を強くしなければなりませんでした。そして、人々が主権国家において立ち上がることができるようにならなければならないと気付けるようにするために。天使長に対抗して立ち上がろうとすることができなければならないのだと。それは歌を歌い、芸術活動をして野の花を見つめていてもできないのです。そのような事をすることは好きですし、すばらしい事だと言っても。（「不死の王国」 2017/4/23）

家族と隣人の安全に責任を持つ

神様は悪が支配するままにせず、罪のない者を滅ぼすままにしないことを求めています。これは私たちのコミュニティにとって、世界的にもとても重要なことです。なぜなら、これはキリストとの関係を持つ人にとって大きな義務のあることだからです。誰かのせいにすることをやめて、自分のために誰かにやってもらおうとするのではなく、王国では自分が責任を持たなければなりません。自分と家族と、隣人の安全に対して自分が責任を持たなければならないのです。（「王国の防衛」 2017/6/18）

あなたがそこにいると、誰かが命を守りたいと思うのです。あなた

がもし子供にそのようなことをするように教えるなら、あなたはきっと生まれる前の赤ちゃんを守りたいと思うでしょうし、家族を守るために人々に力を与える憲法修正第二条を守りたいと思うでしょう。きっとそのような精神の一部となるでしょう。つまりあなたは霊的王国の一部となるのです。（「豊かな王国」2017/7/23）

平和軍・平和警察は隣人を愛するということ

天一国は自然の王国、自由と責任の王国と呼ばれます。なぜなら自ら平和警察、平和軍の一員となって自分の自由を自分で守り、隣人の保護者となるからです。隣人が襲われ、隣人の娘さんが襲われるとき、あなたが隣人の守護天使にならなければならないのです。この私がその場にいって問題を解決するのです。なぜなら王国では、私が「警官」なのですから。すべての人が平和警察、平和軍の役割を果たさなければなりません。主権を持つ王としての責任です。いつも自分のことにかまけていることは許されません。戦争が起これば行って戦わなければなりません。それが「王」だというのです。一日中座ってフィレ・ミニョン（最上質部位の牛ステーキ）を食べている場合ではないのです。前線に立って戦うのです。さもなければ下に侍る騎士も兵士も戦わないでしょう。（「生命の王国」 2016/6/5）

イエス様の戒めを愛さなければなりません。「私を愛するならば私の戒めを守るべきである」（ヨハネ福音書 14：15）と仰っています。神様を愛するときその戒めが私たちにとって最高に価値あるものとなります。「隣人を愛せ」という時、隣の人のためにゴミ出ししたり芝刈りをしたりするイメージがありますが、「隣人の保護者」「平和警察、平和軍」と考えることはできないでしょうか。何か隣人に起これば すぐに駆けつける。火事になれば消防士になり、敵が来れば私が警察官になるのです。私たちは偽りの王国に暮らしていたので、それが本来の隣人の愛し方だとは知りませんでした。たとえ隣人が「変わった人」「自分と意見が異なる人」であったとしても関係ないのです。隣人の生命を守る保護者、警官だというのです。たとえ隣人がイスラムであれレズビアンであれ、その生命を守る者にならなければなりません。たとえ隣人の考えが自分と全く違ってもその権利のために立ち上がらなければなりません。それが「真の神の人」と「リベラル」、共産主義者」との違いです。大きな違いです。たとえ愚かな考えを持った隣人であったとしても、その生命を命懸けで守ること以上に「隣人を愛する」素晴らしい方法があるかというのです。それが自分を迫害し憎む者のために命を捧げられたイエス様が身をもって私たちに教えて下さったことではないですか。それゆえに神様を愛し、イエス様を愛し、そのような信じられない人間になろうと努力しているのではないですか。（「愛の王国」2016/7/10）

平和警察、平和市民軍とは「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」ということなのです。隣人に同意できないかもしれません。隣人を好きではないかもしれません。しかし、隣人が略奪者のようなものにレイプされていれば、あなたは彼らを助けに行くのです。彼らはリベラルのバカ者かもしれません。ポケモンをぶら下げた奇妙なリュックを背負い、紫色の髪の毛。喉元にはピカチュウのタトゥーを入れて。私はのど首にポケモンのタトゥーを入れている少女をみましたよ。80 才になったときどう見えるか考えてみたのかというのです。前頭葉で少しは将来を考えた方がいい。80 才でポケモンがそんなに必要ですか。それでも、関係ないのです。そのような人たちが襲われるとき、個人的にその政治信条に同意できないことがあったとしても、平和警察、平和軍として、行って助けなければなりません。そして守るのです。（「豊かな王国」 2017/7/23）

二人の子供がいてデイケアセンターに行くシングルマザーでも、彼女が子供たちの第一線です。そういう暮らしが子供たちにとって最適なものではないとしても。お父さんとお母さんは子供たちの第一線です。お兄さんお姉さんは弟妹たちの第一線です。軍でもなく警察でもなく自分なのです。ですから社会の保護において、市民は重要な役割を担っています。市民がそのようにする社会では市民が力を持ち、罪の意識を持ちません。犯罪率は高くなるでしょうか。ならないのです。ばかばかしいほど低くなります。（「王国の防衛権」 2017/12/24）

意見の相違や論争もあるでしょう。時にはそれで問題が明確になることもあります。しかし相手が暴漢に襲われているのに、「自分は助けに行かない」などと言う点まで落ちないで下さい。それは平和警察、平和軍の精神に反します。王国の倫理規定に反するというのです。（「豊かな王国」 2017/7/23）

危険を知らせる責任

エゼキエル書 33 章：3 彼は国につるぎが臨むのを見て、ラッパを吹き、民を戒める。4 しかし人がラッパの音を聞いても、みずから警戒せず、ついにつるぎが来て、その人を殺したなら、その血は彼のこうべに帰する。5 彼はラッパの音を聞いて、みずから警戒しなかったのであるから、その血は彼自身に帰する。しかしその人が、みずから警戒したなら、その命は救われる。6 しかし見守る者が、つるぎの臨むのを見ても、ラッパを吹かず、そのため民が、みずから警戒しないでいるうちに、つるぎが臨み、彼らの中のひとりを失うならば、その人は、自分の罪のために殺されるが、わたしはその血の責任を、見守る者の手に求める。
剣が来ることを人々に警告する責任を持つ「見守る者」が、警告を行わないのであれば、それで人が死んだときには彼の責任となるということです。ですから、あらゆる牧師と宗教指導者のような人は、善良な人々がどうして武装する必要があるのかを教える必要があるのです。そういうわけで、お父様は、私を迷彩を着た教皇のような立場に立てたのです。カトリックの教皇ではなく迷彩の教皇です。宗教指導者は、その信者に自分たちの愛する人や隣人を守る能力を持つように言わなければなりません。（「王国の防衛権」 2017/12/24）

格闘技の訓練が異なる人種に変える

射撃、釣り、狩猟、格闘技を愛する人々が共通して（政治的に）保守的であることは興味深いとことです。もちろんたまにおかしなリベラル支持者もいるにはいますが（笑）。大半は保守的な価値観の持ち主だというのです。過酷な闘いをする人々は往々にして良き家庭人であるのです。良き父親、良き

母親であり、子供の教育にも熱心で正しい価値観を教えるといいます。全員が聖人というわけではありません。おしなべてそういうことが出来るということなのです。釣り、射撃、狩猟やレスリングやブラジル柔術、総合格闘技などの本格的格闘技を愛好する人々はたいてい保守的です。これは王国文化の一部です。（「教化される王国」 2016/9/18）

このスポーツ（格闘技など）に関わる人間は通常と異なる考え方をします。女性でもそうです。精神的、肉体的に異なるのです。この競技の性質によって全く違った神経経路が開発されるのです。幻想に生きることをせず人に助けを求めない闘い抜く精神です。全く異なる人種になるのです。（「教化される王国」 2016/9/18）

この（格闘技の）世界にいる人たちは他の人たちとは変わっています。決してリベラルに与しません。修正第２条（銃所持の自由）の支持者です。カリ・エスクリマの達人も武器を扱う達人です。彼らは一般人が自衛のために武器所有することに賛同しています。格闘技の世界はそこにいる人でなければよく理解できないのです。知り合いもいないでしょう。皆さんにとって私が唯一の知り合いではありませんか。彼らの価値観はほとんどキリスト教徒のそれと重なっています。全く同じといってもいいくらいです。自由と責任。勤勉、誇り、尊敬、誠実さ、真実を追い求める。まやかしを排除する。（「教化される王国」 2016/9/18）

平和軍・平和警察は第三祝福

万物を主管する

原理からみた時、なぜ「平和軍」「平和警察」という考えが登場するのでしょうか。しかもそれらが天国に欠かせないものとなるでしょう。宗教的、神学的に考える時、実に明確な答えがでます。第一の祝福は何でしたか。個人として成熟しなさいということです。そうすれば生産的市民となり、就職して社会に貢献出来るでしょう。その個性完成の基台のうえで家庭を出発し、子女を得ます。家族の面倒を見なければならないし、家族を守らなければなりません。第三祝福は更に進んで、第一、第二の祝福の基台の上で、万物を主管せよという祝福です。「主管」という言葉の意味を注意深く考えてみましょう。具体的にどう「万物を主管」すべきでしょうか、それは何を意味するのでしょうか。

「主管」という言葉は非常に強い言葉です。例えば動物を「主管」するというのは、具体的に何を意味しますか。どうして人間が動物を殺して食用にするのを正当化出来ますか。実際そうしているでしょう？動物を殺して食べていますよね。皆さん、料理の方法も知っていますよね。お肉が皿の上に乗っているのはなぜですか。人間が殺したからです。皆さん、そうでしょう。またペットを飼っていらっしゃる方も多いでしょう。例えば、犬を飼えば、犬にも感情があることが分かりますよね。好き、嫌い、感情をもち、泣きもする。一体何の動物を、好きな時に殺して食べてもよいという権限はどこから与えられたのですか？それを正当化するのはたった一つ。神様がくださった祝福です。それがあるので、生命を維持するため動物を殺して食べてよいのです。神様の許可がなければ、その人間の行いにはいかなる哲学的正当性も見いだすことは出来ません。なぜ人間が生きるために他の動物が死ななければならないのか。人間の価値を動物の上位に置くべき哲学的正当性などありません。もし、神様がおられなかったとすれば、べつに飼い犬を生かして人間を殺しても問題ないではないですか。そういう事を主張する人もいますね。正当性は神様が人間を創り、動物など万物を主管することを人間に許された所から来るのです。「主管」の意味を知ることは非常に重要です。なぜなら「主管」とは絶対的な支配を意味するからです。生死に関する権限を持つことです。それこそが「主管」の持つ意味です。生き死に関する権限を持つ事。これです。

人間が、ある個人がアフリカのジャングルに行ったとして、何がライオンやトラに対する「主管性」を与えてくれますか？ヒョウや狼、そして熊をどう主管しますか？武器です。銃です。弓や槍も。武器が万物に対する主管性を与えます。道具です。動物を殺すことが出来るので、人を恐れ、そして人が主管性を持つのです。この「主管性」をもつことは武器や兵器と深い関係があります。

この第三祝福を社会的観点から見れば、お父様が「平和軍」や「平和警察」について継続して語られたことの重要性が分かります。なぜなら第三祝福は生死に関して成熟した見方を与えるものだからです。武器をもつに足るだけ十分に成熟しているということです。国を守る兵士として社会の平穏を守る警官として、第三祝福は十分成熟して成長した天国の市民となる事です。人々の利益のために武器をとる。これが、天国がすべての市民に求める成熟度の基準です。

それが理解できれば、なぜそうなるのか分かれば、武器を持つ事を許された恩恵と責任は恐ろしく、また重要です。それは私たちに完全な成熟を与え、神のごとき存在者として、天地創造に同参したものとして、神様と同様、生殺与奪の権限を持ち、そして神様のような完成した人格をもって、その権能を全体の利益の為にのみ用いることの出来る個人を可能にする。私たちの個性完成です。

兄弟姉妹を守る責任を持つ者として、他者を守る為に自らの命を危険にさらす者として、これは限られた者の責任ではなく、すべての人の責任として、この意味でお父様は、神の国は自己主管、自己責任で成るとおっしゃったのです。そして自己保有。全体の利益を守る者に成るために、ですから天国では全ての市民が平和の兵士として、平和の警察官としての役割を果たすのです。（「自由社会」 2012/7/12）

血統を守る義務

私たちが祈りをあきらめないこと、平和をあきらめないこと、平和に人々と暮らすことをあきらめないことが非常に重要です。しかし重要なのは、攻撃されたとき、生命が脅かされたとき、自分の血統を守る義務があるということです。なぜなら、私たちはただ信仰によってその血統に入ったのではないからです。私たちは神様の血統にあります。私たちは神様が作られた血統を守り、すぐに来る神様の王国を守る義務があります。（「王国の防衛」 2017/6/18）

牧羊犬のように王国を守る

天一国は夫婦が王、王妃として憲法の定める万王の王と共に立ちます。私たちは多数派です。なぜならソシオパス（社会病質）はサイコパスにつながることができず居場所がなくなるからです。またサイコパスも天一国で中心に立つことができません。天一国は中心権力を認めないからです。

ソシオパス（社会病質）層、つまり山羊を羊に変え、80～90%の人は平和警察、平和軍によって守られ平和に成長します。広く慈愛を身に付け、牧羊犬のようになるように教育されます。オオカミ犬ではありません。隣人、つまり天一国国民と憲法、権利を守ることのできる羊です。邪悪な略奪者にはなりません。略奪層は代々そう教育してきました。これは文字通り羊とオオカミの闘いです。自然のオオカミは何も悪くありません。生態系でのオオカミは私たちも愛しています。これはたとえ話です。神様は私たちに分かるように譬えをくださいました。「獅子（狼）は子羊と共に宿り」とありますが、ライオンはその力を羊に注ぎ込み、共に暮らし共に生き、王国の一員となるのです。ライオンが草食になるという話ではありません。生態系を変更するという話ではないというのです。聖書のたとえ話であり、ライオンである万王の王が羊と共に宿り、彼らを守り、彼ら（羊）がオオカミ、略奪者をコントロールできるように力を吹き込むという話です。それが天一国なのです。天一国憲法がすでに発布されたので天一国は成るのです。（「識別する王国」 2017/3/19）

平和警察平和軍のロゴは AR-15

平和警察平和軍のロゴは何かといえば、AR-15 です。それは鉄の杖を表しています。神様の後継者がそれによって地上の王国を治めるでしょう。自分の栄光のためではなく、中央権力のためではなく、独裁者になるのではありません。なぜなら天一国の後継者は、天一国合衆国の憲法を守らなければならないからです。それは主権、自由、天使長からの自由、奴隷からの自由、中央権力からの自由といった憲法にある神様が与えた贈り物によって全人類を守ります。（「王国の王冠」 2017/9/17）

再臨主の経済学

天一国憲法 原則３：公金を乱用してはいけない

（天一国合衆国憲法 原則３）

自由市場は魔法ではありません。それは神様の祝福であり、神様の祝福と理想に連動して宇宙が作用するということです。それと反対に作用するのがサタンであり、混乱と不均衡を起こし宇宙を不安定にします。しかし、神様の贈り物である自然権と共にあれば祝福が来ます。なぜならその自由の中には責任も出てくるからです。（「王国は近い」 2016/11/27）

自分が築いたものを自分で守る自由

自由意志と、言論の自由と、信教の自由から出発しました。それらの自由をもっているなら、そして「主権者」だというのなら、「自由」は自動的に次に必要なものを。自由があるというなら、あなたの家も富など自分が築いたものは、むざむざ他のものに奪われてはなりません。それが自分を守る自由だというのです。だからすべて繋がっているのです。何世紀も人類が見つめてきたその本来の権利、神様の贈り物と言ってもいい―それは聞くに心地よいから、あるいは銃をただ所有したいから、誰かが作り出したものではありません。それらはひとまとまりの権利です。他のどの権利が欠けても基本的な良心の権利を維持することができません。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

自分が汗して稼いだものは自分が所有する

国に守りを委ねると、国に自分の所有を引き渡さなければなりません。そして信仰の自由も言論の自由も良心の自由も失います。自分の持物も失うのです。ひとたび、国が守ってくれるようになれば、自分の物を守る手段を失います。国がやって来て、所有物を求めるからです。その時、国になんといいますか。何も言い返すことができません。自分を守る術をもたないからです。

これは革命的原理です。それは聖書的経済学と呼べるものです。イエス・キリストの経済学です。再臨主の経済学です。その経済原理はすなわち「自分が汗して稼いだものは自分が所有する」という原理です。自分が苦労して得たものは、自分が保管する、ということ。

ここで問題が生じます。自分がとても生産的で、沢山稼ぎ、沢山蓄えたとします。他の誰よりも豊かになったとすると、怠け者のぐうたらたちがやって来て、「あなたは沢山持っているが、我々は持っていない」という。そのとき、銃を持っていなければ、その者たちはやすやすと奪っていくでしょう。

聖書的原理・・・労働の自由、労働で得たものを自分の物にする自由、そしてそれを守る自由は聖書的原理です。そして人を殺す聖書的権利を持っているということです。私が勝手に言い出したことではありません。すべて関連しあっているのです。これが難しいのです。生涯かけて成功を収め、資産を蓄えたとしても・・・それは霊的資産でも物的資産でも構いません。これを次の世代に引き渡すことに失敗すると、あなたの遺業は消えてなくなります。

お父様をご覧なさい。多くの霊的富をもっておられます。統一運動の歴史を通して、お父様を愛して、ついてきたすべての人々。お父様の資産は外的なものだけではありません。人々のお父様への愛と、名声があります。政府の公職についていた人は大勢、そのような富をもっています。政治家は、知名度をもっています。だからその子供が選挙に出やすいのです。つまり親の政治的遺産を持っているのです。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

80%以上を餓死させた共産主義

人々はヨーロッパや世界各地から来て、プリマスやジェームズタウンに入植しましたが、彼らは共産主義の国を作っていたのです。（中略）皆働いてすべての食料を中央の倉庫に集めなければなりませんでした。それはつまり、富の再分配です。共産主義なのです。全員が働きますが、沢山生産する人もいれば、働きもしない人もいます。しかしすべての富は盗まれて大きな壺に入れられ、政治家がそれを再分配するのです。（中略）

彼らはそこに行きたいと希望し何でもただで手に入れたいと思っ

ていました。「政治家が約束してくれている。それは素晴らしい」「全部渡しなさい。そうすれば配分してあげよう。私に投票してくれる限りみんなにあげますよ」聞き覚えがありますね。このようにして 2 年間運営していました。そのために大変な死亡率になったのです。知事の残した記録によれば、プリマスで 2 年目までに非常に多くの人が亡くなっており、文字通り死体をまたがなければなりませんでした。それでも人々は喜んで働こうとしなかったのです。そして彼らはこのような経済の形態を続けてはいられないと気づいたわけです。そしてどうしたかというと、プリマスで生き残っている人には 1 エーカーずつ与えることにしました。そして自分の作りたいものを作りなさいと言いました。土地を売っても良いし、農作物を好きなようにしなさいということにしました。そして 3 年目までに、中央集権の共産主義、社会主義の経済体制をやめた後の次の年までには、沢山のトウモロコシを収穫して売ることもできるほどでした。そこで感謝祭ができたのです。なぜならその時点からアメリカで飢餓がなくなったからです。3 年目からのことです。（「王国は近い」 2016/11/27）

神様の祝福が与えられた財産権

人々に財産権と土地を与えて、彼らが自分で自分の土地に責任を持ったので、繁栄し神様の祝福を受けたのです。そのときから人々は神様に自由であることを感謝する祈りを捧げたのでした。なぜなら人々が真に自由になり、自由で豊かな国にとって非常に重要な財産権を得たからです。もし個人の財産権を持たないなら、国がすべてを所有することができるのであり、つまりそれは市民に所有権がないということです。すると何もできません。取引もできず収穫も耕作もできず何もできずに経済基盤が破壊されます。自由はすべて経済基盤に基づいています。（「王国は近い」 2016/11/27）

アメリカ人は感謝祭に対する政府寄りのメッセージを一方的に教え込まれてきたのです。それは本当のアメリカ建国の歴史的事実とまったく反対なのです。彼らはここに来て社会主義の理想郷を作ろうとして失敗しました。80 から 90 パーセントの人々が餓死しました。そして政府がそれをやめて人々に財産権を与え、土地を耕作し作物を販売する権利を与えてからその後は毎年豊かになりました。ですから感謝祭というのはもちろん家族や人々に対しても感謝しますが、同時に神様が与えてくださった自由と責任に感謝するということなのです。人々が財産権と土地の耕作権を持って自分の土地で好きなことを行うとき、彼らは主管性を持ち、主権を持ち、豊かな食物を生産することができ、それらで私たちは感謝祭のとき腹を満たすのですが、それは中央集権の政府の作ったものではありません。政府の学校はそう信じさせたいと思っています。（「王国は近い」 2016/11/27）

個人で資産を所有する王国

これは私たちの共同体にとっても大切なことです、とくに資産を所有する場合にはそうでしょう。社会主義のように共同管理の土地などのようなものはありません。グレッグさんの農場も社会主義的なものではありません。ニューエイジ・コミュニティ運動などありましたが、共産主義そのものです。それを人々に広めようとしているのです。地獄で暮らすようなものです。

私たちはそれに対して、コミュニティのメンバーには個人でもオーナーになることを勧めています。自由に活動し合うオーナーです。世代を通して独立した者同士がともに相互協力し合いながら、しかし依存はしない。天一国の憲法の観点からイエス様の聖句をよむことの重要性はここにあります。このような観点で読むとき天一国が逆転の王国であることがはっきりわかるのです。（「自然の王国」 2016/5/22）

介入しない王国の経済

自分たちの労働の成果が、すべて選択によってではなく、強制的に取り上げられるのが全体主義、共産主義の本質なのです。天使長のサタン的な地上の王国です。（「実体的な王国」 2016/12/11）

アメリカの初期共同体での顛末

1662 年にプリマスの知事が書いていますが、（収穫したすべての農作物を中央の）大きな倉庫に蓄えるようになってから、窃盗がはびこるようになりました。人々は労働ではなく盗みで食べて行くようになったのです。若くて強い男がすぐに気付きます。「他の人が皆横になって食べているのになぜ 10 パーセントとか 20 パーセントの人だけ働かないといけないのか。ばかげている。もうやめた」ある時点で彼らは嫌になってしまいます。そしてなぜそれがそれほど早く起きたのでしょうか。彼らには中央銀行制度がありませんでした。お金を印刷する能力もありませんでした。お金を借りることもできませんでした。彼らは自分たちの共同体の中で、すぐに自由と責任による本当の影響と結果を得たのです。それで、初期のアメリカの共同体はすぐに社会主義をやめて、ジェームズタウンとプリマスで行っていることに変えましたが、それは何でしょうか。主権です。人々に小さな土地を持たせてそれを耕作させて繁栄させればすべてがうまく行きました。若者は盗みのやり方を学ぶのではなく、勤労の原則を学びます。自分でお金を稼ぎ、自分の家族のために繁栄を得るために働くのです。（「王国は近い」 2016/11/27）

興味深いと思いませんか。彼らが主権と自由と財産権を許可される前までは、毎年餓死者が出たのです。そして突然、主権に基づいて個人の財産に基づいた体制に変えたら、人々が所有者であり主権者となって、それから 400 年以上も飢餓がなくなったのです。今に至るまで飢餓はありません。450 年前に突然冬が穏やかになったわけではありません。私たちは 2 年前にも非常に寒さの厳しい冬を経験しました。それは体制の問題だったのです。天使長の体制か神様の贈り物を称える体制かということです。それが本当の違いです。（「王国は近い」 2016/11/27）

介入しない経済

中央主導の市場介入型の経済システムを採用する国は、「ぶどう園」に入り込んで「働く」がゆえに例外なくその国の経済システム、エコシステムを破壊してしまいます。だからいま私とグレッグさんは 2 人で別の農業の方法を研究しています。パーマカルチ

ャーというものです。そこでは植物間の生態系を利用して自然と共生していきます。すべてが自然のままに野生を保ちながらも互いに連携し合う世界です。余計な介入なしに自然のままに育ち実ります。そして一種類の作物を栽培するやり方の数倍の成果を得ることができます。それがパーマカルチャーといわれるものです。聞いたことのある人はいますか。こうしたものが大きな違いを生みだします。（「自然の王国」 2016/5/22）

息子を国と読みかえ、ぶどう園を経済社会と読みかえるときイエス様がなぜ二番目の息子が天国に入るといったのかが分かるのです。個人的に見るときこの息子は怠惰で愚かに見えるかも知れませんが、王が持たなければならない心構えなのです。自由な交わり、自由な社会に介入しないことが大切です。人々を強制するのではなく良心の決断にゆだねるのです。善悪の判断を強制ではなく良心に求めるのです。善を成せば善は自分に戻ってくるからです。これは生態系(エコシステム)に通じます。だれにとっても有益で協調的なものです。植物同志が協調することを促すのです。（「自然の王国」 2016/5/22）

ではもう一人の息子、国はどうしたのでしょう。「ぶどう園」に行きますと答えて何もしない、介入しないということです。もちろん個人レベルで考えればぶどうを育てるためにはいろいろと畑に手を入れなければなりませんがここでは国家レベルで考えて下さい。市場にまかせること、国がいたずらに介入しないことこそ価格が安定し生産が伸び、最高の技術革新を招き経済の繁栄を達成する手立てなのです。ですから国家レベルにおいて、「気が進まないけれど、ここは市場に介入しよう」という者たちこそ経済システムを破壊に導くのです。逆に「経済分野は何とかしてみましょう。しかし市場に介入することはしません」という者達こそ市場を機能させ、経済を良くし、生産、労働においても事態を好転させるのです。そして人々は自由と責任にもとづいて選択の自由を行使して経済が自律的にまわるようになる。（「自然の王国」 2016/5/22）

介入するサタンの王国

マルクスは「宗教はアヘンだ」といいましたが「マルクス主義は知識人のアヘンだ」という人もいます。たいがいの博士号取得者などの有識者、知識人は多かれ少なかれ不可知論的無神論者あるいはマルクス主義者であるといえます。現実にはいわゆる知識層と呼ばれる人々は、中央による計画経済、経済政策を市場経済に導入することに大きな関心を持っているのです。市場は野放図で無秩序、放っておくと独占が起きるなどと考えているのです。問題はそのような計画経済、経済政策の行きつくところは彼ら自身が「独占者」になるということです。彼らが「独占者」となって市民活動のすべてに規制の網を張りめぐらせて市民を窒息させるのです。（「自然の王国」 2016/5/22）

ここにもいろいろなビジネスを始めようとしている若者がいますが、農場を立ち上げるにも気の遠くなるほどの規制をクリアしなければなりません。多くの役人がいて、彼らは野菜や果物を自由に売ることさえ許可しないのです。それらの経済計画、経済政策、規制は結局、王国を破壊することになるのです。（「自然の王国」 2016/5/22）

正当な取引を保証する王国

ここで天国は「畑の宝」ではなく「商人」と譬（たと）えられています。これは大変興味深いことです。国進兄さんの天一国の経済、天国の経済についての話を覚えていますか。天一国での具体的な経済についての話です。天一国は具体的経済システムを持たなければなりません。商人としての側面も必要なのです。聖句の商人は真珠の代金を支払わずにそれを盗みましたか。そうではありません。もしそうなら政府が何か法律を制定して真珠を取り上げるということになり大きな政府を支持する話になってしまします。
この商人は正当な代価を払って真珠を手に入れたのです。盗んではいません。天一国では「正当な取引」という概念が本当に重要です。透明性の高いきちんと契約の則った正しい取引です。透明性のある機関によって保障された商取引。
これこそ取引する双方にとって満足な結果を生み出す天一国の核心的かつ枢要な経済原則だというのです。どれだけ消費者のために奉仕するか、どれだけ他者を愛するかという生産者サイドの経済学です。これが天一国にはたらく「見えざる手」です。アダム・スミス（近代経済学の父）は「見えざる手」の正体をはっきりと知ることはできませんでしたが、「見えざる手」という言葉を用いました。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

自由に経済活動できる王国

天一国で事業を始めたいとき、愚かな免許証は不要です。資格、免許証、などなど、必要ありません。自由、しかし、責任！税金、所得税、ありません。人々が作ったお金を政府は盗むことができません。（「銃器所有神学論」 2017/12/20）

寡頭制の金持ちが「あなたがたを虐げ、裁判所に引きずり込む」と言っているのです。そのように彼らはあなたの起業したビジネスを妨害しているということです。アマゾンやウォルマートのような独占企業です。彼らはあなたがビジネスを始めるのをもっと難しくしています。あなたがビジネスを始めるころには、手続きすべきばかげた規制のせいで 20 万ドル、30 万ドルの借金があります。あなたに勝ち目はありません。そして彼らは訴訟を起こします。「あなたは登録商標を使っています。あなたを訴えます」。
ですから小さなアイスクリーム屋を始めるのにも 20 万ドル、30 万ドルという借金をしなければならないような制度が出来上がっているのです。その上彼らはあれこれといった理由であなたを訴えるのです。あなたを追い出して始末するために。あなたは始末されて 20 万ドル、30 万ドルの借金を払わなければなりません。そのようなタイプの富裕層は悪です。なぜなら中央集権の権力と共謀しているからです。これは自由な取引、自由な市場活動ではありません。その人が素晴らしいサービスを提供しているから自由に取引するというものではありません。（「豊かな王国」 2017/7/23）

私たちはビジネスを始める人々、起業家精神を持って広く成功するような人を称賛します。そのような人々は英雄です。それは素晴らしいことであり、彼らは人に尽くしてきたのです。普通の人々はそれに対して怒ることはありません。おめでとう、自分にも

できたら良いのにと言います。普通の人は「彼はあなたよりずっとたくさん持っている。彼から盗むのを手伝ってくれ」などと言ってそれにちょっかいを出したりしません。思考停止に陥っている教化された子供たちは、メディや愚かなセレブなどの左翼によってそのように考えるよう訓練されてしまっています。「彼らはあなたよりもっと持っています。見てみなさい」と。ゼロサム・ゲームではないのです。一つのパイを取り合っているのではありません。別のパイを作ればよいのです。（「豊かな王国」 2017/7/23）

この聖句（マタイ 21:28～）を天一国憲法の観点からみていくことにしましょう。イエス様は国家レベルで語っておられるので国家レベルの話をしましょう。ここでは父と二人の息子が登場します。それは父なる国、つまり天一国憲法を採用した最初の国とみなすことができます。そしてそこから派生する国々がある、それが息子です。また共和国である限り天一国合衆国に参加することも可能です。また「ぶどう園」はなにをたとえているのでしょう。ぶどう園は果実を収穫するところです。国家レベルで考えるとき、この「ぶどう園」は経済を象徴しているとみなしていいでしょう。すると弟は「いやです」と答え、「ぶどう園」で仕事をします。しかし兄は「はい分かりました」と答え、「ぶどう園」で仕事をしませんでした。「ぶどう園」での仕事の意味をみていきましょう。園芸をしている人はいますか？「ぶどう園」ではぶどうをどうするのですか。その畑で「ぶどう」だけが育つようにする、つまり草を取り除き、その他の野草を取り除いて「ぶどう」が畑を独占することを進めていくのではないですか。正しいですか、正しくないですか。競争を排除することです。ですから息子、つまり国が経済に介入して独占を認めるということ、これがすべての知識人が良いと認めることだというのです。（「自然の王国」 2016/5/22）

ぶどう園をめぐってまた別のたとえ話がありました。作ったぶどう園を農夫に貸し出す話です。天一国憲法では国々は自由に交わり、同盟することが認められています。共産主義国家でもいいのです。それらが一緒になって交易することができます。中国銀行のようなものが来てビジネスをしても構いません。ただし銀行業全体の１％以上まで独占をすすめることは法律で禁止されています。その範囲なら天一国で営業しても構いません。ロンドンやフランス、スイスで創業された銀行がニューヨークで営業しているのと同じです。天一国では海外からやって来て経済活動をすることは自由なのです。この聖句にある貸し出された農夫と同じです。しかしその農夫が「ここはもう我々のものだ」などといい出すようになるといけません。オーナーから送られた息子を殺すようになってはいけないというのです。「ここは我々のものだ」、こういいだすことは許されないのです。外国の機関、企業が天一国で経済活動して自ら養うことは自由です。しかしこれが「ここは我々の管轄だから中国国内法を適用する」などといい出すことを許しません。「さあ、我々の都合のいいように天一国憲法を変えよう」などといい出すことを許さないのです。そうなれば強制的に取り上げて天一国に編入します。（「自然の王国」 2016/5/22）

中産階級が花咲く王国

西洋の中産階級以下の人は、3 万ドルでも 4 万ドルでも、それ以上のお金が増えても、何の問題も取り除かれることがないという調査結果があります。超お金持ちの人々から中産階級、中産階級の下層の人々を調べても、何の違いもなかったというのです。離婚率も同じ。親子間の争いも同じ。病気にかかるのも同じです。お金では解決しないということです。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

最も幸福な中産階級

「神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰に富ませ、神を愛する者たちに約束された御国の相続者とされたではないか」ある研究結果を見つけたそうです。それによると幸福度は中産階級が最も高いということです。非常に裕福な人はといえば、幸福ではありません。それによると最も高い「幸福度」の範囲は、年収 5 万ドルから 8 万ドルの間だということが分かっています。全く困窮しないだけのお金はありますが、世界中のすべてのお金は持っていません。それがあるとダメになってしまい、傲慢になります。また子供を悪魔のように育ててしまうのです。世界のすべてを所有しないことで自分の持つ物に感謝するようになります。それでもときには休暇を取ることができて、自分の持つ物に、神様があなたに恵んだものに感謝できるのです。つまりバランスがあるのです。しかし、ビーズ・オルソン、ジョージ・ソロスのような人々は、何十億、何兆と持っていてもその貪欲さは飽くことがありません。すべての西洋の国を支配し、アフリカやアジアの国の大部分を支配しても十分でなく更に求めます。止まらないのです。（「豊かな王国」 2017/7/23）

中産階級を 60%に育てる王国

天一国憲法も同じような愛国者をもっともっと多く生み出すことでしょう。アメリカとは比較にならないほど多くの中産階級を生みだすはずです。アメリカには 40%から 45%の中産階級が存在します。たいへん大きな割合です。普通の人が家を持ち車も２台持っています。他の国からやってきた人々はアメリカ人の生活レベルの高さに驚くのです。天一国憲法のもとでは 60%は中産階級になることでしょう。分権化が大規模に行われ、修正条項もつくることができない天一国憲法では溢れる自由と規制の廃止。実際、毎年 10%の法律が効力を失います。ビジネスを起こしたことのある人は体験していると思いますが、アメリカでは規制が多く束のような書類を提出しなければならないのです。年間４万枚の書類に目を通さなければなりません。これは弁護士やコンサルタントを雇う余裕のない中小企業を潰そうという謀略です。（「愛の王国」 2016/7/10）

そうした社会的成功に伴い、人々はそれほどの自由と成功を中産階級にもたらす天一国憲法の価値を真に理解するでしょう。60%が中流家庭である社会を想像してみて下さい。他の国から信じられない数の人々がやってくることでしょう。唖然とするほどの豊かさがそこにあるというのです。世界中の人々が大挙して押しかけてきた最盛期のアメリカでも中産階級の割合は 40～50%でした。加えて奴隷のような人々も存在していまし

た。始まりは小さくともどれほど自由で豊かな国になることでしょう。社会を欺き腐敗させる福祉制度が禁じられる結果、どれほどの道徳基準をもたらすことでしょう。人々は責任を自分のものとし、それを悪魔（政府）に引き渡さない結果として非常に成熟した市民になるでしょう。（「愛の王国」 2016/7/10）

天一国憲法が作る中産階級の王国

神様の王国は主権の王国です。政治的王朝にとどまらず、経済の王朝でもあります。我々は多くの中産階級の王朝をもたなければならない—これが問題です。しかしそれは現在の法律では不可能です。神様の王国を語るとき、それは無数の人々の主権を語るのと同じことです。基本原理として、その国は憲法に規定される基本的権利の上に建てられるものですが、それがどう法律で具体化するかが問題です。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

憲法とそれに基づく立法が、大きな独占を防ぐように運営されるなら、中産階級の花咲く社会が生まれるでしょう。中産階級が、次世代に丸々相続させることのできる社会が生まれるなら、世代を超えた中流階級が定着します。相対的に層の厚い中流階級が世代を超えて続くでしょう。地上天国を言うとき、そのことを語っているのです。王国と国民という場合、一部の貴族階級の相続権だけではなく、国民の 30%が同じように相続させることのできる社会を語っているのです。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

30%の人を事業主にする天一国憲法

どのようなタイプの社会でも、自由競争の障害物をすべて取り払うなら、規制や官僚主義を排除するなら、ビジネスや資源の所有者が、大抵国民の 30%を占めるようになります。零細企業から中小企業、大企業に至るまでの経営者の割合がそうなるというのです。まだ労働力になる前の未成年の世代、退職して一線から引退した世代、それらを除いて、最大 30%の人口がそうなるのです。すべての人が所有権を有する社会、つまり 30%の人口が何らかの事業を行う社会と独裁者の君臨する社会、つまり 1 人がすべてを所有する社会、この幅があります。神の国を実践的な面から語るなら、私たちがそのためにしようとしていることは、事業主の数を最大にするような法制度をつくることです。そのことを目指して天一国憲法は設計されています。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

第３章　王国の主人の堕落

人類歴史の初めに、エデンの園で、自由、独立、良心、そして神との結びつきある神の創造本然の世界が確立されるべきだった。それは、権力ある天使長達が、神の子女の僕の立場になる世界だった。しかしながら、堕落により、エバは、天使長と姦淫を行い、アダムを誘惑して神に背く罪を犯させた。そのようにして、サタンが人類を支配する世界が築かれ、歴史から明かなことは、中央集権化された権力が、政治上、宗教上、又は、財政上、偽りの体制と権力を用いて人類を支配してきたということである。その過程においては、ある時には段階的に自由が奪われ、またある時には力づくで自由が抹殺されたのである。サタンを代表する偽りの権力機構に、二度と再び人類と人間性を支配させない神の王国が確立されなくてはならない。神の王権の役割は、神とこの世の人々との間のこの契約を保全し保護することでなくてはならない。（天一国合衆国憲法 前文）

3 - 1 エデンの園に生じた中央集権志向

アダムを受け容れられなかった天使長

天使たちは、神様と共にすべてのものを創造するために働きました。あらゆるもの、数学と方程式といったすべてのもの、宇宙を作りました。神様は自分の姿に似せた存在を創造しようと言われ、彼らが成長して素晴らしい存在になって王国を支配し、君たちも支配するのだと天使長に語りました。すると彼は、それがあまり気に入らない、いい考えではないと言ったのです。神様が人間を創造すると、「この愚か者たちが我々を支配する？そんな馬鹿な。あの馬鹿は湖で飛び跳ねてカエルを捕まえているのに。彼らは我々を支配できない。我々は空を飛べるし、あれもこれもできるし、翼をはためかせて交響楽を奏でさせることもできる。あの男は能無しだ。彼は汚れて木の周りで遊んでいる。彼は狩りや釣りに忙しい」と言ったのです。「いやいや、待ちなさい。あれは私の子供だ。彼は支配するし、立派にやるだろう」（神様の言葉）天使長の立場から考えてみてください。「神様は狂っている！我々は彼のために宇宙を支配しなければならない。我々は哀れみ深く賢いので神様のためにそうしなければならない」（「適正な秩序の王国」 2017/7/16）

中央集権と等しい天使長の主張

重要な点は、神様が人間を信じているということです。最初から人間を信じていたのです。力を持ったサタンと天使がダメな奴らだと考えていたとき、アダムとエバを信じていたのは神様でした。サタンと天使長は、このばか者たちは何の力も持っていないと言っていました。「神様、彼らは私たちができることを何もできない。彼らは最低だ。アダムはだめだ。どうして彼にすべてを与えるというのですか。彼は一日中木の周りで走り回り、遊びまわって果物を食べ、釣りをしたりカエルを捕まえたりしている。豚と一緒に転がり回ってレスリングをしている。私たちがあなたと一緒に奴隷のように働いて作ったこのすべての美しいものを、どうしてこの愚か者に与えるというのでしょうか」それは中央集権の政府が言っていることと全く同じだということに注目してください。（「豊かな王国」 2017/7/23）

「神の似姿」の喪失

神様のロゴス

み言としての神様を見てください。神様がすべてになり、宇宙のすべてに内在して基礎となります。それがロゴスであり、認知的な思考を言語化します。言葉として発した発言が、現実を示すようになります。神様の知的な宇宙的な心の中にあったことが言葉として発せられ、存在するようになって、山や川、水とい

ったものになるのです。（「揺り動かされない王国」2017/11/26）

ヨハネによる福音書１章１節、「初めに言（ことば）があった。言は神と共にあった。言は神であった」ですが、非常に興味深い概念、ロゴスの観念です。ロゴス（λόγος）、つまりみ言は大変な概念なのです。強大な神様のはじまりが、み言であったというのです。もちろん、キリスト教の背景において、それは地上に来られるイエス・キリストとして表されるものであり、神様のみ言が肉となったものです。
そして、「言は神と共にあった。言は神であった」というところに注目してください。つまり、ロゴスにとても大きな力が投入されていたのです。人類の歴史を見てみれば、問題に取り組むには二つの大きな選択肢があります。一つは剣によるものであり、もう一つは言葉によるものです。それで、文明がどうやって人が必ず直面する問題を解決するかを決定するのかということです。剣で解決するのか、言葉で解決するのかです。お互いに殺し合うことのないように平和を実現するための、社会の基本的な側面とは何であるのかと言えば、西洋の文明では論理的根拠のようなものでした。そしてそれはどこから来るのかというと、すべて言葉に基づくものを基礎としているのです。
神様自身がロゴスに基づいています。私たちすべてを超越するものがあり、私たち全員が恩義を受けており、また私たちも自分の考え、観念、計画を表現する能力を持ちます。そして討論や議論によって空気の中に投入し、言葉に基づいて決定することができるのです。力によってではありません。力を結集させて自分に反対する者すべてを殺してしまうことで、自分が正当化されるというのは、チンギス・カンがやったことであり、中国の皇帝がやったことであり、アラビアのスルターン（王）がやったことです。根本的な違いについて話しています。（「揺り動かされない王国」2017/11/26）

神の似姿として思い描く

私たちも神様の似姿として、自分は 3 年後、5 年後の将来に、この領域でこういうことをしたい、この目標、使命を遂げたい、と言うことができるのです。私はそれがしたい。それこそが自分にとっての乳と蜜の流れる地だ、と。3 年後、5 年後のことを考えると、想像力と認知能力を用いて心で危険な道をたどることができます。例えば、今見えている崖を下ろうとするなら、何が起こるかというと、滑落して重力の速度に従って、卵が床にぶつかるように地面にピシャっと叩きつけられるでしょう。心の中で自分が死ぬことを想像できるのです。現実では死ぬ必要はありません。それはすばらしい生存のためのメカニズムです。人間は何が起こるか想像できます。それによって実際にそれを行わずに済むのです。（「揺り動かされない王国」2017/11/26）

神様のロゴスを文章化した憲法

このような心の力が、考えを言葉にして形作り、言葉を発すれば他人の心に影響を与えるのです。このようなロゴスの力が、キリスト教の世界では、すべての基礎となっています。ユダヤ・キリスト教の世界では、言葉、ロゴスが神様と共にあるだけでなく、それ自体が神様なのです。
ですから西洋では憲法が非常に重要です。それにはたくさんの言葉が入っています。誰もがこの憲法の世話になっています。アメリカの大統領から最も貧しい人に至るまで、すべての人が世話になり、それで問題ないということになっています。すべての人がロゴス、または言葉に従属しています。少なくとも一定の基本的な文明に対して、私たち全員を一つにつないでいるのです。（「揺り動かされない王国」2017/11/26）

誰でも平等に神様の似姿としたユダヤ・キリスト教

ピーターソン教授が、ロゴスについて話し合っているのを見つけました。西洋文明がロゴスに基づいて、どのように作られたかということです。それがなぜ興味深いかと言えば、聖書には「男と女は神様の形につくられた」とあるからです。すべての人間が神のような要素を持っている、という話が 5 千年前に現れたということは、まったく狂ったことであるというのです。なぜなら、人類の歴史を調べると部族主義というものがたくさん見られます。そしてその中には二元論、二元的弁証法などといったものがたくさんあり、「我々」対「彼ら」というような考えがあります。そしてユダヤ・キリスト教文化では、信者であろうとなかろうと、人間はやはり神様の似姿に作られています。犯罪者であっても、神様の似姿に作られているのです。古代の世界では、それは信じられないような言葉です。（「揺り動かされない王国」2017/11/26）

聖書はあなたが政府の奴隷だとは言っていません。聖書は、ミシェル・オバマやヒラリー・クリントンがあなたの指導者となるとは言っていません。聖書では、人は神様の似姿に作られたのだと言っています。そして私たちは宇宙を創造された神様の息子娘なのだと言っています。何度も聞いたことかもしれませんが、それは途方もない主張なのです。全宇宙の設計者である知的精神は、現代の科学で証明されていませんが、すべて数学的であり幾何学的であり、設計されたものがあります。あなたはそのような宇宙を創造した超越的存在の似姿として創造されているのです。無神論者はあなたのことを狂っているというでしょう。なぜなら、それがそれほど壮大な主張であるからです。この大陸だけの創造主のことではなく、この海だけの創造主だけのことはではありません。私が言っているのは全宇宙の創造主のことです。あなたはその似姿として創造されているのです。それが天使長に対してどれだけ反抗的な内容かわかるでしょうか。（「豊かな王国」2017/7/23）

人を動物より低くしたサタンの文明

例えばヒンズー教のカースト制を見てください。すべての人間は同じではありません。神様の似姿ではないのです。動物より悪い、最下層民がいます。これは歴史を通じて一貫したものではありません。エジプトには、奴隷の階級と神のようなパロ（ファラオ）の階級がありました。基本的には、あらゆる文明は、政治的サタン主義が具現化したものです。封建制であったり、共産主義であったりしますが、それは超エリート階級や天賦の悟りを開いた階級といった、より大きな原則に繋がっていきます。そしてそれがすべての人を支配します。基本的にはあらゆる文明は、政治的サタン主義が具現化したものです。そしてこれが、どのような宗教、政治を見ても、共通の一貫した傾向なのです。

（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

ロゴスで戦う

ロゴス、または言葉の中で根本的に傑出したものです。それは、例えば討論の伝統の中核の一部です。または、精神の闘争です。どちらが大きな軍隊を持つかということではなく、精神による戦いなのです。それが民主主義や共和制の枠組みとなっています。同意しないからと言ってその人を殺すのではなく、正当な法的手続きを行います。例えばアメリカの基本的な法律学です。例えば大多数がこの人を殺すべきだと言っても、有罪だと証明されるまでは無罪です。それが、すべての人間を神様の似姿としてとらえる文明の基本なのです。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

取り除かれた神様のロゴス

ニーチェは、「自分で自分自身の価値を作り出さなければならない」と言うような思想家になりましたが、警告していました。キリスト教に由来する、神の理想という欠かすことのできない基本的な意味を持つ構造を取り除くなら、私たちはみな、理性的になることはなく、完全な破滅がもたらされると考えていました。そして、20 世紀に何百万もの人が殺されると予測していたのです。なぜなら神様を取り除いたことで、何か別のもので置き換えなければならず、病的なサイコパス的な思想が出てきて取って代わるからです。そして実際にそれが起こり、ニーチェはそれを 1800 年代に予言していたのです。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

この西洋文明、または理性的な言説の不可欠な基本的構造が置き換えられるとき、それはニヒリズム（虚無主義）によって置き換えられます。つまり、意味のあることは何もないという大きな絶望です。私たちは、大きな岩の上に浮かんでいるだけの進化した猿だというのです。何をやっても無意味だということです。この限りない失望のサイクルは、途方もない苦痛、苦悩、霊的な不満を生み出します。そして他方では、病的でサイコパス的な過激な思想が出てきます。それは権力に焦点を当てたものであり、最終的にはマルクス（主義）ということです。「宗教はアヘンだ」ということです。そして、これによって基本的な構造が置き換えられると、新しい形態の思想のようなものを持つようになりますが、それは実際にはカルトのような、宗教のようなものです。それは国を支配することを求め、中央集権化を求め、すべての銃を自分たちのものにして国民を武装解除し、自分たちの思いのままに行うことができます。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

能力に応じた階級組織の台頭

彼が夢の世界と呼ぶもの、つまりユダヤ・キリスト教の枠組みを取り除いたとき、その巨大な空白ができます。西洋文明に対する大きな失望も生まれます。職場に行って、その仕事が自分を定義することになります。どのような仕事であるか、その仕事が価値を生み出すようになります。「母親や主婦なら価値がない」とされ、それらはすべて、惨めな昔ながらの奴隷の役割とされます。「仕事をすれば価値がある」「大企業にいれば価値がある」「管理職になれば価値がある」と言って。すると何が起きるでしょうか。女性は落胆します。同じように幸せにはなりません。女性の心は、常に戦うことが組み込まれているわけではないからです。冷たく無感情であることが組み込まれていません。組み込まれているのは、暖炉や子供たちのそばにいることであり、その間に男性が狩猟に行っていました。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

私たちの法律制度と論理と理性、そして証拠を求めるようなやり方の基礎となっている、基本的なユダヤ・キリスト教の宇宙的な枠組みを取り除くとどうなるでしょうか。それらは独裁的な階級組織ではなく、能力に応じた階級組織を作り出すのに役立つものです。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

精神へのサタンの侵入

無意識の世界から排除された神様

ユングは、人は夢の中で生きているようなものだと言っていました。神話的、叙事詩的な夢です。フロイトは無意識について、副人格が漠然と一つにまとまったものだと言っています。おかしいとは思いませんか？それで、それぞれの人格に、それぞれの意思と願望、理性があり、それがすべて一緒になったものだというのです。しかし、ユングはニーチェに同意していません。ニーチェは自分で自分の価値を作り出せると言っていました。神を排除して、何が正しくて何が間違っているのかを集合的に決めなければならないと言っていたのです。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

善悪の判断基準を奪うサタン

私の場合、仏教をやめた理由がそうでした。仏教が主張する阿耨多羅三藐三菩提（あのくたらさんみゃくさんぼだい）の悟りの境地は、善と悪を超越したものです。つまり、自分で善悪を判断するということです。善悪を自分で決めることはできません。それは、ヒトラーになるということです。神様の本質が、何が全で何が悪かを決めるのです。神様は真実であり、嘘つきではありません。神様は泥棒ではなく、誠実です。
ユングは、自分の価値を生み出してやがて超人となると言ったニーチェに同意しませんでした。それは、あらゆる異教の思想が最終的に向かう危険な思想です。道は二つしかありません。ですからイエス様は、「私が道であり、真理であり、命である」と言われました。イエス様の道か、それ以外の道です。それ以外の道はすべて、超人という同じ山へと向かっています。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

ユングはそれに反対し、それを行えば途方もない災難が起きると言いました。そして実際に起こったのです。「人間は、意識の管理を超えたものに深く影響されている。」興味深いことです。潜在意識という考えでは、基本的に自分の支配を超えたものによって支配されているということです。考えてみてください。これらの副人格が、自分の意識の支配なしに、あなたを支配するということです。絶え間なく戦い、つかもうとしているのです。私たちの人格の中には、昔から天使とか悪魔とか呼ばれるものがあり、

心や精神の中で戦っています。サタンの誘惑といったようなものです。このような悪魔と関わっているのだということが分かっています。人間の本質は、いつも幸せを感じる理想郷のようなものではありません。すべての人間が苦痛を感じ、実際に善ではなく悪意に傾いています。（「揺り動かされない王国」2017/11/26）

ユダヤ・キリスト教の文化を奪われた空虚

ユダヤ・キリスト教の文化を取り除けば、その空白はニヒリズムとなって、「善を行う目的は何か？何もない。みんな結局死ぬ。雄ライオンが複数の雌ライオンと交尾しないと言うのと同じような意味しかない」ということになります。もし、進化生物学を信じるのであれば。人間は、意識の支配を超えたものから深い影響を受けています。キリスト教では、目に見えない霊的な世界があると言っています。霊があり、悪魔がいます。イエス様の行ったミニストリーの 33 パーセントは悪魔を追い出すことでした。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

夢を通して届く神様の声

ユングは夢と神話という考えに入っていきます。「夢は思考と同じように、不確かな世界で何かを形作ろうとする試みである。」思考はどこから来るのでしょうか。心に浮かぶ考えはどこから来るのでしょうか。自分から出たものだという確信がありますか。どの人格から？どの副人格から？その副人格はどこから？どこからやってきて、あなたの灰色の物質を支配するのでしょうか。どうやってあなたのしわの拠った灰色の脳を支配するのでしょうか。思考と同じように、夢も無意識の心のようなものから泡のように出てくるのだというのです。それは支配できるものではなく、自分で作りだしているのではありません。

夢を解釈する人が沢山いて、記憶のようなものだとか、再生しているようなものだと言いますが、夢は、筋の通った構造をもっていることがたくさんあります。非常に明確な経路を持っている場合があります。夢に参加することができる場合もあります。始めと終わりがあることも多いです。必ずというわけではありませんが、非常に一貫していて筋道がある場合も多いのです。昨夜のことですが、私は夢の中で「神様、あなたはこの夢で何を悟らせたいのですか」と尋ねていました。夢の中にいるということが分かって、そう言うことができたのです。聖書では、未来の出来事についての啓示であったという話もあります。夢は考えの生まれる場所だということができるでしょう。夢は人間の考えを刺激するものであり、こういうビジョンや想像を抱くことができるという心の探検だというのは興味深いことです。（「揺り動かされない王国」2017/11/26）

3-2 中央集権化の要求

あらゆる中央集権政府は、「国民は愚かすぎて自分で判断できません。私たちには知性が必要であり、彼らに何をどのようにすべきで何を信じるべきか教える知的なマルクス主義、社会主義の教授の階級が必要です。そしてあなたの考え方が気に入らなければ検閲します」と言っています。（「豊かな王国」2017/7/23）

権力を集中させて貧しい普通の人から盗む

それは古典的な天使長です。権力を集中させ、独占し、普通の人から盗むために政府と共謀します。そして彼らは、一般の人を信じることができません。この例での貧しい人のことです。すべての人は基本的に貧しく、エリートは残りの 5 パーセントです。寡頭政治の体制であり、帝国主義であり、完全に中央集権のローマの体制です。それは農奴制の体制であり、無能なビルダーバーグ・グループがネオ封建制と呼ぶものであり、5 パーセントの人がすべてを、あるいは国全体を所有して他の人は全員が農奴、つまり奴隷だというものです。これがイエス様の時代に人々が暮らしていた体制です。ですから貧しい人と言ったときには、それは普通の人のことなのです。普通の人には何の機会もありません。そのような体制の中では機会が与えられないのです。（「豊かな王国」 2017/7/23）

搾取者を魅了する中央集権化された権力

中央集権化した権力がある場合、どのような国、歴史上の政府の例を見ても、その文明の搾取者がその権力に魅了され、自分でもその権力を手に入れたいと考え、中央集権化した権力に向かって引き付けられます。最終的には支配してそれを利用し、道徳的なふりをしても実際は敵を虐殺します。スターリン、ヒトラー、毛沢東、そして現在なら金正恩を見てもみな同じことです。アメリカの民主党は基本的には共産党のようなものです。本当に違いはありません。中央集権化した軍、警察を求め、中央集権化した銀行を求め、中央集権化した教育を求め、中央集権化した医療を求めています。まさしく共産主義です。マルクス主義の綱領がすべてあります。それから言うまでもなくネオコンがおり、それは偽の共和党です。右派ですが左派の共産主義者と協力しています。（「王国の防衛権」2017/12/24）

3-3 サタンによる政体の変遷

アメリカでは深刻な状況があります。アメリカが主権を失っているのです。憲法も安全ではありません。それは修正過程によるもの、奴隷制の罪によるものです。（「七年患難の後半」2017/10/15）

主権国家から寡頭制への堕落

アメリカは長成級完成型国家として神の国に最も近づいた国でした。世界に自由と責任をもたらしました。しかし奴隷制の罪のゆえに憲法に手をつけて修正条項を加えるようになりました。アメリカ憲法は反故（ほご）にされたのです。よって現在私たちが暮らしているのは共和体制下の自由の国ではなく、民主主義の国です。そして民主主義が寡頭制に堕落することは歴史の必然です。もともと共和国であったローマも民主主義、衆愚政治に移行しそして寡頭制にまで崩れてしまいました。だから民主主義は経過段階であって決して長く続きません。その行きつく先は寡頭政治なのです。

現在のアメリカは寡頭制であるということができます。もはや民主主義でもありません。その件に関する BBC の報道をお見せ

しましたね。現在のアメリカでは寡頭政治が行われています。わずか数人、数家庭がこの国の法を牛耳っています。巨大企業数社によって支配されています。個人の権利、国民主権の理念からはるかに遠ざかってしまいました。もはやアメリカにそれは存在しません。（「生命の王国」 2016/6/5）

共和制と寡頭制の二者択一

国家にとっては二つの可能性があります。寡頭制度、共和制、民主主義、独裁主義、無政府主義という５つの政治制度を見てきましたが、実際には共和制と寡頭制という２つの制度にしぼられます。独裁制はいつも秘密の寡頭制度であり、表に出ている独裁者の陰には秘密のグループの力があります。人々にはいつも一人の独裁者しか見えませんが、背後にグループがいるのです。ですから実際には寡頭です。そして民主主義も一時的なものです。ローマの哲学者も知っていました。すべての民主主義は崩壊します。衆愚政治(mob rule)による過半数の投票であなたの権利は奪われてしまうのです。
しかし共和制は完全に違います。代表の政府であり、少数派を保護します。たとえ 99%の人が「あなたは、ヘイトスピーチをしています。あなたは、話してはいけません」と言っても、そのような人々によって止められることはできません。表現の自由があるのです。わかりますか？民主主義とはとても違います。民主主義では力によってあなたの権利を奪うことができます。過半数投票によって権力を得、あなたの権利を略奪します。それゆえに民主主義はいつも暴民による衆禺政治によって崩壊し、寡頭制に移っていってしまうのです。（「キリストによる神の王国」 2016/6/12）

社会主義、共産主義の誘惑

マルクス主義や共産主義では悪意を持った被害者意識があり、「ほら、あの人はあなたよりもっと稼いでいる。それはあなたから盗んでいるからだ。力を貸してくれたら取り返してあげよう」と言うのですが、これが社会主義と共産主義の嘘なのです。若者はそこにはまってしまいます。蛇の誘惑のようなものです。

300 年で崩壊する民主主義

民主主義は歴史的に約 300 年を一つの時代の区切りとして必ず崩壊します。それは、ある時点で多数派が支配するからです。共和制には多数派が消し去ることのできない権利があります。ですからアメリカは民主主義ではなく共和制なのです。共和制では、少数派はいつも多数派から保護されます。なぜなら建国の父がアメリカを発見したとき、彼らは少数派だったからです。クエーカー教徒などの様々な教派がカトリックに迫害され、「異端だ」と言われていました。私が言われているのと丁度同じように。それは苦になりません。私たちを殺しに来ようとするようなクリスチャンはいません。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

政府に対する絶えないお金の要求

左翼は常に資本主義に依存しています。「自由市場とはお金のことだ」と言っています。お金にとても焦点を絞っているのです。貧困の解決には、連邦政府の政策にもっとお金が必要だと言います。犯罪減少のために何が必要かと言えば、連邦政府の政策にもっとお金が必要だと言います。中退率の改善にも、連邦政府の政策にもっとお金が必要だと言います。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

国民を僕に決定付けたサタンの法律

堕落世界を見るとき、法律が人々をどういう道に押しやっているのかが分かります。基本的に、法律は遺産を子供たち全員に分け、一人に集中させないようにしています。他の国でもアメリカでもそうです。また、基本的に自分が蓄えたものを退職後の生活で死ぬまでにすべて使い果たさせようとしています。99.99%の人にとって社会はそういう風に仕組まれているのです。その理由は何でしょうか。平等主義の原理、すべての国民に機会を与えようとする動機からきているのでしょうか。違います。そのような法律は後付けで作られたのです。王を欲しない、一家の血統を持たせたくないある勢力が存在するということです。世代を超えて気づかれる財産を、散財させたいのです。
アメリカ社会でさえ、現在の法体系では、本当に裕福な者には法の抜け穴があって、いくらでもあるその抜け穴から税金も取られずに、実は一人に富を集中させることが可能なのです。上手く遺産対策をすれば。基本的にシステムがそういう風に、人々が世代を超えて富を蓄積することが出来ないように設計されているのです。だから人々の大半は神の国の王権に参画できないのです。わずかな人だけが、弁護士を大勢雇って次の世代に富を相続させているのです。それによって、ごく少数の一族が世界の人々の命運を握るなどということができるのです。だから一般の人々が相続や後継に関する決定と選択を難しくする法律こそ、根本的に世界の人々の害になっているのです。それでは社会が良くなりません。だから私たちがコミュニティとして、神様の王国創建について考えるとき、それは避けて通ることのできない問題だというのです。どうやってその法律を変えていくか。いかにして普通の中流クラスの人々が賃金奴隷になることなく、現実の主権者となることができるのか。次世代が富を相続できなければ、主権者とは言えません。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

第４章　王国の復帰

今、王国が現れようとしています。そして王冠と鉄の杖の運動が始まり、地上を埋め尽くそうとしています。キリストの肢体たちが、来るべき本当の王国の現実に目覚め始めています。その人たちも王国に加わり、キリストの権威の下に来るでしょう。（「王国の王冠」 2017/9/17）

私たちは神様の子供です。キリストの体であり花婿の花嫁です。天宙で最も貴重なものだというのです。いかなる独裁者も我々の前に立ちはだかることはできません。王国と王国の人々がこれを悟る時、たとえ艱難の中にあったとしても、からし種のように神の国は大きく育つことでしょう。ひとたび王国がやってくるならそれは永続するでしょう。神を愛し神の恩寵を知る善なる王の足

元にサタンは踏みつぶされるでしょう。そのような王国を千年王国というのです。それが、私たちが待ち望む御国であり福音だというのです。（「生命の王国」 2016/6/5）

神様の国が到来するということは、神様の愛の最高の印です。私たちが受けるだけの価値のないようなものです。私たちが勝ち取ったものではなく、神様がその千年王国で共に生きるために、私たちに授けてくださったものです。それは途方もない贈り物です。今日の最初の聖句にもどりますが、震われない国という恩寵を受けるということです。天一国はこの世界に来ます。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

4 - 1 キリストによる贖罪と復活

ルカによる福音書 22 章 15:イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた。16:あなたがたに言っておくが、神の国で過越が成就する時までは、わたしは二度と、この過越の食事をすることはない」。17:そして杯を取り、感謝して言われた、「これを取って、互に分けて飲め。18:あなたがたに言っておくが、今からのち神の国が来るまでは、わたしはぶどうの実から造ったものを、いっさい飲まない」。19:またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。20:食事ののち、杯も同じ様にして言われた、「この杯は、あなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である。

キリストによる罪の償い

これは因果応報と神様の償い、息子であるイエスによる神様の受難についての議論です。私たちの罪を背負い、私たちの悪を負い、イエス様は苦難を受け、残酷で悲惨な死を迎え、それを耐えなければなりませんでした。そして原理で言うところの霊的救いを私たちに与えるのです。私達はこれを探求すべきなのです。なぜなら霊的救いが原理で否定されているわけではないからです。クリスチャンは救いを受け、神の家（教会）にいます。なぜなら彼らは霊的救いを受けているからです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

他の人の罪を贖えるのか

神様の不可欠な性質について興味深いことに、もちろん善とかいろいろある中で、その 1 つに公正さ、正義というものがあります。神様は高潔で公平です。誰かが他人の罪の代価を支払うということが本当にできるのだろうかという問題があります。因果応報。その罪を犯していない人を代わりにして、誰か他の人の罪を償わせることができるのでしょうか。（「名誉の王国」 2017/6/4）

罪の三つの側面

この改革者タレンタインは、罪について 3 つのことを述べています。1 つ目は負債です。私たちが神様に負っている負債です。もっと正確には神様の正義に対する負債です。「私達は神様に道徳的な義務を果たすべき義務がありますが、それを果たしていないので、私達は神様に対して負債があります」私達には完遂していない義務があり、私達は従うことなくそれを果たしていないので、これらの道徳的義務を与えた神様に負債があるのです。神様は私達に命を与えた方なのですから、神様に果たすべき義務があるのです。私達は神様に借りがあります。ですから罪は負債と見なすことができます。私たちが何か行って神様から離れ、神様を傷つけるならば、それは神様に支払うべき負債と見なすことができます。
また罪は、相互反目としても見なされます。ここで重要なのは相互と言う点です。私たちが神様とその戒律に対して反逆しているというだけでなく、神様の聖なる怒り、罪を憎む怒りが私達に対して向けられるということです。真に善であり正義である神様は、罪を憎むのです。なぜなら罪は悪であり、善ではないからです。ですから神様は罪を拒絶し、非難します。ですから私たちが神様に対する罪の、反逆の人生を選ぶとき、私たちが神様に対して敵対するだけでなく、神様もまた私達に対して、聖なる公正と正義において敵対するのです。ですから私達と神様が相互に反目することになります。
そして 3 番目に、罪は犯罪であるということです。これが彼と対立したソシナスとの違いです。ソシニアンは、現在の教会の中でさえ一般的です。つまり、そこでは罪は神様に負っている負債であると信じているのです。またそれは相互に反目していると。しかし、彼らはそれが犯罪だとは信じていません。タレンタインはそれに対して、それは私たちが神様に対して犯した犯罪でもあるのだと言っているのです。そしてその罰は永遠の死であると。つまり、それは地獄であり、永遠に神様から離れることです。そして私達と、私達を正当に裁くことのできる最高の主権者の間で刑事責任を負わされるということです。ですから、負債だけではなく、また相互の反目だけでなく、それは犯罪でもあるということなのです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

神様にも許してあげられない「犯罪」

神様と罪に関してタレンタインが説明しています。先程のスライドで見た、私たちの罪が負債であり、相互反目であり、犯罪であるというのと同じように、3 つのパターンに分けてそれを説明しています。1 つ目に神様は私たちの負債の債権者であるということです。神様の側から見ると債権者のようなものだということです。反目については、神様は対立関係にある被害者となります。ただ許しを乞えば許されるというような簡単なものではないということが分かります。これが、神様はどんな罪でも許されると信じるソシニアンとの分かれ目になります。そして人々は神様の正義を理解することができます。3 番目に私達の罪ということから、神様は最高の裁判官であり主権者であります。その方が何を作られたのでしょうか。法を作られたのです。私たちが従うべき命令です。それは恣意的に神様の頭から出てきたものであり、それらは神様の人としての性質の延長です。
因果応報を 1 番目と 2 番目の負債と反目という形でのみ見るならば、神様はすべての罪を許されるだけだと言えます。クリスチャンの中には繁栄の福音を求める人や、ユニテリアン・ユニヴァーサリズム的な人もいます。神様はとにかくすべてを許されるとい

うのです。それは明らかに本当の福音ではありません。ソシニアンの福音です。
あなたが誰かにお金を貸していたとしたら、その負債を完全に許してあげることができます。あなたにはその負債を完全に許して上げる力がありますね。それで神様が単に債権者だとすれば神様はその負債を許してあげることができるのです。神様が相互反目していて被害者であるなら、神様はあなたを訴えないことを選択することができます。しかし、あなたが罪を犯して神様が裁判官であるなら、神様はあなたを罰する義務があるのです。この人を罰したくないと言う選択肢は無いのです。なぜなら、その法全体を損なうことになってしまうからです。私達は原理と呼んでいます。原理的に行動するということです。神様が原理を作ったので、原理的に行動するしかないということです。
ですから私たちの罪も犯罪であると理解すれば、神様はただの債権者ではなく、ただ傷つけられた存在なだけでなく、私達を罰しなければならないのだということが分かるのです。そして神様は、それを全く公正に、正しく行うことができます。良い裁判官が大量殺人犯を完全に公正に、正しく罰することができるのと同じように。ですから私たちの罪の性質とその重大さ理解するなら、大きな罪から小さな罪まで関係なくそれらは私達を神様の性質から引き離すものであり、小さな嘘であっても神様から引き離すことになります。どれだけ自分が完璧だと思っていても、私達は神様の完璧さ、完璧な道徳的性質、完璧な道徳的性格の前では罪があります。私達の罪は許してもらえる負債や反目だけではなく、犯罪であるのだと理解することが重要です。それは神様が宇宙全体の性質を破壊することなしに、また神様自身がご自分の性質に反対することなしには、簡単に許すことのできないものです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

神様も原理を裏切り、否定することはできません。ですから、例えばアダムとエバを許してあげることはできないのです。何らかのレベルの責任が必要なのです。何らかの蕩減を払わなければなりません。あるレベルの因果応報が、その負債だけも反目だけでなく、犯罪に対して支払われなければならないのです。神様だけが、正義の神様、善なる神様だけが犯罪に対して罰するのです。私たちが理解できるいかなる国であっても、そこで善良な裁判官が行うのとまったく同じことです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

学者が、多くの韓国人は土着の信仰を持っていると指摘しているように、家庭詐欺連合でも 2 つの神を信じていますが、今日においてさえ、まだソシニアン的な状態にあります。つまり、神様は自分の負債を許して下さり、自分の反目を許してくれるのだと。1 つ問題なのが、罪は犯罪でもあるということです。神様は犯罪を単に許すことはできません。あらゆる面で法を損なうことになります。自分自身の性質を損なうのです。すべての創造を損なうのです。罪の性質を犯罪としても理解するなら、そこから逃げるのは簡単ではありません。なぜなら、あらゆる国が生き残るのに不可欠な法律学と正義の様相全体を追求すれば･･･。（「名誉の王国」 2017/6/4）

神様が悪を憎まれるという意味

神様の性質はその法、戒律の源泉です。嘘をつかない、騙さないというのは、神様がそのような方ではないからです。そしてもし神様がご自分の性質から生まれたその法を損なうのであれば、被造世界全体と最終的には自分自身を損なうことになります。それが私たちの言う原理というものです。ですから私たちが自分の罪、神様から離れることが本当に犯罪だと理解するとき、なぜ神様が愛していると同時に悪を憎まなければならないかが理解できます。（「名誉の王国」 2017/6/4）

十字架による救い

神様が債権者で自分が負債を負っており、自分が神様を傷つけたということは問題なく、それはすべて許されます。今度は罪が犯罪であるというとき大きな問題になります。最後のときに、神様が十字架の道で用いなければならない人々がいたのはこのためです。イエス様は十字架の道を歩まなければなりませんでした。もちろん、それは神様の因果応報であり、イエス様が負った罪は、負債だけではなく、反目だけでなく、正義の神として罰しなければならない創造主に対する犯罪でありましたが、それを通して救いが得られるのです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

タレンタインは、神様は負債を免除する債権者の権利を持っていますが、宇宙の最高の統治者と裁判官として、神様は犯罪を見逃すことができないのだと言いました。神様の正義と善なる性質において、犯罪を見逃すことは不可能なのです。正直な裁判官が、誰が犯した犯罪であっても見逃すことができないのと同じことです。私達は、自分の気に入った人を見逃すような裁判官を腐敗した裁判官と呼ぶのではないでしょうか。神様が宇宙で最高に偉大な存在であるなら、最高に正直で最高に正当でなければなりません。ですからそのように腐敗することはあり得ません。（「名誉の王国」 2017/6/4）

贖罪におけるキリストの役割

キリストについては、人間の犯罪を償う贖罪としての 3 つの役割があります。1 番目に、負債に関しては、キリストは私たちの保証であり、負債に対する確かな返済であり、その支払いの保証なのです。誰かがあなたに貸しているとすると、あなたは彼らに支払いを準備しますが、それが保証です。確実性が得られるということです。反目については、キリストは仲裁人となります。裁判官と罪を犯した人の間に立ってその過程の仲裁人となります。そして犯罪については、キリストは犠牲的な死によって犯罪に対する罰を償う司祭であり、犠牲者です。以上のことからキリストは私達の罪の免除と救いに対する 3 つの関係性を持っているということです。興味深いこと思いませんか。もっと深く探求すれば、キリストにどれほど価値があるのか、再臨のイエス様がどれほどかけがえないのかが分かります。再臨のイエス様も同じイエス様です。キリストはそれほど重要です。絶対に不可欠なのです。キーホルダーのアクセサリーではありません。（「名誉の王国」 2017/6/4）

身代わりの償いの条件

さて、身代わりの償いの問題ですが、神様が何の罪も犯していない無実の人に罪を負わせることは公平なことでしょうか。善なる神様がそのようなことができるというのでしょうか。あなたが何か罪を犯したら、裁判官が「身代わりの償いをさせることにします」と言って、町を歩いている人を見て「あの人を捕まえて連れてきなさい」、「あなたはこの人の代わりに罪を償いなさい」と言ったとすれば、それを偉い裁判官だと言うでしょうか。それはその裁判官の正当性と道徳的性質を示すのでしょうか。それは奇妙なことです。法律学的に見ても良い裁判官とも良い人とも思えません。このような身代わり（代理人）が成立するために必要な 5 つの要素とは何でしょうか。

1 番目に、罪が同じ性質で罰せられるために、罪人と代理人に共通の性質がなければなりません。そしてもちろん、動物の生贄では十分でありません。

2 番目に、代理人の自由意思による同意が必要とされます。その人は自由意思のボランティアでなければなりません。先程のたとえ話で裁判官が町で誰かを適当に選んで罪を償わせると言う話をしましたが、問題はその人が自発的にやっていないことだと分かります。裁判官が自分の権限でそうすることを申し付けたとすれば、そのような裁判官は悪でしょうか善でしょうか。他人の権利を侵害しているのですから、全くの悪です。彼は正義を司っているのですから、それは悪だと言えるのです。ですから同じように私達とその罪、犯罪のために身代わりになろうとする人は、そこに自由意思による同意がなければならず、自発的にそうすることを選択していなければならないのです。

3 番目に、代理人は、正当にそれに甘んじることを決定できる、自分自身の人生に対する力を持っていなければなりません。彼は同意しているだけでなく力を持っていなければなりません。18 歳以下であるために代理になるために両親がサインするようなこととは違います。

4 番目に、代理人は、私達すべての人に由来するすべての罰に耐える力を持っていなければなりません。それはつまり、神人（キリスト）が要求されるということです。普通の人は自分自身の罪の重荷を持っていますのでそれができません。それに加えて私達すべての人の罪の身代わりになろうというのですから、私達によるすべての罰を償うことはできないのです。それは彼が自分の罪も持っているからです。キリストについて言えば、それはお父様の言う本体であって、神様が地上に現れた本体である方は、自分自身の罪の重荷を持っていないのです。これは独生女についてもまったく同じで、韓お母様は、お父様は罪があるが自分は罪が無いと言っており、罪が無いという問題全体が非常に大きいということなのです。なぜなら、それが神人を決定し、誰がキリストであるのか否かを決定するからです。ですから代理人は力を持たなければなりません。それは簡単です。すべての罪の罰を耐えることができるために、罪がないこと、完全に無実であることです。なぜなら彼が私達の罪を、世界中の罪を負っていながら更に自分自身の罪も負うなら、彼はすべての罪による罰に耐えることはできないからです。ですから彼は罪が無い者でなければならず、それで彼はすべての罪を負うことができ、すべての罪に対して正義が下されるようにできるのです。

5 番目に、代理人は他人にも自分にも満足を与える必要がないように、罪のない人でなければなりません。彼は神様に何の負債も持たない人でなければならず、罪のない人でなければなりません。それは 4 番目ともつながりがありますが、これで身代わりの償いがある場合に必要な 5 つの主要な点が分かりました。（「名誉の王国」 2017/6/4）

キリストの身代わりに必要な「自由」

成約の時代で、天一国の王国についてこれを考えてみましょう。なぜキリストの身代わりの償いの性質には自由な働きがなければならないのか分かるでしょう。それは私たちが救われるために絶対に重要です。キリストの側での自由な働き、そして私たちの側でもそれを受け入れることを決定しなければなりません。あなたが法廷にいて裁判官がその裁判を検証していると、誰かがその犯罪に対して自分が身代わりになると言います。しかしあなたは、いや、その人に身代わりになって欲しくないと言うことができるのです。それは人々がキリストを拒絶する場合に起こることです。するとあなたはその負債と反目、そして犯罪に対して完全に責任を負うことになるのです。自由な働きと言う要素は、神様とその息子が自由意思を持つという一方通行ではなく、私たちが救われるようにするための自由意思を持たなければならないということなのです。神様や裁判官が、私たちが受け入れると言うか、受け入れないと言うかを知っているかは重要ではありません。それが原因とはなりません。それは運命論ではないのです。神様はそれを知っているだけで、それを引き起こすのではないのです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

私達がキリストの中心性を理解するとき、なぜ彼は私達の永遠の生命にとって重要なのでしょうか。完璧な神様、完璧な法廷、完璧な審判の前に全く正当な永遠の罰を避けるために。どれほどキリストの性質と人格とその関係性が中心であるのか。そういうわけですべての神の形に作られた人の心には穴があります。それは他のものでは満たされず、他のものでは代えられません。（「名誉の王国」 2017/6/4）

心情の十字架を負われたお父様

イエス・キリストと再臨のイエスである真のお父様は、そのような犯罪のために蕩減を払っているということではないのです。確かに犯罪には罰が必要です。彼らは実際そうしています。しかし、同時に彼らは私たちが罪を犯し、冒涜し、侮辱してしまった神様との関係性を復帰するために（蕩減を）支払っているのです。私たちが気づくことなくキリストが支払っている、まったく別の層があります。原理的な考え方でいうところの心情の世界のようなものです。クリスチャンは普通それが分かっていません。彼らはただ賠償の償いや支払いといったものとしてしか捉えていません。もっと進んだ見方をしたとしても、犯罪と罰というものです。彼らはまだ神様の観点から心情的な世界でそれを捉えていません。（「適正な秩序の王国」 2017/7/16）

主権という観点で、あなたの家庭の尊厳を保ち、あなたの王権の尊厳を保ち、氏族の血統の尊厳を保つということは、絶対的に非常に重要なことです。それは天一国において王の血統の

未来に直接の影響をもたらします。そして誰かが私たちをひどく侮辱して、私たちもとても侮辱されたと感じたとして、その人物との関係を復帰するために―私たちはいつでもそのような人を無視して切ってしまうこともできますが―しかしその関係性を復帰するために何が必要かと言えば、その人物が許しを乞わなければなりません。あなたの家庭に与えた損害を返済するだけでは十分ではありません。彼らは、その関係性を復帰するためには、実際に「申し訳ありません」と言わなければならないのです。それで私たちは関係を持ったレベルになれるのです。その犯罪に対して償いをすれば気持ちも和らぎ損害に対する補償も得て法的には問題ありません。しかし、それでもその人が今あなたの友人であるということにはなりません。親しい友人だと言うことはできないのです。聖書ではキリストはどんな兄弟よりも近い存在だと言っています。その関係性の本質を復帰するためです。その犯罪に対する罰だけでなく、（天の）父と人類との間に意図されていた関係性における本質、調和のためなのです。そこにはそのための償いもなければなりません。私たちは多くの場合、これを見落としているのです。お父様の苦難の路程・・・。（「適正な秩序の王国」 2017/7/16）

お父様は実際全人類の罰に対する償い、すべての堕落、堕落行為、堕落した文明などのために蕩減をしなければならなったということを理解するということです。しかし同時に、お父様は、ただ返済するのではなく、それを恨みのない本来のものとして復帰しようとしているということです。お父様は関係性と心情のレベルを全く恨みのない状態に復帰しようとしているという話です。不正を行い、侮辱されるという感覚もありません。
私たちは、キリストが通過し償わなければならなかったことを熟考して理解すればするほど、それが初期の教会で見られたような単なる賠償ではなかったということになります。それも重要な要素ではあるのですが、それがすべてではなかったのです。（「適正な秩序の王国」 2017/7/16）

お父様の苦難の蕩減の路程を見たとき、それはすなわち神聖な名誉を復帰しようとする路程であり、神様の神聖な名誉に対する損害を取り除こうとする路程であるということなのです。それによって刺激を、真のお父様の力強い意志を感じさせるような最適なニュアンスが与えられるのではないでしょうか。確かにお父様は人類を救いたいと思っておられますし、堕落してしまった者たちを救いたいと思っておられますし、神様に対して罪を犯した者たちを救いたいと思っておられます。しかし、それに加えて、お父様は数え切れないほどこれについて繰り返して語られ、もちろん恨みも苦痛も憤りもない神様との関係性を復帰しようとしていましたが、それだけでなく、神様が傷つけられた神聖な名誉、すべての天使たちと被造世界の前の偉大な名誉もそうだというのです。（「適正な秩序の王国」 2017/7/16）

キリストをまとう

最後の時、朽ちない体を相続したキリストと共にある人がそれを相続するというのです。三日儀式でキリストをまとうこと、朽ちない体を身に付けるということです。それが祝福です。朽ちない体をまとって、神の血統を通して永遠に生きるのです。消すことはありません。子孫を通して永遠に生きるのです。神の王国の到来によって、子孫たちと共に生きることができるのです。お父様はこれを「霊肉界を超越すること」と仰いました。そしてその中心はどこでしょう。キリストと一つになった個人、神様と一つになり、神様の血統を継ぐものです。それは朽ちるもの、サタンのものではなく、偽りの血と肉でもありません。神の国を相続するものです。キリストの体、キリストの花嫁になって神の国を受け継ぎ、地を受け継ぎ、アダムに約束された万物主管を果たすのです。（「不死の王国」 2017/4/23）

キリストしか埋められない大きな心の穴

重要なのはキリストの唯一性があるかどうかということです。それは避けられません。最終的にそれらの道、1 つが多くの異なる形式につながって行きますが、本当は同じ結論なのです。そしてキリストにつながります。ですから、家庭詐欺連合は非常に不満なのです。なぜなら、人間の心には大きく口を開いた穴があるからです。それはキリストによってしか満たされることがありません。お金や権力でも満たすことができないのです。セックスやドラッグでも何でも。その穴はキリストによってしか満たされません。真の喜び、真のアイデンティティ、真の個性はキリストとの関係において現れます。それと離れてはあり得ません。なぜ人々はそんなに満たされないのだろうかと思うのです。非常に無力だと。（「名誉の王国」 2017/6/4）

どのような概念も思想もそれを満たすことはありません。最終的にキリストというのは単なる考えや思想ではありません。お父様が言われたように・・・私たちはイエスの名で祈りません。なぜなら私たちはイエスの名前だけが欲しいのではなく、キリスト自身が欲しいからです。私たちはイエス様自身が欲しいのです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

キリストと共に行く

本当に 2 つの道があるのです。イエス様は、私が道であり真理であり命であると言われました。2 つの道です。キリストかそうでないかのどちらかです。キリストではない場合に、様々なレベルの違いや重要性の程度がありますが、それらはすべて悪魔崇拝につながるのです。様々な形態で弱いものも強いものもあるでしょうが、同じ悪魔崇拝の範囲にあります。（「名誉の王国」 2017/6/4）

キリストを中心として生き、そして死ぬことによって、少年は大人の男性に、少女は大人の女性になるのです。真の人間を天使長の奴隷である偽りの人間から区別します。主体的な者と奴隷のような非主体的な者を区別するのです。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

私がキリストに合わせる

救い主、キリストの恩寵と知識において成長しなさい。神がどのようなお方であるのか知りなさい。父を知りなさい。再臨主を知りなさい。自分勝手に心でイメージを作り上げてはいけません。自分の都合のいいように曲げてはいけません。あなた自身をキリストに合わせるのです。決して簡単ではないかもしれません。

迫害され、あざけられるでしょう。しかし、最後の最後には正当化されるでしょう。名誉と美徳があります。あなたを超えて血統とともに継続するのです。名誉と正義と徳。それはそれは貴重です。この世の金、銀を超えるものです。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

道徳は、私たちが決定することではないという意味で、私たちの外側にあるものです。私たちが自分をそれに合わせなければなりません。ですからキリストと共なる道を選ばない人々はみな、本当にそれに反対しています。彼らは宇宙や神様を自分たちに傾けたいと思っています。それがまさに偶像崇拝と自己崇拝の形態です。（「名誉の王国」 2017/6/4）

自由が大きくなれば、ますます神様を知ることができます。関係性です。お父様をもって知るとき、信仰はより成長します。お父様像を歪めず、創作せずに。そのままのお父様を受け入れるのです。そのままのお父様を愛するのです。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

ですから、お父様はとても自然を愛されたのです。なぜなら、自然はあなたが自然を傾けられると考えているかどうかなど気にしていないからです。ただあなたに雨を降らせるだけです。そして風を変えてあなたは風邪を引きます。あなたは病院に行かないと言うでしょう。非常用の毛布がすぐに必要だと。あなたは自然環境に順応しなければなりません。さもなければ死んでしまいます。私たちが現実を決定するのではありません。私たちが道徳を決めるのではありません。道徳は創造主から来ます。（「名誉の王国」 2017/6/4）

自由意志でキリストをまとう

私達が神様の前に来てキリストを受け入れるときだけではなく、私達がお父様の権威の下に立つときに私達は罪を軽減されているのか。つまり罪が洗い流されているのかというだけでなく、私達には正義、忍耐として知られているものがあり、つまりキリストにますます似ていくということです。それは通常、神聖化、義認と呼ばれており、罪を赦免することですが、ゼロにするということではありません。神聖化の過程は、いわば神様が債権者として持っている神様の肯定的な信用と肯定的な資産の転嫁です。それは私達に転嫁されますが、ゼロになるのではなく、肯定的な評価になります。私達の人生にキリストを持てば多くのことが起こるのです。キリストを持たない人々は、この保証のない、仲裁人のない、罰を支払う償いのない、空虚の中に生きています。毎日このようなことを深く熟考することができ、キリストの唯一性について考えれば考えるほど、もっと多くの喜びが心から自然にわき出て、もっと賛美の歌を歌いたくなります。私は先日キングズレポートで歌っていました。私は聖霊の声がするといつでも歌います。（中略）**天聖経 1262（英語版ページ） 私たちにメシアが必要な理由は、救いを受けるためです。それでは、救いに必要な根本的な基点とは何ですか。それは、神様の愛の接触点へ帰ることです。**（「名誉の王国」 2017/6/4）

撤回された裁きの日

皆さんがキリストと救いについて思い起こしてみるなら、皆さんはかつて罪深かったのに、今は信仰を持ちキリストとの関係性を持ってその裁きの日から解放されていることが分かるでしょう。皆さんの裁きの日は無効になり、撤回されました。そうですね。裁きの日はもうありません。皆さんが神様の前に出るとき、キリストをまとうので、神様はあなたを見るのではなく、キリストの信じられないほどの愛を見るのです。神様は完璧な罪のないキリストの血統と愛を見るのです。私たちがキリストの血と体を食べるというのは、誰かの肉と血を食べるというカニバリズムを行うということではなく、それは神様が行われたことの記念だというのです。それは私たちの裁きの日が撤回された日を思い出すためのものなのです。（「実体的な王国」 2016/12/11）

しかし、神様はあなたが完璧だとは言っていません。私たちは罪から救われました。それはキリストの偉大な犠牲によるものです。自分の行動によってではなく、キリストが私たちを愛したからです。それゆえ私たちも謙遜さを持ちます。他人に対する忍耐と辛抱を持ちます。それでも私たちは真実を語ります。不義に対抗して戦いを挑み立ち上がります。しかし、人類に対する根本的な愛を持ちます。自分を愛するように隣人を愛します。それが平和警察、平和軍の話です。AR-15 を持って強がるのではありません。それは善なる人をいつでも悪から守るような、善なる人になるということです。真に神様を愛し、人を愛するいかなる国も行うべきことです。祈り。祈りです。皆さん。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

キリストと共に相続する

み言は、神の国は万王の王が支配する永遠の国だといいます。キリストに従う人々は、彼と共に王と王妃として、共同相続人として天一国を統治するとあります。（「実体的な王国」 2016/12/11）

王はキリストの共同相続者

天国は王、つまりキリストの共同相続者たちのものです。キリストと共に治めるのです。サタン世界では王様のみが持つことを許された主権を、そこではすべての国民がもつことになります。税を課されない権利、自衛権、武器を所持する権利、これらは王の特権であって市民の権利ではなかったのです。天一国ではこれが逆転します。国民が王の権利をすべてもつのです。（「自然の王国」 2016/5/22）

天一国は王権であり王の王の血統を継ぐものですが、ではその国の「王」は誰ですか。「キリストの共同相続人」である国民です。これまでのサタン世界で王様だけが占有してきたすべての権力を国民が持つのです。そこでは領地についての権利、意に反する税を課されない権利、自分の領地を自分で守る権利も所有します。誰かがやって来て「出ていけ」と言われてしぶしぶ出ていく姿が王といえますか。天一国憲法の人権条項第２条は「武器所有の権利」を規定しています。王国ですから守る権利があります。真のお父様は「氏族メシア」は「王国の王だ」とはっきりと述べておられます。氏族メシアになることは氏族の王になることです。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

聖書はキリストの共同相続者といっています。キリストが王なら私たちも王なのです。これは天一国憲法でも述べています。市民は天一国の王、王妃であって、万能の王から与えられた自由によって互いに結びつきます。そして王、王妃として領土権、自衛権をもつのです。これは歴史的にすべての王が所有していた権利です。王の集まる国家である天一国は、国民は神から与えられた責任と自由を持ちます。（「実体的な王国」 2016/12/11）

天一国憲法が指し示す神の国では、国民である王、王妃に対する課税は許されません。イエス様は「共に相続し、ともに王国を統治する」とおっしゃったではないですか。つまり私たちがキリストと共に神の国にあるとき、キリストとともに立つ共同相続者であるというのです。王、王妃です。サタンはそれを簒奪し、自分が王になり、神様の王位を簒奪したと聖書にはあります。サタンは自分の位置を神の上に置いて世界を支配してきたというのです。（「死を超える王国」 2017/2/12）

4-2 三代王権で復帰する

お父様が予言された三代王権

過去 30 年間（国進様が 15 歳の頃より）、お父様はお母様がサタンであると言われ続けた。過去 15 年間は三大王権（三代で復帰すること）について語られていた。お父様が聖和される時期に近くなると、お母様と天聖経（お父様のみ言）のどちらを取るのかと迫られた。お母様が責任を果たされなかった結果として、神様の祝福の中で神の国に入ることはできず、神様の審判によって神の国に入らねばならなくなった。（「国進様のみ言」 2015/8/31）

私たちは三世代家庭を崩壊させる教育を受けてきました。王国では何の努力をしなくとも自然に 3 世代家庭が成るのです。世代を分断する要素が消えてなくなります。自然に種が実をむすぶという話です。お父様はよく四代心情圏と三大王権について話をされました。天一国の未来を予言されたのです。王国のすべてが、三代が共に暮らすように自然に仕向けて行くのです。技術を次世代に伝え遺（のこ）していく。所有者意識と主権意識。一緒に働く家族は世代を超えて家の成功と勝利をもたらします。それが神の国です。（「生命の王国」 2016/6/5）

三代とアベルカインを通して復帰する

お母様が責任を果たせなければ、聖和の後 3 年が経ってから 7 年間の審判期間があるとお父様は言われた。今年から 2022 年まで。世界の人口の半分がなくなるだろうとか、韓国人や日本人は 80%から 90%が死ぬとも言われた。審判を避けられないかと訊く人もいるが、7 年の審判期間は歴史を見ればとても短い。7 年間は苛烈に審判されるだろうが短い。お父様がいらっしゃる時は、我々は許されて審判を避けることができた。今は避けることができない。審判の後、真の父母が完成され、三代王権が成されれば天一国が成される。神様は原理原則に従う神様なので、神の国を造るために最後の審判に向かっている。三代王権を通してしかできない。審判の道しかない。（「国進様のみ言」 2015/8/31）

この場所に神様の三代王権（縦的）と勝利したカイン・アベル（横的）が在るからです。ここに霊的祝福があるのです。森の中の小さな本部。「裸の王子様」と皆あざ笑っていましたね。この小さな場所からトランプ革命だけでなく、アジアでも大きなうねりが起こったというのです。主権革命です。（「大胆な王国」 2017/3/12）

あの王冠はお父様の王冠です。プラチナ製であらゆる宝石が付いています。しかし、お父様は明らかにその王冠をお母様に与えていません。お母様には対象のパートナーの王冠があります。そしてお父様は主体者の王冠を自分の任命した相続者である息子に譲り渡します。
もちろん、お父様は既に三代王権を選んでおられました。私にはそれについて選択の余地もありません。お父様が既に選ばれたのです。私は子供たちに「うらやましいと思ってはいけません。私が君たちの中から選んだのではありません」と話しました。それで子供たちは「私たちはとても恵まれています」と。（「逆転の王国」 2016/10/16）

二代目の犠牲で基盤を作る

地上での縦的相対が文亨進であるので、お母様が位置を離れた今、二代王の相対者がエバの立場になっているのです。彼女は自分の前にひれ伏すことで霊的にエバの責任を果たしましたが、実体的にその責任を果たすのは三代王が立つときになります。イサクの世代、つまり二代目は犠牲の世代なのです。来るべきヤコブの世代が祝福を受けて十二支派をうみだすための基盤を造るのがイサクの世代の「犠牲」なのです。（「国進様質疑応答」2016/4/11）

アベルカインの勝利で王国が到来する

アベルカインが勝利したので王国は来ます。それは主権と血統が縦的に移ることによってであり、神様の王国は縦的に保たれるということです。韓オモニは祝福の道を選ぶことも、審判の破滅の道を選ぶこともできました。どちらの道でも王国は来ますが、片方はより多くの苦痛となります。（「備える王国」 2017/9/3）

このペンシルベニアから国を作り世界をつくるのです。ここが選ばれた地であり、ここが鍵となる地であり、希望が残された地であり、ここでいま歴史がつくられているのです。（「王国の選民」 2016/10/23）

ヨシュアとカレブの関係はアベルとカインの関係でした。そしてその一体化がカナンの地に入ることを可能にしました。アダムはその責任を果たしました。カイン・アベルもそうです。しかし、エバがその立場を離れています。しかし神の国の基盤は存在します。いま摂理は第二世代に移っています。韓氏オモニとサタンが外的な基盤をすべて奪っていきましたので、それをまたつくらなければなりません。しかし王国の種はすでに存在するのです。お父様は世界的基盤をつくられました。しかしそれはサタンと韓氏オモ

ニにもっていかれることによって個人レベルまで下がってしまいました。これから審判によってサタンの世界的基盤は崩れていくでしょう。それと同時に二代王は神の王国を築いていくでしょう。その意味でも裁きの時が必要であるといえるでしょう。（「国進様質疑応答」2016/4/11）

人類に復帰される三大祝福

何が起こっても、私達は、私たちをここに導いてお父様の権威、三代王権につないで下さった天のお父様と、聖霊とひとつにならなければなりません。毎日、人々が目覚め、お父様の権威に帰ってきています。毎日、人々が天一国憲法を受け、来たるべき王国を見ることができるようになっています。私達は王国が来ることを、神のみこころが行われることを祈ります。どんなことが起こったとしても。それは私達皆が患難の期間を生き残るという事ではありません。しかし、どんなことが起こっても私達は神様の王国が来ることを祈り希望を持ちます。それが来るとき、その支配と統治はこの地上で永遠に続くのです。そして本当の復帰の過程、神様を信じる人々は奴隷ではなくなり、キリストと共に立つ人々は王国の共同相続者として、生育せよ、繁殖せよ、主管せよという 3 大祝福がついに人類に復帰されるのです。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

4-3 王冠を被る

黙示録 3：11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠がだれにも奪われないように、自分の持っているものを堅く守っていなさい。

私たちはキリストと一つなり、王国の精神を持って力強く支配層に立ち向かう性質を忘れてしまいました。ですから私たちは王冠を被るのです。なぜならそれがすべての圧制者から身を守ろうとする象徴的、霊的行動であるからです。（「移る王国」 2017/2/26）

再臨主から授かった王冠

再臨主の真の相続者、後継者、代身者は 1 人だけです。私がその者ですが、自分で選んだことではなくお父様がそうされたのです。そして私はお父様の権威の下にあるみなさんに王冠を授けるのです。私が望んでいなかったのと全く同じようにみなさんもまた望んではいないことは分かります。しかし、王の王が私に王冠を被せてから、私はそれを脱がず名誉を汚しませんでした。（脱ぐことは）お父様の名誉を汚すことになるからです。それを保って、自分の手でみなさん全員に、お父様の為に立ち上がったお父様の権威にある人たちに霊的、肉的に与えました。（「王国の王冠」 2017/9/17）

黙示録の 14 章に「十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた」とありますが、なぜ王冠の摂理がそれほど重要なのでしょうか。獣の印は悪魔の名前か数字、または印を額か右手に書いたものだとあります。王冠の摂理は私たちを王の王につなぐものです。ですから王冠の摂理はとても重要です。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

神様を信じる人たちは本当に正当な後継者であり、神様の王権のために立ち上がる人たちも後継者として彼と共に立ち上がります。そして王冠と鉄の杖を身に着けるのです。（「王国の王冠」 2017/9/17）

王冠を被って王と王妃として立つ

皆さんは恥じ入ることなく王と王妃として立たなければなりません。権力を誇示して自分を崇拝するのではなく、あなたの父である王の王が与えた権威とアイデンティティにおいて、正しい自分の位置に立つのです。この世界の誰にも、地上の誰にも、政府の官僚にも服従してはいけません。私たちは唯一の真なる神様に服従するのです。王の王、それだけです。教育機関でも政府の機関でも、企業でも、連邦政府機関でもその位置に立てません。私たちに真の自由を与えてくださるのは神様だけなのです。コリントの聖句には何とあるでしょうか。「神様の霊があるとき、真の自由がある」とあります。真の自由、真の自由を持つのです。その自由とは私たちがそうなるべく神様がされた自由であって、自分たちが神になるべきだと言っている傲慢で破壊的で精神病のエリートが求めているものではありません。（「移る王国」 2017/2/26）

誰が正当な王と王妃なのでしょうか。ウィンザー家ではありません。彼らは再臨主から来たものではないのです。彼らは天一国憲法を作っていません。天一国憲法は、すべての邪悪な行いとシャリア法と共産主義などに対する答えとなるものです。彼らは天一国憲法を作っていません。天一国憲法は市民に権限を与えて本当の王権の王族にさせるものです。主権と領土権、そして領土を守るための武器の権利を持たせるものです。共産主義や全体主義は国民にそのようなものを与えません。自分たちが真っ先に取り上げてしまいます。（「王国の王冠」 2017/9/17）

キリストと共にあるものが王冠を受ける

キリストを信じる者として死んだとき、嘲笑と苦難を受けて死んだとしても、キリストにあるならば、神様は栄光の王冠を与えてくれるというのがその約束です。お父様の「栄光の冠」という詩の題名は聖句から来ています。それは信者が死んで栄光の王冠を受けるという話です。（「王国の王冠」 2017/9/17）

皆さんの王冠はただの王冠ではありません。地上世界に来る神の主権を象徴するものです。ミクロからマクロに影響します。キリストの体（教会）がその準備をし、神のアベル側に立ち、王国を継承する用意をする。いまの韓国と同様、人々は自分達がどこに向かっているのかもわからない、何をしたらいいのかもわからない。王冠は、ただの金属、あるいは金やダイアモンド以上のものを象徴しています。それは神様の成果、神の地上天国を象徴します。それは始まりの時から神様が意図していたもの。（「王国の王冠」 2017/10/8）

王冠は皆さんの成功以上の物、我々の成功以上の物を象徴します。神様の長く待ち続けてこられた、理想と目的を象徴するのです。我々は多くを持つ者です。しかしそれに応じて反撃も多いのです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

王冠は主管性の権威と権利

興味深いことに、聖書には王冠についての聖句がたくさんあります。黙示録にあるまた別の聖句について焦点を当てていきたいと思います。サタンの勢力の中にも王冠を持つ者がいるということは興味深いことです。獣、へび、竜といったものも王冠を受けています。またもちろん、神様を信じる人たちにも王冠があります。この戦いは主権に対するものでなく、被造世界に対する主管性を持つための権威と権利を誰が持つのかというものです。サタンの勢力は自分たちが持っていると考えています。自分たちが正当な主権を所有し、自分たちこそ王冠を持つべきだと考え、現代の悪魔の王国が事実王冠をもっているのです。しかし、それは最初に神様を信じる人たちから簒奪したものですから、終わりの時には主権をかけた戦い、王冠、王権をかけた戦いがあります。黙示録に焦点を当ててキリストの王冠について語るときの戦いとは、そのような戦いのことです。大きな戦いが起こるという内容があります。（「王国の王冠」 2017/9/17）

王冠を被ってサタンに宣戦布告する

全員が王冠を被らなければなりません。これは決して象徴的、儀礼的なもの言いではありません。天宙に対して、歴史に対して、サタンの覇権に対して出す宣布なのです。（「識別する王国」 2017/3/19）

王冠を被って鉄の杖を持つ

これが非常に深刻なことだと認識しなければなりません。サタンの王国に対してどれほどの宣戦布告となるのか認識しなければならないのです。冗談ではありません。神様を信じる人たちの王国が世界で大きくなっていることを理解しなければなりません。人々は主権の王冠を被り、鉄の杖を持ち始めています。天使長にとってはただ事ではありません。（「王国の王冠」 2017/9/17）

それは外的なものだけでなく、内的にも非常に大きな戦いとなります。主管についての戦いです。神様は誰に主管性を与えたのですか。「生育せよ、繁殖せよ、主管せよ」と。力を持ち、非常に知的でとても能力のある天使長に与えたのでしょうか。自分の子供であるアダムとエバに与えました。ですから、王権摂理、王冠摂理です。世界の前に王冠を被って立つことでもっと勇敢になります。今はまだウォルマートの 30 ドルの王冠なので、笑われるかもしれません。しかし、今後数年、数十年、数世代を見ていなさいというのです。その王冠がイギリスのウィンザー家の、サタン世界の偽りの王冠よりも貴重なものになるでしょう。
資産を蓄積する目的でやっていることではなく、主権と王権を理解するということが重要です。最初はオンラインで注文したようなものかもしれません。しかし、そのままにはなりません。最初は嘲笑を受けるでしょう。悪口を言われるでしょう。（「王国の王冠」 2017/9/17）

300 年周期でくだらない権力が繰り返し生じるのを延々と見てきました。同じ帝国主義、同じ中央権力、共産主義、社会主義・・・繰り返される戦争とそこで金儲けする者たち。略奪階級が人々の上に立ち、他の人類すべては奴隷状態。天一国はその正反対です。人々は氏族の王、王妃として立ちます。だからサタンが自分の血統で支配しようとするサタンの帝国、サタンが与える偽りのアイデンティティと争わなければなりません。真のクリスチャンはそれに対して反乱を起こさなければなりません。私たちは神の国をただ待つ者ではありません。キリストと共に共同相続者として王国の内にいるのです。全員が王冠を被らなければなりません。これは決して象徴的、儀礼的なもの言いではありません。天宙に対して、歴史に対して、サタンの覇権に対して出す宣布なのです。われわれは神様が与えられた真の権威と相続を求めています。その相続を受けることは、皆さんに罪の意識を感じさせることでしょう。50%以上の相続税を国に収めよと誰かが言うかもしれません。しかし誰もそのようなことはしません。（「識別する王国」 2017/3/19）

奴隷思考を捨てる

なぜお父様がそのように駆り立てられているのかを理解することが非常に重要です。その日、お父様の霊が私に注がれるのを感じることができました。人々は王冠の意義を理解できないからです。皆さんはそれをすべて聞いてきっと理解して祈っているのでしょうが、自分のアイデンティティの端っこにもありません。未だに奴隷思考のままです。それに気づき認識しながら、自分たちは特に地上の王国に対する支配権を持つものとしての、そのような考え方が持てないことを認めています。そのような考え方を持てないのです。それでもちろん、私は愛をもって皆さんを厳しく非難するのです。そしてそれが実は私ではなくお父様だということが分かるのです。お父様の霊と力を感じることができます。

自分達のアイデンティティを理解するために、それを見て確信しなければなりません。誰かが先駆者となって出て行って矢を受け、あらゆる嘲りを受け、それでもただそれを実行して「何の価値もない。自分たちでもできる」と言われるまでやり抜くのです。しかし、そのようなアイデンティティを理解することが今非常に重要なことです。まったく関係のない、2 番目 3 番目のアイデンティティではなく、先頭に来るべきアイデンティティです。なぜなら主管性の戦いが起こるからです。（「王国の王冠」 2017/9/17）

王冠を諦めさせようとするサタンの戦術

キリストによるその王家のアイデンティティを理解することが重要です。サタンの王国は不当なものですから、それによって罪悪感を覚え、怖気づいてしまうことはありません。神の王国の到来と天一国の王と王妃を食い止めようとする唯一の方法は何かといえば、自分から諦めるように仕向けるということです。王の王である真のお父様の唯一の正当な相続者、後継者、代身者から正当にそれを受けたのですから、それを取り除く唯一の方法はそれを諦めさせるということなのです。このような脅しと罪悪感、「何の価値もない」といった中傷。それはすべて自分の王権を諦めさせようと圧力を加えようとするためのものです。（「王国の王冠」 2017/9/17）

サタンの血統とサタン的な思想、そしてサタン的な政治形態を

持つ不当な人たちが、正当と見なされるのはどういうことでしょうか。そして本当の王の王の後継者が不当というのは、逆転しているということが分かるでしょうか。なぜ世界は彼らを認めるのでしょうか。みなさんでさえ無意識に認めているかもしれません。しかし、自分自身を見つめるとき、神様があなたをどのように作ったのかが分かりません。のぼせ上って自己崇拝するということではありません。そんなことをすれば悪魔と同じです。恩恵によって来たものであり、自分に関係のあるものではなく、自分が達成したことに関係ないことに気づくべきです。神様がこの瞬間に神様と共に立つようにあなたを選んだというのが理由なのです。（「王国の王冠」 2017/9/17）

問題は何かと言うと、サタンの王国は神の人々を「罪人」だと思わせたい。とくに、神の王国の到来を知り、王の共同相続人となる人々には尚更のこと。一体全体、どうして彼らの王冠が正統で、私たちの王冠が正統でないといえるのか！ウォルマートやイーベイ、アマゾンで千円程度で買ったものだと笑う。関係ないのです。私は荒野で柳の枝で作った王冠をかぶっていました。しかし王権、王統を所有しています。我々すべての王冠はそこに繋がっているのです。皆さん全員が繋がっています。それが一体どうしてエジプトのパロの子孫よりも正統性に欠けると言うのでしょうか。幼子を殺し、その肉を食っていた奴らだと知っているのに。すべて（サタンの）策略です。皆さんの王冠について、何で作ったものであれ、罪の意識をもたせようとする。ただ待っていればいい、毎日グレードアップしていきます。王冠が王をつくるのではなく、王が王冠をつくるのです！（拍手）万王の王のすべての王冠からそれぞれの王朝が誕生します。エレンソン王朝、トフィー王朝、エルダー王朝・・・など。すべての王権王朝のもとをたどると、三大王権、そして、万王の王にまでさかのぼることができるのです。すべての王冠が。（「王国の王冠」 2017/10/8）

王冠に投資して神様の祝福をいただく

子供たちに引き継ぐ遺産と文化を理解することが重要なのです。王冠をより良いものにしようとするとき、自分の王権に投資しようとするとき、これらは家宝となるだけでなく、自分の王朝に対する神様の祝福の現れとなります。その王朝とは神様の王国に仕え、それを守るものです。王朝と言うと何か専制君主が何でも自分の欲しいものを手にするようなことを思い浮かべるかもしれませんが、神様の王朝は違います。自分の満足のためではなく、神様の王国を守るためのものです。憲法、王権、私たちすべての王権を代表するものです。（「王国の王冠」 2017/9/17）

神様の祝福を否定してはいけない

神様の祝福を否定するのは問題です。私には分かっています。善なる人は謙遜ですから自慢したくないのです。まったく頷けることです。しかしだからこそ皆さんが代わりに呼ばれています。そして終わりの時に善なる人たちは神様と共に立ち上がらなければならず、もちろんこの王権と共に立ち上がらなければなりません。世界の天使長的な王国に立ち向かう準備ができていなければなりません。そして彼らを不当な者だと非難しなければなりません。（「王国の王冠」 2017/9/17）

このような王国の出発点に自分たちがいるということを理解しているでしょうか。いつ確信を持つのですか。すべてが実現してからようやく「OK、私にも一つください」と言うのでしょうか。それは先駆者、信仰者、開拓者の道ではありません。先駆者、開拓者は全てが終わってから「私はすごいことをやったでしょう」などと言いません。（「王国の王冠」 2017/9/17）

王権の深刻さを理解しなければなりません。キリストの王族というアイデンティティの深刻さを理解しなければなりません。王冠をかぶることに対して、誰にも自分が愚かだと感じさせられてはいけません。それが葛藤だということは私も分かります。誰も完璧ではありません。分かっています。しかしその葛藤は、患難の期間を通して、ミクロ、マクロでも自分自身の中で持つことのできる戦いです。（「王国の王冠」 2017/9/17）

王冠にお父様の名前を刻む

イエス様の新しい名前とは、レバレント・ムーンであることは間違いない。嘘だと思うなら天一国憲法を読んでみなさい。この黙示録 3 章にはっきりと書かれているでしょう。イエス様は「新しい名」で来ると。そして「新しい名」が皆さんの額に、王冠に刻まれるのです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

王冠の摂理を始めていましたが、誰もこのような道に進んでいたとは分かりませんでした。丁度良いタイミングで天一宮に入り、その 9 カ月後に黙示録 12 章の女性。あり得ないことです。それで王冠の摂理が始まり、誇りを持って王冠を身に着ける人がどんどん増えています。では王冠には何がついているのでしょうか。もちろん統一マークもありますが、そこにはお父様の名前があるのです。そして忘れてはならないのが黙示録 3 章です。イエス様の名前は再臨のときは異なる名前だというのです。それが黙示録 3 章に書かれています。私たちはすべての筋書きが進んでいるのだということが分かっています。額に父の名が書かれていたということです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

韓氏オモニの失敗が変えた王冠摂理

もし、試練の時に、韓氏オモニが尊敬すべき神の人として行動していたなら、神の血統、万王の王の血統を高く掲げていたならば・・・もしそうしていたなら、お父様の血統と王権の前にへりくだっていたなら、王冠はそこにあったのです。世界を解放するために。3 年の艱難期間を貫くようにして、いま行っている王冠摂理も、お父様が聖和された年に、栄光と力をもって行なっていたことでしょう。もちろんサタン側、サタンの王国からの攻撃もあったでしょう。しかし、状況はまるで違ったものになっていたことでしょう。しかし、我々は何もないところから築き上げなければなりません。（「王国の王冠」 2017/10/8）

4-4 鉄の杖で支配する

全人類は、気を引き締めなければなりません。統一教会の文総裁の教えは、救世の真理なのです。人類が永遠に必要とする真の愛と生命のみ言です。再臨主が世の中を救おうとして来られるならば、人類を鉄の杖で審判してはなりません。打っては、ただの一人も完全に屈服させることができないのです。

子供のために生きて、手がひきがえるの背中のように、でこぼこにゆがんだままになるほどに苦労した母の犠牲的な愛は、親不孝者を悔い改めさせて帰って来させるほどの力があるのです。棒をもってはできません。
審判の大王であり、天地を思いどおりに主導する神様でも真の愛なくしては、天宙統一は不可能なのです。真の愛は、いかなる困難も問題になりません。自分の生命を投げてでも行ける力が、真の愛にはあるのです。（天聖経「人間の生と霊魂の世界」 1990/4/30）

終末に鉄の杖と王冠の深い意味を理解して信じる者たちが主の国で相続者となりなさい。（「銃器所有神学論」 2017/12/20）

捕食動物たちが戦いを望むから。捕食動物たちが攻撃したときに彼らを追い出すことができるパワー。そのために平和軍・平和警察は訓練と勉強をします。そうですね？そのような考え方がどれほど重要か、平和のために強くなければなりません。平和のために鉄の杖と王冠がなければなりません。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

組織化された悪を終わらせる
男性と女性は神様のかたちに作られ、王と王妃になるように造られました。その王国、その贈り物が王の王によって私たちに与えられているのです。ですから私たちはその方を称揚し、しっかりつかみ、その方が語られた王国を支えるのです。なぜなら、それが本当に繁栄をもたらす王国であり、それが本当に自由をもたらす王国であり、それが本当に道徳をもたらす王国であり、それが本当にそのような意味で悪を終わらせる王国であるからです。悪がまったくなくなるとは言いません。なぜなら人は自由意思を持っているからです。しかし、それは集産化された悪、組織化された悪、シンジケート化された悪を終わらせるのです。そしてその王国が世界に広がらなければなりません。（「王国は近い」 2016/11/27）

エリートをアベルとカインに分立する

（支配層は）国民が愚かであることを願い、歴史を学ばせず、自らの意思をもつことを願いません。ただ既存の権力に従い、周囲の圧力にすぐに屈し、巨大な建造物に息を飲むような国民を願っているのです。（権力層は）人類を支配することを願う、ただただ傲慢で邪悪な存在なのです。それゆえに神の王国が来なければならないのです。なぜなら、人類はあまりにも長きにわたって卑しむべきエリートたちから抑圧と支配を受けてきたのです。つまりは本物のサタン主義者、カルト主義者、悪魔崇拝者です。全員ではないにしても。（「移る王国」 2017/2/26）

アベル型革命とカイン型革命
アベル型の革命を起こすには億万長者でなければならないのです。善悪に分立されたエリートでなければなりませんでした。何もないところからはできません。何もないところから革命を起こすなら、それは必ずマルクス主義になり、社会主義になり、寡頭政治になります。自由主権になった例は歴史上一つもありません。アメリカの革命はエリートの分立でした。ジョージ・ワシントンは億万長者でした。トーマス・ジェファーソンはヨーロッパのエリートでした。彼らは分裂して「人々を自由と主権へと導こう」と言ったのです。ですから頂点で分立する必要があります。そこでドナルド・トランプです。彼もそれが必要でした。（「王国は近い」 2016/11/27）

カイン・アベル（国進様と亨進様）が直接政府のエリートに指導した内容を聞いて韓国がそれを実践していたら・・・（どうだったでしょうか）。もちろん、霊的にはエリートをアベル型とカイン型に分けようとしていました。なぜならアベル型の革命を起こすためにはエリートを分立する必要があるからです。そして善なるエリートが基台を作るのに協力しなければなりません。そして、その階級の中で起こる戦いを支援するのです。（「備える王国」 2017/9/3）

韓国で進んでいたアベルカインの分立
当時（韓国政府の）トップクラスの渉外が本当に進んでいました。韓国のエリート層全体と繋がっていたのです。もちろん異を唱える指導者もいましたが、我々は指導層を分立することに成功していました。これが重要です。エリート層がアベル、カイン、神側とサタン側に分立されなければならないのです。真のアベル型革命はそのようにして起こるのです。フランス革命のように下から起こる革命では駄目なのです。アメリカ革命のようにエリートの分立が必要なのです。彼ら（建国の父たち）もエリートでした。イギリスやヨーロッパのエリートたちから分立されていました。だから下からの革命はだめだというのです。地から起こる革命は結局、共産主義化してしまいます。衆愚政治に陥って制御不能になるのです。
もし韓氏オモニが失敗せずにお父様の王権を受け入れて、真のお父様が任命した後継者、相続者を二代王として受け入れていたなら、その時、世界に広がっていた基盤を私たちは利用して天一国を韓国で出発させることができました。天一国憲法も韓国で発布していました。
リバタリアニズム（完全自由主義）の主要な指導者であるスタッセルのような人物をワシントンタイムズに招き入れ、アレックス・ジョーンズのインフォウォーズ、ブライトバートなど（独立メディア）と協力して活動していたはずです。ティエンポ・エル・ムンド（スペイン語日刊紙）、セゲイルボ（韓国）、世界日報（日本）など、お父様が築かれた世界に広がるメディア企業体の基盤を用いることで、世界のエリートを神側とサタン側、アベル圏とカイン圏に分立できていたはずです。オルタナティブ・メディア（独立メディア）を後押し、支援するだけで、彼らにより大きな舞台を与えることができました。
また、「強い韓国」を通して韓国に（エリート）革命を浸透させることもできたでしょう。「強い日本」の公演を通して国進兄さんは安倍晋三（現総理）にも会っていました。朴槿恵とも大統領になる前に面談していたのです。（韓国の）国会議長は国進兄さん（当時統一財団理事長）の事務所まで訪れ、大物国会議員も工場見学にやってきていました。神様は私たちをそのような位置に置かれていたというのです。文字通り、天

一国の主権革命を始めようとしていたのです。お父様の仰る通り、環太平洋時代であり、天運はアジアにありました。（「大胆な王国」 2017/3/12）

私たちが天一国の文化文明を、東アジア、つまり韓国、日本で築いていたなら。そして民主国家の同盟を確立させていたなら。お父様が作り始められたアベル UN を確立していたなら、環太平洋国家群など。今とは全く様相を呈していたことは間違いありません。現実は問題だらけ。東アジアに大問題です。私達こそ、北朝鮮と本当に交渉できる者でした。北朝鮮は、金正恩よりずっと以前から核をもつ技術を持っていました。裏で彼らの核開発にストップをかけていたのはお父様だったのです。世界を吹き飛ばそうという狂気に。我々は単に、大きな影響をもっていただけではなく、アベル型心構えをもつ中心国家でした。強くなる準備をして、悪に対して立ち上がり立ち向かう気構えです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

鉄の杖で守る

もし当時我々に非常に近かった韓国の軍部、国防省が耳を傾け、我々のアドバイスに従っていたなら―10 年前、国進兄さんと関わる話ですが－火器銃器をもっと国民の身近なものにしていたなら。韓国では男は皆軍に入らなければなりません。韓国軍で働くのです。しかし、退役して家に戻ると、各自武器を持ち帰るべきなのです。それを通して妻や子供に訓練させることができるのです。もし悪魔のような北朝鮮や強大な軍事力を築く共産主義中国にそれによって備えることができると、10 年も前に韓国の将軍たちに進言していたのです。何人かの将軍が我々の行事に参加しましたが、それらは星をつけた将軍たちです。五つ星（元帥）もいました。大きな大きな力をもつ人々です。しかし全く用意できておらず、方向性もわかっていない状態でした。そこで将軍たちは神様側の指示を受けて、韓国が備えなければならない備えについて教えられていたのです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

鉄の杖で主権を取り戻す

（ルカ 11 章）21 節を見てください。「**21:強い人が十分に武装して自分の邸宅を守っている限り、その持ち物は安全である**」 誰が邸宅にいますか？そうです。王と王妃です。「その持ち物は」とは、独立国家を意味しますか？それとも共産主義ですか？それは、天一国憲法を意味します。市民は王と王妃であり、主権があり、邸宅を持ちます。彼らには領土があり王国があります。彼の所有物は安全だと言っています。とても興味深いですね。（「教化される王国」 2016/9/18）

鉄の杖を持ってきて人々に渡してあげます。まだ完全な天一国ではありません。少なくともその方向に進んで行くのです。そして、アジアにおける大きな実例を示すことになったでしょう。それが何を刺激するでしょうか。北朝鮮は韓国を全く違ったものとして見なければならなくなります。（「備える王国」 2017/9/3）

兵役を通して武器を所持させる

私たちが韓国に対して伝えた戦略的ガイダンスがどういうものかと言えば、徴兵するまでは良いのですが、それから訓練を受けさせて家に帰った後、スイスやイスラエルでやっている方式のようにその人たちに武器を持つことを許すということです。イスラエルはイランのような敵に囲まれています。中東の全ての国がイスラエルを殺そうとしています。イスラエルでは女性も兵役に就かなければなりません。全員が軍隊の訓練を受けますが、銃を取得することもできます。ですから 1 時間で国全体が軍隊になるのです。だから核を持った強力な国でもイスラエルには、手出ししようと思いません。非常に強力で略奪者に対する抑止力があるからです。
スイスも同様です。ヒットラーは全ヨーロッパを破壊して獲得しましたが、スイスにだけは手出ししなかったのです。ヒトラーが 100 万の兵を送ると言ったら、スイスの男が山の上に行って 2 回撃ったら家に帰れるだろうと言いました。自分たちには 50 万の訓練を受けた兵隊がいるので、100 万の兵が来ても、自分たちの周知している山に上って 2 回撃ったら家に帰ってコーヒーが飲めるということです。攻撃すれば大変な犠牲者が出ることが予想されたので、ヒトラーはスイスに手を付けませんでした。（「備える王国」 2017/9/3）

軍隊で訓練を受けた人が武器を手に入れて、一歩市民に近づきます。そしてお父さんがお母さんを訓練しておけば、悪い人が来ても自己防衛ができ、軍の武器としてだけでなく、自己防衛のための道具だとみなすようになって文化が転換されていくのです。同時に、子供達も訓練を受けて自己防衛のことをちゃんと考えるようになります。14 歳にもなれば親がいないときに悪い人が侵入しようとしても、銃を持って排除しなければならないということです。それで、韓国のマフィア、ギャング、悪い略奪者たちがどうなるでしょうか。おばあさんの家を襲うのも躊躇するようになるというのです。かつて持っていたそのような力を手に入れることができます。（「備える王国」 2017/9/3）

国民皆兵で捕食者に立ち向かう

軍隊に行って戻ってきたら妻や子供に訓練を施す。そうすることで「鉄の杖（銃）」は連邦政府が独占する軍事力だけのためではないことを知るのです。ここ（アメリカ）でも自分を守るためには家に銃が必要でしょう。夫が出張か何かで留守の間、「銃の使い方を教えているから大丈夫だよ。何者かがここに来て悪いことをしようとしたら、自分の護り方を君は知っているね。」と言えるのです。それこそが自然な牧羊犬の心構え、我々が再興し、始めようとしているアベル型文化なのです。それによって韓国人は国家の奴隷から離脱し始めて、より主権的な人になるのです。そしてひとたび北なり中国なり攻めかかってきた時、一瞬にして軍事国家に変身するのです。他の「捕食者国家」が襲い掛かってきたら、一瞬にして危険な軍事国家に変わるのです。1 時間で 1 千万の兵士が立ち上がります。それだけの兵力を当てにできる計算になります。ヒトラーもスイスには手を出しませんでした。1 時間で数百万単位の訓練された戦士が参戦するからです。このシステムを採っていたからです。スイスに攻め入れば、数時間でドイツも何百万の犠牲を出すとわかっていたから手を出さなかったのです。それはまずい、ということで攻め入りませんでした。全ヨーロッパを攻略したヒトラーですが、スイスに

攻め入らなかったことは不思議です。（「王国の王冠」 2017/10/8）

イスラエルも周囲を敵に囲まれています。急進的イスラム勢力に囲まれてきたのです。時々、砲撃したりはしましたがイスラエルには勝てません。征服できないのです。国民皆兵だからです。若い女性もイスラエルでは訓練を受けるのです。素晴らしい天一国文化です。少女も後成遺伝子を解放して真の女性になるのです。強くなるのです。ミニスカートをはいて AR-15 を持ち歩く。海岸をビキニで歩きながらも、AR-15 をもって。レイプもされません。（「王国の王冠」 2017/10/8）

全市民が全軍に早変わりします。侵略を狙う者に対して、六百万人の軍隊です。過去の例ばかりでなく、現代でも第一イスラエルのようにアメリカがそうでした。もちろんアジアでも朝鮮半島の韓国でそれを実践することがとてもとても重要だったのです。絶好のチャンスでした。エリート層にこのような話をしているのは私たちだけでした。他にいません。80%はグローバリストでした。アベル型も多くいましたが、方向性を与えて導いていかなければなりません。なぜならこういう考え方は洗脳教育を受けたものには想像もつかないものだからです。国家の奴隷として洗脳されて、完全に無力、全く主権意識もありません。一般国民がどれほどの洗脳を受けているかを理解しなければなりません。特にエリート層については加害者でもあります。ジョージ・ソロスや国際銀行カルテルと結託してこういう狂った体制をつくったのです。その本質は共産主義です。たくみに自由市場を装っていますが。しかし現実には奴隷国家です。誰も、誰一人として、軍隊さえもそのように考えないのです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

鉄の杖で支配する

王冠と鉄の杖を持つ我々を気違いというかもしれません。しかしまわりのサタンの王国を見てみなさい。そっちの方が狂っている。神様はもはや神に属する人々がこれ以上オオカミたちに貪り食われるのを黙って見ておられません。いよいよその時が来ました。（「王国の王冠」 2017/10/8）

ヨハネは空の女性と彼女の陣痛、太陽と月、12 の星の王冠を目にし、彼女が鷲の翼で空を飛んで荒野に向かったのを見たのでした。そこは神様が備えた場所でした。そこで子供が生まれ、その子が鉄の杖を持つと言っています。皆さん、その鉄の杖を見ましたね。ヨハネは槍だとも湾曲した剣だとも言っていません。杖だと言ったのです。鉄の杖を持って地上の王国を治めるのだと。そして王の王の後継者も鉄の杖で治めるのです。ヨハネが見たとき、それが何だかよく分からないまま、ただすごい力を持った杖を持っているということが分かったのです。私たちにはそれが分かります。市民が王となる神様の王権と王国です。不義に対抗して立ち上がり、先から火を放つ鉄の杖を持っています。略奪者たちは屈服するでしょう。（「備える王国」 2017/9/3）

鉄の杖。鉄の杖の啓示。世界的にどの牧師が鉄の杖に対する啓示を受けましたか？誰もいません。なぜか。あいつらが考えていることは、キリストが再臨したときにキリストは暴君になって私が暴君のすべての恩恵を受けるだろう。このように信じている左派野郎です。詐欺キリスト教。再臨主と終末について何も知らない愚かなバカ者たち。どうして主が暴君として再び来るのですか。主は暴君ではありません。神様も暴君ではありません。新エルサレムの新エデンじゃないですか。エデンの園で神様は暴君のように挙行していません。自由と責任！新しいエルサレムは、新エデンだから新しいエデンで、エデンの園のように自由と責任。（「銃器所有神学論」 2017/12/20）

ルカによる福音書 22 章の逸話

ルカによる福音書 22 章 35:そして彼らに言われた、「わたしが財布も袋もくつも持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか」。彼らは、「いいえ、何もありませんでした」と答えた。36:そこで言われた、「しかし今は、財布のあるものは、それを持って行け。袋も同様に持って行け。また、つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。37:あなたがたに言うが、『彼は罪人のひとりに数えられた』としるしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している」。38:弟子たちが言った、「主よ、ごらんなさい、ここにつるぎが二振りございます」。イエスは言われた、「それでよい」。39:イエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれると、弟子たちも従って行った。
非常に興味深い逸話です。剣は現代で言えば銃です。世界中のすべてのクリスチャンが完璧な人だと信じている宗教指導者が、弟子たちに銃を持っていなければ上着を売って買いなさいと言っているわけです。その時代を考えると本当に衝撃的な教えです。しかし人間の命という観点から考えると、全く衝撃的ではありません。というのも危険な道に行こうとする人は、自分を守ることができる必要があるからです。これは教会でほとんど教えられることのないキリストの逸話です。もちろん、ローマの兵隊に襲われたとき、イエス様は剣を収めるように言いました。そして、剣をとる者は皆、剣で滅びると言われたではないかと言う人がいるでしょう。しかしその同じキリストが、自分たちには暴力に訴える力があり、暴力的な革命ができるが、目的があるので進んで自分を捕えさせるのだと言ったというのは興味深いことです。同じキリストが同時に弟子たちに、自分を守ることができるようにしておくように言ったのです。（「王国の防衛権」 2017/12/24）

キリストによる鉄の杖の支配

私たちは何度も話してきました。神の王国が来なければなりません。クリスチャンであるなら、神の王国が地上に来ると信じなければなりません。それを避けては通れません。昨日、詩篇の第 2 篇、黙示録の 2 章 12 節と 19 章の聖句を読んで説明しました。それらはイエス様が再臨されたときに支配する方法です。もちろん王冠と鉄の杖を持って。クリスチャンであるなら、それもまた避けることのできないことです。イエス様は再臨して永遠の王国を確立し、キリストが鉄の杖で支配します。聖書の詩篇 2 篇と黙示録 2 章にも書いてある通りです。地上の国々を撃ち、陶器師の作った器のように打ち砕くというのです。キリストが再臨するときには暴力もあります。（「王国の防衛権」

2017/12/24）

神側の王と王妃は、自分と王国を防衛するための途方もない力を持っていても、力を基盤としているのではありません。そうではなく、正当な権威を基盤としています。道徳的、霊的、正当な王権です。不当なものではなりません。王の王と神様に由来する正当な王権だけです。（「王国の王冠」 2017/9/17）

お父様は剣を壊して鋤と鍬にすると言われたではないかと言う人がいます。それは非武装化の主張だ、民衆の武装を解除しないといけないのだと。聖書にそう書いてあるし真のお父様もそれを引用して、剣を壊して鋤に変えるのだと言われていると。
先日も國進様に質問した人がいました。見事な回答をされていました。つまりそれは経済発展のことを言っているのだということです。神様は少しの武器を与えましたが、それらを経済発展に役立つ農業の道具に変えるようにしたのです。しかし言うまでもなく、最終的に神様は、それらを、国でさえ壊してしまわなければなりません。（「王国の防衛権」2017/12/24）

鉄の杖は主権の印

私たちが若者に平和警察、平和軍の訓練をしている写真を見たことがあるでしょうか。泥だらけで叫びながらやっていました。いつか見てみてください。私は AR-15 を持っていました。タクティカルベストを着て。AR を見てみれば、それは鋼鉄でできています。天一国の市民は、キリストとつながりを持っています。その国には鉄のつえがあります。共産主義者、社会主義者、悪魔の勢力が暴力に訴えようとする場合に、それに直接対処するためのものです。私がどれほど非難を受けたか知っていますか。二代王が恐ろしい AR-15 と 50 口径ベオウルフを持っていると言って。皆さんもたくさん非難を受けたのですね。
それは主権の印です。天一国は主権国家です。神様の祭壇の前で生命、財産、および神聖な名誉にかけて誓ったものです。内外の敵を倒し滅ぼすことを求めて。中央の軍や警察はありません。しかし、天一国のすべての市民は王権の権利を持っています。すべての権利を持っていたのは、サタンの歴史では過去の王たちでした。天一国市民はそのすべての権利、義務を持ちます。私有財産の権利、領土、主権、武装して防衛する権利。武器に対する権利。中央の機関や権力に集中したものではありません。（「王国の戦争」 2017/8/20）

お父様がバルカン砲を開発

真のお父様だけが、韓国軍を強化するためにバルカン砲を開発していたのです。それはお父様が独裁国家北朝鮮から逃れてきたからです。全体主義者にほとんど殺されかけたのです。ある者は吊るされ、ある者は目をくりぬかれ、また頭を撃ち抜かれて、だから若い時から全体主義の実態、その本質が政治的サタン主義だと知っておられたのです。そこで暮らし、そこで見て、そこで息をして、そこで迫害されたのです。だからお父様は生涯をかけて世界的に共産主義と闘ってこられたのです。世界的中央共産主義、国連という世界的中央政府、共産主義、その他もろもろと。（「王国の王冠」 2017/10/8）

鉄の杖がお父様の文化に繋げる

主権の文化は自然に繋がる

銃がもたらされれば、新しい文化がもたらされてお父様の主権の文化とつながるようになります。お父様は麗水にホグのハンティングファームやフィッシングファームを作ろうとしていました。すべてが自立の技術です。アクアポニックス（さかな畑）などの自立のものもすべてが自然に繋がっています。その文化全体が自己防衛につながり、自分を守る方法を理解することも、子供が自分で自分を守れるようにしてやることもすべてが自立につながるものです。（「備える王国」 2017/9/3）

4 - 5 歴史が待ち望んだ王国を建てる

神様といる限り戦いがあります。イエス様には戦うべき戦（いくさ）があるのです。天国を宣布し建設する戦いです。それは戦争です。なぜならそこに既に（イエスという）公国と権力が存在するからです。（「王国の救い主」 2016/8/28）

建国の父が闘いと革命で勝ち取った共和国は、自由と責任、聖なる権利、自然権、ユダヤ・キリスト教的価値観、そして神様の基礎の上に築かれたものです。それが 200 年を過ぎて新たな異端、新たな封建主義に陥りました。共産主義、社会主義国になったというのです。神様のみ手の働きがなければ、間違いなく国を失っていたでしょう。ミクロとマクロが連動して闘いました。世界にもう一度だけチャンスを与えたのです。（「実体的な王国」 2016/12/11）

サタンの鼻先に王国をつきつけなければなりません。悪がこの世で成功するのは悪が悪であるからではありません。善なる人がそれをだまって見過ごすからです。自由のある所、善悪を選択する自由もあります。そこで中には悪を選ぶ者も出てくるのです。誰かが悪を選んだとき、まわりが黙って見過ごすことが最大の問題です。その結果その者自身を滅ぼすだけでなく王国をもそこなってしまうのです。道徳が廃（すた）れ、王国が廃れ、社会の共有観念が堕落し、言語や文化も崩れるというのです。そして今、目の前で文明の破滅が起きようとしているのです。あなたの目の前で、あなたの国で起きているのです。それがアメリカで起こっているのです。（「生命の王国」 2016/6/5）

再臨主がもたらすまったく新しい王国

全キリスト教会がイエスの再臨を待っていても、それはイエス（イェシュア）の名で来るイエス様を待っているのです。黙示録 12 章にはイエス様の証があるのです。しかし新しい名をもつというのです。再臨のイエスですが、新しい名前だと。再臨主は全くこれまで見たこともない文明と、新しいエルサレム、新しい都市、新しい王国。過去の王国とは全く異なるものです。それは政治的サタン主義であり、中央集権、共産主義、社会主義、その他諸々・・全く違う王国。相続者たちは王冠をもち、鉄の杖をもっている。オオカミには悪い知らせです。略奪者や悪魔たちには厄日の到来。鉄の杖の口から火を放ちます。（「王国の王冠」 2017/10/8）

新しい歌を歌う

黙示録 14 章 1:なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。 2:またわたしは、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような声が、天から出るのを聞いた。わたしの聞いたその声は、琴をひく人が立琴をひく音のようでもあった。3:彼らは、御座の前、四つの生き物と長老たちとの前で、新しい歌を歌った。

神様と天一国の霊が宇宙に放たれる

彼らは御座の前で新しい歌を歌ったとあります。イエスには新しい名前があると言いました。黙示録 12 章や他の章にあるように、イエスのことを証しする人たちは守られますが・・・。イエス様のために証しすることはやはり核心的なことです。なぜならイエス様が再臨されるとき、名前が新しくなっていたとしても、それはやはりイエス様だからです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

144 と 154。154 の数を全て足すと 10 になります。完成数です。154 の摂理（つまり 10 数）を 144 に足すと 154 になります。144 足す 10 で 154 になります。154 摂理（数）はお父様の聖和の正確な日時、時間と分から来ています。（中略）144、154 の摂理（数）があるということは興味深いことです。そして御座の前で新しい歌を歌うというのです。新しい歌があります。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

ミクロのレベルでももちろん、新しい歌が大気の中で波紋を広げています。大きな宇宙のシチュー鍋の中をかき混ぜるように。天一国国歌が宇宙の中に放たれて、神様の霊、天一国の霊、神様の王国と天一国憲法の霊が覆い始めています。少なくとも霊的には。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

お父様が興南収容所で作られた歌

新しい歌。それはもちろん興南収容所で、試練と苦難の中で書かれたものです。拷問部屋の中で希望と恩寵を求めて神様と心通わせながら。神様に対する信頼、信仰を持って。神様はそのすべての状況を通してお父様を見ていたでしょう。そのような場所で国歌が作られました。そのような信じられないほど深い心情世界の中で。神様の心情の深い宇宙的な世界で。

「この歌は、地からあがなわれた十四万四千人のほかは、だれも学ぶことができなかった。」 それは特別な歌です。144 が歌う特別な歌なのです。

「4:彼らは、女にふれたことのない者である。」 ある女性によってと言っても良いでしょう。韓お母様はすべての信者を汚しました（訳注：英語の聖句原文を直訳すると「女に汚されていない」）。地獄の中に引き入れたのです。異端と裏切りと反逆の中に導きました。けがれの中に導きました。

「彼らは、純潔な者である。」 神様の目から見て純潔だというのです。性的に純潔です。私たちは堕落しませんでした。お父様の権威に留まりました。それが純潔です。

「そして、小羊の行く所へは、どこへでもついて行く。」 なぜ私についてくるのですか。ついてくるのは止めてどこかに行ってください（笑）。

「彼らは、神と小羊とにささげられる初穂として、人間の中からあがなわれた者である。5:彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。」 裏切りのない者、卑怯なことをしない者、反逆しない者です。私たちが完璧だという意味ではありません。罪がないという意味ではありません。中にはよくケンカしている人もいますね。しかし険悪だという意味ではありません。心に反逆心を持っているということではありません。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

サタンの支配下から立ち上がる

神主義こそ全地で偉大なものとされなければなりません。神主義こそが私たちに人権と自由、人間の責任を与えてくれるからです。これが私たちの追い求めるアメリカです。持ち家と 2 台の車そして飼い犬…そういう世界にさよならを告げるのです。そのような世界は百年と続かないのです。最後に皆さん、これは最後の闘いです。（「実体的な王国」 2016/12/11）

王国を創る人は準備されている

それは世界観だけでなく、それはすでに植えられている種であり、収穫され大きな木になります。それは実現します。実現しようとしています。神様は既に非常に多くの人々を奮起させています。彼らがその種が植えられていることを知っていようと知っていまいと。鳥は種が植えられていることが分かりません。鳥はそれが真に成長してからわかります。人々はまだ天一国憲法が大気の中に放たれたことがわかっていません。しかし、神様は霊において、超自然的な方法で非常に多くの人々を準備しておられます。準備されているコミュニティはみなとても熱心なキリスト教徒です。中央集権的な教会が嫌いなキリスト教徒です。中央集権的な宗教に従うことを望まないキリスト教徒です。神様に対する聖書的な理解をしたいと望む人々がいます。彼らは神様との関係性を求めているのです。彼らは異教徒の祭日でなく、神様の祭日に従いたいと思っています。面白いのは、天一国憲法のことを聞いたことがなくても、またお父様のことを知らなくても、このような人々が準備されているということです。大気と霊界は準備されています。（「逆転の王国」 2016/10/16）

目覚めようとしている人たちは一体誰でしょうか。福音派の人たちです。昨日トランプが行った演説を見たでしょうか。まるで説教者のようでした。「メリークリスマスと言おう」「イエス・キリストと言おう」と言っています。「私たちの神に敬意を表しなければならない」と。「私たちの神」だと言いました。イスラムではありません。「私たちは神様を崇拝します」そうです。「政府ではなく」と言いましたね。説教者のようでした。信じられないほどすばらしい演説でした。神様によって立つアメリカの根にある、私たちの中の神様の力を呼び覚ましています。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

神様と聖書に関する啓蒙

開かれてきた有神論

10 年、20 年前には、学者はキリスト教や宗教をばかにし、神

話だと考えていました。しかし、現在、科学者の 25 パーセントは神を信じていると言っており、80 年代からすると大きな変化が起きています。当時は 99 パーセントが無神論者でした。「科学者のコミュニティ」の中でさえ、甚大な変化があったのです。すべての証拠が知的な精神を示すものになっています。実体のない、時間と空間を超えた永遠の存在が、信じられないような知識を持っているというのです。あらゆる数学的、不変の条件があり、宇宙をファインチューニング（宇宙初期設定の精妙なる調整）によってまとめており、すべてはランダムに配置されたものではないからです。電子や陽子といったものですべて繋がっています。科学者が研究を深めるほど、宇宙には背後に知的な精神があると認められるようになっています。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

今、客観性や唯物主義に基づいて宇宙を調べ、なぜそれが存在するのかという証拠を見つけようとする人たちでさえ、現実を直視せざるを得なくなっています。80 年代、90 年代には科学者が傲慢で、無神論を確信していましたが、それは考えていたほど確固たるものではありませんでした。現在、トロント大学名誉教授のジョーダン・ピーターソンのような人が、キリスト教を称賛するようになっています。それでも自分たちはクリスチャンではないと言っています。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

芸術作品のような聖書

彼（ジョーダン・ピーターソン）は聖書をインターネットになぞらえて説明しています。つまりハイパーリンクされた文章のようだということです。彼はグラフを作っていて、それらが非常に数多くの様々な色のアーチを形作っています。それで、聖書が相互にハイパーリンクされていることを示しています。すべての言葉が他の言葉にリンクされています。実際にクリックできるハイパーリンクではないだけで、あらゆるコンセプトが他の様々なコンセプトにリンクしているのです。聖書自体がそのように内部で相互に関連を持っており、それがどのようになっているかをまるで芸術作品のような図で示しているのです。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

神様の働きかけ

私たちの文化に祈りがなくなったことで、文明の精神が深く傷つけられました。休暇を取ってもたくさんの広告に攻めたてられます。時間はあるのですが、まるで時間を超えた創造主との時間がないように感じさせられます。それは非人格的な形而上学的な宇宙ではありません。人格を持った存在です。私たちを愛し、私たちと関わりを持ちたいと願われ、私たちのすべての欠点と罪をご存知です。そして私たちに振り向いて欲しいと願っています。「私たちは、霊的なもの、心理学的なもの、精神的なもの、感情的なもの、知的なもの、意志、といった非常に多くの力が組み合わさったものです」「また、他の個人を超えた影響力も含まれます」それは、家庭、家族、同僚、悪魔、天使、霊のことです。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

「私たちは自己中心的であり、悪意を持っており、生活の中で苦痛を経験します」 ニヒリストが苦痛を感じるとき、真剣になるのは難しいことです。なぜなら苦痛は、非常に大きな現実を伴い、自分は生きているということを否定できないような過度な感覚を伴って、目の前に突き付けられるからです。そういう理由で、神様は私たちの人生で苦痛を感じさせることがあります。聖書では痛みがなくなるとは言っていません。あなたの目から涙をぬぐうと言われたのです。すべての苦痛を取り除くとは言いませんでした。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

神様は私たちが痛みを感じるようにされているので、自分が存在しないものだと錯覚しないで済むのです。私たちは自分が存在すると経験することができ、なぜ自分は存在しているのかと質問します。それは存在に関する疑問と言われるものです。真実に向かってそれを調べ続けていくなら、最終的には神様へとつながっていきます。科学によっても、今すべての科学者が有神論者になろうとしています。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

神様が苦痛を経験するようにしてくれて良かったです。それは自分が存在することに気づくからです。どれだけ苦痛から逃げようとしても、そこにたどり着きます。一時的な解決策や麻薬、セックス、アルコールではできません。同じように惨めでひどい気持ちのままです。最終的に自分が存在しており、虚無的な空白や空間にいるのではないと分かったとき、悟ります。「神様、なぜ私は存在しているのですか。創造主がいて、私は神の子供ですか」と質問し始めます。存在に関わる疑問を投げかけるようになるのです。真実の探求の始まりです。あなたがそれについて誠実で高潔であるなら、一つの道、真理、生命があることを発見するでしょう。そしてその人の名前は、イエス・キリストです。根本的に異なるタイプの神様です。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

王国を創建する

サタンを終わらせる四騎士

だから私たちキリスト教徒は御国が来ることを願いもとめなければなりません。だからイエス様は **天にます我らの父よ。ねがわくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。** と、毎日祈りなさいとおっしゃったのです。神の国の到来を毎日祈らなければならないのです。なぜなら、我々は共和国、国家に仕えるものではなく、来るべき王と王国を待つ者だからです。これらを大前提として、3 つの大きな勢力があるといいました。もう一つ、四騎士で明らかにしたように、世界にはサタンの四大勢力があるのです。四騎士に絡めて話したことは今までありませんでした。これまでサタンの三軸、三位一体といってきました。しかし今日、神様の聖霊が私に語りました。この黙示録の四騎士、災いをもたらす馬こそがサタンを終わらせるものなのだということです。ハリウッド映画であるような、世界がこなごなに破壊されるというものではないのです。サタン支配の終わりを黙示録は示しているのです。その後に新しいキリストの王国が来ます。津波が来て、地球が吹き飛ぶようなものではないのです。（「黙示録の王国」

2017/4/2）

イエス様はからし種は小さいがその木は大きくなると例えられました。私たちを笑うものがいるかもしれません。国連や世界政府主義者たちはきっと笑うことでしょう。しかし彼らの世界が崩壊するとき、小さな天国のからし種を見るでしょう。そして王権を打ち建てた主が刈入れにこられます。（「生命の王国」2016/6/5）

人類の堕落歴史ではその政治体制は全体主義に継ぐ全体主義でした。堕落以後、ほとんどの期間を全体主義の下で暮らしてきました。その間ずっと天使長の主管を受けてきたのです。アッシリア、バビロン、ローマ、中国、日本、すべてにおいてそうでした。文化こそ違え同じ体制であったということです。おなじ寡頭制、専制的な体制であったのです。アフリカやフィリピンでも同様でしょう。根は同じものなのです。
天一国は種として始まります。人々の嘲笑を買うほどとても小さな種です。しかし巨大な衝撃をもたらします。小さなからし種を軽んじてはいけません。大きな樹になるのです。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

霊的な事だけでなく、政治的な事にも言及することが重要です。なぜなら、政治的な解釈が重要であり、現実の政治が現実の文明につながり、現実の文明が地上地獄にも地上天国にもつながるからなのです。（「王国の相続人」 2017/4/30）

お父様の示された神の王国を創建する

我々が天一国憲法を学ぶとき、つまり神の国について話をするとき、神の国というのはどこか遠くにあって、歴史を通して狂信者たちが夢に描いてきたただの思想ではありません。そうではなく、神の国は実際に建設され得るものです。それは法律、政治、経済、社会の構造を理解することを通して。現実に建設可能な実際に存在する王国です。その王国はモデルを作り、その社会の人々にどういう影響を与える社会になるか予測可能です。それはどこか遠くにある架空の、観念的な実現不能なものではありません。今日の我々が完全に実現可能なものなのです。その意志があるならば。そこを理解すること、区別することが重要です。
神様の王国は既に存在します。ただそれを建国しなければなりません。神の国はシンプルなものです。神の国についてのお父様の教えは、その「良心」に関するものです。その自由意志であり、幸福追求、その幸福は創造主に対する愛の中にあります。しかしこれらの単純な言葉、単純な考えの背後には根源的で深遠な、社会構成の有機的分岐がなければなりません。自由意志と良心と主権と相続の原理に従って生きるならば、それはこれまでと全く異なる社会ができます。社会のあらゆる面において。経済や法律、政治、軍事の構造において。その核心的システムにおいて。この変化について考え始める必要があります。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

教会建設では実現し得ない王国

通常のキリスト教では、キリストの王国は教会だと言います。教会の中で王国を体験するので、教会建設をどんどん進めろというわけです。そうすることで王国は拡大すると。普通はそう教えられています。しかしこれまで見てきたように、イエス様はそのようなことはいっていません。イエス様は具体的領土と文化を持つ王国を想定していたということです。仮に教会が王国であったとしても、教会が広がって行けばそこにはやはりいさかいや意見の相違があるでしょう。自由と責任があるのですから。キリスト教会が描くディズニーランドのような理想天国が天から降りてきたとしても、自由と責任が個々人にある限りはそこに自由意志があり、隣人を愛するという決断を下さなければならないでしょう。自分が好まない人とうまくやっていくことも必要です。王国においても自由と責任は存在するのです。キリスト教会が夢想するディズニーランドのような天国に拘るのではなく、現実的、具体的な地上の王国をキリストと共に築かなければなりません。（「御国が来ますように」2016/3/20）

審判の後に創建される王国

神様がどのように王国を建てられるのか私たちにはわかりません。審判の時代は次に何が起こるのか予想できないのです。ただ審判がますます大規模になることだけは分かります。世界はこれまでの世界と随分と違ったものになるでしょう。アメリカは私たちの知るアメリカではなくなるでしょう。カナダもそうでしょう。世界地図も異なったものになるかも知れません。しかしその試練も永遠ではあり得ません。王国がもたらされるからです。キリストを知る者、キリストとの関係を知る者は来るべき王国に備えるのです。できる限り多くの人を王国に連れて行かなければなりません。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

私たちが王国について詳しくいま学んでいることも偶然ではありません。聖書のなかで「御国の便りが全世界に及ぶとき、終わりが来る」とイエス様もいっています。王国がまず語られなければならないのです。それから終わりが来るのです。国進兄さんも何度もいっています。神様の審判を通過すると世界はこれまで私たちが暮らしていた世界と全く変わってしまいます。戦争がエスカレートして核戦争にまで及ぶとするなら、私たちがこれまで学校で学んだ世界地図の線引きも全く変わってしまうということです。世界が変えられるというのです。それは確実です。サタンの支配は終わりますが、彼らも徹底的に抵抗するでしょう。（「自然の王国」 2016/5/22）

我々の選択が結実する王国

エデンの園でアダムとエバが堕落した時のことを考えるとき、エバがいかに無邪気にリンゴを食べたことでしょう。しかしひとたびその道を下り始めると、世代を超えて滑り落ち続けるのです。エバの行いの結果は無限に倍加され、この世界すべてがサタンの被造物となり、サタンの王国が作られることになったのです。だからそこが問題です。どこから始めるかが重要なのです。どんな基礎の上に王国が建てられるのか。種が問題です。植えた木は何の種なのか。良い種か、悪い種か。
基本的な道徳的価値が、根本的に全世界の運命を決めるのです。世界がどうなるか。これは皆さんが選択する問題です。全統一運動がお父様の聖和の時に選択すべき問題でした。どのような王国を求めていくのか。神様の王国のビジョンは何か。

一人の選択が重要です。あなたの選択がいつも同じとは限りません。周りを取り巻くこの世界、キリスト教に基づくこのわれわれが喜びを得る世界、それが西洋文明を発展させました。建国の父が革命戦争を通して闘い取った世界。人々がただ日々関わり合うことだけで保証される世界ではありません。実際これは歴史上特異な出来事だったのです。人類歴史のほとんどはこんな風にはいかなかったのです。（「国進様質疑応答」2017/5/27）

誰のための王国か

多くの花嫁国家が花婿（天一国）とのかかわりを求めてくることでしょう。しかし油を用意して待っていなければなりません。明かりの燃料となるものです。国の繁栄のための燃料となるもの、すなわち神様の賜物である自由と責任です。それがない限り、天一国に迎え入れられることはありません。外で歯がみをするしかないのです。「主よ、主よ、私を入れて下さい」「私はあなたを知らない」こうなるのです。共産国家として天一国に同化することはできません。多くの花嫁国家が花婿の種、憲法を受けようとしますが、用意ができていなければそれが適わないのです。（「王国の花婿」 2016/5/29）

誰にでも開かれた王国

天一国には悪人も入ることができるのです。麦と毒麦のたとえでも話しましたが、収穫がなされるまでは悪もそこに留まるという話です。天一国を考える場合、善人ばかり集まっているという理想主義的な考えからは離れなければなりません。ほとんどの人は信用に値する人たちでしょう、しかしそうでない人もいることを想定しなければなりません。全員が選択の自由をもつので悪を選ぶ人も中にはいてもおかしくありません。しかし強制的に悪を選択させるような破滅に至らせるような社会ではもちろんありません。
天一国においては善悪及び危険を見極めることが非常に重要になって来ます。あらゆる種類の鳥が天一国という樹に巣をつくるからです。天一国には悪人はいないなどと理想主義者の考えに浸ってはいけません。（「天国の種をまく人」2016/4/17）

聖句にも僕が王に遣わされて結婚式に人を呼び集める場面がありましたね。これを国家レベルで解釈するならば僕が王のメッセンジャーとして結婚式に招くということは、天一国という国、あるいは文化に人々を招くと解釈することができます。天一国そのものが他国を連結してその一部として招き入れることができます。それは憲法でも許されています。（中略）これが国家レベルでは他国に対して天一国の自由と繁栄を共にしませんかと、ちょうど婚宴の席に人々を招待するように他の国を招き入れることができるのです。相手がたとえ社会主義国のような抑圧的な国でも招待していいでしょう。制度を少し変える必要はありますが、それでも天一国に参加しませんかと招くわけです。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

信仰を強要しない王国

天一国に参加しようという国はこの「種」である天一国憲法を受け入れなければなりません。もちろん信仰の自由がありますから、必ずしもすべての人が祝福結婚を強要されるわけではありません。しかしそこにキリストの血統があり、望むならばいつでも祝福を受けることができます。神様を中心とする原点であるという天一国の本質から外れることはありません。決して世俗の国ではないのです。この国の中心理念は神様とキリスト、そしてキリストが作った王権との関係性です。信仰は自由であり信仰がなくても構いませんが、この国の本質、及び文化は神様を中心とした目的にもとづいているのです。（「王国の花婿」2016/5/29）

この孤立した、信仰の厚い宗教的コミュニティをいかにして現実の国家にしていくのか。神様の御心の国にするのか。それが問題です。どうやって建設するのか。われわれはそれを考えなければなりません。
私たちの考え方も変えていかなければなりません。キリスト教がお父様を見捨てた後、荒野路程を行かなければならない宗教組織として軍隊のような組織にならざるを得ませんでした。特別な軍隊です。たとえば精鋭部隊になるための規則は非常に厳格で、そこに求められる基準はとても高いものを要求されます。それに対して一般の軍隊、部隊においては精鋭軍に比べて低いし、難しくもありません。もちろん軍としては厳格ですが。そういう特殊部隊と通常部隊から、一般市民レベルに話を移すとき、軍隊のような組織の在り方が必要ですか。高い低いという基準が必要ですか？
だから今は、われわれが社会でどう生きるか、法律や政府をつくって神様の御旨についての理解をそこに投入し、（軍隊ではない）一般市民社会にどう適用するのか。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

自由と責任の文化が王国への加入条件

また聖句では「招かれていたのは、ふさわしくない人々であった。だから、町の大通りに出て行って、出会った人はだれでも婚宴に連れてきなさい」とあります。天一国への誘いも国家レベルでの連邦もありますが、移民による合流も可能です。結婚式には様々な人が連れてこられましたが、礼服を着ていない人は王の命で縛られ外に放り出されました。これは何を意味するのでしょうか。今、ヨーロッパで問題になっていることです。中東から大量の難民が流入しています。その 80 パーセントは戦闘員の年齢に達している者です。しかし彼らが「礼服」を着ているかどうかを確かめなければなりません。同化する意志があるのか、それとも同化する意志はないのか。自由と責任の天一国憲法の従う意志があるのかどうなのか。それともイスラム法や共産主義思想、ファシズムを持ち込むつもりなのか。礼服を着るつもりはあるのかないのか。天一国の文化を受け入れ変容できるのか、その意志があるのか。もしその意志がないなら我々はあなたを縛ってここから放り出さないといけない。ここにきて破壊活動を行うつもりなら追放せざるを得ません。天一国文化の礼服を身につけなければなりません。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

共和制と自由な君主制が加入条件

国家的に見ると、もし国が神の国に入りたいのならば、共和制の枠組みに入っていきます。自由主義の君主制、共和制です。憲法は変わりません。王国を守ります。罠に仕掛けるような人たちをつまみ出さなければいけません。つまみ出さないといけません！共存することはできません。どちらかです。共和制、自由君主主義と共産主義は共存できません。不可能です。できません。（「キリストによる神の王国」 2016/6/12）

将来、花婿の国が遅れてやってくるときに天一国は始まるのです。そのときには花嫁の国が待っていることでしょう。天一国は様々な国と連合する用意があります。また他国は天一国に同化することも可能です。しかし同化するには天一国の一部として完全自由主義的君主制を採用する必要があります。共産主義のままで同化することはできないのです。その意味においては民主主義でもダメです。なぜなら民主主義は歴史的に見ても常に寡頭制に崩れていくからです。大衆は口のうまい政治家に票とお金のために甘い汁を吸わされることでやすやすと丸め込まれてしまうのです。こうして民主主義は例外なく独裁へと流れていきます。数百年と続いたためしがありません。実体の神の国が来なければなりません。（「王国の花婿」 2016/5/29）

悪には寛容でない王国

何百万人もの難民の中に 10 パーセントともいわれる過激なイスラム原理主義者が混じっている状況で受け入れは不可能です。10%がレイプ魔だと知っていて自宅のリビングに招きますか。それを国家レベルで行うのですか。まともな人なら理性のある自由な国にワッハーブ派のようなイスラム原理主義に固まった人々を招くことは拒否するでしょう。しかしそうすることが「寛容」であり「現代的人道主義」であるとされているのです。個人的には反対することでもひとたび国家レベルという大きなスケールのこととなると、人は見解が変わるのです。しかしその悲惨な結果は後で目にすることになります。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

礼服を身に付けていない限りは天一国に入ることはできません。天一国の文化を受け入れその自由と繁栄を享受したい人々は誰でも歓迎しますが、もしここで破壊活動を画策するとするなら縛り上げて追放することになるでしょう。イエス様のこの聖句を国家レベルで解釈するとき、その意味が腑に落ちるでしょう。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

第５章　王国の運営

天一国には選挙で選ばれた者達と血統的に選ばれた者達と二つのグループが存在します。これもチェックアンドバランス、勢力均衡が働いていいのです。（「王国の力学」 2016/5/8）

5 - 1 神様の権利

天一国憲法では権力機構は 5 つあります。自由な出版、自由なメディアがそこでは権力の一角を占めているのです。そして最後の真の権力は神様にある。それは他のすべての権力の源泉です。真の神様の権力が国を覆っているのです。それは霊的王国が肉的現実になったものであり、その両方を備えるものだということです。（「最後の王国」 2017/7/30）

自然権にもとづく王国の運営

天一国の７つ目の抑止力は「自然権」です。「自然権」の考え方は神様に由来します。市民の権利は神によって与えられたという考え方です。その中には王の持つような権利、すなわち「私有財産に対する権利」「私有財産を守る権利」「武器を所有する権利」「個人の所有物を押収されない権利」などが含まれます。このシステムの下で大きな豊かさを享受することが可能です。しかしそこに大きな責任も生じます。国の制度としての社会福祉は法律で禁じられているのです。福祉は個人レベルで、教会や皆さんのような善良な人たちによって実践されるべきものなのです。福祉は市井（しせい）の人々が愛と思いやりをもって助け合うべきものであって、腐敗した政治家が取り仕切る冷血で計算高い中央集権化された「政府」に丸投げすべきではありません。「慈善行為」を犯罪組織に任せるようなものです。それぞれが自分の責任として実践して下さい。（「愛の王国」 2016/7/10）

5 - 2 天一国合衆国憲法

王の王はメシアに連なる者であり、そこで天一国憲法が生まれました。そこが権利の始点になります。そこに実質的につながることが権利の源泉になります。王の王は王権のラインですが国民を支配する軍隊、マフィアのように国民を痛めつける中央警察などをもつものではありません。王国の原則に従わなければならないのです。そして国民を天につなげる位置に立っているのです。（「自然の王国」 2016/5/22）

相続者が発表する天法

お父様は、1984 年に相続者が天法を発表するだろうと語られました。自分でするのではなく、相続者が行うと言っておられたのです。木が何かというのは実を持って分かります。天一国憲法を勉強すれば、実が分かるのでその実を生み出した木が何なのか分かるというのです。そしてそれがどんなサタン的な制度とも根本的に異なるということが分かります。（「大胆な王国」 2017/3/12）

建国の父も感謝する憲法

天一国憲法を読んでください。そこにかつて見た事もないレバレント・ムーンの王権を見ることができます。あなたが正真正銘のアメリカ人で主権を愛し、建国の父に感謝するなら、憲法の中身に建国の父も喜んでくれているのが分かるでしょう。そこにジョージ・ワシントンやトーマス・ジェファーソン、ベンジャミン・フランクリンなど建国の父の魂を見出だすことができるでしょう！（天一国憲法の）中に生きているのです。あなたに語り掛けるでしょう。イエス様が新しい名をもつ。人が我々を狂っていると言いますが、ただ聖書を読んでいるだけです。（「王国の王冠」

2017/10/8）

キリストを通して見る天一国憲法

一つの道、一つの真理、一つの生命。その名はイエス・キリストであり、彼は再臨主であり、彼は道であり真理であり命であり、彼を通して私たちは天一国憲法を見るのです。彼を通して神様の王国を見るでしょう。（「大胆な王国」 2017/3/12）

天一国憲法を読むならば、これが普通の人にとって最大の自由と保護をもたらす文書なのです。それが全てです。読んでみるなら率直に言って、それはサタンから来るものではあり得ません。どこから来たものか分かるのです。そこから延びる木を見ることができます。万王の王です。文先生が本当にメシアであり、再臨主であるのかという疑問に真剣に取り組むのであれば、その憲法を読んでください。そこに彼の業績があります。そしてこの地上に他にそのようなものがないことが分かるでしょう。（「豊かな王国」 2017/7/23）

天一国憲法は神の種

個人の次元で摂理の中心目的が「神の種」を待ち続けてきたのと同様に、国家次元においても花婿の国家である天一国と関わりを持つことで国々も「神の種」、即ち天一国王権と関わることができます。この王権には世界に放たれる「神の種」があります。それは国のアイデンティティの核を形成し、本質を形作るもの、すなわち天一国憲法です。（「王国の花婿」 2016/5/29）

法的ではなく霊的な文書

ですから、天一国憲法はとても霊的な文書なのです。みなさん、それは法的な文書ではありません。それをよく研究すれば信じられないほど霊的な文書だということがわかります。それは略奪者に対しての解毒剤であり、壁であり、防御であり、ホームセキュリティアラームであり、柔術であり、総合格闘技です。自分の子供をレイプし、家から何か盗もうとしている 5 人のチンピラを、おばあさんが追い払うために手に取るショットガンです。それがそのための武器です。そしてそれを変えることはできません。それは悪魔が嫌うことなのです。なぜなら、彼らは 7 倍になって帰ってきますが、王である市民が、強い男が完全に武装して自分の邸宅を守る限り、市民が自分の位置に留まる限り、その悪魔がギャングたち、霊界のブラッズやクリップス（訳注：いずれもアメリカのギャングの名前）を従えて戻ってきたとしても、市民が強く立って神様が与えた憲法に対する権利に従う限り、その悪魔たちを追い払うことができます。（「教化される王国」 2016/9/18）

天一国憲法が主権を確立する

自然権を守る天一国憲法

「唯一真の神」は天一国憲法の基礎です。天一国国民のすべての自然権の源泉となるのです。これはアメリカ合衆国憲法がユダヤ・キリスト教の伝統にもとづく自然権を定めたことと同様です。「神様のないところに自由はない」と国進兄さんが何度もいうことの意味はここにあります。（「愛の王国」 2016/7/10）

「唯一真の神」から離れるときそれがどれほど甚大な結果をもたらすかわかりますか。独裁者が横行するようになるのです。間違いなく独裁者が横行します。そして彼らは自分が「神」であると主張するようになるのです。（「愛の王国」 2016/7/10）

「自由」の源が「超越的なもの」でない限り、独裁者に勝つ術（すべ）はないのです。それは「唯一なる神」、「すべての上にいます神」です。私たちを奴隷にすることを願う独裁者のようなお方ではありません。私たちに「自由と責任」を与え、「人権」を与え、またそれをご自分の憲法に刻もうとされるお方です。そしてその憲法はメシアとその直接の血統圏を通して与えられるのです。（「愛の王国」 2016/7/10）

神様をそのまま受け入れなければなりません。宇宙の創造者であり、あなたの人権の創造者です。そのお方をありのまま受け止めなければならないというのです。神様が物理法則、数学の定理などのすべての法則、宇宙の構造を創造されたのです。神様が決めたことを人が変更することなどできないのです。（「愛の王国」 2016/7/10）

天一国憲法では神様のことを言っており、聖書について言っており、原理について言っており、王の王である真のお父様について言っており、神の国について言っていますが、そのような文化の中でさえ天一国憲法を感謝するような文化があります。なぜなら、あなたが楽しむすべての自由、そしてすべての繁栄、規制がないこともすべてその天一国憲法から来たものだからです。その法律から来たものです。それは何か？お父様から頂いたものです。お父様の王権です。それが天一国憲法に描かれた人権の根です。それは神様から自然に来たものです。政府によってではなく、憲法によってではなく、神様によって与えられた生来の権利です。（「贖われた者の王国」 2016/8/7）

天使長を主管する天一国憲法

神の王国が来るとき、それは霊的な王国だけでなく、サタンを主管する王国です。経済的にだけでなく、霊的にだけでなく、宗教的にだけでなく、政治的にサタンを主管するのです。世界の政治的悪魔崇拝を主管します。私たちが彼を主管するのです。そして天一国憲法は天使長に対する主管を成文化したものです。神様は生めよ、増えよ、被造物を主管せよという祝福を与えましたが、それは被造物を支配して主権を握るということなのです。（「日曜礼拝」 2017/1/15）

皆さんのうち、どれくらいの人が世の中の人のために天国をもたらしたいと思っているでしょうか。私たちは人類を憎む者ではありません。隷属状態において力なく去勢された者となることを願ってなどいません。むしろ、神の栄光と世界のために天与の潜在能力を解放して欲しいと願っています。天一国憲法はそれを可能にします。天使長が舞い戻り、自由を台無しにすることを許さないのです。来るべき王国のために祈りましょう。（「王国の豊かさ」 2016/11/20）

世の明かりとして掲げる天一国憲法

あかりはいつ灯されますか。真昼ではなく夜灯されるのです。闇の中のものを見ることができるようにするためのものです。だからあかりをますの下や寝台の下に置くことなどしないのです。天一国憲法もますの下や寝台の下に置くことはしません。高く掲げるのです。広く宣布すべきものです。ひとびとに明らかにするのです。最初は戸惑うかもしれませんが、やがて本心が神様の臨在する王国だと感じるというのです。王国の憲法を隠すことなどしません。燭台の上に置くのです。
もし私たちが天一国憲法を恥じ神の国を恥じるとするなら、人々はどのようにして神の国を知ることができるでしょう。イエス様はこのように神の国について宣べた上で「ますの下や寝台の下に置くために、あかりを持ってくることがあろうか。燭台の上に置くためではないか」といわれます。それは私たちだけを照らすのではなく世界を照らし出さなければなりません。そうすることで来るべき王国を見ることができるのです。
もう一度世に出たものを元に戻すことはできません。グローバリストや世界政府主義者、中央権力を愛する者がいかに妨害しようとしても、結局敗北するしかないのです。神の国が来るとき彼らの世界をことごとく失うことでしょう。（「生命の王国」 2016/6/5）

十戒として本心を育む天一国憲法

天一国憲法が種として国に根付くとき自然にその国は「十戒」に従うようになるのです。おおっぴらに十戒を唱えなくとも、自然なかたちでそれを守る国になるということです。もし守らなければ人望を失いビジネスもできなくなってしまいます。自然に神の十戒にしたがうようになります。（「王国の花婿」 2016/5/29）

社会の性質、つまり、天一国憲法は権力の集中と独占を支持しませんので、人々は十戒に従いたいと思うようになります。なぜなら、人々が倫理的に行動しなければ、誰も取引をしてくれなくなり、評判も悪くなり、何をしてもうまくいかないからです。自由があると道徳的に行動しなければなりません。そうせざるを得ないのです。神様を信じないので非道徳的に行動すれば、誰も取引をしてくれなくなります。誰も信頼してくれず、推薦してくれず、助けてくれません。ですから、もし神様を信じておらず、神様が嫌いだったとしても、十戒に合わせて行動しなければならないでしょう。それでも道徳的に行動しなければならないのです。（「祝福された王国」 2016/07/24）

被造物に記された宇宙が運行する自然の法則があります。だましたり、嘘をついたり、むさぼったり、盗んだりすれば、それは自分に跳ね返ってきます。しっぽやお尻や足を撃たれることになります。もしかしたら三か所同時に。ですから神の国では十戒に自然と従うか、求めるようになります。王国で完全に十戒に従うようにするというのではなく、ほとんど自然にそれを追い求めるようになります。それは王国の本質によるものです。十戒の後半部でも追い求めるようになると、天一国の市民として愛国的な見方を持つようになります。すべての繁栄も憲法からもたらされ、憲法のために喜びを経験し、誇りと愛国心を感じるようになります。そして、この憲法は神様から来たものだとはっきり表現されます。ですから神様を知るようになります。（「贖われた者の王国」 2016/8/7）

天一国憲法を生かす

このような原則によって憲法が制定されれば、そのとおりに生活すればいいのです。そのようになれば、教会は必要ありません。そのとおりに生きればいいのであり、国のために忠誠を尽くせばいいのです。国のために忠誠を尽くし、忠臣になり、孝子になり、聖人、聖子にならなければならなかったのですが、そのようになることができなかったので、それを教育するのです。
皆さんには、まだそのような観念ができていないのであり、皆さんの時代においては、昔の観念は変わっていかなければなりません。皆さんの息子、娘、何代かを経て、これを是正しなければなりません。（「真の家庭と家庭盟誓」 1994/5/2）

天一国憲法を学んで豊かになる

天一国憲法の観点から見る時、「おおよそ、持っている人は与えられて」の「持っている」とは何を持っているのでしょうか。それは天一国憲法の知識だといえます。そして持っている人は「いよいよ豊かになる」とあります。神の国について知り、その祝福を受けそこで暮らす人々は、自分達がこの世で最も自由な国を造り出そうとしていることを自覚しています。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

マタイ 13 章 12 節の「持っている人は与えられて、いよいよ豊かになる」の意味はなんでしょう。王国とその憲法を持っている人は自由の意味を知り、自由な取引と自由なコミュニティづくり、そのネットワーク形成を通してすべてにおいて良好な結果を得ることができます。実体の天国がまだ現実になっていないとしても霊的には天国圏に入っているのです。誠実な仕事相手を求め、双方が得をするような解決策を求めることで豊かになることが可能です。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

天一国憲法を適用するなら全体が膨らみ始めるのです。すべての国民の生活水準が上昇するのです。個々人では異なるかも知れませんが、全体が一様に上がるということです。これを全世界に適用するのです。小さな天一国憲法が全世界に及ぶということです。聖霊を感じて奮い立ちます！（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

つまり宝の隠れた畑に投資するということです。畑ならどこでもいいという訳ではありません。投資をするなら宝の隠された畑に投資しなさいということです。投資をするなら天一国憲法のある所に投資しなさいというのです。そこは大きく膨らみ豊かになるからです。イエス様は何と言われましたか？「聞いて悟るとき」豊かに実ると言いました。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

貧しい人を救いたければ、天一国憲法が救うことができます。天一国憲法は貧しい人を保護します。寄生的で、天使長的で、危険な政治的階級を合法的に管理下に置きます。GDP の 10 パーセント以上を認めません。（「祝福された王国」 2016/07/24）

文明の没落を抑止する天一国憲法

再び豊かになるとき起こる文明の没落。そういう没落が起きたときも、人々が愚かな判断をする時、文化が快楽主義に流れていくときでも、天一国憲法は国が社会主義に没落することを法的に許しません。国を破壊しようとマルクス主義の綱領を持ち込むことを許さないのです。義なる人々がそれを阻止するでしょう。良心を用いて神を求めなさい。社会が乱れたとしても天一国にはそういう規範があります。（「王国の豊かさ」 2016/11/20）

憲法が自然権を守る

アメリカ合衆国憲法のオリジナルでは、連邦政府だけではなくジェファソンと大きく妥協して人権宣言を共に盛り込みました。それによって政府が個人の人権、自然権を侵すことが難しくなりました。その均衡と抑制は政治的にはよくできたものでした。権限を限定した連邦制を認める憲法をもつことの大きな利点は、他の人と取引をするときに、より多くの人にアクセスできることです。莫大な人口をもつことになります。自由な組織を人々の間で作ることができます。その多くの人々と自由に交わること、売り買いすること、これが大きな富を生むのです。それを過去に巻き戻して憲法以前の状態にしたところで、それは 13 植民地による連合規約に戻るだけです。相互間の交流という恩恵を受けることができません。そこでは州が主権の本体ですから。自分の州を守る地域内での商業です。

憲法によって経済圏が拡大しました。そこで人々は自由に取引できます。これが、お父様が国連について話された内容の核心です。お父様は今の国連は問題だと言われました。なぜならカイン型だから。だから合衆国憲法のように自然権に基づく人権、良心の自由、自衛の自由を認めるアベル型の国連を作れば、そういう性質の国家の連合ができるなら、さらに拡大した相互交流、相互協調、将来に向けた繁栄の社会が生まれるでしょう。今の国連はそうなっていません。国連はサタンの下の一つの世界をつくっています。一つの地獄です。独裁的支配の下で。しかし憲法の本来の精神を世界レベルにまで拡大するなら、我々にとっても恵みでしょう。だから皆さんがなすべきことは合衆国憲法をもって世界各国の文化を変革させることです。合衆国憲法に賛同できるところまで。そうすると長成期完成級の理想世界がもたらされます。

アメリカ帝国の大きな問題は、アメリカ帝国になっているということではなく、アメリカの自由とアメリカの原理が、アメリカ帝国全体に広がっていないということです。アメリカの原理がアメリカ帝国全体に拡大していないということです。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

修正されない憲法が王国を守る

存在しない憲法修正プロセス

憲法を修正する民主的プロセスなど存在しません。後の世代がたとえ天使長の考えに影響を受け、マルクス主義、共産主義に走ったとしても、また大企業にそう持ち掛けられたとしても、彼らは法を変えて国を破滅させるようなことができないのです。暴力革命に訴えたとしても国民参加型の平和警察と平和軍があって該当する地域の次元で対応します。ですからたとえ彼らが洗脳をほどこされたとしても法を変え、国に破滅をもたらすことはできません。（「王国の花婿」 2016/5/29）

天一国では憲法の修正はあり得ません。天の法が下されたなら人間がそれを変えることなどできないのです。人間がそれに手をつけ始めると、結局社会主義、共産主義、寡頭政治のくだらない罠にはまるのです。（「生命の王国」 2016/6/5）

僕に修正出来ない天一国憲法

天一国では公僕が僕です。公僕は憲法を変えることはできません。修正条項を認めません。全体主義者の皆さん残念でした。この王国を壊すことはできません。だからキリストの王権、千年王国と呼ばれるのです。完成級の王国です。中央集権の悪しき仕組みで崩壊などしません。社会主義、共産主義、寡頭政治、全体主義など、もうその正体は暴かれています。背後の悪魔が見えるのです。その動きも戦術も知っているのです。神が花婿として地上に降り立ちました。彼の血と種で王権が打ち建てられました。王国は建てられすぐにやってくることでしょう。（「王国の花婿」 2016/5/29）

主権を守る天一国憲法

私たちが天使長の法律を理解し、天一国憲法を理解すると、獣の本質、サタンの本質、天使長の本質が地上においてはっきりと、より一層わかってきます。ますます、神の国の価値と希望がわかります。神の愛と恩寵と慈愛と天一国憲法の栄光がますますわかります。なぜなら天一国憲法は市民の主権を守るからです。それは王の王によって王権を与えられた国なのです。初めにキリストから根を与えられた国です。天使長が決して権限を逸脱しないように法律で禁じている国であり、憲法改正を許さない国です。なぜなら憲法の修正がアメリカを破壊したからです。しかし、もちろんアメリカには奴隷制の罪がありました。それが問題でした。そのために堕落しました。（「祝福された王国」 2016/07/24）

5-3 王の権利

天一国憲法 原則２：人権を侵してはならない

遺伝子操作が行われることなく、生物学上生きている人間は、神の創造の頂点に立つ存在であり、創造主から、奪うことのできない人権を、賦与されている。（天一国合衆国憲法 原則２）

天一国の王とは何でしょうか。王は国民だというのです。お父様が「我々は百姓（ペクソン：農民ではなく一般民衆の意）にならなければならない」とよくおっしゃいました。教会員ではなく国民です。（「逆さの王国」 2016/4/24）

天一国主人

天一国も盟誓はすべて「天一国主人である私（家族）」から始まります。「天一国の僕」ではありません、それでは家庭連合になってしまいます。「天一国の僕である私（家族）」を喜ん

で唱えさせるのは家庭連合です。（「天国の種をまく人」2016/4/17）

王の権利は神様が下さった自然権

天聖経（英語版）1473　本来、人間の特権は、誰彼を問わず、天上王国世界において皇太子として生まれる権威をもっているのです。お姫様として生まれる権威をもっているのです。それが人間の価値です。それが本来の人間の権威だったのです。(68-326,1973.8.5)

ここに大変重要な点があることが分かりますか。人間の特権として神様が与えられたというのです。その特権は人間が苦労して得たものではありません。手に入れたものでもないのです。それに相応しいから与えられたのでもありません。神様の善によって一方的に与えられたのです。これをすべての世代が覚えておかなければなりません。それぞれの王朝を力強く更に美しくより偉大なものにするためには。良いですか、我々が相応しいものだからそれを得たのではありません。愛なるお父様が与えて下さったのです、我々を信じて。心の芯まで悪に染まっていないことを見抜いておられたからです。私たちは完璧ではありません。天国建設のために神様が、我々を用いることを願われたのです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

天国、天一国の国民はすべて、全能なる神、また肉身を持って来られ、計り知れない恩恵により、我々を神の生命、神の愛、神の血統へ接木してくださったキリストの、主権を有する子女である。これにより、天国の全ての人々に、彼らの創造主神様ご自身から、キリストが真の父、文鮮明として再臨し、実体的に確立したキリストの王権を通して、不変にして奪うことのできない権利が与えられる。（天一国合衆国憲法　前文）

私たちは神様の王国と天一国憲法を支持しているのであり、そこに書いてあるのは、私たちには神様が与えた神聖な権利、自然権があり、いかなる力によっても奪うことができないということです。奪うことができないものです。（「王国は近い」2016/11/27）

自分を守ることができなければなりません。それは人権です。成長する樹でさえ自分を守ります。小さな植物ですら自分を守ります。自分個人を守れなくてどうしますか。それは自然権です。自分を守れないものは人ではありません。悪から自分を守ることは神の国では絶対的中心です。絶対の礎石だというのです。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

最後の瞬間の守りとして、善良な人は自分を守る人権を持っています。植物が毎日自分を守っているのと同じです。虫は動物が食べようとすると毒を作って顔に吹きかけます。それは自然権です。私たちは自分たちと仲間を守ることができます。それは善良な人が戦いを、戦争を求めているということではありません。彼らは平和を求めています。自分たちの生活を続けて豊かになって、道徳的に幸せに暮らしたいのです。時には子供たちを外に連れて行き、映画を見たり公園に行ったりして、普通にしたいのです。（「王国の防衛」 2017/6/18）

自由社会、天一国憲法の定める社会ではそれ（神の唯一性）が重要です。なぜなら神様が皆さんに与えられた自由と権利、すなわち天一国憲法に描かれる自由と権利は、すべての人間、すべての政府、ありとあらゆるものの上にある主権者である神様、唯一の神、至上のお方より授かったものに他なりません。それは神学でいう「神聖な権利」、自然権と言い換えてもいいでしょう。すなわちその権利はいかなる人間も、いかなる団体、いかなる政府、政治権力も奪うことはできないのです。決して奪うことができません。他の「神」をもってしても奪うことはできないというのです。なぜならそれは「唯一の真の神」、「王の中の王」から与えられたものだからです。何か新しいことを話していると思うかもしれませんが、天一国憲法の指し示すポイント、お父様が憲法に掲げるべきとされた「神の血統を守ること」「人権」「公金を正しく扱うこと」これらの事項を具体化したにすぎません。これらはすべて「唯一真の神」を出発点とするものです。「唯一真の神」はご自身がひとたび定めた法、人類に与えた自由の賜物を変更できる同等の権力をもつ対象的相対など持ちません。（「愛の王国」 2016/7/10）

イエス様は「正しい行いだけ、律法を守るだけでは救いを得ることはできない」と当時の宗教人を叱りつけました。完全無欠の聖なる神様の前では、私たちは例外なく罪人です。そのような何の資格もない堕落した人間に、それでも愛を与えて下さるのが神様である、というのがイエス様の教えでした。その神様との関係性において永遠の生命が与えられる。神様から生来自然の権利を与えられているのです。それらは神様の性質、神様の神格から流れ出たものです。律法は神様から孤立したものではなく、神様の性質、神様の神性からの延長線上にあるものだというのです。神様が正しいお方なので、その延長線上に律法が出てくるのです。神様は真実なお方なので嘘は受け入れ難いものになるのです。だから「嘘をついてはならない」という律法はどこからともなく出てきたものではなく、神様の真実性の延長線上にあるものなのだというのです。（「待ち望む王国」2016/12/18）

私たちの社会では、人間の権利は神与のものであるにも関わらず、人から与えられたものであるとされています。人から与えられたものであるなら、人間によって変更することも取り去ることも可能です。あなたの地上での人生が人間の気まぐれによって決定されるということになります。関係性こそが人生に意味と目的を与えるのです。最終的には超越者、創造主との関係性によって、人生に完全な喜びと保護がもたらされるのです。もしそれらがなければ、権利とは組織がわれわれに与える特権に他なりません。神様が神の子たちに造り与えた世界は組織が与える特権ではありません。本来の権利があります。創造主によって与えられた譲ることのできない権利です。

ゴールドマン・サックスやダボスグループ、ロスチャイルドなどのスーパーエリートたちは私たちの父親ではありません。私たちの神ではないというのです。どの権利を与え、どの権利を与えないかを決めるのは彼らではありません。（「待ち望む王国」2016/12/18）

権利は社会によってもたらされるのではなく、同意によってもたらされるのではなく、自分があるグループに所属してそれに同意するからもたらされるのではありません。権利は創造主である神様から来るものなのです。神様は私たちの愛する父であり、私たちがその権利に値するからそれを与えられるのではなく、神様が信じられないほどに愛し、善なる方であり、正しい方であるからなのです。（「不死の王国」 2017/4/23）

すべての国民が王の権利を持つ

王の権利とは何でしょうか？考えてみてください。王は領土において権利を持っています。王は王国を持っています。そうでしょう？あなたは王国に税をかけることができません。それが王国であれば税をかけることができません。他の何者かが、自分たちに王国を使うことに対して負債があるなどということはできません。王国においては天一国憲法を理解するなら、その王の権利はすべての市民の権利であることが分かります。自らの領土における主権を持つのです。そこには強制的に税をかけることはできません。王国では領土がありますが、それを守る手段を持ちます。王であるのに領土を守る手段がないということはあり得ません。そうでなければヨーロッパのように浮浪者や盗賊に襲われて、乗っ取られてしまいます。ですから、王として王国を守る手段が必要です。過去にはその権利は王にありました。天一国においてはその権利はすべての市民にあります。（「正義の王国」 2016/3/27）

万王の王と、王と王権に直接つながる人々は、自分の法の下、王の権利を持つのです。人々が領土権をもち、公共資産の権利を所有します。国が土地を所有するのではありません。人々が所有するのです。政府があれこれ言うことはできません。あなた自身で決めることができるのです。自分で自分の土地を守るのです。王国では国民は銃を所有します。武力を所有するのです。国家は武力を中央に集めることも国民を武装解除することもできません。永久にです。（「移る王国」 2017/2/26）

「アジュ」は主権の宣布

私たちはアジュ（我主）と言います。所有権があるから。家庭詐欺連合の奴らがアジュと言ってもそれがどういう意味か知りません。アジュの「ア」の字はどのような字？私、我の「ア」、ジュは何のジュ、主人の主。ところで、奴隷ならばアジュとするとおかしいでしょう。これ、ただ音だけ出ています。ところで、所有権を知って平和軍平和警察の所有権と銃器所有権、土地と国と地球を保護できる能力を持つ市民たちが「アジュ」と言ったとき、すべてのこのようなお祈りをしたとき、アジュと言った時、サタンの前に天使たちの前にすべての悪の世界の前に、私は神様の中の主人だと宣布しているのです。皆さんの銃所有も同じなのです。銃器の所有。（「最後の王国」 2017/7/30）

王の心構え

国民を奴隷にしておくために、紙幣や預金が「お金」のすべてだと思わせるように彼らは嘘をいいます。その一方で自分たちは金、銀、土地などを蓄えているのです。ここが問題です。天一国では祝福がどこから来るのか知っておくことが大切です。私たちの権利は神様からもたらされると同時に、肉的救いはこの「王の心構え」を知ることを通じてくるのです。「奴隷の心構え」ではありません。サタンの奴隷であることをやめなければなりません。（「王国の救い主」 2016/8/28）

神様に与えられたものもキリストからきたものと言えませんか？キリストの権能と権威の内に強く立つとき、神の国に相応しい者となります。若者たちと議論したことの一つは「王の心構え」でした。日本には天皇がおられます。また彼らの一人に「お金とは何か」と質問しました。紙幣や銀行口座に入っているものですと答えました。紙幣がお金の本質ではありません。それは国家が「奴隷」に思い込ませた内容です。イギリスでも日本でも王室はそのようなことを信じていません。全くの嘘だというのです。嘘を信じているのです。模範的奴隷だからそれを信じているのです。「王の心構え」を持たなければなりません。天皇家は紙幣のお金を集めると思いますか。天皇は紙幣を集めたりはしません。口座にいくらあるか気にしたりしません。金、銀や土地を所有するというのです。あるいは人間関係も資産です。（「王国の救い主」 2016/8/28）

5-4 王国の政府

天一国にも政府は存在するでしょう。その政府は大きな政府ではありません。もちろんローマ帝国のように厳格な中央集権政府でもありません。（「御国が来ますように」 2016/3/20）

政府の役割と構造

自由と責任の王国、天一国では環境庁などの役所をつくることは禁じられています。福祉国家も違法です。政府の予算がGDP の 10%を超えるような中央集権は法律で禁じられているのです。国会議員はそれぞれ 2100 人の母体から選出されます。2100 人という少人数から選ばれるのです。これなら大企業は国家レベルの買収をすることができません。（「生命の王国」 2016/6/5）

僕（天使長）である政府

再臨主である真のご父母様は地上の実体の神様ではないですか？ですからご父母様は今、神様の立場におられます。ではアダム・エバはだれを象徴するのでしょうか？アダム・エバは神様の子女でした。アダムは民主主義のもとに暮らす全ての男性を指します。ではエバは何を象徴しますか？すべての女性です。アダム・エバはすべての市民を象徴するのです。では天使長はだれを指しますか？天使長はアダム・エバに使える霊として創られましたね。では現代、我々市民に使えるため、創られたものはなんですか？それは「政府」です。原理的観点からも明らかなように天使長は政府を象徴するということです。このように民主主義社会は堕落以前のエデンになぞらえられるのです。（「自由社会」 2012/7/12）

大企業は政府という天使長が仕えてベッドを共にすることがなければ、独占企業になれません。問題は天使長にあります。政府は天使長の立場であり、主人の立場や父の立場、父母の

立場ではありません。僕の立場なのです。そのように神様がエデンの園を創造されたのであり、私たちもそのようでなければなりません。天使長が僕として留められるとき、神様の人々は神の望んだ存在になることができます。それが天一国の王です。そこでは市民が王となり、女王となります。私たちは主権を持っています。領土権、自己防衛権、すべての王の権利を持っています。そして政府は僕です。決して主人ではありません。（「祝福された王国」 2016/07/24）

政府の二つの役割（１）独占禁止法の制定

天一国でも天使長政府があることはあります。ありますが、GDP の 10%に制限されます。それよりも大きくなることは出来ません。それは天一国で二つの重要な役割をします。最初は独占禁止法を作り続けることです。アマゾンのような会社を破壊させる、分立しなければなりません。法的に。
例えば、ウォルマートやイーマートがあります。イーマートは一つの商品を販売しますか。多くの商品を販売しますか。家具も売っていますか？また、何を売っていますか。食べ物も売っていますか？服も売っていますか？電子製品、おもちゃ、本、アクセサリー、全部売っていますか？それでは、この人たちがどのようにしているか知っていますか。価格競争として一部署をターゲットにします。その村の、イーマートがある村にアクセサリーを売る小さな店がたくさんあれば、イーマートはそれらすべてをなくしたい。イーマートにお客を呼ぶために。そうじゃないですか？それではイーマートは何をするのかというと、隣にあるアクセサリーの店たちを滅亡させるためにアクセサリーを大量に安く購入して更に安く売ります。同じアクセサリーだから、市民たちは全部そちらに行くことになります。ターゲットにされた店は一つずつ店を閉めます。そしてすべて廃業したあと、またそのアクセサリーの値段をイーマートは上げることができます。だから、ある町が家具の町だとすると、このような大きな会社は同じ方法その家具の町を戦略的に滅亡させることができるのです。値段を下げたり、上げたり、このような市場のパワーがあります。財閥が市場の独占をします。だからこれは非倫理的な市場行動です。公平に競争しているのではなく、故意に戦略的にターゲットにして一つずつ、無くしていくのです。それを通して金をたくさん儲け、それで政府に投資して新しい法を作らせ、中間サイズの小さな事業を再開する可能性をなくします。世の中はこのように回っていくのです。だから常に独占しようとしているのですが、天一国ではその小さな政府が二つの重要なことをするのですが、その一つ目は独占破壊、反独占法作るということです。（「最後の王国」 2017/7/30）

政府の二つの役割（２）戦時の軍の編成

二つ目は何でしょう。天一国という国が実体的に攻撃されて戦争になったとき、平和軍平和警察が組織的に連絡しつつ、実際の軍を作りあげます。戦争の時にだけです。米国政府や韓国政府のように、軍隊で公務員が多いじゃないですか。将軍たちからして、米国で数百万人います。全部公務員です。天一国ではこのように出来ません。こんなに多くの公務員たちは危険です。なぜか、悪い奴らがそのすべての公務員たちを賄賂で抑えると、国のすべてを掌握できます。しかし、それぞれの村の平和軍平和警察が強いと、中央政府でもその数万個の別々に訓練された軍を一度に掌握できません。（「最後の王国」 2017/7/30）

五権分立

天一国のシステムは異なります。三権分立ではなく五権分立です。またメディアは企業の所有とはなりません。ですからアメリカでいま行われているような５つの巨大メディアが情報を独占し操作するようなことは起こり得ません。（「愛の王国」 2016/7/10）

地方分権

私達は絶望的な時代にいます。今週もずっと、神様はそれを押し返そうとしています。トランプは神ではありませんが、神様の道具であります。そしてトランスジェンダーのトイレの問題も、それは州で判断すべきだと言っています。その州で本当にそうしたいと言うなら州の判断でそうしなさい、ということです。連邦政府がすべてを命令すべきではないということです。（「移る王国」 2017/2/26）

それは（地域でのホームチャーチや主権の確立）地方分権であって、私たちが管理するのでなく、自分たちで何をするのか決定するということです。彼らは階級組織に長くいたために、「これをする許可をもらえますか」と言ってきますが、私は「許可を与える必要はありません。お父様に祈ってください。お父様のみ言もあります。皆さんは毎週私の指導を受けています。許可を求める必要はないので、自分の自由と責任で行動してください」と言います。それが私の返事です。（「待ち望む王国」 2016/12/18）

天一国では、いいですか、すべて地方単位で取り組みます。地方の司法で地方の犯罪に対処する。犯罪者は平和警察、平和軍から手痛い扱いを受けるでしょう。平和軍、平和警察は即座に鎮圧する力と権威をもっています。これは 1、2 か所の話ではなく、天一国では、あらゆる場所で起こり得るのです。
地方同士で連絡して協力し合うことも可能です。あるいは外部から爆弾部隊の支援を受けることもできます。要するに、地方司法と地方の法システム、そして平和警察、平和軍がある。連邦政府に頼んで事態を解決するのではなく、自分達で対処するのです。分かりますか。（「備える王国」 2017/9/3）

いかなる場合でも、必ず戦闘行為をとるということではありません。訴訟を起こしてもいい。適切な施設に依頼してもいい。段階を踏んで対処すればいいのです。しかしそれがアフガニスタンやその他のどの地域であれ、必要とあれば、厳しく取り締まることでしょう。全地は神様の憲法の統治下にあるので、それぞれ地域の人が問題を起こす愚か者を排除するのです。それらは中央で監督する警察でも軍隊でもありません。（中略）だからこれは従来の方法、つまり核拡散問題を中央政府が UN に権限を与えてやるやり方とは異なります。（「備える王国」 2017/9/3）

もちろん麻薬の使用は支持しませんが、それは州単位で規制されるべきです。タバコがそうです。教育によって人はタバコを吸わなくなりました。それがどれほど危険なことが教育され知れ渡ったのです。多くの人が、もうタバコを吸わないといいました。規制し、取締ったわけではありません。法律で禁止したからでもないのです。人々が脳にとって危険であると教育されたからです。肺にとっても悪い、肺がんの原因になると。（「不死の王国」 2017/4/23）

10%未満に制限された政府

普通、政治家に対して身を低くしてお願いするイメージがあります。アジアでは特にそれが強いのです。天一国の政府には法的役割がありますが、それは制限されたものです。その活動が GDP の 10%を超えてはなりません。その旨、法律で規定されています。（「王国の花婿」 2016/5/29）

政府の役割は必要最小限に限定されます。国防・法と秩序・裁判所を司る、限定された政府です。エデンの園での顛末を検証すれば、理想世界に対する神様のビジョンとサタンのビジョンとの違いが分かります。エデンの園に関して聖書及び原理がはっきりと示しているのは、神の子としてアダム・エバに神様はすべてのものを相続させようとされた事が分かります。そして天使長はアダム・エバ 2 人の主人を支える僕としてそこにいました。神様の理想世界のビジョンは我々のいう「自由な社会」です。そこでは人々が自由社会の市民が全体の 90～95%を所有します。政府の経済活動の割合は GDP の 10%以下に限られます。（「自由社会」 2012/7/12）

天使長（公務員）の立場とその主管

（ヘブル人の手紙 第 1 章）何と力強い聖句でしょうか。天一国を予示しています。パウロはこう指摘しています。最後の日、王国では、天使は・・・続きはなんと言っていますか？天使は「救いを受け継ぐことになっている人々に仕えるために、遣わされた」と言っているのです。天使はボスでも王でもありません。天使は「支配者」などではありません。支配するのはキリストから「救い」を相続した者です。もちろん天使はとても強力です。しかし天使は仕える者であり、支配者の下で使えるのです。（「適正な秩序の王国」 2017/7/16）

主体になれない宦官

宦官という内容を見てみると、去勢された男子とあります。原理では、男性格と女性格のどちらが主体格ですか？男性格ですね。宦官は去勢されていますから主体格にはなれません。僕が去勢されていたら主体的対象になれません。王国においては、誰が僕ですか？市民では、ありません。国家の役人です。天一国の公的な仕事に就く人は、GNP の 10 パーセント以上の収入を得ることはできません。彼らは公的な僕です。（「天一国文化」 2016/5/1）

王国にとって宦官は大切な意味があります。それは、天使長が主体的立場に立たないということです。天使長は、僕であって主体格にはなれないのです。天使長は霊的な宦官だということです。天一国では政治家もまた良い仕事をして、善良な生活をすることができます。天一国では政府の官僚が全て悪い人だということではありません。あらゆるチェックアンドバランスによって保たれています。（「天一国文化」 2016/5/1）

召使いになる宦官も出てきます。召使の位置に立たされに生まれてくるのです。人々の主体に絶対に立てないのです。主体とは人々の君臨者のことです。使えなければならないのです。ある人たちはそのようにされてしまいます。ある人たちは自ら進んでそのようにします。（「天一国文化」 2016/5/1）

天一国は私たちが実際に住んでいる場所です。ある人は政府の役員になろうと立候補します。実際は、それは宦官の立場です。使えるけれども主体と対象の領域を超えないということです。わかりますか？天一国憲法から見ると公的立場の人の役割は、イエス様がなんと言っているのかわかります。社会の安定にどう関わっていくのか。政治家、使えるものの正しい位置付けがどうなのか。物理的に生殖器を取られるという意味ではなく、主体に立つものではないということです。（「天一国文化」 2016/5/1）

公務員は選挙で選ばれる

西洋が世俗主義に陥った結果、キリスト教というルーツを失い、大学などの教育でマルクス主義教育に転向した結果、社会主義的原理に侵され、かつてのソビエト連邦のような EU（ヨーロッパ連合）を作り、選挙で選ばれてもいない官僚が他国まで政治にまで口を出す。EU はソビエトと同じだということです。同じタイプのシステムだというのです。簡単に言って、ソビエト連邦は悪だと認識しています。すなわちヨーロッパ連合も同様に悪なのです。イギリスやドイツ、オランダの人々の主権を奪っているのです。それぞれが自分たちの法律を作れないというのです。それを誰も選挙していない官僚がしているのです。仲間内で選んだ官僚がしているのです。それが問題なのです。それは常に政治サタン主義に陥るのです。（「大胆な王国」 2017/3/12）

今週の大ニュースはチェコ共和国での出来事でした。チェコ共和国では全体主義 EU の反対にも関わらず、銃所持の権利が認められました。「我々市民の銃所持の権利に EU が反対することを許さない！」といったのです。チェコの大統領が公の場で、「国民全員が武装することを支持する」と発言しました。チェコはドイツのすぐ隣の国です。この写真（王妃を中心とした銃を持つ女性たちの写真）が出るや否や、世界で旋風が起きたのです。ミクロの銃所持がマクロ（世界）で大嵐を呼んだのです。今 EU の国家間で闘っています。彼らは EU がヨーロッパのソビエトだと悟ったのです。EU は、一時言われていたようなユートピアではなく、ソビエト型の、選挙で選ばれていない官僚による支配が行われているのです。人の人生に口をはさみ、国々を規制しようとしています。あなたの町が他の国からあれこれと規制されるのです。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

公務員は僕

今までの王国では王と言えば権力の独占者でしたが、神様の王国では王はその国民であるというのです。では天一国の僕と

は誰のことを言うのでしょう。天一国にはもちろん議会もあれば上院議員も存在します。政府の役人もいるのです。選挙で選ばれた大統領も役人も存在します。また地方にも政府があります。天一国の僕とは政府および政府で働く者をいうのです。市民が役人に監視されるのではなく、市民が監視するのです。冗談ではありません。アメリカやその他の国で政府がいかに監視を行っているか知っていますね。天一国ではこれが逆にならなければなりません。市民が公僕を監視するのです。公正に法律を成立させているのか、市民に正しく仕えているのか、これを監視するのです。公務者は市民に負債を負うということです。（「逆さの王国」 2016/4/24）

カトリックであろうとバプテスト、メソジストであろうと、聖職者たちは権力構造に対してものをいうことを恐れるのです。サタンが支配するサタン世界に暮らしているからです。人びとが世界に支配権を有する神の国では、もはやサタンの支配を受けることはありません。逆にサタンに対してあるべき位置に戻るよう指示できます。人々は支配者として現れるというのです。（「死を超える王国」 2017/2/12）

天使長は主人となるようになっていません。人々の僕として作られています。そして人々がこの世界の相続者なのです。それは連邦政府の官僚ではなく、選挙で選ばれていない役人ではなく、傲慢なエリートではないのです。神の王国を受け継ぐのはこの地上の人々なのです。（「移る王国」 2017/2/26）

国民に命運を握られた公務員

市民が政府の役人と決算をするのです。そして、負債のある役人は王のもとに連れてこられます。そこで市民はその僕に「この悪い僕よ」と断罪します。長成期完成級の姿がまさにこれだというのです。これがアジアやヨーロッパの普通の人々をどれほど驚かせるでしょうか。これまでの文化には存在しなかったのです。役人の前に腰をかがめてきたのです。（「逆さの王国」 2016/4/24）

僕は主人に恩義を受けているものです。逆転の王国では公僕である政治家は主人である国民に恩義を受けているということです。国民が政治家の命運を握っています。政治家としてのキャリアを取り上げ他のもっと有能な者に与えることができるのです。天一国では国民一人ひとりが王の権力を持つのです。（「王国の花婿」 2016/5/29）

国民の目に露わな公務員

（官僚） 1 人を 2100 人で選出します。わずかな中から選ばれるのです。ですから本当に正直にやること、人格的に地域のために尽くすことに責任を持たされます。そういう風に政治家になることによって、生活を成り立たせることもできるのです。（「天一国文化」 2016/5/1）

天一国において「僕」は誰を指しますか。それは政治家です。政府役人です。天一国では政府の役人は適切に抑制均衡されなければなりません。2100 人の母体から選出されています。わずかな不正でも犯せば次は誰も投票することなく即、落選するでしょう。そして巨大企業等が 5 万人の国会議員を買収することは実質的に不可能です。全体主義ではわずか数人が頭に立ちます。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

もちろん天一国にも政治家はいます。2100 人の選挙母体から選ばれた議員です。彼らの活動は天一国でも正当なものです。しかし政治家としてよい仕事をしたいなら「僕」でなければなりません。（「王国の花婿」 2016/5/29）

選挙で選ばれた政治家は地元選挙民の代弁者とならなければなりません。コミュニティのレベルでは、僕である議員は地元住民の願いを果たさなければなりません。さもないと職を失うでしょう。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

生産性を問われる公務員

天一国は生産者の国です。他からの何の干渉も規制もなく好きなものを生産することができるのです。他の人のためのモノづくりに励み同時に聖書的原理を実践することで自分の家族を養うお金を稼ぐのです。良いことしかありません。政治家も同様です。彼らも自分たちの主人（国民）のために良いものを作ろうという動機づけが必要です。天一国の「王」「主人」は国民です。政治家は国民のためによい「モノづくり」をしなければならないのです。

例えばある地域で政治家（僕）が市民（主人）のために有力産業を誘致したり、自分のネットワークを使って多くの仕事を作りだしたりして雇用を創出するなど、5 倍価値あるモノを生みだしたとしましょう。このような政治家は祝福されて成功します。2 袋の銀を持っていてもそれが増え続けるという話です。他方、そういう「モノづくり」の努力をしない政治家はどうでしょうか。袋の銀を浪費してなくすことはしませんが、どこかに隠しておいたとしましょう。彼は自分の地元の「王の市民」のために何も良い働きをしません。そうすると彼らは持っているものまで取られて外に放り出されてしまうのです。（「王国の花婿」 2016/5/29）

無政府主義ではダメか？

この間とても明るい青年ととても良い議論をしました。彼はもう二年程、無政府自由主義の考えを持っています。（中略）無政府自由主義はまったく政府を必要としません。政府は武器を所有しますから、武器を持って国民を統治するのではなく、政府が無くて自由な貿易、自由な交流を通して成功したいと主張します。（中略）彼は天一国憲法の事を聞いて「そうか、でもそこにも政府が有る」と言いました。まだ若い青年です。そして或る晩、彼は夢の中でイエス様に会いました。イエス様は 18 歳位の年で、目は青く、髪は茶色でした。彼は「イエス様、こんな所で何をしているのですか？」と尋ね、近づいて行って「一つ質問してもいいですか？」と聞きました。「地上天国は無政府自由主義のようですか？それとも国進様や亨進様の言っている天一国のようですか？」イエス様は答えました。「国進様や亨進様の言っている天一国のようです」 それで彼は「それは確かですか？無政府自由主義のようではないですか？政府は武器を使うし、税金を課すし、盗んでいるようです」と聞きました。これらは典型的な無政府自由主義者の言い訳です。彼はこの様なすごい体験をしたのです。

私は彼に言いました。例えば、仮に世界に一つの州が有るとし

ます。そしてそれは無政府自由主義だとします。実際には不可能ですが、仮に有ると想定します。そこには政府は無くて、自由な交流だけ有るとします。これは思想的には理想的な状態です。一方、天一国の憲法は聖書と神の理想、アダムとエバのエデンの園の理想に基づいています。そこにはアダムとエバと、そして天使長がいます。天使長は本来主人ではなく、アダムとエバの僕です。アダムとエバは本来、国王と女王になるはずでした。天一国の憲法では、政府は国内総生産の 10%を超えてはならないと記しています。それはもし超えれば不法なので、全ての部署で一律に削減し、10%内に留めます。政府は最大限国内総生産の 10%を超えて大きくなれません。ですから、ある程度の連邦政府の存在を許しています。連邦政府が必要な場合が有ります。例えば、国が侵略を受けて、戦争をしている時です。国家的軍隊や警察が無いので、自衛兵や人民兵だけです。ですから、戦争時にはそれらを組織して軍隊とする必要があります。
二番目には独占禁止法が必要です。人間の性質として、政治家を買って法律に影響を与え、独占を試みるからです。権力の独占のないように法が必要です。天一国の憲法では毎回 10 年ごとに法の期限が切れます。毎年 10%の法律の期限が切れます。ですから、もし誰かがある政治家に大金を投資しても 10 年後には無意味になります。かなりしっかりしたコストベースの分析が必要でしょう。（「王国の秩序」 2016/7/31）

私は彼に聞きました。「純粋な無政府自由主義の国はどの位続くだろうか？」無政府でただ人の交流だけで、歴史的な人間の性質を考慮してみると、必ずと言っていい程社会主義や共産主義に移行する。男性と女性の投票の特徴を見てみると、女性は必ず大きな政府の傾向に投票する。例えば、福祉拡大や援助の必要な人へのサポートに賛成する。全ての女性を取り除かない限りは（そんな事が出来ますか？）、母性に依って女性は社会主義の方向に投票します。女性は共有し、共同でやります。統計的にも判ります。男性もその傾向は有りますが低い数字です。人間の性質からして、社会主義や連邦主義や共産主義に徐々に移行していくパターンから逃れることは出来ません。自由な意思を持っている人間は時々悪を選択します。ですから、無政府自由主義の状態で如何にして人々が社会主義的に小さい政府を作ろうとする試みを防ぐ事が出来るだろうか？人は小さいヒッピー的な共産主義の社会を作ろうとするだろうが、どうやってそれを防ぐのだ？または、小さい社会で誰かを選択し、兵を用意し、その影響を持ってもっと大きな政府を作ろうとするだろうが、それをどうやって防ぐのだろうか？無政府自由主義の状態で、それに反対する人達をどうやって止める事が出来るだろうか？それは不可能です。人間の性質を止める事は出来ません。
天一国の憲法はその点を取り上げています。天使長は必要ですが、僕としてであって、主人としてではありません。アダムとエバが王と女王で、市民が王と女王です。彼らが統治し、所有します。政府ではありません。市民が警察であり、軍隊です。確立された軍隊ではありません。人間の性質として、拡大しようとしても、憲法として、GDP の 10%を超える事は許されません。それ以上、人々のお金の盗む事は出来ません。そしてずっと前のアメリカの様に、所得税も有りません。VAT 税も有りません。VAT 税は利益に課される税です。利益を政府にあげて、政府が税を差し引いて返します。利益を天使長にあげて、祝福してもらい、少なくなっても、感謝して受け取るような考えられない事です。幾分盗まれているようなものです。天一国では VAT 税はありません。利益を聖書にある如くに扱います。利益は個人や代々を通して保存出来ます。
消費税は、権力を駆使して無防備な人から公的にお金を強いて取ります。権力を使い、盗んでいるようなものです。では消費税は盗みでしょうか？違います。天一国では市民が土地を所有します。アメリカ合衆国政府は国土の 50%から 60%を所有しています。とんでもない事です。市民が所有すべきです。なかには、市民が所有すればその土地は破壊されてしまうと言う人がいます。バカげた話です。私の所にロブスターが安価で配達されました。綺麗な場所でゴミ一つ有りません。国立公園でそんな事が有るでしょうか？有りえません。市民が土地を所有する時、それはお客様中心の心構えが有るので、ケアーがされます。所得につながっているからです。市民が土地を所有して何かを売る時、5 %の税を払い、もし戦争になった場合はそのお金をもとに国を保護します。個人の土地所有に基づいて、そのような税を払いますが、所得税や VAT 税は有りません。私たちが労働の収穫を保護します。私たちが王様で、神様が創造された万物を主管します。神様の王国を理解する時、これが神の王国の力です。イエス様は神の国の到来を宣教しなさいと言われました。神の王国の力は、興奮と共に、将来に起こりうるビジョンも生み出します。（「王国の秩序」 2016/7/31）

司法権（五権の一）

天一国合衆国の司法権は、一つの最高裁判所、および連邦議会が随時制定し設立する下位裁判所に属する。（天一国憲法 第二条 第一節）

天一国合衆国の司法権は、次の諸事件に及ぶ。この憲法、天一国合衆国の法律および天一国合衆国の権限にもとづき締結され、または、将来締結されるであろう条約の下で生じるコモンロー上およびエクイティ上のすべての事件。大使その他の外交使節および領事にかかわるすべての事件。海事法および海事裁判権に関するすべての事件。天一国合衆国が当事者の一方である争訟。二つ以上の州の間の争訟。州と他州の市民との間の争訟。異なる州の市民間の争訟。同じ州の市民間の争訟であって、異なる州から付与された土地の権利を主張する争訟。一州またはその市民と外国またはその市民もしくは臣民との間の争訟。（天一国憲法 第三条 第二節）

判事ではなく陪審団員が裁く

キリスト教文明圏と聖書を中心にしてすべての人たちに、全ての人々は神様の形状のごとくに作られたから、犯罪者も裁判長まで行くことになるでしょう。裁判長まで行って証拠を通じ、この人が有罪なのか無罪なのか、陪審団員が決定することになるでしょう。判事ではなく。どうして？判事は財閥が買うことがで

きます。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

死刑も執行する

天一国では世代を超えて、本当に危険な犯罪者を排除し、死刑も執行します。幾世代かけて「略奪層」を排除します。こうして優れた世代でより強力な「略奪層」が取り除かれます。特に死刑に相当する凶悪な犯罪者たちが排除される。ただ人々が良心に従って地方政府を持って暮らしていくというインフラだけではなく、文字通り「略奪者」の遺伝子を排除するのです。（「備える王国」 2017/9/3）

初期のキリスト教徒たちが、魔女を火刑や絞首刑にしたのもこれが理由です。彼女らが儀式を行っているのを知ったからです。（魔女は）メディアに守られることもない。天一国でも同じです。人がそれ（魔女の小児性愛儀式）を見つけたら、平和軍、平和警察が黙っていません。もちろん裁判も簡潔に行いますが、こういう輩は迅速に厳しい刑で処罰します。（「王国の王冠」2017/10/8）

立法権（五権の二）

この憲法によって付与されるすべての立法権は、上院と下院で構成される天一国合衆国連邦議会に属する。（天一国憲法 第三条 第一節）

反独占法の制定と軍の編成は議会の責務

議会は反独占法を制定しなければなりません。それは議会の権限の一部です。独占を継続的に取り締まっていくのです。また外的な攻撃があった際には軍を組織する権限があります。数多くのグループに分かれた民兵を組織して大きな軍を編成します。戦争終結後はそれを解散させるという明文規定が憲法にあります。（「王国の花婿」 2016/5/29）

10 年で消滅する法律

天一国の憲法では毎回 10 年ごとに法の期限が切れます。毎年 10%の法律の期限が切れます。ですから、もし誰かがある政治家に大金を投資しても 10 年後には無意味になります。かなりしっかりしたコストベースの分析が必要でしょう。（「王国の秩序」 2016/7/31）

独占を阻む王国

真のお父様御自身があらゆる派閥やグループを抱えておられたのです。その実情を知れば吐き気を催すことでしょう。お父様が派閥の確執をご存じなかったと思いますか。お父様をまともな方だと思うならそれはありえないことでしょう。お父様はまともな方です。

このことが天一国でもあり得るということです。起業家精神に富み、一人の指導者を中心にして小さな組織でいようとする。また別の組織はピラミッド型で、拡大志向に富んでいる。そして自由市場で軍隊のように活動し、自分たちのやり方でビジネスにおいて成功する。天一国にはこの二通りの組織があり得るのです。ここでそのピラミッド型上意下達型組織が結託して独占状態を作り出し、連邦政府を大きくしようとしたら問題です。天一国ではそれは無理です。彼らが作った法律は 10 年で失効します。要するに人々はピラミッド型組織で働いてもいいし、独立して仕事をしてもいい。（「豊かな王国」 2017/7/23）

どの様な組織も消化する天一国

家庭連合では服を着ている、我々は服を着るのには反対だ！これはおかしいでしょう。家庭連合では車を使っている、我々は車を使うことに断固反対だ！ちょっと待って。ただの機械だというのです。天一国、この王国はどちらでも大丈夫です。大企業も中企業も小さなビジネスもいいのです。小さな個人教会でも、インターネット教会でも、メガ教会でも全く構いません。王国は巨大なテントのようなものです。人々はそこで自由と主権を見いだします。そこではみんな仲良くできるとは限りません。組織のスタイルがそれぞれかみ合わないこともあるのです。ビジネスや教会の経営に関する考え方、哲学が必ずしも一枚岩ではありません。そういうものではないのです。意見が異なることもある。（中略）一点、お互いに自由な市場に関しては合意していること、これがあればOK です。それがお互いに結託して市場の自由を排除しようとするとき、その時こそ問題です。だからこそ天一国では独占禁止法が、常に更新され、大企業が有利な法律をつくったとしても、10 年経てば失効します。（「豊かな王国」2017/7/23）

最低賃金を決めさせない

天一国憲法では政府が最低賃金を決めることを禁じています。サタン的でリベラルな大手メディアによって洗脳された若者たちが「最低時給 2000 円は必要だ」などといいかねません。カリフォルニアでも「生活するために時給 1500 円は必要だ」などと叫んでいたでしょう。最低賃金を推進している企業がどこであるか知っていますか。ウォルマートなどの大企業なのです。最低賃金を引き上げるために何億もつぎ込んでいます。その動機は何かというと最低賃金を引き上げることで市場競争を優位に進めることができるからです。小さな会社は多大な人件費を支払うことができないのです。ですから政府と結託してそれら大企業が最低賃金の引き上げを画策しているのです。（「王国の力学」2016/5/8）

最低所得保障というのはミルトン・フリードマン（ノーベル賞経済学者）が提唱した考えです。負の所得税という概念です。経済学的観点からいうなら、負の所得税というのは、自分の所得があるレベルを割って下がった時、政府がその分を補償するというものです。この議論は、経済学の観点から出されたものです。負の移転、つまり最小の原因は経済へあたえる弊害も最小にするという考え方です。

最低所得保障について、私個人の考え方は・・・この社会の大きな組織から、もっと分権的な在り方への移行を求めている私たちからいわせれば、慈善も個人のレベルで行うという・・・この社会の移行において、現状から、希望する社会までの移行のプログラム、行程表が要るでしょう。そういう見方をすれば、最低所得保障も移行期の政策としては在り得るでしょう。それが最終的解決法だとは思いません。問題は、政府を使って所得の移転を行なうとき、それは基本的に、力と強制力を用いて富

を奪うことになります。国家の思想的基盤に不確かな要素が生じます。その国家は堕落したことになります。ひとたび、国の基盤が崩れたら、その国が自由の国であり続ける保証がありません。「強制」という滑りやすいなだらかな坂道を転がりだしたら、その傾向が強まるのに時間はかかりません。この議論を始めることの問題はここにあります。ひとたびそれを認めると自由の論陣をはることができない。
そのよい例を、アメリカの「銃所持の権利の運動」にみることができます。「銃所持の権利」を追求することにおいて彼らは１インチたりとも譲りません。いかなる妥協案、どんな小さな妥協案にも首を縦に振りません。むしろ銃所持のより大きな自由を求めています。だから最低所得保障にも、今よりましな政策だという人もいるでしょうが、確かにその面はあります、しかしわれわれのゴールにはなり得ません。なぜなら、その解決法をもとめるなら、自由を失うからです。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

執行権（五権の三）

執行権は、天一国合衆国大統領に属する。（天一国憲法第四条 第一節）

介入しない自然の王国

「何もしない王こそ、最高の治世をほどこす王である」これは老子道徳経にあることばです。そこでは無為の王こそ最善の王だというのです。国民の生活に介入しない王が良いというのです。それが最良の治世をほどこすことになるというのです。4000 年前の文書です。（「自然の王国」 2016/5/22）

この考え方は天一国にとっても重要です。天一国は自然の王国として存在します。自然の特性をよく理解することです。パーマカルチャーがそのよい例です。是非学んでみて下さい。生態系の何たるかを教えてくれます。こういうことについて私の息子、お父様が三代王に指名された息子と話をしたのです。その原則を息子に教えました。そうすることで、最高の王になるには介入を最小限に抑えるのがよいのだな、と悟ってくれるでしょう。これが天一国憲法の中でも重要な部分です。（「自然の王国」 2016/5/22）

政府は福祉を行わない

神の国はある人が種をまき、あとはなす術（すべ）がないというのです。しかし実はおのずと実るのです。これはたいへん興味深いことではないでしょうか。自由と責任の王国では社会保障がありません。そもそも福祉制度がないのです。子供を特定の価値観を植え付ける公立学校もありません。ただ三代が共に暮らすことを奨励するシステムがあるだけです。（「生命の王国」 2016/6/5）

イエス様は決して無償で食料を供与するような政府はつくらないでしょう。イエス様はキリスト者一人一人に慈しみ深くあれとおっしゃいました。個人個人が助けの手を差し伸べる責任を持っているのです。共産主義的なやり方ではなく一人一人の責任と愛によって隣人、兄弟を支えるのです。私たちがどちら側にいるのかが問題です。羊が王とともに立つのです。私たちは弱いかもしれません、弱く見えるかもしれません。踏みつぶすのは容易いと見えるかもしれません。しかし真なる人々が集い一つとなる時、勝利しかないのです。神様が私たちの側におられるからです。（「御国が来ますように」 2016/3/20）

公立学校を作らせない

天一国では公立学校は違法な存在です。公立の教育は禁止されています。私的に地方に任されています。子女たちは実学を学ぶように奨励されます。フェミニズムを学んだところでウェイトレスの仕事もできないでしょう。（「王国の力学」 2016/5/8）

トランスジェンダーに対する指導について話していましたが、連邦の管轄下に置かれた学校に行かせるよう強制するのをやめたらどうでしょうか。公立学校に子供を行かせるように強制するのをやめたらどうかというのです。両親に選択の権利を与えてはどうでしょうか。「その学校は良くないし、危険だ」などと言って自分で私立学校に行かせるように決めるのです。なぜ税金をすべて公立学校に与えるようにするのでしょうか。親にあげて選択させるようにしたらどうでしょうか。私立学校や、宗教的な学校、あるいはホームスクールといったように。競合関係になるようにして傲慢な公立学校がどうなるか見てみようではないですか。競合関係になれば、政府という武器で強制することができなくなるので皆そこを出て行くようになります。（「移る王国」 2017/2/26）

政府に環境保護をさせない

環境保護を政府がやるのも不法です。人びとが環境を守るのです。政府ではありません。（「正義の王国」 2016/3/27）

公的な土地所有をさせない

天一国は反対です。それは権力の中央集権化をさせません。それは子供の殺害、堕胎をさせません。中央集権的な大衆の教育または教化をさせません。中央集権的な土地所有、または政府が土地を所有するという公的な土地所有をさせません。（「逆転の王国」 2016/10/16）

固定資産税を許さない

これは固定資産税に見られます。あなたの主権のある土地に対する税金です。それは実はあなたがその土地に対して主権を持っていないことを意味します。それは天一国憲法においては違法です。建国の父たちが始めた頃は、固有資産税はありませんでした。（「キリストによる神の王国」 2016/6/12）

実はかつてのアメリカはそうであったのです。所得税も固定資産税もありません。すべて修正条項によってもたらされた罪です。かつて現実に存在していたのです。そして偉大な豊かさと自由と責任を享受することができたのです。奴隷制を除いて地上天国に最も近い国でした。（「王国の救い主」 2016/8/28）

国に薬物の取り締まりをさせない

トランプが進める（実際の）戦争と、薬物にたいする戦い。ジェフ・セッション（司法長官）はマリファナ等薬物についても強い取締りをしようとしています。取り締まりは国に大きな問題を

もたらします。私たちは薬物使用を支持しませんし、それらは悪です。お父様も駄目だ、人生を破壊するとおっしゃいました。しかし国がそれを取り締まるとより大きな問題が生じるのです。ギャングや闇市場が生まれます。それらの闇取引はギャングのボスを裕福にし、地上は地獄になります。地獄、地獄、地獄でコミュニティを引き裂き、破壊することでしょう。民間が運営する刑務所では受刑者を安くこき使うでしょう。（「不死の王国」2017/4/23）

王国同士の交流

天一国には王と女王の王国があります。王国同士の自由な交流があります。（「正義の王国」2016/3/27）

宣戦布告する

聖句では結婚式の招きに人々が応じなかったとあります。それどころか僕を捕まえて殺したとあります。すると王は軍隊を送り彼らを滅ぼしました。ここで王はただ怒って彼らを殺したのではないことに注意して下さい。派遣した僕が先に殺されています。この措置に正義があるということです。天一国憲法においても自衛のための戦争を開始するにあたりその手続き、誰がどのような権限を持つかが規定されています。（「王国の文化変容」2016/5/15）

天一国憲法ではまた戦争を始める時の規定があるます。他国に天一国の一部が侵略された時、天一国議会は武力行使を取るべきか否かを検討します。すべての国にこの種の規定があります。地域に限定される場合は「いまわしい者」をそれに見合う結末を迎えさせる方法を地域の管轄で判断します。一方国家間の外交レベルでもそのレベルに応じてこのような「よこしまな農夫たち」に対処する相応の対応策が憲法で規定されています。（「自然の王国」 2016/5/22）

言論（五権の四）[1]

連邦議会は、国教を定めまたは自由な宗教活動を禁止する法律、言論または出版の自由を制限する法律、ならびに国民が平穏に集会する権利および苦痛の救済を求めて政府に請願する権利を制限する法律は、これを制定してはならない。（天一国憲法 権利１）

連邦議会は、天一国合衆国のすべての報道会社または報道事業が、個々の市民（遺伝子操作がされていない、生物学上の人間）によって所有されることを命ずる法律を制定する。（天一国憲法 第三条 第八節）

私企業にメディアを所有させない

天一国では私企業がメディアを所有することを禁止しています。それは違法行為なのです。なぜそうするのかを知ることが重要です。天一国でメディアは個人に委ねます。企業ではなく個人が所有するのです。CNN などのメディアを企業が所有することを許しません。

アメリカには 200 を超えるチャンネルがあります。それを３つか４つの企業が所有しているというのです。つまり３、４人が全国の人々の見聞きする内容を決めているということになります。信じられないことです。

テッド・ターナー（CNN 創業者）とディズニー、そしてマードックなどの巨大メディアによって大概のメディアが支配されているのです。だから年がら年中くだらないメッセージを聞かされるというのです。家庭も親もそんなものはどうでもいい、結婚もくだらない、子供の方が何でもよく知っている、ドラッグがかっこよくて、フリーセックスがいい。そのようなメッセージで溢れかえっています。人々の幸せや人生を破壊するメッセージです。不幸になり、意気消沈している人々のほうが支配しやすいからです。こっちに行けと言えばすぐそっちに行くでしょう。賢明な人、天一国を理解し、権力構造を知り、中央集権に対する自由と責任を理解する人々は好まれません。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

これはローマ人への手紙 14 章の話だけでなく、王国において重要な事なのです。神の王国において、市民は信教の自由があり、出版の自由があります。この場合、出版メディアは個人が所有するものであり、訴えることもできるのです。多少の制限はありますが、基本的には自由があるのです。（「識別する王国」2017/3/19）

サタンの支配は国を盲目や唖、聾にする

国が、サタンの思想によって支配されているとき、共産主義、社会主義、フェミニズムでも何でも中央集権の天使長の権力、国がそのようなタイプのサタン的な病気、癌に取り憑かれているとき、その国では何が起こるでしょうか。彼らははっきりとしゃべることができるでしょうか。彼らは何も言えません。その国の人々は、はっきり見ることができるでしょうか。インターネットのサイトを開いてはっきり見ることができるでしょうか。そうです。プロパガンダですね。主流のメディア、国によってコントロールされた壊れたメディアです。それで人々ははっきり見ることができますか。盲目です。国が盲目になっているのです。彼らは聞くことができません。別の王国のことを聞くことができません。ラジオ局はコントロールされ、音楽もコントロールされます。国に何が起きるでしょうか。イエスの時のように。イエス様は盲目の人、耳の聞こえない人、しゃべれない人、動けない人を癒しました。それを国のレベルで見てみてください。中央集権の政府という天使長の癌にかかったとき、国としてはどうなるのでしょうか。もし人間だったら。国が擬人化されたとしたら。あなたは盲目になり、しゃべれなくなり、耳が聞こえなくなり、動けなくなります。あなたは病気です。興味深いと思いませんか。

そして、神様の指がその人に触れ、悪魔を追い出すとき、何が復帰されるでしょうか。視力、音、しゃべれるようになります！それは、共産主義や中央集権の政府から人々が解放される様子と似ているのではないでしょうか。面白いですね。つまり、霊的に神様とつながるのか、サタンとつながるのかということが、国のレベルで自由であるか否か、健康であるか否か、病気であるか否か、耳が聞こえないか否か、口がきけないか否か、盲目であるか否かを決めるということです。（「教化される王国」2016/9/18）

共産主義の手法の基本はメディアの統制です。そして大衆を

脳機能停止に導く。そうやって気づかないうちに大衆を支配下に置くのです。IQ、知的能力を下げているのです。何も考えないで、主流メディアの報道の真の事実に関心を持たせないようにしているのです。（「待ち望む王国」 2016/12/18）

彼ら（メディア）は海外の工作員や海外の大企業によって運営されていることが判明しました。アメリカの共和国の裏切り者であり、世界の自由圏に対する裏切り者であることが証明されています。何をしようとしているか、彼らに報告する必要はありません。自分の娘や息子に iPhone を持たせて会議を録画させて、自分のツイッターに載せるだけで良いのです。インスタグラムでもフェイスブックでも何でも良いです。自分がメディアになるのです。CNN に渡さないでください。完全に共産主義の放送局です。iPhone だけあれば良いです。安倍首相と会談しても娘が iPhone でアップロードすれば良いのです。そうすれば誰もが見られます。嘘つきでペテンの虚報メディアによってフィルターされることはありません。彼らは嘘つきであることが証明されています。（「王国は近い」 2016/11/27）

メディアはオーナー個人が責任を持つ

CNN をみてください。嘘と偽りの報道を垂れ流しています。テッド・ターナー（CNN 創業者）を告訴すればいいのです。CNN という会社を訴えても、理事会などの背後に隠れています。メディアを所有するならば、オーナーの名前で責任を持つのです。メディアがあなたについて根拠もなしに偽りの情報を流したなら、直接オーナーを訴えるようにすればいいのです。テッド・ターナーを直接訴えるのです。何百万人もの人々が直接テッド・ターナーを訴えればいいのです。これがメディアをコントロールするエリートたちにとってどれほど危険なことか分かりますか。有限責任会社や理事会の背後に隠れることができなくなる。自分は 32%の株を持っているだけだから訴えられない、などと言い訳できないようにするのです。

天一国ではメディアや出版社を持ちたければ自由に持てます。所有できるというのです。しかし、もし人を根拠もなしに政治的に排除しようという意図で偽の報道をするなら、何千人何百万人から直接訴えられます。直接、責任を負わなければなりません。だからこそ、僕となるべき天使長は神の王国を憎むのです。（「移る王国」 2017/2/26）

金融（五権の五）

中央銀行を作らせない

私たちの世界的なコミュニティでは、自立と相互依存を学習し高めていく過程で特別な技能とは別に基本的な技能を身につけてお互い交流を図っていくのです。騙し合いではない自由な交易、無価値な貨幣のやり取りではない実質のある価値の取引ができるようにするのです。ですから天一国では過去の共産主義、社会主義が例外なく必要とした中央銀行の存立する余地はないのです。（「王国の力学」 2016/5/8）

ぶどう園をめぐってまた別のたとえ話がありました。作ったぶどう園を農夫に貸し出す話です。天一国憲法では国々は自由に交わり、同盟することが認められています。共産主義国家でもいいのです。それらが一緒になって交易することができます。中国銀行のようなものが来てビジネスをしても構いません。ただし銀行業全体の１％以上まで独占をすすめることは法律で禁止されています。その範囲なら天一国で営業しても構いません。ロンドンやフランス、スイスで創業された銀行がニューヨークで営業しているのと同じです。天一国では海外からやって来て経済活動をすることは自由なのです。この聖句にある貸し出された農夫と同じです。しかしその農夫が「ここはもう我々のものだ」などといい出すようになるといけません。オーナーから送られた息子を殺すようになってはいけないというのです。「ここは我々のものだ」、こういいだすことは許されないのです。外国の機関、企業が天一国で経済活動して自ら養うことは自由です。しかしこれが「ここは我々の管轄だから中国国内法を適用する」などといい出すことを許しません。「さあ、我々の都合のいいように天一国憲法を変えよう」などといい出すことを許さないのです。そうなれば強制的に取り上げて天一国に編入します。（「自然の王国」 2016/5/22）

第６章　王国の守護

ところでイエス様はそのような国にも警告を与えられています。それは「キリストと共に歩むとき、十分な用心が必要だ」というものです。「私は休まない」と仰っています。警戒が必要です。こういう言い回しがあるでしょう。「自由は愛国者の血をその代価に支払う」よくよく用心しなければ自由と責任は、今のアメリカのように失われてしまいます。自由が取り去られるというのです。なぜなら人は天使長の嘘を信じ始めるからです。（「王国の救い主」 2016/8/28）

6－1 サタンの侵入を阻む

ここで知っておかなければならないことは、ひとたび天一国と天一国の到来を知るとプレッシャーを受けるようになるということです。皆さんは攻撃を受けるようになります。これは重要なことです。なぜなら天一国がこの世のものではないからです。人類史上このような王国がなかったからです。過去の王国とは徹底的に異なっているのです。ですから天一国の王国としての神秘、自由と責任、天一国憲法の奥義を知るとき、世の中から圧力を受けるようになるのです。悪いものが奪い取っていく、み言のための困難や迫害が起こってくるようになる。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

大きな樹に成長するとき、そこに可愛らしいスズメだけが巣作りするのでしょうか。聖句には樹には「空の鳥」が宿るとあります。ハゲワシも空の鳥ですね。鷲もハヤブサも空の鳥です。ただし猛禽類（もうきんるい）です。この樹に巣をつくるのは虫をついばむ可愛らしいスズメだけではないのです。天一国には鷲やハヤブサも宿るということです。自由と責任の天一国では中央銀行、独占的教育、中央主導の金融供給、中央軍、中央警察などの一切は法によって禁止されています。そこに多くの空の鳥がやって来るのです。そうした理由で天一国の人権条項の第二

が自己防衛の権利になっているのです。自分や配偶者、子供、隣人に対する危険を見極める力が天一国の安全にとって重要な鍵になります。わかりますね。天一国の安全保障です。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

常に必ずみ言に立ち返る

この若者は、人々が死に、飢えているだけでなく、文字通り撃たれて公開処刑されているのを見ていました。頭を撃たれて脳が吹き飛ばされる様子を皆に見させていたのです。1 メートルのロープを盗んだという理由で。これが常に歴史のパターンなのです。不運な選択、残酷な選択です。このようにひどい地獄を作っています。たった 1 人の人間がこのような地獄の世界を作るのです。1 つの血統がこのような地上の地獄を作ることができます。ですから私達はみ言に戻るのです。それはサタンの血統であり、天使長的な略奪者の遺産であり、伝統であり文化なのです。それが世代を超えて受け継がれ、それゆえに私達は完全な圧政の下にあったのです。イエス様は、私達は毎日神の国が来るように祈らなければならないと言われました。聖なる、義の方である天の父に祈らなければなりません。彼は自分の民にその王国をもたらす事を約束されたのです。そしてその王国とは死んだ後でから行く霊的なものだけではなく、朽ちることのない体によみがえらされる事でもありません。それはこの地上のものです。（「不死の王国」 2017/4/23）

サタンの原動力は嫉妬と妬み

地上天国は現実に人々が生活する場所だというのです。決して天使の舞うディズニーランドのような夢の世界ではありません。２週間前に「麦と毒麦のたとえ」で見たように、王国には「毒麦」も存在するのです。イエス様が語っているような問題を含む雑草もそこに生えるということです。そこに天使が登場して麦と毒麦を分けて毒麦の方を火に投げ入れましたね。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

弱さが結果不平等を嫌がる

社会主義は「弱い家庭」を量産し、それは結果的に子供時代の挫折感、競争避ける子供を生みだします。競争に慣れた子供との競争を避けようとするのです。結果の平等を求めます。勝者や敗者のない世界、全員がトロフィーをもらうという、みんなが気分良くなる世界を求めるのです。こういう傾向がアメリカの公教育にみられます。

保守的理論はそれとは全く異なります。自由市場、自由結社、自由貿易の原則があり、「強固な家庭」という単位から成る強固な社会がある。たとえ自分で始めた事業が失敗しても、頼るべき命綱があります。その社会では誠実な隣人を見捨てるようなことをしません。そのような人々こそ大きな資産だというのです。「強固な家庭」は成功の原理を教え、名誉と約束を守る誠実さを教えます。家庭の原理が子供たちの中に浸透するのです。競争を避けずに敢えて求めていく、後成遺伝子を発現させる精神。そうすることで大きな確率で子供時代に達成感を感じるようになるのです。そこでは競争は悪ではなく良いものと認識されます。競争は人を押し出し、より強く英雄的にするのです。（「実体的な王国」 2016/12/11）

平等を求める心が三大祝福を遠ざける

社会というものは、結局、基本的な原理・原則に基づいています。きわめて単純な教訓が社会、国家、世界の基礎にあるのです。世界を見るとき、大きくてとても複雑にみえるでしょう。複雑さが世界を作っているのではありません。根っこにある、基本的で単純な哲学的原理の上に全世界が成り立っているのです。だから自由な意志の上に築かれた社会と、強制の上に築かれた社会では、根本的な違いがあるのです。これは二律背反、お互いに交わらない原理です。うまく調和しないのです。水と油のように。結果平等の社会を追求するならば、力を用いて平等にするなら、それは絶えず自由意志の思想から自分を引き離すことなのです。そしてその強制力を作り出す組織が成長するにつれて、その力を濫用し、抑圧的力を強めていくのです。そうして、戻れない坂道を転がり落ちるのです。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

社会主義、共産主義などの全体主義と自由な体制の違いは全体主義では平等な賃金、平等な成果を約束することで嫉妬心を煽りますが、神様側の自由な体制では機会の平等を保障しますが必ずしも平等な成果を約束しません。「百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなる」、つまりその成果はどれだけ人々に奉仕したのか、社会の役に立ったのか、その高で決まるのです。ただしその自由な交流への機会は平等に開けています。結果はあなた自身の奉仕の内容で決まるのです。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

サタンの文化は嫉妬と妬み

イエス様はひっくり返った王国の話をしました 。本当に理解できますか？社会主義がわかりますか？共産主義がわかりますか？隣人を愛する事ができますか？社会主義において敵を愛することに価値を見出すことができるでしょうか？できません。不可能です。社会主義者は嫉妬深い組織です。嫉妬のシステムです。自由に機会があたえられるようなものではありません。様々な階級を作る組織です。（「正義の王国」 2016/3/27）

全体主義では例外なく家庭を弱体化し、その分国家組織に対する依存度を強めさせます。その結果、子供は家庭で健全に育ちにくくなり、競争を避けるようになります。そして結果の平等を求めるようになるのです。そして社会主義システムが必然となるのです。平等を掲げる社会主義で真の平等が実現するでしょうか。答えはノーです。労働者階級は永遠に労働者階級であり、特権階級がすべてを所有するのです。結局平等という言葉にひかれて何組かの家庭の僕になってしまうのです。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

サタンの王国の思想的基盤はなんでしょうか。選択の逆とは何ですか？力（強制）ですね。サタンの王国では基本的に、彼が自分より多くを持っているとしたら、そばに行って一緒になってそれを盗もうとするのです。それが社会主義でしょう？社会では、それぞれの人がそれぞれの量の社会資源をもっています。所持金の量も違います。それが不公平だと言って・・。不公平だとい

う人々を集めて、不公平だと叫びをあげる。そして盗み取る。もし人がそれに抵抗すると、どうやって盗みますか？どうしますか。その人たちを殺して、打倒し自分たちが作ったわけでもないものを、奪い取ります。それが社会主義の基本でしょう？それがサタンの王国の基本です。ねたみと嫉妬、奴は自分より多く持っている、奪い取ってやれ。そういう社会では、道徳は何によると思いますか。平等主義の考えは、正しくないでしょう。悪ですか？（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

王国は機会平等・結果不平等

機会の平等があり、結果は不平等になる、これがポイントです。人はそれぞれ能力に違いがあり、才能も異なるからです。そう、みんなそれぞれ唯一の存在です。たとえ、経済的平等を強制的に実現させようとしても、人は不平等のままです。幸福度に関して不平等は残るからです。ある人は別の人より幸せでしょう。ある人は愛する人とともにいるけれど、ある人は悲惨な状態でいる。だからたとえ、結果的に経済的平等をつくりだしたとしても、幸福における不平等が生じます。平等が生みだす結果は何ですか。

サタンやサタンの王国、サタンの思想、社会主義、共産主義について語るとき、その問題に直面します。「自分は犠牲者だ」「不公平だ」こういう思いを持つ心理は、決してなくなりません。経済的平等になったとしても。絶えず嫉妬の思いは生じます。自分自身の向上に目を向けないからです。苦労して、個人としての自己を見ようとしないからです。つねに自分を人と比較する。そう、根っこに他人への嫉妬があるのです。出て行って自分で人生を切り開こうとしない。惨めな自分の中に自分のアイデンティティを見つけようとする。結局それは何ですか？その自己中心の塊は？偶像崇拝です。社会主義の基礎は、偶像崇拝なのです。犠牲者である自分を崇拝しているのです。ここで十戒に戻るのです。だから神様はわれわれに偶像崇拝を禁じたのです。終わりがないからです。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

一方、「持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう」の意味は何か。神の国の神秘を悟らない人、その憲法の知識に欠ける人、神の国がどのように建てられるのか分からない人々は、社会主義や共産主義といった一方に偏った考え、「妬み」を促進する思想に捉われる。この者はあなたよりも多く持っている、恵まれている、それは悪であり、自分達に権力を与えてくれるなら奴らから奪い取り上げてあなたに分け与えよう、などとささやきます。その言葉に乗ってしまうと政府の奴隷になるのです。その結果持っているものまで取り上げられてしまいます。それは自由を売った代償です。社会主義、共産主義などを採用すれば、皆さん自身の胸の内で「嗚呼、自分は犠牲者だ」「権力を使って他の人の財を奪い取らせよう」などと考えるようになるでしょう。まるで悪魔です。ですから世界の社会主義、共産主義国を見て下さい。結局、国民は持っているものまで取り上げられてしまいます。その約束は偽りです。すべての国民は平等であるべきだ、世界のプロレタリアートよ立ち上がって大企業、資本家を排除せよ、資本と権力の集中がなされればそのあと自然に分散されるというマルクスの甘い言葉はけっして実現などしません。その中央権力による支配は強まることはあっても緩むことなどないのです。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

男女間の不平等を讒訴するフェミニズム

次に相対主義を持ち込み、結婚制度を破壊しようとします。ヒラリー・クリントンは福祉を拡大し、破壊家庭を援助し続け、女性が夫を追い出すよう奨励しました。男性嫌悪のフェミニズム、社会主義的文化を促進したのです。ある文明が他の文明を駆逐するとき、まずはその男たちを排除するのです。そうしておいて女性を支配し、そして子供を産ませて支配者に従順な者になるよう教育するのです。チン・ギスハンもそのようにし、ローマ帝国もそうしました。民族間の結婚は、平和目的ではなく、征服のために用いられたのです。意志をくじくために。男たちを全員殺し、女の意志をくじき、奴隷にしたのです。当時、社会学は存在しませんでしたが、敵対的な環境に置かれた場合、女性の方が男性よりもその意志を変えやすいことを知っていたのです。学習していたのです。社会学は知らなくとも、経験から知っていたのです。女たちを支配して、従えば生かしておくが反抗すれば殺すという恐怖を用いたのです。これは文明を支配する際の共通な手です。（「死を超える王国」 2017/2/12）

もちろんアメリカの女性も無実ではありません。フェミニスト思想を過去 50 年受け入れ、キリスト教の男性を悪者扱いしてきたのです。強いアベル型の、神様を中心とした男性を排除して悪者扱いしました。それを修復するために何を入れてその場所に立ち入るというのでしょうか。あなたがその場所に立つことはありません。支配的な略奪者が入ります。それはあなたの胸をさらけ出させて笑い、「自分はフェミニストだ」と言って殴り、組み伏せて死ぬまでレイプします。そして笑いながら唾を吐きかけます。アラーフ・アクバールと言いながら。彼らは愚かなフェミニズムなど受け入れません。どうして傲慢で天使長的で自己中心的で邪悪な女性を受け入れたのでしょうか。キリスト教の男性が悪い、奴隷と抑圧の根源だと言いながら。（「王国の王冠」 2017/9/17）

天使長の傲慢は何かと言えば、あまりに自分たちが惨めで情けなく弱きものであるゆえに、気のいい人、善良な人は弱者だとみなしていることです。自分たちがバンパイアのような弱者だから。だから人の魂を吸い取って、命を奪おうとするのです。親切で、実り多い善良で勤勉な人を見れば憎むというのです。善良であることを「弱さ」とみなして – だから少女たちもこれまで吹き込まれてきたでしょう、男性の親切は「弱さ」の表現だと – そして過激なフェミニズム運動に洗脳されキリスト教徒の男を憎むようになるのです。その結果、イスラム過激派の聖戦主義者を招き入れることになる、ヨーロッパのように。そして男がスカートをはくことを奨励され、それに文句を言うと「差別主義者」だとなじられる。

それが善良な男性を排除することの結果だということです。彼らはあなたを守ってくれて略奪者のように狡猾ではありません、名誉を重んじ、善良です。立ち上がってあなたを守ってくれるでしょう。文明がそういう男たちを排除したら、その位置を別の種類の

男たちが埋めるのです。その男たちはまったく別の種類の男であることを私が保証します。その文明に乗っ取られると、運命は性奴隷しかありません。性行為を拒めば、死ぬほどムチ打たれる。（男が性行為を求めるとき）乗っているラクダから降りなければ・・これはコーランからの引用ですが・・女がラクダに乗っていようと料理していようと、女は男に喜びを与え、アラーに喜びを返さなければならないという。マホメットのお気に入りの花嫁は 6 才のアイーシャでした。リベラルの社会主義者の大学教授らはその事実を教えません。そして 9 才になったアイーシャを蹂躙した。（「王国の王冠」 2017/10/8）

サタンの文明が第二祝福を破壊する

繁栄によって快楽主義的になり始める文化を持つようになると、自分たちが追い求めているタイプの宗教との集まり、あるいはまた相互関係を持つようになります。彼らは文明を強固にしたユダヤ・キリスト教的な価値観を拒否するようになるのです。それは子供たちに責任感や、神様に対して服従するような気持ちを持たせ、自分が責任を持つべき道徳の神様、正義の神様がおられることを学ぶ気にさせたものでした。そして人々は探求し始め、他の種類の思想を取り入れることによって、クリエイティブなことを考え、新しいことを考え、前衛的なことを考えるようになります。

例えば、良く見てみると（男女の）結婚から一夫多妻に移行します。イスラムはそうなっています。複数の妻が許され、何度でも離婚できます。それはつまり、アラーの法の下で合法的に無制限の女性（と関係する）ということです。そしてもちろん伝統的モルモン教も同じです。そして下に行けばもっと悪化していき、多文化主義になって道徳的相対主義を受け入れるようになります。そしてあらゆる性が社会的に認められるようになります。同性愛結婚も男女の結婚とまったく同じように安定したものになります。今このような運動があります。同性愛アジェンダは何年になるでしょうか。8 年ですか。すべてのデータはまったくの嘘です。群を抜いて最も安定していて、子供の虐待が最も少ないのは両親の家庭です。すべてが完璧という意味ではありません。めちゃくちゃになることがないという意味ではありません。それは強い市民、強い人々を作るための最も安全な社会ネットワークの社会単位であるということです。（「王国は近い」 2016/11/27）

サタンを見極める

天使長がどのようなものか分かるなら、連邦政府はまさに天使長の位置にあり、神の国を志向するグループとサタン王国を志向するグループとをはっきり見分けることができます。それは原理の力、啓示の閃きによって明確に分かるのです。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

神かサタンかの二つ

中国共産政権は大量虐殺者、抑圧者であり、市民を監視、検閲しながら中央政府に対する忠誠心を示す者には高い評価を下し、批判や悪口をいう者はマークされ、忠誠心がないと低い評価をつけます。そのためのプログラム・ソフトを提供しているのがフェイスブックのザッカーバーグであり、彼のような小心な負け犬、姦淫者たちです。中国がそういうプログラムを制作するのを手伝っているのです。最後には善と悪がはっきり二分されるのを見ることができます。中間のグレーゾーンはないのです。神側かサタン側の二つしかありません。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

共産主義者として登場する

共和党、民主党、関係なく政府を大きくしてきました。だから二大政党制という表向きに反して、外国勢力、ロスチャイルドの銀行カルテル、アメリカ乗っ取り勢力と結託して進めてきたのです。共和党なりすまし(Republican RINOS)、リベラル民主党、党派に関係なく。公然たる共産主義です。名前だけの共和党（Republican RINOS）はキリスト教徒を装いながら国を売り飛ばしています。むしろリベラルな民主党員よりもたちが悪いことがあります。羊の皮を着たオオカミだからです。少なくとも民主党は民主党として公然たる共産主義者として出てきます。だから簡単に見分けることができるのです。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

R-K タイプの闘い

R タイプは狩猟に適したウサギ、鹿、あるいはネズミといった、既存の生態系では特定の天敵が自分達を食べるから、本能的に繁殖のサイクルを早めます。R タイプの遺伝子配列はそれに適したものになっているのです。それに対して K タイプは捕食動物で知的に群れをなし、狩りをします。動かない植物を餌にするのではなく、動き回る動物を捕まえなければならないからです。その結果、より大きな脳を持ち、群れを成し、より高い意識を獲得します。オオカミやライオンなどがその範疇に入ります。それらの動物は食物連鎖の高位に位置します。これが K タイプです。知能をもっている。（中略）R タイプ生物と K タイプ生物との間には大きな違いがあります。また R-K 選択理論は政治にも適用できます。リベラル側は R タイプに見えるものに投票する傾向があり、保守派は K タイプのものに投票する傾向があります。中絶に関していえば、R タイプは中絶賛成に投票します。つまり子孫に投資しないし、一夫一婦制という制約もない。子孫の質の向上も一切考慮しない。気にかけるのはウサギやネズミと同じで繁殖する数だけなのです。子孫の価値は認められず、ただ子供を産むものとみなされ、それも細胞の塊にすぎない。性衝動の高まりは多くの子供をもたらし、親の好みが子供のそれよりも優先される。その結果中絶賛成にまわる。リベラル派の退行性はまさに R タイプのものと一致します。

一方、K タイプは一夫一婦で子供に大きく投資し、子供の成長にとって最も安全な環境を提供します。子孫の質の向上を重要視し、貴重なことは子供の数を増やすことよりも子供自体であり、性的衝動は抑え目で、子供の数が少ないほどよく、親の好みより子供の方が優先される。この表を見てもわかるように、K タイプは人間に関する限り、より保守的な人を指すと言えるでしょう。

もしあなたがサタンだとして霊界からこれらを見た場合、悪の王子、すべての嘘と悪の元祖が二つのタイプを見たとき、どちらを

殖やして地球を乗っ取りたいと思うでしょうか。それは R タイプだというのです。彼らは恰好の獲物であり、奴隷であり、この世の道具になるのです。サタン的価値と共鳴します。フリーセックス、過激なフェミニズム、銃規制、警察国家。
すべて R タイプと K タイプに分けることができることができました。統治形態、国境警備、銃規制、急進的フェミニズム、人間の悪魔化、経済とフリーセックス、そして最初にみた中絶。これらすべてにおいて R タイプはリベラル派と一致しました。そして K タイプは政治的な面においては見事に保守派と一致したものです。（「実体的な王国」 2016/12/11）

R タイプは常に中央政府を好みます。それが資源を盗み、性的活動を活発化させて、自分たちの遺伝子を増殖させるのに適しているからです。一方、K タイプはそれを望みません。なぜなら、市場での競争を通じて富を創造し、成功することができるからです。それが高いレベルの遺伝子を引き寄せ、高質な人間を導くのです。どのような分野を見てもそこに R タイプ、K タイプの区別を見ることができます。人類も R-K タイプに分けることができます。
公立学校での洗脳教育によって、K タイプ家庭の子供を R タイプに変えることができるということも後成遺伝を通して知りました。たとえキリスト教保守派の家庭であったとしても、R タイプに変換される大きな危険性が、公教育、大学教育を通して存在するということです。これまでそういうケースに遭遇した方もいるでしょう。それゆえに天使長は中央権力、中央による教育、中央による医療をもちいて普通の人の後成遺伝を変える。また薬物を使って変え、創造主との関係を変え、究極の忠誠心まで変えようとするのです。脳の神経系統までも変更し、新たな記憶領域の創造までしながら化け物を創り出すのです。（「実体的な王国」 2016/12/11）

サイコパスかそうでないか

人口の 10 パーセントを占めるサイコパスは、弱さを見つけるとそこに付けこみ食い物にしようとします。40 パーセントはソシオパスであり、利益を得られるのであれば、サイコパスや搾取階級と一緒行動します。いわゆる「良いナチス」というようなものです。悪いと分かっていても、利益が得られるとか恩給がもらえるということでそれに従う人々です。そして残りの 50 パーセントはそういった傾向を持たず、利益のためにサイコパスだと分かっている人に従いません。一生懸命働いて暮らしていきたいと思っている、普通の人々です。それが人々の社会学的な内訳のようなものです。（「王国の防衛権」 2017/12/24）

金持ちと貧者、白人と黒人の区別が問題ではないのです。一般人とサイコパスの 2 種類あるというのです。サイコパスには白人もいればアジア人もいます。黒人のサイコパスもいるのです。貧乏人にも金持ちにもいるのです。サイコパスはどこにでもいるのです。重要なことは、普通の人々が団結して、略奪層と闘うことです。黒人、白人、アジア人、中国人、関係ないというのです。一つになって中央集権権力と闘うのです。絶え間なく継続的に戦うのです。前線で一つになるのです。だから世界平和統一聖殿は団結しているのです。黒人も白人も関係ありません。神の側に立っているかそうでないか、これが大切なのです。サイコであるのかそうでないのか。それを見るというのです。（「大胆な王国」 2017/3/12）

億万長者のトランプが労働者階級によって当選したのです。これが社会主義的考え方でどうして可能なのかという話です。トランプは超、超上流階級です。それがブルーカラーの労働者から支持されて当選したのです。階級闘争で考えてまんまと騙されてはいけません。それが彼らのやり方です。問題はサイコパスかどうかです。億万長者であったとしてもサイコパスでなければ私たちの仲間です。私たちに代わって、権力を集めようと懸命なサイコパス、サタン崇拝者と闘ってくれるのです。（「大胆な王国」 2017/3/12）

聖書で分類すると、略奪者階級というのは狼です。略奪者は金持ちで中間層は貧乏です。マルクス主義は、いつも白人と黒人の間が問題だ、金持ちと貧乏の間が問題だ、それがすべての分裂と戦争を生み出すのだと言っていますがそうではありません。問題は略奪者階級と一般階級なのです。聖書では狼と羊と言っています。それが本当の分断なのです。なぜなら、狼は中間階級にも上層階級にも、下層階級にすらいるのです。彼らは中央権力と癒着するために一緒に働きます。そして最終的に作り出される世界は、文字通りサタンが作り出す世界となるので、政治的な悪魔崇拝だと呼ぶのです。（「識別する王国」 2017/3/19）

ミクロ世界の家庭詐欺連合であっても、マクロ世界の反トランプであっても、そこには霊がいるということです。それらは同じ霊で、同じ王国を作ろうとしています。彼らは同じ権力構造を地上に作ろうとしています。凝固した官僚機構です。完全なピラミッド構造のトップに君臨するのです。全世界の統治構造、最高委員会です。非常にみじめで非常に弱く、非常に悪魔的で、非常に邪悪です。（「攻撃を受ける王国」 2017/2/19）

サタンは福祉で主権を奪う

政府の正しい役割やそのヒエラルキー構造を考えるとき、（この世の）政府は、国民の僕であるべきものが中央に権力を集中していく過程で、他の腐敗した権力と合体して主人になったのです。（「死を超える王国」 2017/2/12）

衆愚政治に陥らせて主権を奪う

ここでもう一つの問題です。民衆迎合、ばらまき福祉は何を指すのでしょうか？天使長はエバを誘惑する時、どう言いましたか？政府が女性市民を誘惑するときどうでしょう。政府は囁きます。「政府があなたの面倒を見ます」「旦那さんがいなくても政府で世話しますよ」結婚なんてする必要ありません。政府を信じなさい。教育費？無料にします。健康保険？政府で保障しましょう。私（政府）があなたを保護します。私（政府）を信じなさい。権力がありますから。政府はこう言いませんか？立場の弱い人々に約束して。政府は何をしますか？せっせと役人を雇うのです。官僚たちを。その官僚になるのは世の男性たちです。このように天使長（政府）はエバを誘惑し、そのあと二人にしてアダムを誘うのです。人間堕落の再現ではありませ

んか？ここまで見てきたようにポピュリズム（大衆迎合）はまさにサタンが天使の立場から人間の主人に立つ過程の作戦といえます。ポピュリズム（大衆迎合）こそ人間堕落への道です。この方法で政府は「僕」から「主人」、つまり独裁者に成り上がるのです。そしてアダムとエバ（市民）は神の子から、つまり社会の主権者からサタンの僕となり、選択の自由を失くし、自由を失くし、責任を失くすのです。そしてアダムとエバから神様は離れ、彼らは理想世界から締め出されるのです。（「自由社会」 2012/7/12）

しかしお父様のおっしゃる「自己主管型社会」は可能です。ここアメリカで実際 200 年間も「自己主管型社会」は成立していたではないですか？すくなくとも 1900 年代始めころまでは。その 200 年間、政府は GDP の 5%しか使っていません。現在はどうでしょう。GDP の 25%も政府は使っています。見返りに市民は政府から何を得ていますか？黄金時代とも呼ぶべき 200 年間には、我々には自由がありました。政府の介入なしに教育も医療のすべてが上手く機能していました。欲しいものを買い、必要に応じてお金を使いました。それだけでなく、福祉は民間で運営され、慈善は個人レベルでなされていました。お互いを労わり合うのに、政府の介入が必要ですか？政府が福祉事業を独占して福祉の質が上がりますか？要するに政府が社会福祉と称して、介入していることによって、隣人を労わり合うその間に政府が割り込んできているのです。思いやり、労わり合いの「仲介人」のごとく、政府が割り込んできているのです。昔なら、あなたを助けたいと思えば、「私」が助けたのです。あなたの目を見て話を聞き、あなたの事をよく知っていますから、あなたが不幸な目に出会ったと知れば、私が助けるのです。自分の力で立ち上がれるように。いまはそれをしたくても出来ません。政府が私のお金を全部取り上げますから。政府が「私たちがやる」というのです。彼らは慈善の「仲買人」に成ったのです。その結果、我々は隣人に対し、憐れみ深くなることもなく、バラバラにされます。分断され、距離が生じるのです。もはや思いやりの行為の自由もありません。悲しむべきことです。アメリカ人は本来、思いやりのある人々だからです。このように慈善を破壊するシステムを作ってしまいました。（「自由社会」 2012/7/12）

多数決が人権を奪う

考えてみて下さい。99%の人が投票して自由を求めたとしましょう。しかし残りの 1 %がそれを拒否し、反対するものを殺していくとすればどうなるでしょう。お前たちが平和と自由を求めるならお前たちを殺して自分は独裁者になると言うのです。独裁者は多数決で選ぶ「自由」などに縛られることなどないのです。独裁者は自分で法律をつくることができるからです。このような「独裁者原理」がいつも優位に働くのです。「人間が自分達ですべて決める」というシステムでは必ずといっていいほど独裁者がゲームに勝つのです。そのようなシステムの社会では 51%が賛成すれば「権利」は直ちに消え去るのです。そして独裁者の軍門に下るようになります。論理的で知的にもまっとうな理屈です。（「愛の王国」 2016/7/10）

宗教を嘲る無神論者においても同様のことが言えます。統計的に無神論者の 70%は選挙では左翼に投票しています。彼らは神様を排除してそこに国家を受け入れています。「大きなビルを建てて、変な衣装を着て、天のお父様？妄想に浸っていなさい、ははは」などと信仰者を嘲りながら自分達は「政府」という妄想を一生懸命に信仰しているのです。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

天使長（政府）は常に嘘をつく

この政府に雇われている科学者は、「連邦政府を『神』のごとく信じていれば助かる」といいながら政府が力不足であることを認めているのです。ハリケーン・カトリーナ（2005）では対策が完全に失敗しました。今回のハリケーン・ハービーではどうですか、漁師や狩猟者といった普通の市民がバス・フィッシングのボートで人々を助けて回りました。一般市民がですよ！緊急事態管理庁（FEMA）は現場とは離れた場所で手間取っていたのです。彼らは全く準備できていなかった。市民自身が対処しなければならなかったのです。普通の漁師が自分のボートで家々を回って救出していきました。そこに FEMA のチームはいません。土壇場で危機を救ったのは一般市民だったのです！愚かな中央政府ではありません。いつだって天使長（政府）は嘘をつく。（「備える王国」 2017/9/3）

サタンの国家は暴力

国家とは何か。それは暴力・武力に他なりません。それを背景にした「強制」です。監視と検閲です。人々の自由を認めることはありません。キリスト教徒が自由に信仰することも許さないのです。神の国には神が与えられた自由と責任があります。三大祝福があります。「生育せよ」「繁殖せよ」「万物を主管せよ」決して「傲慢な天使長に支配されよ」とは仰いませんでした。天使長は僕であり、政府権力内で働く者たちは僕だというのです。国民に仕える僕であって主人ではありません。ジョージ・ワシントンは、政府は「暴力」だといいました。危険な僕、恐ろしい僕なのです。（「移る王国」 2017/2/26）

「正義の秤」が象徴しているのは現代の暗殺者、ジェームズ・ボンドのような殺人のライセンスを持った者たちを抱えているものです。皆さんはそんなものを持っていませんが、政府がやればそれは国家の安全保障だということになるのです。一般人が人から盗めばそれは泥棒ですが、国が盗めば税金ということになります。天使長はいつも自分の犯罪を「人のため」である、「全体のため」であると見せかけるのです。古典的マルクス主義者のプロパガンダです。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

中央集権化して共産主義や全体主義を作り出す

エリートは、学術界は権力を持つと必ず共産主義、社会主義、全体主義を作り出すのです。100 パーセントそうだというのです。特別な知識を信じる人々、また超最高レベルの知識人は、中央集権の権力、天使長的な権力を作ろうとします。そしてもちろん、それが地上の地獄を作り出すのです。どのようにして他の人々を支配するのかということに結びついた思想なのです。（「王国の相続人」 2017/4/30）

政府も大きな建物を持っています。おそろいの衣装もあればバ

ッジまで持っています。殺人に許可を与え勲章までくれます。市民は軍服も与えられず、人を殺すことは禁じられています。人を殺せば殺人です。裁判官は奇妙な衣装を身に付けかつらを着けることもあります。銃をもって市民に対して強制力をもっています。つまり神様を捨ててそこに政府を招きいれているだけなのです。天の父ならぬお上（かみ）である政府に面倒を見て欲しいというのです。
信仰者を嘲る内容を自分達は政府に求めているのです。「政府」が彼らの神になっているのです。「無神論者」の 70%が「政府」大好きなのです。もはや完璧な全体主義者という他ありません。彼らは「無神論は政治とは何の関係もない」と主張していますが、青い目の人の 70%がヒラリー（クリントン）に投票しますか。政治的志向性が存在しなければ 70%もの人が同じ行動をとることはないのです。明らかに「無神論者」は左翼全体主義を志向しているということができるのです。
そもそも「政府」とは何ですか。ワシントンの建物群が政府ですか。サン・ピエトロ大聖堂がキリスト教会ですか。聖職者がキリスト教を意味しますか。そうではないでしょう。建物でもない、そこでバッジの付いた制帽をかぶり制服を着て座っている者達でもないとするならでは一体「政府」はどこにあるのでしょうか。現実に今、内部崩壊しようとしている西洋の現状を見て下さい。政治家はまるで古代の神官のようです。強大な権力をもって高い建造物の中に鎮座し、あらゆる尊敬と腐敗した恩恵を手にしているのです。（「王国の文化変容」 2016/5/15）

ロスチャイルドがすべての枝を所有する樹のうち、ソロスは一つの枝を任されて、不安定化のための様々な策略に資金を調達しているのです。あらゆる方法を使って資金を流し、共産主義を拡大する勢力に力を与えています。中央集権国家、中央集権天使長、共産政府を欲するからです。そうすれば一人の顧客、一つの政府を握るだけで一国を支配できるからです。だから天一国では中央銀行、中央政府をもつことを禁止しています。連邦政府も GDP の 10%以下の規模で許されます。中央銀行、中央集権教育、中央軍などはすべて禁止です。なぜならそれらはサタン世界の残滓（ざんし）だからです。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

歴史的にも中央権力として存在する「武力」こそ最も危険な存在であるということを我々はよく知っています。独裁者がそれを掌握することはいともたやすいというのです。この天使長的サタン的パターンが人類堕落歴史の中で何度も何度も繰り返されるのをいやというほど見てきたのです。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

フェミニスト運動というのは、すべて若い女性を社会主義者に仕立てるものだというのです。それがすべてです。彼らは中央集権の政府を求めており、人々に権力をふるい、納税者からお金を盗み、自分たちの組織に入れるのです。資源を移したいのです。彼らが欲しいのは社会主義者です。彼らはどん欲で醜く悪魔的な、取り憑かれた悪なる人々です。（「攻撃を受ける王国」 2017/2/19）

家庭を破壊して社会を潰す

夫婦、そして家庭を破壊する

家庭での夫婦がその出発点です。天一国の王と王妃、サタンはそこをまず攻撃してくるからです。用心しなければならないというのです。サタンが王国の破壊を狙っていると知らなければなりません。サタンは独立した王が集まりそれぞれが王権を持ち、主権と王国を守る権利を持つような国を好みません。皆が国の奴隷となるような国家を好むのです。（「王国の救い主」 2016/8/28）

政治的サタン主義の目的は何でしたか。幼児殺し。夫婦関係の破壊。もう一度夫婦になろうとすると、「あなたはいつの時代に生きているのですか。男と女だけが夫婦じゃないですよ」などと言います。オバマが制定した法律によると、高校生は自分の好む性別を選んで良いというのです。「先生、僕は女性です」といえば、彼が筋骨隆々の髭を生やしたフットボールプレイヤーだったとしても、先生は彼を「女性」として扱わなければならないのです。こんなバカなことが起きるのです。法律は既に用意されているのです。少年が「私は女性です」といえば、女子のロッカールームにもシャワー室にも入ることができるというのです。一体どんなサタンの麻薬を吸えばこういうことができるのでしょうか。政府が「お父さん」だとするなら、こんな危険を冒す「父親」とは一体何なのでしょうか。まるで飢えたオオカミの中に羊を送るようなものではないですか。ワニの群れの中に送り込まれた子羊はどうなると思いますか。それが「愛する父親（政府）」のすることですか。決して「愛する父親」などではありません。ただ人を汚し、ガラクタのようにしか考えないものたち、神様が定められた真の王、王妃の位置につかせたくないだけなのです。幼いうちから意志を打ち砕き、もはや戦う力も奪い去ろうとしているのです。幼いころに大きなトラウマを抱えさせられ、意志は打ち砕かれ、内にこもる弱き者にされているのです。彼らはよく知っているのです。動物で研究し、サルでも犬でも実験し、人間行動を研究し、パブロフも何でもすべて研究し、最高位にいる心理学者、精神科医は知り尽くしています。行うことはすべて、人間の意志を挫くこと、そして天使長に侍らせる。（「死を超える王国」 2017/2/12）

黒人家庭と社会の破壊

パリサイ派がほとんど政府の役人であることを思うとき、現代の政府が少数派に対して政府寄り、中央集権寄りの考えを吹き込み、政府のことを愛のある保護者であり父母であるなどといって懐柔します。政府は少数派に役人を送り込み、その活力を奪うのです。1940 年代にアメリカで起こったことです。リンドン・ジョンソン（36 代大統領）というテキサスの石油王がやったことです。本当に人種差別的発言をしているのです。「これらの勢いを増している者たち（黒人）も我々に投票するように、少しバナナでもやっておけ」こんなことを公開された文書の中で語っていたのです。当時黒人は成長目覚ましかったのです。起業精神も旺盛で、大学進学率も高まり、その 80%以上は両親そろった家庭でした。そこにフランクリン・ルーズベルト大統領のニューディール政策で、「政府は貧しい黒人家庭に同情している、

皆さんの面倒を見る」といいながら政府の援助を受けるには離婚届が必要だとしたのです。そのせいで、黒人コミュニティの80%を占める安定したキリスト教信仰を持つ家庭が 30～40年後には、30%以下に激減しました。そして上昇機運にあった黒人社会は、それ以降低迷しました。（「死を超える王国」2017/2/12）

神様から離れさせる

イスラエルの人々がイエスを拒絶し殺害したように、この 30 年のうちに国全体が破壊されてしまったのです。神様の保護の障壁が無くなってしまうと、神様から背をそむけるという決断を神様が受け取ってしまうと、後は自分一人で何とかしなければなりません。その城の外に潜んでいるあらゆる狼と略奪者たちに直面しなければならないのです。神様は私たちが後戻りすることも尊重してくれます。後戻りして、神様を呪い、すべての事をやってしまった後で、死ぬ間際になってから「神様どうして私を見捨てるのですか」と言いますが、あなたこそが愚かにも神様を見捨てた張本人ではないかというのです。人間はいつでも自分には責任、道徳的責任がないふりをしようとしますが、それはもちろん悪魔崇拝だという事なのです。（「不死の王国」2017/4/23）

血統を奪う

みなさん、見てください。血統の話です。最後は血統の戦いです。ですから、愚かな悪魔のシンボルにはいつも勃起したペニスと奇妙な蛇があります。勃起したバフォメットというのは性的にあなたを奪う準備ができているということです。なぜなら、彼らは性的な堕落だということを知っているからです。彼らは知っています。彼らは、それを実践している人が血統に繋がるということを知っています。知っているのです。神様の側で、王国を建設しようとする人々、これから来る天一国。私たちはこれが血統の戦いであることを知らなければなりません。彼らに血統を奪われてはなりません。みなさんの血統は尊いものです。あなたの血を流してはいけません。その血統は千年王国が来るために戦われてきたものです。それを汚さないでください。（「王国の神の光」2016/10/2）

御しやすい女性に侵入する

弱い女性を狙う

國進様は何と言われていたでしょうか？彼は女性たちに話していました。「暴君は皆、あなた（女性）の投票を必要としています」それがどれほど正しいでしょうか。最初から考えてみましょう。サタンが（エデンの）園を奪うためには、彼は誰の投票が必要だったでしょうか。エバの投票が必要でした。ではあなたが政治家なら、そしてあなたがヒットラーやスターリンのような暴君になりたいとしたら、誰を標的にするでしょうか。中央集権の政府のために票を稼ぐために、どういう人たちを標的にするでしょうか。より安全で安心な暮らしを約束して。それは女性です。女性たちが、文明の運命を決めることになるのです。もし悪魔にあけ渡してしまえば破滅します。神様に従い、自分自身を大事にして保つなら、王国を救うことになります。暴君は皆、あなたをつかまえるために跪きます。悪い男は女性を怖がらせるので簡単に捕まってしまいます。すぐに怖がるでしょう。小さなクモを見ても「ギャー」と言って。私の妻は小さな音でもびびってしまいますので、一番楽しいことはドアの後ろに隠れて驚かすことです（叫び声まねされながら）。それは一番面白いことです。おかしいでしょう。大の大人の女性が。男性には効きませんよ。文化が違うのです。女性たち、それは異なる文化なのです。その現実を見てください。（「教化される王国」 2016/9/18）

これは孫子の話です。妾の話があるのですが、武王の話を聞いたことがあるでしょうか。そして孫子は兵法を執筆した人です。彼はどのようにして権力の座に就き、武王の下に仕えることになったのでしょうか。王は次のように言いました。「この妾達は私のものだが彼女たちは軍事作戦で戦うことはできない。武術もできないし、そういうことはできないのだ。ただ何かをみてクスクス笑うだけなのだ。隊列を組んで何かやらせることなどできない。もし、彼女たちが隊列を組んで行動するようにできたら、お前を将軍にして権力を与えよう」そして、ここに（スライドの絵を指して）孫子がいますが、ひげを生やして、アジア人はあまりひげがたくさん生えませんね（笑）。長いローブを着ています。そして中国語でしゃべります。（中国語で何かしゃべられてから）私は中国語ができますので、これはでたらめではなくて本当の中国語ですよ。そして彼が何と言ったかというと、下のほうに二人の女性がいますね。彼女たちがそのグループの司令官だと思われます。その二人の女性は、妾の代表者か何かわかりませんが、彼に「ではこの作戦を行ってください」と言われます。すると彼女たちは、ただクスクス笑っていました。それで孫子は、「この者たちを処刑せよ」と言って、彼女たちは首を切られてしまいます。すると他の女性たちはさっと整列し、「左、右、左、右」と言って完璧に行進します。

この話から何が分かるでしょうか。女性たちは簡単に脅されるということです。天使長は、女性の不安や心配に付け込むのです。自分について持っているすべての小さな事で、彼が必要だと信じ込ませるように脅されてしまうのです。もし彼を信じたらどうなるでしょう？あなたを守り、面倒を見て、幸せにしてくれ、力づけてくれ、それで 50 年たつと、あなたの家族は奪われるのです。子供を堕胎するのであなたは殺人者になり、善なる男性を追い出し、周りの社会も息子たちも犯罪者になり、お金もなくなり、３つの仕事をしてもすべて政府に、連邦政府のヒモに盗まれてしまい、すべてを失います。あなたは騙されていたのです。（「教化される王国」 2016/9/18）

女子も武力を持つ

私は子供たちに言いました。宮殿とはなにか。宮殿を宮殿にするものは何であるのか。王がいて初めて宮殿になる。王様がいてこその宮殿であり、そうでなければただの大きな建物にすぎない。この先、その建物の大きさはその千倍、万倍になるかもしれない。しかし問題は王権とお父様の王国を代表していなければならないということだ。強くて絞め技に長けていて、銃も扱えてしかも謙遜でいること、そうなることは男の子にとってそれほど難しいことではない。重要なことは、女の子もそれができるようになるということなのだ。娘もそれができるようにならなければ、韓オモ

ニが陥った同じ罠にはまる。（「王国の選民」 2016/10/23）

国民から銃を奪う

歴史的に暴君たちは常に銃の所有を奪って行きます。そして暴君たちは、もし自分の気分が良くなければ人達を殺します。金正恩のように。市民たちに銃の所有がなければただやられるしかありません。奴隷たちだから。天一国では市民たちが宗族の王と王妃たちとしての銃器所有をしなければなりません。（「銃器所有神学論」 2017/12/20）

政府が国民を武装解除させる

中央権力を欲するものは、政府を武器として自分たちの「計画」に従わせることを強制してきました。傲慢なエリート、知的マフィアたち。「宗教は大衆にとってアヘンだ」とマルクスは言いました。「マルクス主義はインテリにとってアヘンだ」と付け加えるべきでしたね。奴らはとにかく権力を握りたいのです。社会を支配したいのです。一般の人々を自由にしておかないのです。銃も持たせたくない。自分たちのような独裁者から自己防衛させたくないのです。武装解除して弱体化させ、子供を引き離し、家庭を破壊し、結婚を相対化させる。いろいろな性別をつくりだす。フェイスブックでは 72 種類の性別を用意しているというのです。コスモ・ジェンダーやらアミカ・ジェンダーなど、人の「感性」を基盤にしているのです。彼らは性別というよりも気分の分類を言っているのです。これは現実に起きていることです。（「移る王国」 2017/2/26）

独裁者は例外なく国民を武装解除させるからです。フィデル・カストロ、レーニン、ヒトラー、毛沢東、オバマ、ヒラリー…この者達は「危険だ」と言って国民に銃を持たせません。ところが、自分たちの持つ銃は危険ではないのです。15 人の警護の人間が銃器を持っていても危険ではないといいます。中央軍、中央警察は危険ではないのです。しかし一般国民が家庭をもち子供をもち、家族で映画やイタリア料理を食べに出かける、そのような一般人が銃を持つと途端に「危険だ」というのです。（「移る王国」 2017/2/26）

フェミニストたちはドナルド・トランプが大統領になるから銃を持てといっています。オバマの 4 年間は銃を取り上げようとしていましたが、今は自分達に銃が必要だといっています。まさに狂っています。自分たちが権力を握っている時は「ショットガンは駄目だ！」といいながらドナルド・トランプが政権をもった途端に、リベラル、進歩派は銃を持て、と言っているのです。精神が病んでいます。（「生まれ変わる王国」 2017/1/22）

この科学者が何を言いたいか分かりますか。「国じゃないから報復もできない。ISIS に攻撃されたらどこに報復攻撃したらいいのか分からない。だから中央政府をもつべきだ」とこう言いたいのです。原子爆弾をもって、あらゆるものを武装解除させること。ISIS も北朝鮮も決して自発的に武装解除はしません。しかしこういう議論は問題です。天使長はいつもこういう議論をするのです。（「備える王国」 2017/9/3）

政府代理人が言うことはいつも決まっています。「どうればよいか。まず武器を政府に差し出しなさい」そうすると武器を手放すのは善人だけです。そして、この略奪国家群。50 年間、国連は核を国々から奪い取ってきました。今、大量に核兵器を持っている国はどこですか。まさに排除すべき独裁国家が所有しているのです。ここの問題が分かりますか。天使長の議論は決まっていつもこう言うことを言うのです。（「備える王国」 2017/9/3）

頭のおかしなリベラルたちはカトリック教会と同じで、イエス様を弱々しくローブをまとってふらふらしている人物に描きたいのです。修正主義者だというのです。イエス様は自分でムチを作って、それをもって神殿で両替商人たちを打ちすえたのです。計画的行為だということです。攻撃することを思い立って、そのための武器を作り、それを手に持ち、悪党たちを神殿から追い出したのです。しかもイエス様の攻撃は非常に巧みだったのです。
人々は、まむしの血を受け継ぐもの、白く塗られた墓です。そして父親はサタンです。イエス様は悪に対しては、手厳しく上品ではないのです。愚かなリベラルが勝手に作り上げたいイエス様ではありません。彼らは自分たちを上品に見せますが、反対する者には地球上で最も寛容でない者たちです。彼らの中央権力に反対でもしようものなら、中央による教育、これに反対しようものなら間違いなく監獄行です。危険人物です。国とは別に銃をもつなどと。それは絶対に駄目だ。全体主義的性質がむきだしになります。だからイエス様を弱々しく歩き回る人間に仕立て上げるのです。小声でキーキーつぶやく人に。イエス様は当事者、主役だというのです。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

略奪者は決して武器を手放さない

過激派から武器を取り上げることなど絶対に無理です！絶対に武器を手放しません！「略奪者」は武器をどんなことがあっても手放しはしないのです。それが権力への道だからです。武器なしに権力奪取できません。だから独裁者が核爆弾に固執するのです。（「備える王国」 2017/9/3）

今週の大ニュースはチェコ共和国での出来事でした。チェコ共和国では全体主義 EU の反対にも関わらず、銃所持の権利が認められました。「我々市民の銃所持の権利に EU が反対することを許さない！」といったのです。チェコの大統領が公の場で、「国民全員が武装することを支持する」と発言しました。チェコはドイツのすぐ隣の国です。この写真が出るや否や、世界で旋風が起きたのです。ミクロの銃所持がマクロ（世界）で大嵐を呼んだのです。今 EU の国家間で闘っています。彼らは EU がヨーロッパのソビエトだと悟ったのです。EU は、一時言われていたようなユートピアではなく、ソビエト型の、選挙で選ばれていない官僚による支配が行われているのです。人の人生に口をはさみ、国々を規制しようとしています。あなたの町が他の国からあれこれと規制されるのです。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

銃の所持は殺人率を下げる

アメリカは世界でどの国よりも銃器が沢山ある国なのに、なぜ殺人率がトップ 10 に入らないのですか？なぜ 1 等ではありませんか？1 等はどこであるか知っていますか？ホンジュラス、共産主義の国！第二はどこですか？ベネズエラ、共産主義の国！市民が銃器所有できない国の殺人率が一番高いのです！アメリカは世界の 200 の国の中で 111 番です。

ところで、なぜ 111 番なのかと言えば、アメリカで左派政権がコントロールする都市があります。例えばロサンゼルス、シカゴ、サンフランシスコ、デトロイト、セントルイスなど、左派がコントロールしているすべての都市の殺人率が、その他のアメリカの殺人率よりも 5 倍以上高いのです。だから、その愚かな左派の都市のために全体的なアメリカの統計が上がっているのです。

一般のアメリカ村、例えばプラノ市（テキサス） は一番低い殺人率。一番低いところで比べると、アメリカは 200 数カ国の中の最後、ほぼ最後になるのです。その左派政権が主管している都市を除けば。市民が銃器を所有した時、犯罪人が身動きできない。チンピラが身動きできない。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

国民の資産を奪う

中央銀行を作って搾取する

アンドリュー・ジャクソンが何をしたのかと言えば、彼は中央銀行を追い払ったのです。アメリカに返り咲いて通貨発行権を自分のものにし、アメリカ国民から徴税しようとしたヨーロッパの中央銀行と闘い、追っ払いました。アンドリュー・ジャクソンに追い出された中央銀行は、後に、ウッドロー・ウィルソン（第 28 代）大統領の時、戻ってくることに成功しました。それが連邦準備制度（FRB）の設立であり、それに続く所得税制度です。それ以来、アメリカは 100 年間搾取され続けているのです。ひとたびその制度が設立されると、たちまち福祉国家化、家庭崩壊、女性の離婚奨励策、男性嫌悪文化、父権嫌悪文化、子供を国が所有する、洗脳公立学校制度、フリーセックス、ホモセックス、トランスジェンダー、小児性愛が持ち込まれ、経済、社会は堕落しました。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

土地を搾取する

詩篇 2 章 2:8 わたしに求めよ、わたしはもろもろの国を嗣業としておまえに与え、地のはてまでもおまえの所有として与える。2:9 おまえは鉄のつえをもって彼らを打ち破り、陶工の作る器物のように彼らを打ち砕くであろう」と。

ああ、神様に求めなさい。私が異邦の国をお前に嗣業として与えよう！どういう意味ですか？神様がすべての国を皆さんに与えるのです。与える。このような意味です。あなたの所有が地の果てまで達するであろう、所有！土地所有！私たちは今、たった今、土地所有の話をしたでしょう？

なぜ市民が土地を所有しなければならないのか。アメリカで政府の土地所有はどれくらいですか？60％の土地所有！詐欺！それは、スーパーエリート、政治家の詐欺野郎たち、財閥だけがその個人所有をしているということです。政府が所有したら、それはスーパーエリートが所有しているということです。北朝鮮を見て下さい！市民に土地の所有がありますか？ありませんか？政府所有でしょう？ところで、その言葉は何ですか？その言葉はスーパーエリート、北朝鮮のエリートだけが所有することができるという話なのです。そうですか、そうではないですか？天一国と正反対！土地所有！あなたの所有が地の果てまで至るであろう。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

借金奴隷システムで搾取する

サタンシステムがある場合、若者たちが奴隷になってしまいます。あれこれとお金を借りてクレジットカード、大学費、奨学金などしながら、皆さんは詐欺大学に行きながら、1 億、2 億の負債に陥るようになります。そして 20 年の間それを返さなければならず、その後、アパートと家を買うためにお金を借りなければならないでしょう？そのアパートを買うために。そして死ぬ時まで、その家のために、銀行のために働きます。お金を返そうと。そうしながら死ぬ前に自分が所有すると言いますが、死んだ後に政府が持って行きます。このようなシステムが完全に詐欺なのです！皆さん、若者が皆、詐欺にあいます。借金奴隷システムに入っているということです。これが良いと、皆がそうすると、賢い子供たちが皆そのようにすると。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

ビットコイン

マイク・アダムスという、完全な科学者、専門家なのですが、ナチュラル・ニューズの社長ですが、その人が分析したところ、ビットコインは完全にバブル。なぜ？ビットコインはエネルギーをとてつもなく使っています。今！電気だけでなく、インターネットのエネルギーだけでなく、人のトレーディングするエネルギー！ビットコインは地上にある一つの国よりももっと多くのエネルギーを使用しています。

また、自分のネットワークシステムが、それが安全でなければならないのに、安全であってこそ、通貨は安全であってこそ通用するのです。価値を維持することができるのです。安全でなければ、人々は不安になるから通貨はパンと下がります。

そして、ビットコインのネットワークをなんといいますか？ある特別なネットワークの名前があります。忘れてしまいましたが、その人が分析をしたそうです。國進兄さんも、投資、完全な専門家なのですが、「ビットコイン？ノー ビットコイン」ビットコインは危険です。一瞬で人々は数千万億を作りたいのですが、不可能！

人々は狂ったように、ベネズエラ、韓国でパンパンパンとビットコインを買っています。韓国人が。ベネズエラの人々も。ベネズエラは共産主義のために完全に滅亡していて、そのバブルが生じた後で、このビットコインのバブルがパンと弾ける時に、人々が投資したもの、借りたお金、自分が家を売って、これは完全に賭博です。ギャンブル！（「銃器所有神学論」2017/12/20）

市場を操作する

スーパーエリートたちは自分の市場をコントロールするパワーを願います。そうでしょう？未来が見られたらお金をとてつもなく稼げます。このバブルがパンパンパン、上がって来ている時に早くお金を売って、このバブルの中にある物品を売って、バブルがパン

とはじけた後に、もう一つのバブルが生じる前にそれを安く買って、バブルが弾ける直前に売って。これが事前に分かれば 100%お金をもうけます。だから、このビルダーバーグ・グループ、ダボスグループ、ジョージ・ソロス、この中央銀行家たちがそれほど貨幣、通貨をコントロールしたいのです！自分たちのパワーの維持！（「銃器所有神学論」2017/12/20）

悪魔崇拝を通して侵入する

相対主義思想による攻撃

中国でどのような世俗化された無神論が、どのような文化がもたらされているか、人々は知りません。西洋の人々は公立学校で非常に洗脳されており、文化が違ってもすべて同じ価値を持っていると教えられています。すると問題になるのは、それを完全に信じるとすると隣人を守る文化と隣人を食べてしまう文化は違いがないということになってしまうのです。あるものは良くて別のものは悪いと言うことができず、それは文化的なものだと言わなければならないわけです。これが西洋における新しい宗教として私たちに強制されてきた相対主義の思想なのです。中国は今、もっと極端なやり方でこのような世俗的な無神論を利用しています。中国が新しいモデルとして表れ、全世界にアメリカの自由市場がうまく行かないことを証明しようとしています。国民を自由にさせても繁栄できずに没落していくのだということを彼らは示したいのです。アメリカを崩壊させ、石炭工場を閉鎖させ、基本的なエネルギー産出にも重い規制をかけながら、一方、中国は一日中毎日できるというようになり、中国と競争もできなくなっているのです。莫大な税金を掛けられるのですべての企業は中国に逃げたのです。ウォルマートはすべて中国から物を買って成功させています。それで、これは新封建主義だとか現代の新植民地主義だとか、現代の社会主義だと言って、「社会主義を理解していないから悪いと言っているが見てみなさい。中国はとてもうまく行っているではないか」と言うのです。それが彼らの望みです。（「識別する王国」2017/3/19）

黙示録にも再臨のイエスは最前線で白衣の兵をしたがえてサタン世界に戦を仕掛け戦うとあります。王国はベッドの下に隠れていてはやってきません。政府の力を動員して、いや応なく迫りくる大衆文化に対して立ち向かっていかなければならないのです。大衆文化は相対主義をもって「善を悪と呼び、悪を善と呼ぶ」よう私たちに強制力をもって迫って来ます。これに立ち向かうことは燭台を掲げるようなものです。神の国は明かりを寝床の下に置くのではなく高く掲げサタンの鼻先に突きつけるのです。野外で明かりを消すとオオカミが近づいてきますよね。オオカミがうろつきだせば明かりを寝床の下に隠すことなどせず、明かりを掲げて「オオカミはどこだ、見つけて撃ち殺そう」というのです。これをしなければなりません。明かりを掲げて闇に潜む邪悪なものを照らしだすのです。（「生命の王国」2016/6/5）

多文化主義による攻撃

ヨーロッパを支配しつつある文明の現実。「心を開いてください。多文化主義です。私達は皆同じですよ。クリスチャンと変わりません」と言いながら、文明全体を乗っ取ってしまうのです。狂った大学教授が、「それは彼らの文化です。レイプする人の文化を理解すべきです。文化に優劣などありません。あなたは多文化主義者であることを忘れないでください」と言って若者を洗脳し彼らは愚かな人間になってしまうのです。
クリスチャンは善と悪の違いが分かり、相対主義を信じません。彼らは悪魔の霊が分かるのです。子供を殺し、家庭や結婚を壊す文化を作ろうとするバアルやアシラの霊が分かります。（「大胆な王国」2017/3/12）

政治を利用して実際に本当の文明を作り上げようというのが、本当の悪魔崇拝者がやりたい事なのです。子供を殺害することを合法化したいのです。夫と妻の関係を台無しにすることを主流にしたいのです。国が同性婚や代替の結婚に資金を与えるのです。そして家庭の相対化、多文化化です。思想的にはそれらはすべて相対主義になります。そしてすべては社会の原動力である強い夫と強い妻を破壊することにつながるのです。弱体化されていない夫は、家を守ることができ、暴君に立ち向かうことができます。しかしサタンの世界では、そのような男の中の男をまったく必要としません。男の中の男ではダメなのです。それがサタン世界の戦略であり、チンギス・カンもローマ帝国も、すべての軍事征服を基礎とする宗教も政治運動もそれを用いてきました。征服した国の女性を支配して妻にし、基本的にはレイプして子供を作るのです。女性は教化されてストックホルム症候群になり、子供が完全に国にこびへつらうように育てます。それが政治的な悪魔崇拝のやり方なのです。（「識別する王国」2017/3/19）

千年王国の後のサタンの攻撃

天一国憲法が公布され、国ができ、政府が GDP の 10%を超えることが違法とされ、国民は「王」のような権利を持つので税をかけることができない―という環境がたとえ準備されたとしても、聖書は黙示録の中で、1000 年王国の終わりにサタンが復活することを予言しています。天国が打ち建てられても 1000 年後、サタンがまた復活して王国を破壊しようとするというのです。天一国が確立し偉大な自由と責任が機能し始めて、人々は神様の栄光を讃美し神と共に生活するようになったとしても、破壊の危機を迎えるというのです。サタンとその一味が王国の破壊を試みるというのです。（「王国の救い主」2016/8/28）

世界政府で世界を主管する

アル・ゴア（元副大統領）はドキュメンタリー映画（不都合な真実：2006）の中で「2013 年までには氷山もヒマラヤの氷もとけてニューデリー（インド）もニューヨークも 8 フィート海に沈むと予言しました。（アル・ゴアは）世間が公認する嘘つきです！世界政府を作りたいと思っている者たちがいます。なぜか。グローバルな税金を徴収したいからです。世界政府をつくれば世界税も徴収できます。政治サタン主義者、天使長らはよだれが出るほど世界税が欲しいのです。国や地方で税金を取って喜んでいるとしたら、もし世界税を課せることになればどうでしょう。何千億（円）がふところに入ってくるのです。小さな地方

税でも喜んでいるのです。全く人々はどんな化け物を相手にしているのか見当もつかない。（「備える王国」 2017/9/3）

サタンの手口

ヒラリー・クリントンらが様々な国の急進的イスラム聖戦主義者をアメリカに連れてきていると聞いても驚きません。色々な州の郊外に住まわせています。ここ（ペンシルベニア）にも大きなコミュニティができていますが、さらにイスラム難民を呼び込んで大きくしようというのです。郊外でキリスト教徒と対立させるのが狙いです。田舎のクリスチャンと問題を起させたいのです。そうして分断して統治する。そして連邦政府を問題解決と称して呼び込んで、その先は国連・・・。皆さんもこういうシナリオを知っていますね。何度もここでも話しました。（「王国の王冠」 2017/9/17）

6-2 王国を育む

私たちにはとてもすばらしい責任があります。皆さんと訓練を受けるのが大好きです。皆さんとこのような文化と生活に加わることが大好きです。それを実行しているからです。これが王国の生活です。それが搾取者に恐怖を与えます。若者には力を与えます。強く、誇りある、忍耐強い、愛のある人々になるように。
ローマ人への手紙 5 章には「患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出す」とあります。それゆえ私たちは平和警察平和軍の訓練を行います。それゆえそのような生活をします。自慢できるなどということのためではなく、神様を愛し隣人を愛することができるようになるためです。私たちにとって神様を愛し隣人を愛するキリストの肢体における力がすべてです。（「王国の防衛権」2017/12/24）

自由と責任で運営する

体制や階級を超越するキリスト

イエス・キリストの信仰、神様の信仰がどのようなものか見てください。私は時々お父様のことをじっくりと考えることがあります。なぜなら、お父様に仕えることはまるで映画の中で生活するようなものだったからです。一つ例を挙げれば、ある名節にあらゆる国の代表団がやって来て、イギリスの国会議員とジョージ・ブッシュ元大統領も参加し、アメリカの大統領との会談もあり、そして翌日にはボートに乗って、一般の漁師と一緒に 10 フィートの荒波の臭い水の中の魚に撒き餌をするのです。
ある時には清平パレスの大きな大理石の宮殿でこのようなイベントを行いながら、エンターテインメントも行って、マリオット・ホテルが食事の手配を行っていて毎回ステーキを、フィレミニヨンを持ってきていました。そして翌日には太平洋やアマゾンのジャングルの真ん中でマクドナルドを食べるのです。（「豊かな王国」 2017/7/23）

王国の運営は組織運営ではない

フランスのリーダーのモシャブベが、12 月 29 日にペンシルベニアのサンクチュアリ教会に来ることになっています。私たちは彼をフランスの国家リーダーと呼んでいますが、私たちは中央集権の組織を持っているわけではないのです。私はそういった人々の役目を何も管理していません。彼らはそれぞれの別の役目を負っていますが、お父様の権威の下にいるので一つになっているのです。そして彼らは、お父様が私に神学的なことについて権威を授けたことを理解していますので、私の意見を取り入れるのです。なぜなら、お父様が私を相続者、後継者として任命されたからなのです。
私たちはそのようにして信仰によって、お父様とのつながりによって一つになるのであり、それは組織によってではありません。彼らは経済的にも自分たちでやろうとすることができます。やろうとすることを合法的に行うことができます。私たちはあれこれ指図しません。あるグループが訓読会をやりたいと言えばやって良いのです。抗議活動をしたいと思えばやったら良いのです。皆さんは自由と責任を持つ人々です。皆さんは神様の前に責任があり真実を持っています。お父様が皆さんにみ言を与えましたので、皆さんは相続者に繋がって自分の良心に従って行動しなければならないのです。何を言って良いのか悪いのか、何をして良いのか悪いのか指示はしません。（「待ち望む王国」 2016/12/18）

誰かが主体の位置に立って、「あなたはこうしなさい」というように強制はしません。なぜなら、ここにいる人々は皆自覚と正義を持ってお父様を守るために立ち上がっているからです。中には風変わりでおかしな人もいることでしょうが、それがどうしたというのでしょうか。王国に歓迎します。私たちには、私達を一つにつないでおいてくれるもっと大きな慈悲と正義があります。そして私たちは、本当の神様の戒めのためにそれらを超越しています。（「識別する王国」 2017/3/19）

世代を超えて王国を育む

自由と責任の王国では、実（み）はおのずと実ります。社会保障制度はありません。福祉国家にはなりません。そのかわり小さな起業を援助します。親の代で創業して子供が引き継いでいく。例えばリンゴ栽培のエキスパートになったとしてその技術を子供に伝える。そして子供が家業を継ぐ。その意味で親が子の資源となり、それはありがたく、親を敵（かたき）のように憎むことなどありえません。親から見ても子供に対して今風（いまふう）の「責任」というものを背負いこむ必要がありません。自分の技術、知識を習得し跡を継いでくれるものとなるのです。貴重な資産となるでしょう。（「生命の王国」 2016/6/5）

神様から受けた祝福を命がけで伝承する

自由な社会は長続きしないのです。本当に悲しむべきことはこれです。我々の先祖が、聖書的歴史期間を通して、自由と自律の憲法を掲げてこのアメリカ合衆国を建てるために働き続けてきました。ここまで何百万という人々がこの国のために命を懸けたのです。それを相続した人々は先人の労働と犠牲のおかげでこの国に実った実を享受してきました。しかし相続したその価値を貴重に思わなかったのです。それが大きな問題です。世代を超えるということが。ただで手にした実を尊ぶように、どのよう

に子供を教育しますか？独裁ではなく自由を選んだのは「私」です。父から受け継いだものの価値を受け継がせていくことが本当に試練であり難しい問題です。それは神様の創造以降、アダム、エバを通してできなかったことなのです。彼らは神様から相続した価値を理解できなかったばかりか、それを駄目にして、僕（しもべ）に与えたのです。しかしその僕は、それを、世代を継いで相続してきました。聖書的意味でこれを見るなら、最初に与えられた祝福はアブラハムに与えられたものでした。自分が創造主から与えられた祝福の価値の意味を父として子孫に伝えることができたという意味で模範です。アブラハム家庭が勝利し、第２世代、第３世代へと続くこの祝福の伝承、イスラエル民族にまで確保したこの祝福の伝承。これこそ私たちが家庭を持つときから抱える大きな挑戦です。夫婦間の理想の関係だけではなく、その価値を、血統を通して両親から子供に伝承するのです。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

王国の脅威は新しい世代

王国においても最大の脅威は新しい世代なのです。なぜなら豊かさの中で育つと退廃的になりがちだからです。アメリカも世代を経るごとに退廃的になってきているでしょう。これは深刻な脅威です。歴史上あらわれた共和国、民主主義国家のすべてが社会主義に堕落していきました。あらゆるものが楽して手に入る、無償で給付されるそういう環境で暮らしてきた人々は、マルクス主義、社会主義、共産主義に惹きつけられるのです。そして最終的に文明の崩壊を招くのです。王国でも起こりうることです。新しい世代は自由のために闘った経験がないからです。闘って自分の現在の生活環境を得たわけではではないからです。（「御国が来ますように」2016/3/20）

ソクラテス、プラトン、アリストテレスは国の政体について研究しましたが、ソクラテスは、国家は三世代で滅亡すると言っています。第一世代は開拓者です。勤勉に働きながら、時に重労働にも耐えて国の基盤を造ります。その上で次の世代は比較的豊かになった環境で過ごすことができるようになります。そして医者、弁護士、大学教授になったりして功労ある先祖の記念碑を建てるのです。さて、３世代目に至るとどうなるでしょう。三代目は生まれたときから豊かで裕福なのです。そして退廃的になっていきます。生まれたときから見ている建造物が、第一世代が額に汗して築いたものであることを想像できません。そして政府からは無償の給付を求めるようになります。生まれたときから豊かさを与えられているからです。この無気力、退廃によって国は傾き始めます。このように三世代で国は滅びに向かうというのです。この世代は勤勉に働くことを知らず、豊かさに慣れているがゆえに退廃的になります。そして国は道徳的、構造的、社会的、あらゆる面で崩れていくのです。（「御国が来ますように」2016/3/20）

王国もこの問題（世代と共に退廃的になる問題）に対処しなければなりません。その意味でも、天一国憲法が重要だというのです。地方で起こった問題は基本的に地方で解決しなければなりません。教育も国が管理しません。社会主義国のように中央で教育を管理することなどないのです。地方の共同体はその地方の子供たちの教育に責任と自由をもつのです。そして道徳を重んじ、神様を愛する勤勉で隣人によく仕える、名誉を重んじる人間に育てるのです。神の国ではこの新しい世代の教育の問題は各地域が責任を持たなければなりません。たとえば甘やかされて育った肩書のある若者が社会主義、共産主義といった偽りのイデオロギーを信奉するようになったとしましょう。そして革命を起こし、無政府状態を作り出そうとしたとします。現実社会では起こりがちなことです。そういう時も地域の共同体が対処するのです。国家レベルで関与しません。共同体レベルで若者たちと対話を重ねるのです。暴力を伴うことになればやはり地域レベルで対処します。（「御国が来ますように」2016/3/20）

そういうことになれば「この国の子らは外のやみに追い出され、そこで泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう」この聖句が実現するのです。子供たちは福祉、つまり無償給付のない社会から出て行かざるを得ないのです。政府から何も降ってはきません。それらは王国では違法です。禁じられているのです。許されていません。自分が蒔いたものを収穫するのです。日々の労働によって獲得するのです。（「御国が来ますように」2016/3/20）

天一国でも共産主義や社会主義を志向するアリストテレスのいう「甘やかされた第三世代」は生じるでしょう。安易にものを与えられて育った結果、さらに無償の給付を求めて大きな政府をつくろうとする者達です。こういう三世が出てくることは避けることができません。しかし天一国では中央に権力を集める政府をつくることは禁止されています。ですから目的を果たそうとするなら暴力革命に訴える他ありません。そうなると（聖句あるように）「御使たちがきて、義人のうちから悪人をえり分け、 炉の火に投げこむ」のです。その「御使い」は平和警察、平和軍です。（「天国の種をまく人」 2016/4/17）

いつだってその要素はあるのです、どの子が親の与えた価値を理解しているのか、見極めることです。これがチャレンジであり、神様の王国が失われた理由でもあるのです。この難題の前に、人は親としてこの選択はしたくないと、どうせなら平等に分けてしまおうというのです。でもいいですか、平等に分けようと決めることもある選択なのです。どちらに転んでも選ばなければならないのです。自分の血統と主権を創設することもできるし、子供たちの主権を破壊することもできるのです。
ここにいる人たちも、子供たちがその決定を聞いて「不公平だ！」というのを聞くのは嫌でしょう。「不公平だ」という言葉は何を意味するのでしょう。その発想の基礎にはなにがありますか。サタンの王国です。あなたの子供が「あまりにも、不公平だ！」というのは、本音は「力を行使してもその決定をくつがえす。自分も分け前にあずかれるはずだ！」ということです。
それは社会主義の基盤ではないですか。「そちらが自分にくれないなら、どうであろうと自分から奪う」というものです。子供の一人がそういうことを言い出したら、何とこたえますか？「主権」からでる言葉は決まっています。「駄目だ、力ずくで奪おうというならお前を討つ」「自衛手段も持っている、自分の資産は守

り抜く」 だから「主権者」として強くならなければならない。自分の王国を守る手段と意志をもたねばなりません。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

真のお父様、万王の王の視点で観なければなりません。お父様が一人の子女に王権を譲ることで他の子女たちが気分を害さなかったとでも思いますか。本当に気分を害したのでした！どうして自分も同じものを得られないのか。平等に分けるべきではないか・・・あなた（お父様）の一生を台無しにしたけれど。そうは問屋がおろしません。お父様は子女たちがどう思うかなど考慮しなかったのです。だからあなたも気にしないようにするのです。あなたの仕事は神が与えられた王権を守ることです。あなたの名誉のためではなく、神様の名誉のためです。あなたの子供がどう思おうと一切考慮する必要はないのです。彼らの気分良くさせることがあなたの仕事ではありません。神様に与えられた祝福と聖別の各自の王権を守ることが仕事です。（「王国の王冠」 2017/10/8）

子供に少しも与えるなと言っているのではありません。あるいは後継者を定めて置いて信頼して、他の兄弟の面倒をみるように言っておくのもいいかもしれません。しかし、主要なことは神様から与えられた王権をあくまでも保持することです。甘やかされ、貪欲で、自己崇拝に浸っている世俗的な子供に、分け与えるな！ということです。皆さんの子供が皆そうだとは言っていません。でもそういう子供がいるのは確かでしょう。現実に向き合いなさい。その様に生きるのは子供たちの自由です。しかし彼らに相続権を与えてはなりません。何かまずいことでもありますか。皆さんにかかっています。100%あなたの権限の範囲です。だから偽りの涙に騙されてはいけません、嘘偽りの目に！「お父さんをずっと信じていました」「私もずっと亨進ニムが二代王だと思っていました」
王朝が大きくなると、「ずっとお父さんのこと信じてました」などと。ここにいる人たちとその家族はそのように愚かでないことは知っています。しかしあなたの子供に対する愛と思いやりが、時に弱点になります。愛することは問題ありません。親なのですから。しかしあなたの手の中には、神様の王権という大きな祝福が責任としてあるのです。それは子供の機嫌を取ることとは、はるかに超えたものです。王権を守るという話です。（「王国の王冠」 2017/10/8）

試練の時が世界に臨む。あなた方にも一人一人、試練の時が望みます。感情主義に陥るのか、・・・なんといいましたか、そう・・・ヒューマニズム、人間主義、人間中心主義に陥るのか、そういう相対主義に陥るのか、あるいは自分の果たすべき役目、王権を維持し、護るという役目を果たすのか。子供の偽りに騙されてはいけません。たとえ愛していても。騙されてはいけないというのです。偽りの子供に王権を譲り渡してはいけません。絶対に！もしそのようなことになるなら家族の呪いを受けるでしょう。（「王国の王冠」 2017/10/8）

次世代の相続者を選択する

それは（最良の親になるための努力）王国において非常に重要なことでもあります。なぜなら、私達は世代間の王朝と王権のことを話しているからです。次の世代のことに目を向けると、これが非常に重要になるのです。子供の中で誰が王国の福音と一致していくのか。誰がそれを支えていくだけの信頼に足るのか。あなたが戦ってきた国にとって。社会主義者のように平等に分配するというのではありません。気分良くさせれば良いということではないのです。誰が王の王と天一国の王国に仕えて、親としてのあなたの願いを尊重し続けるのか。それが重要です。主権としてそのような役割を持つことを理解しなければなりません。居心地が悪くてもやらなければならないことがあるのです。自分の血統に王朝が作られていくのです。私たちが完璧だからではなく、神様がその王国と栄光に私達が入るように呼ばれたので、私達は特別なグループだというのです。主権には責任が伴います。そして皆さんが氏族の王冠を準備して王の王と王権と共に立ち、神様の王国、天一国が来るのです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

そのとき皆さんは賢く決断しなければなりません。なぜならそれは自分の氏族圏の王と王妃としての、自由と責任による自分の治世だからです。自分の子供について感情的に考えてはいけません。もちろん子供たちを平等に愛するのですが、1 人が、あるいはもしかしたらカインとアベルが準備されなければなりません。それは文明と使命を尊重するということであり、あなたはそのために命がけで追及し戦っています。自分の王国の王朝を無駄にしてはいけません。もしそれを間違った子供に渡してしまえば滅んでしまいます。ですから、それは主権にとって非常に重要な責任の分野なのです。王権のための責任の分野です。そのようなことを考えていなかったのは、皆さんが僕によって、天使長によって訓練されてきたからなのです。奴隷意識の中で訓練されてきました。皆さんは王国の意識を持たなければなりません。王冠は単に象徴的なものだけではありません。全く新しい領域に入るということです。世代間にまたがる展望です。王国を維持し守るべく、義務と責任として持たなければなりません。自分の感情が問題ではありません。神様が任命し選ばれ、最後の時にご自身にもたらされた王朝を守るのが、主権としての義務なのです。サタンから分立されたものです。これらの王朝は自分のものというだけでなく、神様の王国の一部であるので、勝手に扱うことはできませんし、与えられた責任を勝手に考えることはできません。私たちが王権と王国の意識を育てていくことが非常に重要なことです。これは明白なのです。（「名誉の王国」 2017/6/4）

子供たちは完璧ではないということを理解しなければなりません。私達は賢くはっきりと本質を見通さなければなりません。その子供は言われたことをすべてやっているかもしれませんが、私の使命や目的に対して本当に心を込めていないかもしれません。彼は点数稼ぎをするためにやっているかもしれないのです。そのようないんちきを見抜かなければなりません。彼があれとこれをやったからと言って報酬を与えることはできないのです。その心情、性格、その子供の本質を見つめなければなりません。その子供は本当にあなたのために生きているのか。あなたが命を懸けて戦っているビジョンのために戦っているのか。単に、子供があなた

をどのように扱うかとかいった表面だけを見てはいけないのです。子供の深いところまで見なければなりません。親として子供を審判できなければならないのです。それは非常に難しいことです。主権として、子供が自分の相続者としてふさわしいかどうか審判しなければなりません。（「名誉の王国」 2017/6/4）

皆さんの子供たちも笑っているかも知れませんが、その王国が大きくなっていけば、こういうでしょう。「ずっと前からお父さんがしていることはわかっていたよ」「本当はずっと信じてたんだ」「遺産相続に僕の名前も入れといてね」。だから子供には気をつけなければなりません。（笑）そのような者に遺産を与えてはなりません！王権をまず守るべきです。でもみてみたいものです。じりじり寄って来て、「前からそうだと思っていたよ」と言う姿を。現実を見なければなりません。何度も話してきました。神様があなたにくださった恵みを散らしてはなりません。王権、王朝を守っていくためには感情に流されてはならないのです。王統の後継には意味があるのです。そこに王権の力を保持する秘密があるからです。感情に流されて、遺産をばらまいたなら・・・自分を裏切り、最後には遺産を狙う子供にも、皆にいい顔したいからといって分け与えるなら、ゾンビのようになってしまう。それは自分を騙した子供の悪と邪（よこしま）な思いに報酬を与えることです。結局、神様から与えられた祝福の恵みを壊すことになるのです。あなたの王冠が直ちに散らされるからです。三代たてば 58 人に増えている、それが消滅するのです。
これは考えなければならない問題点です。神様から祝福として与えられた王朝、王権です。皆さんの先祖が待ち続けてきたのです。だからそれを死守しなければなりません。だから感情に流されて、子供の詐欺に引っ掛かってはいけないのです。「おまえは偽りだ。子供であるお前を愛するけれども、お前は王にはなれない。後継者にはなれない。」と大人の発言をするべきです。現実と誠実に向き合うことは大切なことです。神様から頂いた祝福を維持していかなければならないのです。あなたが問題ではありません。神の国が問題です。（「王国の王冠」 2017/10/8）

王冠を奪われてはならない

固く守れ！と言っているのです。冠を誰にも奪われるな！王冠はウォルマートで買った証ではありません、どこで買ったとしても。3 千万ドルで買ったとしたら誰が笑いますか。あなたの子供も笑わないで、それを奪うために戦うでしょう。皆さんはそれを望まないのです。王冠を奪うために寝首を掻くというのです。子供の現実を見据えなければなりません。フェイクで狂った考え方や左翼に洗脳されているのです。子供たちはみんないい子で、素晴らしい心掛けで・・・などと。子をもつ親なら皆知っているというのです。彼らも同じ試練があり、落とし穴もあるのです。子供たちが成功する位置に据えなければなりません。
平和軍、平和警察の訓練をするのです。それらは彼らを、謙遜にします。しかも、安全にし、強化して自信を持たせる。「庇護者」の気構えができるのです。いかに他の人を守るか、生命を守り、文明を守る。倫理と行動基準、そして真の戦士から騎士道を学びます。彼らは生命を守り、殺そうとする敵に囲まれていたから敵の命も奪ったのです。非常に重要なことです。常にこのことで刺激するためにガミガミ言っているのではありません。これは（天一国）文化の核心なのです。（天一国）文明の価値を皆さんの子供たちに沁み込ませようとしているのです。そうして初めて、彼らは騎士道と倫理の価値、他の人を守るという価値、世界を庇護する者の価値を学ぶのです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

3 世代が共に生きる

子供をたくさん持てばいいのです。訓練を施して自分の王家を発展させることができるでしょう。3 代が共に暮らすことによって良い実がみのるということです。ブルックリンから来た兄弟がいます。彼が子供のときクリスマスにはあちらのいとこ、こちらのいとこ、親戚が大勢一つの家に集まって祝ってとても素晴らしかったといいます。そして今、ブルックリンでイタリア人家庭がクリスマスを迎えても、ともに祝う者は誰もいないというのです。以前はあった 3 世代家庭がばらばらになったということです。3 世代が共に暮らすときそこが原動力になるのです。独占者はそれをきらいます。なぜなら 3 世代家庭で育ったものは経済の裏表を両親から学んですでに知っています。市場での競争力も身に付けているでしょう。顧客の要求によく答え、祖父母、両親と一緒にいたので道徳もしっかり備わっています。そして子供時代から仕事を手伝っているので根が勤勉です。王国では自然に皆が共に暮らすのです。王国ではその 30%が起業家であるので一緒に暮らすことのほうにより魅力を感じるのです。3 世代家庭は仕事を最大限に効果的にし、オーナーとしても主権者としても最大限に高めてくれます。潜在能力を引き出してくれるのです。オーナーなら他人よりも子供に後を継がせたいのです。もしそうだとすれば子供をよく訓練するでしょう。適切な指示も与えるでしょう。謙虚にしかも自信をもってそうすることでしょう。それが三代王権を支えるのです。（「生命の王国」 2016/6/5）

この世の現状は 3 世代が共に暮らすことを許しません。いつまでも親と一緒に暮らしているとダメになるというのです。これが大衆文化です。それは技術習得をして代を継ぐ準備をすることができません。謙遜に両親から技術を学ぶことをさせないのです。親と暮らすなど負け犬のすることだというのです。誰がそのようなことを支持しましたか。神様もお父様も支持されていません。お父様はむしろ反対されました。3 世代は一緒に暮らしなさいといわれたのです。自由と責任の王国では子や孫が成長したあかつきにはおじいさんから知恵ある言葉を聞きたがるのです。ただ遠い過去に生きる人ではなく、知恵の宝庫だというのです。何かのビジネスをするときにでもかけがえのない教師になってくれるのです。（「生命の王国」 2016/6/5）

私たちは 3 世代家庭を崩壊させる教育を受けてきました。王国では何の努力をしなくとも自然に 3 世代家庭が成るのです。世代を分断する要素が消えてなくなります。自然に種が実をむすぶという話です。お父様はよく四代心情圏と三代王権について話をされました。天一国の未来を予言されたのです。王国のすべてが、三代が共に暮らすように自然に仕向けて行くのです。技術を次世代に伝え遺（のこ）していく。所有者意識と主権意識。一緒に働く家族は世代を超えて家の成功と勝利をもた

らします。それが神の国です。（「生命の王国」 2016/6/5）

血統を守って王国を守る

パウロは不滅の体を引き継ぐと言いました。ですから人々は理解していないのです。お父様はいなくなったと言って。そうではなく、お父様はご自分の王権の中で生きておられるのです。その血統の中に生きておられます。私の中で生きておられ、私の息子の中で生きておられ、王の王は生き続けます。世界の中で生きておられるのです。堕落する体や世界を超越して。血統という視点で未来を見つめ始めると違ったものが現れます。若い人はそれがわかりません。若者は子供を持たず子孫を持たないことがかっこいいと洗脳されているのです。自分で好きなように生きてただ死ぬだけだと。それが、彼らがあなたに良い奴隷として望んでいる事なのです。彼らは名誉から続くものは何も求めず、正義から続くものを一切求めず、ずっと継続して不滅になるような生きた文化と生きた遺産を一切求めないというのです。（「不死の王国」 2017/4/23）

普通の人が王国を相続する

神様は普通の男性と女性にその王国を相続させます。あなたを捕らえることはありません。あなたをだますことはありません。家庭を破壊することはありません。ただ家族を養い、道徳的にまっすぐな人になろうとするだけです。私たちはそのような人をつまらない人だとみなしています。「あの人はただの普通の人だ」と。女性たちはそのような男を負け犬、つまらない人と見なすように洗脳されています。しかし、そのような人が王国を相続するのです。（「豊かな王国」 2017/7/23）

真のキリスト教徒を結集する

キリスト教会は神様の王国について知らないのです。今や米国で最も根となる参戦勇士らのコミュニティと、銃所有コミュニティと、実戦の武道コミュニティと保守の武士たちが、鉄の杖の牧会を通して聖書に目覚め、原理に目覚め、再臨主と会うことになります。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

終末になってキリスト教が再臨主に会い、天一国憲法が明らかになって偽りのキリスト教徒が暴露され、教会には通っていないが真のキリストを信じて愛したアベル圏キリスト教が立ち上がるようになっています。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

アベル圏キリスト教徒

米国で銃器所有する戦争で戦った男たち、参戦勇士たち。彼らは教会にほとんど行きません。なぜか？米国教会はすべて女性化されているからです。女性化されていて数字だけを考えて、大型教会になりたいとだけ考え、人がたくさん集まることだけ考えて、甘い良い話ばかりして。そして、そのような参戦勇士たちを沢山の人を殺したからと言って悪者扱いします。実は、彼らはキリスト教の根です。銃器所有をする参戦勇士の男たち。それはアベル圏のキリスト教です。もちろん、教会に通っていないけれど。なぜか。教会は政府が運営する内容なってしまったから。人を弱くするから。責任感を奪って行くから。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

政府が作った左派キリスト教徒

左派のやつらは常に福祉だけを受けたくて一生懸命仕事をしません。一般のクリスチャンたちも左派のやつらを見ながら。クリスチャンたちは元々そのように言うじゃないですか。クリスチャンは少し保守派だから。イエス・キリストが戻ったときに、イエス・キリストが万国を治めた時に、イエス・キリストが天国、地上の天国を建設したときに、自分たちが福祉を受けるだろうと考えているのです。これが話になりますか？これはお話になりません。

いや、保守クリスチャンたちが嫌だと言っているのに、左派のやつらがそうするのです。イエス・キリストが来た時、信じていればイエス・キリストの福祉を受けるだろうと思っているのです。福祉が保障されていると。

それはどういうことかというと、秘密左派のクリスチャンが、政府が運営する教会に通いながら市民を左派のやつらに作っているのです。保守の名前だけ使って、信じて望むことは左派です。詐欺野郎どもめ。このような詐欺のやつらが教会を運営して教会を滅亡させた。偽の教会にしてしまった。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

真のキリスト教徒　参戦勇士たち

真のキリスト教徒たちが参戦勇士たちです。クリスチャンたち。なぜか、自分たちが生死を経験しました。主がどのように犠牲になったのか実体的に知っているから。主の血と十字架の路程がどのような犠牲か直接的にわかるから。

我々すべての一般市民が自由に暮すために、その参戦勇士らが IS と戦っているのです。命をかけて。イエス・キリストのように。自分たちが言うのではなく、自分が直接的にキリストのような愛を実践した人たちです。自分がどのような扱いを受けているのか？戦争した人、危険な人だと言われながら。メディア、悪いマスコミのやつ、詐欺野郎が家に来て、40%の参戦勇士たちに心の病と精神病 PTSD（外傷後ストレス症候群）があると、絶対に彼らを雇用したらいけないと、このように言うのです。40%が心の病、精神病があると言います。真っ赤な嘘です。

米国で 14 年間、戦争で 14 年間戦ったのですが、イラクとアフガニスタンに行った参戦兵は米国に 400 万人います。14 年間で 400 万人。そして、政府の統計を見れば、心理的な病気、ダメージを受けた参戦勇士らが 8%です。8%、92%は何の問題もありません。92%は何も問題ないのです。戦争で戦って家に帰って来ると、サタンの野郎、人殺しの参戦勇士、100 人以上殺害した参戦勇士らがいる。マスコミはこのように言います。

しかし、参戦勇士らではなく、一般市民たちの統計を見れば、一般市民たちが１年に250 人ほど殺害をしています。１年に。一般市民たち、悪い犯罪者だ。犯罪者。市民ですが犯罪者。犯罪者も市民でしょう？だから犯罪者たちが 250 人ほど殺しています。死亡。理解できますか？１年で。14 年間に 100 人余り参戦勇士らが死亡しました。心理的な病気のある人たちが 14 年だから、1 年に何人？8 人？7 人？一般市民犯罪者たちと比べると 250。それはどういうことですか？参戦勇士ら

がより安全です。はるかに一般市民より安全です。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

政府の統計を見ても 8%だけが戦争のために心理的病気に罹り、92%は戦争のために強くなりました。もちろん、適応する時間が少しあるが、それでももっと一生懸命になり、熱心に戦える。すべての市民たちのために戦ったから大きな心もあります。大きな心。羊たちを保護しようとする羊飼い、何？羊飼いの心。本当は事業が護国参戦勇士たちを雇用したらいいのですが、このメディアとニューヨーク・タイムズ、詐欺野郎、左派新聞のためにしないのです。なぜか？その左派新聞で 40%が心理的な病の危険な人たちだと報道したからです。
PTSD？しかし考えてみてください。法的に心理学者たちが見たとき、戦争に戦っていない一般市民たちも、外傷後ストレス症候群にかかることがあります。例えば、女性が性的暴行を受けたら PTSD になってしまうでしょう？それではなぜ参戦勇士たちだけが追い出されてしまうのですか。政府によって、左派政府によって。オバマ政府。なぜ彼らの銃所有の権利を奪って行くのですか。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

私たちのコミュニティで参戦勇士たちが教会に通わない最高の宝物です。宝物達。私達のチーフのような宝物たち。今やそんな男たちがだんだん集まっています。二代王様に、國進様に。このような人たちが実はキリスト教の根です。政府教会に通っている詐欺野郎、詐欺野郎の左派だけを望むそのような人ではありません。
参戦勇士たちはどのようなキリスト教徒よりアベル圏です。彼らも完璧、完全ではなく問題もあります。一般の人にも問題があります。どうして参戦勇士達にすべて問題あるというのですか。マスコミやハリウッド映画で。いつも酔っ払っていて家に帰ったらストレスで、PTSD のためにお酒だけを飲んで、こんなことにだけ出てきます。映画で。それは 8%もいません。それは 8%もいないのです。統計を見ても。92%は何の問題もなく社会で成功します。人々が参戦勇士達に対して偏見を持ってもこの人たちは戦いに出て行きます。92%が。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

参戦勇士の銃を奪おうとする政府

ペンシルベニア州米上院議員らの愚かな詐欺野郎どもに、昨日手紙を送りました。私たちのコミュニティから全部手紙を送りました。何かというと、ペンシルベニア州の参戦勇士たちから銃を奪う法を許可しようとしています。その次に速度違反切符、速度違反切符を出さなくてもそれにかかれば、銃所有の権利を奪う。これが話になりますか？完全に左派詐欺野郎です。こいつらは保守派だと言うのですが、どうして民主主義が問題なのか分かりますね？若い人たち。どうして天一国が来なければならないのか分かりますね？こいつらが左派式で国を作ろうとしています。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

参戦勇士の軍隊を恐れる政府

市民たちの最もキリストに似た参戦勇士の犠牲と血と能力を無視します。実はその左派野郎も知っています。あいつらが怖い事を知っています。だからその人達の銃を奪いたいのです。なぜなら、参戦勇士が万一集まったら軍隊になるから。だから必要な時は彼らを使って、家に戻った時は彼らを殺して。ヒトラーも同じです。
だから私たちも様々な事業をして参戦勇士たちを雇用しなければなりません。雇用しなければなりません。このような人たちが事実、最もキリストのように生きました。考えてみてください。どのような市民よりキリストのように生きたと。実践。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

真の価値を育む

真の価値を見極める

歴史的に見ると、何が価値を継続して維持するのですか？金、銀。なぜ？金は金を溶かしたら破壊されますか、されませんか？破壊されないでしょう？金は非常に高い温度に入っても、金と銀はそれ自体破壊されませんね？形だけ変わって、そうですか、そうではないですか？これが、非常に安全な価値があるという話です。だから、金は歴史的に常に価値を維持しているのです。維持！理解しますか、これ？若い人たちが？理解するでしょ？これを理解することは、非常に重要です。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

1 万ウォンの紙幣、それは偽のお金です。それは紙じゃないですか、紙。1 万ウォンの紙の価値が何でしょうか？10 ウォンです。10 ウォンもない！そうでしょう？紙だから。
本来、100 年、200 年前に 1 ドルを銀行に持って行くと、その銀行で 1 ドルの価値の金をくれました（兌換貨幣）。今はそれができません（不換貨幣）。アメリカドルも詐欺です。韓国ウォン、完全な詐欺。紙幣は価値を維持できる能力と安定感がありません。だから、若い人たちがお金をもらう時、お金がある時にお金を貯蓄したら、本当の資産に投資しなければなりません。土地、金、銀、道具。そうでしょ、王冠、道具、銃器！それを保護できる銃、このようなものが価値を握るのです。ネットワーク、正直な人、これ全てお金です！（「銃器所有神学論」2017/12/20）

偽りの紙幣に優る仮想通貨

今やビットコインは滅亡するでしょうが、インターネットを中心とする暗号通貨（仮想貨幣）は全体的に見れば良いことです。良いのです。全体的に見ると、人々がビットコインだけに集中しているから問題ですが、今様々な仮想貨幣が生まれています。イーサリウム、何々？とにかく、いくつかの仮想貨幣があります。今 100 を超えているでしょ？
ところで、どの仮想貨幣が成功するか、分からないではないですか？ドットコムインターネットバブルがはじける前に、Facebook なし、ツイッターなし、ユーチューブなし、そうですか、そうではないですか？はじけた後にそれらがぽんぽん生まれますね、市場に。誰も知らない会社が、YouTube？ツイッター、フェイスブック、そうですか、そうではないですか？前もって知ることはできません。ビットコインがはじけて、ある暗号仮想貨幣が再び生まれるのか、成功するのか、誰にも分かりません。しかし将来、その暗号通

貨は中央銀行の偽りの紙幣よりもはるかに優れています。もちろん、国の電磁システムは必要です。仮想貨幣の弱点は、国の電子システムが落ちたら、例えば核戦争が起こればすべて無くなってしまいます。全て無くなります。ハードディスクに保存することができますが、インターネットがなければそれを再び入れることができません。そうですか、そうではないですか？売買、販売することができません！（「銃器所有神学論」2017/12/20）

真の価値を育む

若者たちが借金のシステムに入って行かないで、30 歳になる前に土地を所有して、その土地に家を建てる目標がなければなりません。それなら 30 歳になった時、既に主人であり、土地を所有していて銃器所有し、その地を保護するのです。そしてそれを発展するのです。発展！借金の塊にならずに。借金の塊になればどのようになりますか？奴隷になってしまう、奴隷！
さあ！私は異邦の国をお前に嗣業として与える、お前の所有が地の果てまで達するであろう。ワゥ！皆さんが自慢するために、傲慢にするためではありません！天一国の民の土地所有、銃器所有の目的は何でしょうか？私たちの平和軍・平和警察のモットーは何ですか？え？神様を愛し、隣人を愛せよ！そうですか、そうではないですか？若い人達はそれを忘れてしまっている！平和軍・平和警察のモットーは何ですか？神様を愛し、隣人を愛せよ！隣人を保護するために。あなた達が自慢するためにこのような恐ろしい内容を教えてくれるのではありません。分かりますか？傲慢に振舞う愚かな詐欺野郎になってはいけないと！目的は神様を愛して、また隣人を愛せよ！
そのような心で、自由と責任の所有権と、宗族の王と王妃の責任を果たす。5%の責任を果たす目的として、お前の所有が地の果てまで達するであろう。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

第７章　王としての備え

もし共産主義者が、統一教会を銃で破壊しようとするなら、その時、私たちも銃で闘わなければなりません。無力な犠牲者のまま彼らの銃弾に倒れることはできません。神様があなた方のためにこのような戦いに勝利を得ると思いますか。サタン勢力と戦うときが来たならば、私は決してためらわず総司令官となって天軍を率いて戦闘に臨むでしょう。
国防総省が神の世界を守ることができると思いますか。頼りにしてはいけません。神様の目的に身を捧げた天の軍隊だけを信じることができるのです。若い人々は色々な形で体を鍛えなければなりません。最終的なサタン勢力との戦いでは、生きるか死ぬかの戦いになります。天の側を守り抜くために、私たちは兵士になる必要があるかも知れません。ひとたび自分が優位だと見るや、攻撃を仕掛けてくるのがサタンの性質です。
自分を守り、天の国を守ることは犯罪ですか？キリスト教の愛について素朴な考えをもってはいけません。神の世界と神の民を破壊しようと決意しているサタン勢力と対決するとき、それは当てはまらないというのです。もし神様がサタンの攻撃を打ち負かすことができなければ、それはもはや神ではありません。
神の勢力として、私たちは自分たちを守り、神の世界を守ることができなければならないのです。私たちはこれまでとは異なる宗教指導者なのです。（「審判の時代と私たち」 ベルベディア 1976/11/21）

後から来る人たちはずっと楽に来られるでしょう。受ける憎しみも第一波によって軽減されるからです。しかしその第一波、3%の人々によって独立革命にアメリカは勝利しました。重荷を背負い、戦争を戦ったのです。その後、アメリカで暮らす者たちは少なくとも 200 年間、大きな自由と主権の中で暮らすことができました。建国の父は、選ばれた少数です。すべてをかけたのです。同じような歴史があらわれたのです。天一国の先祖がいま自由と責任と権威の中で生きています。それに相応しいからではありません。ひとえに神様の恩寵の故です。キリストの勝利の故に、万王の王、キリストの勝利の故に得たのです。天国は現れます。これらの人々が忘れられることはないでしょう。アメリカ建国の父は知っていても、その次の世代について聞いたことがないでしょう。（「恩寵を相続する王国」 2017/6/11）

7－1 平和軍・平和警察を体現する

ヨハネの黙示録 2 章　27　彼は鉄のつえをもって、ちょうど土の器を砕くように、彼らを治めるであろう。それは、わたし自身が父から権威を受けて治めるのと同様である。

ヨハネの黙示録 12 章　5　女は男の子を産んだが、彼は鉄のつえをもってすべての国民を治めるべき者である。この子は、神のみもとに、その御座のところに、引き上げられた。

ヨハネの黙示録 19 章　15　その口からは、諸国民を打つために、鋭いつるぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸国民を治め、また、全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。

反エスタブリッシュメントだったイエス様

ステンドグラスのイエスを見せて、体制に従順で、あちこちで奇跡を起こして人を癒し、王国から愛されたなどと言いますか。イエスは反体制、反エスタブリッシュメントの模範のような方だったのです。ローマ帝国中が、ユダヤのナザレの気の触れた男が起こした運動のことを知っていたというのです。既存の王が王ではない、神の王国の福音を宣べ伝えていたのです。（「死を超える王国」 2017/2/12）

ためらわずに行動する

何でもやりなさい。やろうと思うことはすべてやりなさい。神の国が来るからです。悪魔の王国は滅びます。請け合います。（「王国のカオス」 2017/8/13）

構え、撃て、狙え

神様があなたに与えたものを使うのです。重要なのは「構え、撃て、狙え」（迷わずにすぐに決行しなさい）ということです。「構え、狙え、撃て」ではいけません。「今大丈夫かどうか狙って確認しているところだ」と言うのはやめなさい。どれだけ確認して

いるつもりですか。これまで４年間もやってきて。「構え、撃て、狙え」です。撃てば神様が聖霊の働きで助けてくださり、神様の栄光にとって最も効果的なように調整してくれます。（「攻撃を受ける王国」 2017/2/19）

若者たちが戻って自分のユーチューブチャンネルを作ってやれば、悪魔はあなたが何か始めようとすると、いつも、あなたが弱く無力だと感じさせるのです。「なんだ、たった２ビューじゃないか」と。これが彼らのやることです。彼らはあなたを怖がらせて社会的な圧力を掛けたいのです。潜在力が分からないので、もうここでやめるべきだと思ってしまいます。もうすでに銃を撃ったので、そのまま続けていけば、狙い続けていれば、神様がご自身の器としてその栄光のために働いて道を整えてくれるのです。それで数百万ビューになる可能性を持っているというのです。最初たった２ビューで何も変えられないと言うかもしれませんが、その二人が活性化されて、神主義のために全世界を変えてサタン主義を滅ぼすかもしれないのです。しかし、悪魔はいつも私たちを洞窟の中に入れようとします。ルービックキューブのような小さな箱の中に叩き込んでしまいます。そのために私たちは神様がこれに対して何ができるか分からないのです。重要なことは、それをやり続けて自分の声を上げて、自分の口を開いて福音を宣布するということなのです。一旦やってしまえば神様がみこころに叶うように整えてくれるのです。（「攻撃を受ける王国」 2017/2/19）

このような危機の時、戦争でも起ころうかという時、私たちも行動しなければなりません。自分たちそれぞれのやり方でサタンに反撃するのです。小さな行動が大きな影響を持つのです。アジアで起きていることを見て下さい。ひっくり返す勢いです。ミクロがマクロを動かします。私たちの小さな行動が、水面に落ちた小石の起こす波紋のように広がっていくようになるのです。私たちの目には見えなくても、文字通りサタンの王国に攻撃を仕掛けているのです。（「攻撃を受ける王国」 2017/2/19）

トランプのために祈りましょう。悔い改めましょう。成すべきことはすべて成しましょう。路傍に出て、またネットで放送し、王国のために声をあげるのです。今やらなければ永遠に二度と機会はありません。春は風も心地よく、野草は美しく咲き、気候も良くなりますが、「侵略者」も動き出すのです。悪魔が動き始めるのです。「アラブの春」「ウクライナの春」で何が起きましたか。私たちも準備しなければなりません。これは人類の魂をかけた、世界の魂をかけた戦いなのです。悪とサタン主義とのこの歴史的闘いにあなたは参加するのか、しないのか！我々は全員参加してお前たち悪魔を倒すのだ！そしてお前たちは死を迎える。（「攻撃を受ける王国」 2017/2/19）

インターネットを使って個々人が発信する

黙示録 14 章 6:わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて・・

神の国はもう世界に向けて宣布されました。この地上で実現するのはもう時間の問題です。これらを推進しているのはインターネットです。インターネット上で自分の名誉をかけて、嘲りを受け、ののしられ、憎まれながらも頑張っています。私たちも見習わなければなりません。（「移る王国」 2017/2/26）

サタンに銃を向ける

國進兄さんは言っています。隠喩的に「銃を向けるべきだ」と。戦うべき政治的な悪魔崇拝がたくさんあります。戦うべきグローバリズムがたくさんあります。暴露すべき政治家がたくさんいます。やるべきことがたくさんあるのです。つねに隠喩的な銃を向けていなさいと言われるのです。自分のユーチューブチャンネルを始めてください。都市部の政治家を追求してください。何か行動するのです。ローデスやジャマールに文句を言うのをやめて何かをやってください。何かを成し遂げるのです。王国のために、人を王国に、三大王権に連れてくるために。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

見てください。ペトロがキリストの前で悔い改めたときでさえ「私を愛するか」「はい愛します」「私を愛するか」「はい愛します」・・・と言ったこのエピソードを覚えているでしょうか。イエス様が復活されてからのことです。そして「行って福音を述べ伝えなさい」と言われました。「行きなさい」と。ですから、みなさんに言います。「行って福音を説きなさい」「行って王国に人を連れてきなさい」と。内部でいざこざを起こして時間と精力を無駄にしないでください。すべての人が完璧ではないことは分かっています。しかし私たちは、神様の主権の下にあります。そして隠喩的な鉄の杖を外に向け続けてください。サタンの王国をとらえて崩壊させるのです。そして人々を神様の王国に連れてくるのです。永遠の福音を説くのです。1 年半ぐらいになるでしょうか。王国の福音シリーズをやってきました。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

マタイによる福音書 6 章 33 節に「まず神の国と神の義とを求めなさい」とあります。イエス・キリストの福音、神様の王国の福音。ですから火をつけるのです。エスタブリッシュメントと専制的で天使長的なサタン的体制をすくみ上らせ、最終的には崩壊させます。ですから行って福音を述べ伝えてください。行って国を連れてくるのです。親族を連れてくるのです。人を連れてきなさい。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

本当のクリスチャン、善なるクリスチャンにとって、政府の学校で学ぶ多文化主義の愛が愛ではなく、愛は命に至る道であり、悪に声を上げて立ち向かうものであり、略奪者階級、つまり子羊を餌食にする狼の階級に声を上げて立ち向かうものなのです。愛は「おい、食べられそうになっているぞ！」と教えてあげることなのです。すべてを同じように受け入れなさいというのが愛ではありません。イエス様はパリサイ派を非難していました。人々を非難していたのです。イエス様は多文化主義の愛を実践しませんでした。善と悪を分けていたのです。両替商を非難しました。鞭を自分で作ったのです。武器を作って神殿から愚か者たちを叩き出したのです。公立学校で教えている多文化主義の愛とは異なる愛だというのです。それは真のクリスチャンが実践すべきものではありません。人類を愛するのであれば、彼らに伝えな

ければなりません。「あなたは地獄に行きますよ」と。憎いからではなく、自己満足の為でもありません。それが真実だからです。「私もあなたと同じように罪人ですが、私は自分の罪を悔い改めました。自分が間違っていたことに気付いたのです」と。それが本当の愛です。愛国者たちがこの国のために立ち上がり、救おうとするのが本当の愛です。彼らは自分の身を危険にさらし、友人からも嘲笑われ、ポリティカル・コレクトでありたいという人々に友達リストから削除され、それでもこの国の命のために立ち上がっています。（「大胆な王国」 2017/3/12）

天聖経 246（英語版） 先生は一線で冒険の場、ゴリアテの前にダビデが立ち上がるときのその気分が、本当によく分かります。堂々としているのです。神様が保護されて、百戦百勝することができるのです。「打てばお前が裂けるのであって、私は裂けない!」という心をもって暮らしてみると、本当にそのようになったというのです。神様が先生をこのように育てたのと同様に、先生も皆さんをそのように育てるべき責任があります。(203-192,1990.6.24)

後成遺伝子を発現する

レーガンの言った「力による平和」

レーガンは「力による平和」と言いました。人々が識別する能力を持つとき、彼らは強くなるので平和を守るのです。それは天一国の文化でとても重要なことです。真に神様の側にいて神様の法に沿って生きる人々は強くなります。平和警察、平和市民軍に加わります。エピジェネティクス（後成遺伝子）を解放することができ、もっと強力な本当の経験をするようになります。力の背後にある責任というものを理解するのです。他人の命を救うことができる防衛軍に加わります。実体的なものだけでなく霊的なものも同じです。（「大胆な王国」 2017/3/12）

子供がまだ幼いうちに後成遺伝子を発現させることができずに、強くなって弱さを押しのけることができないのなら、柔術、レスリング、ボクシングや射撃、狩りなどで遺伝子を発現させるのです。1 日中ゲームをしてファンタジーに浸る若者とは全く異なる人々を生み出すことができます。現実に根ざした人、教化された、平和警察、平和軍になるべき人々を作るのです。連邦警察、連邦軍ではありません。市民が警察であり、市民が兄弟を守る者であり隣人を守る、銃を携帯し、銃の使い方を知り、自己防衛と正当防衛の権利を知る人です。全く異なる人々が生まれるのです。（「識別する王国」 2017/3/19）

全体主義者、独裁主義者は、例外なく後成遺伝子の発現を望まず、弱々しく愚かで、有名人のいうことを単純に信じる若者をつくりたがります。危ないから木に登るのはやめなさい、あの子供は走り回るから ADD（多動症候群）だ、棒を振り回すと暴力的になるからすぐ止めさせろ、という具合です。
子供たちは試行錯誤を通して学習しているのです。人間が強くなって悪魔に負けないようになる、男女の若者が後成遺伝子を現して私たちの世界に大きな利益をもたらそうとするとき、侵略者から保護者へと造りかえられるというのです。牧羊犬のように。牧羊犬は保護します。それはオオカミと同じ歯をもち、オオカミのように殺すことができます。ですが面白がって殺すようなことはしません。人の弱みに付け込むようなこともしないのです。弱い人を見れば「ああ、危険にさらされている。強くしないと・・・」と思うのです。それが牧羊犬です。（「識別する王国」 2017/3/19）

自然の中で強くなる

子供を訓練し、若者を訓練して死を恐れず強くなるようにする文化。エピジェネティクスを解放させて狩猟に行き、皮をはいで釣りをして戦い、ハリウッドの愚か者のように詐欺師にならないようにする文化。本当の平和を求める本物の強い人にする文化。なぜなら本当に強い人は平和を求めるからです。戦争は求めません。それがどれほど悲惨か分かっているのです。他人がどのような被害を受けるか分かっているのでやらないのです。毎日の訓練で分かっているからです。キリストの体である人々は死を恐れてはいけません。女性たち、死を恐れてはいけません。いつかは死ぬのです。終わりのときです。これは戦争です。神様の文明とサタンの文明との間の天宙的な戦争なのです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

お父様は、済州島は狩猟と釣りの中心地にならなければならないと言われました。麗水では釣りだけでなく猪狩りの開発をされていました。左翼や公立学校でマルクス主義の教授から学んだ人は「なんと野蛮なことだ」と言うでしょう。なぜならエリートは私たちを弱くしたいからなのです。もし怒らせたら自分たちを狩り始めるのではないかと思うからです（笑）。
しかしお父様は韓国で既に確立されていたのです。ノル狩りを開発しなければならないと言っておられました。ノルは韓国の小さな鹿のような生き物です。釣り大会も開催しました。釣りは魚を獲ることです。どちらも違いはありません。なぜ神を信じる人々にとってそのような世界が重要なのでしょうか。私と國進兄さんはこの地域の友達と会って恥ずかしく思ったのです。私はあまり狩猟をたくさんせずに首を絞めたり腕を折ったりすることに夢中になっています。狩りをしたことはありますし、動物の皮のはぎ方も知っています。しかし、彼らと会ってもっと狩猟をやらないといけないと思ったのです。（「大胆な王国」 2017/3/12）

お父様は王の王として、多くのものを持っておられました。お父様は王の王として、黄金の檻の中におられました。お父様の生活は、すべての人にとって透明でした。まったくプライベートな時間がありませんでした。全生涯をそのように過ごされました。お父様は自然の中で生活するという文化を持っておられましたが、私たちはいつもそれを神の国と繋げていませんでした。自然の中での喜びです。子供たちが強くなることを期待し、それを勧める文化です。（「教化される王国」 2016/9/18）

この地域でも、ハンターや漁師はとても精力的な保守派の人々なのです。彼らは銃の本当の力が分かっています。彼らは命を奪うことがどういうことであり、それがいかに深刻なことであるかを理解しているのです。
彼らはスプレーを噴射するようにして人を倒すことはできないと

分かっています。そのようなことをしたことがなく、略奪者になることのない人々なのです。普通の農家の人であり、普通のハンターであり、普通の人々です。殺す方法を本当に知っていますが、本当に人を殺したくないと悟っているのです。もし自分や子供の生命や国が脅かされれば殺すでしょう。しかしスポーツとしてはやりたくありません。なぜなら彼らは殺し方を知っているからなのです。（「大胆な王国」 2017/3/12）

聖書に描かれた強さ

興味深いことに、聖書にはライオンが子羊と共に横たわるとあります。ライオンが狼と横たわるとは書いてないのです。イエス様は略奪者階級を狼と呼びました。ライオンが菜食主義になると解釈している人もいます。冗談ではありません。左翼的なクリスチャンはそのように解釈しているのです。ライオンが食べなくなるとは書いてありません。子羊と共に横たわるとあるのです。菜食主義者になるためにそこにいるのではなく、子羊と共に立ち上がり狼から子羊を守るということなのです。子羊に力を与えるためにそこにいるというのです。自分の爪と歯の力を子羊に持たせるためにそこにいるのです。狼と共にいるのではありません。（「大胆な王国」 2017/3/12）

クリスチャンはどのようにして王国が訪れ、主が再臨するか理解できませんでした。しかし今、私達は王国が分かります。聖書でライオンが子羊と共に横たわると言っている意味が分かるのです。カトリック教会が私たちに信じさせたいと思っているように、略奪者階級と一緒に横たわるということではありません。（中略）
キリストの体としてこのようなことを理解することが重要です。本当の敵は誰であるか理解することです。それは白人対黒人ではなく、金持ち対貧乏ではありません。それは子羊対略奪者なのです。子羊がユダの獅子（それは再臨主を意味しますが）と共に立つとき、イエス様がライオンとして再臨し、子羊は救われ、クリスチャンは再臨主であるライオンと共に立ち上がらなければなりません。すると彼は力と守りを与えサタンの王国を倒す力を与えてくれるのです。それを実行できるとき、天一国が実現できるようになります。私たちは天一国憲法の意味が分からなければなりません。どのような文明を作ろうとしているのか理解しなければなりません。（「大胆な王国」 2017/3/12）

弱いものを守る

言わなかったとしてもどこかの建物が爆破されます。世界中でやっているのです。そして彼らを保護しています。キリストの体は死を恐れてはいけません。それが父の観点であり自分の家を守るということです。なぜ男性がそれほどこのようなことに夢中になるのか分からないのです。（女性を）守ろうとしてどれほどストレスを受けているか分かっていません。私たちと一緒に訓練するまでは分かりません。偏執狂だと思うかもしれませんが、そうではありません。私たちは価値あるもの守ろうとしているのであって、資産だけのことではなくあなたのことです。変わり者とか偏執狂と呼ぶのは止めてください。万が一に備えてやっているだけです。医療保険に入っていますね。自動車保険にも。

純真なものの破壊、脆く、けなげなものを壊す、その際に見る恐怖や怖れ、それを見て興奮しているのです。若く傷つきやすい子供を見るとき、我々は武道や射撃などを教えて強くしたいと思うのです。自衛できるように。それが普通の庇護者の考えです。子供を見て、弱く傷つきやすいからそれを利用する―これが略奪者の考えです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

全体主義者に膝を屈するな

試練が全世界に臨むというのです。権力や欲望、お金や地位を選びますか、それとも神様を選びますか。主権と自由を選びますか、そのために喜んで死ぬ覚悟で立ち上がりますか、それとも「いい人であれ、抵抗するな、そうすれば事は丸く収まる」という、全体主義者の考えにひざを屈しますか。事が収まることは決してなく逆に悪化するだけです。「レイプされそうになったら抵抗するな」と。FBI が護身のクラスでそう教えているのです。レイプされそうになったら小便を漏らせ、後は抵抗するなと。「反撃するな」と教えられてきました。レイプされても、抑圧されても、「反抗するな」と。大人しく、人種差別せずに・・・あの人たちは戦地を逃れてきたのだ、レイプしたいだけなのだ、何が悪い、何をこだわっているのか。キリスト教徒なんかになるな・・・。このように言う人々は気違いです。狂っています。皆さんを破たん、絶望させ、心をいたぶりたいから、どんな扱いを受けても黙って耐えろと言うのです。それに従う人々、そのように生きている国民は、独裁者に立ち向かう可能性はゼロです。まったくありません。ましてや銃器をもつことなど考えもしない、心をかすめることもないというのです。とんでもない状況だということです。（「王国の王冠」 2017/10/8）

自由と責任で切磋琢磨する

すべての若枝は土から伸び出て大きく育ち、安息所を形成して汚れたものもそこで癒されます。前にも言いましたが、王国には完成された人だけがいるのではありません。自由な人たちがいるだけです。自由で責任ある人々です。そこには侵略者、捕食者もいることでしょう。しかしここにいる若者たちが訓練によって日々強く成長しているように。ところで昨日初めて顔面にパンチを受けた人はいますか。なんと素晴らしい体験でしょうか（笑）。とても大切な経験です。人は顔面を殴られることを怖がり過ぎます。パンチだけではなく締められることもそうですが、その経験はあることに気付かせてくれます。その思考が現実味を帯びるのです。（「生命の王国」 2016/6/5）

精神性と勤労意欲を育てる

パレスでも、私たちは子供たち全員に肉体労働をさせています。皆さん知っている通り、私たちは造園作業をたくさん行いました。あるときは 2 トンもある危険な岩を移動させたことがありました。子供たちは人が来た時に座れるように小さなベンチを作りました。彼らは大工仕事をしたり、木の根を掘ったりしました。非常に重要なことです。大人がやってあげると言うことの方がもっと大きな問題です。子供たちがこのようなことをやることでより強くなるのです。自分のことに気づき学んでいきます。何度も何度も同じことをしても飽きることがありません。自らを励ますのです。いかに不平を言わずに自分を励ますかを学ぶのです。
彼らは非常に重要な道具を学びました。精神性、勤労意欲。

この子供たちは最初すべてに不平を言っていました。直接的な不平と間接的な不平があります。直接的なものは「なぜこんなことを」といったようなものです。間接的なものというのはふさぎ込んだ態度です。全員の活力を奪ってしまいます。全員が彼らによって力を奪われるのです。
他の人たちの活力を奪うのはやめなさいと彼らに言います。しかし子供たちはそのようなことを経験する必要があります。毎回愚かなことを繰り返します。教えるということはダイナミックなものだと思うでしょうか。それは何度も何度も同じことの繰り返しなのです。お父様は同じメッセージを何度も繰り返し語られたと思います。なぜなら人々が何度も同じ愚かなことを繰り返すからです。しかし彼らはそれを経験します。そして彼らがそれから逃げないようにするのです。なぜならそれが彼らに対する思いやりであり、役に立つことであり、将来彼らを傷つけないためなのです。
もちろん彼らは逃げ出すことができるだろうかと、文句を言いながら私たちの束縛を試そうとします。いろんなばかなことを言って。彼らを逃げ出させたらどうなるでしょうか。ただそれをもっと続けるだけなのです。そして結局、仕事しながらも実際は全く別の王国を頭の中で作り上げてしまうのです。ですから若いうちに芽を摘んでおきます。早めに捕まえるのです。それが彼らを救うことになります。それで彼らは正直でいられます。
そして彼らが何回かそれを学べば、2 回目 3 回目には錯覚の下で思い出すようになり、彼らの道徳観が変わるのです。彼らの働きぶりが非常に変わってきます。そして私はいつもお母さんたちを叱ります。なぜなら、彼らが子供たちに不平を言わせて、そこから逃げるようにさせているからです。すべてではありませんが、ほとんどのお母さんたちがそうなのです。子供たちに好きにやらせて言わせておくと、それが循環してどんどん大きくなっていきます。なぜなら女性は衝突を求めないからです。論争を求めません。なぜそれがあなたにとって良いことなのか、論理的に説明することを求めないのです。とにかくやりなさいと。しかしなぜこのようなことを学ぶ必要があるのか説明することは重要です。最も基本的な理由は、例えば他のすべてが失敗したとしても、それでも彼らは仕事に就いて雇ってもらうことができます。肉体労働ができて、それを怖いと思わないのであれば。良い態度で行うなら仕事を得ることができます。それは保険になるのです。
しかし私は、すべての牧会者たちに一緒に掃除をさせました。そして、お父様はダンベリー刑務所で犯罪者たちの大小便を掃除しましたが、私たちは救われた人々のものを掃除しているのですから感謝しなさいと言ったのです。（「豊かな王国」2017/7/23）

柔術は天一国憲法に通じる

若者が受ける訓練が大きな意味があることと関連しています。証をした人すべてに共通する言葉がありました。それは「謙遜になる」ということです。現実を離れたところに住むことはできないということです。神様が与えられた十戒も柔術と共通するところがあります。十戒は柔術の達人のようです。どんなに善人になったと思ったとしても、十戒という神様の戒めに照らし合わせる時、地獄に行くしかありません。私たちは嘘をつき、盗みを犯し、神様を冒涜しますし淫らな思いで人を見ます。十戒を見るとき、神様から遠く離れた自分を見るのです。そこで現実が突きつけられます。（「近接する王国」 2016/9/11）

ここで闘士の世界と霊的闘いの世界との共通点が現れます。霊的世界では（サタンという）幻の父が存在します。それは嘘つきで、皆を迷いの中に閉じ込めます。否定的な言葉だけではなく、ときには肯定的な言葉を用いて迷わせるというのです。こう考えたことのある人はいますか？耳に巧みにささやき、嘘で満たし、自己崇拝に巧みに導きます。真剣勝負の格闘は霊的真剣勝負に役立つことが多いのです。スーパーサイヤ人の達人のように強力な十戒の前では、いかにもがいても「降参」するほかありません。「降参」です「降参」。十戒の前では私たちの罪が明らかにされ、神様からどれほど離れているかが示されるからです。横の人間とくらべて善人だと思っても神様のレベルから程遠いというのです。（「近接する王国」 2016/9/11）

柔術は王国の文化

もちろんこれは、今私たちが青年たちとやっていることなのです。私と一緒に訓練している人たちは、単に柔術の訓練をしているのではなく、真のお父様と訓練しているのです。私はお父様の代身者です。私が選んだのではなく、お父様がそれを選ばれました。私と訓練するとき、ただ武術を訓練しているのではなく、王国の文化を訓練しているのです。王の王について学んでいるのです。彼らはまた強い人にもなるでしょう。お父様は、平和警察、平和市民軍と呼んでおられました。（「教化される王国」2016/9/18）

私にこういった（格闘技などの）技術があることを知っている人は、ほとんどいません。それは良いことです。こういった訓練をしているなら、その秘密を敵に知らせたいとは思わないのです。責任ある人間ならそういうことはしないものです。人前でただ見せびらかしたりするものではありません。そういうものは文化にありません。これをやってメダルを取りたいとかいうことも良いでしょうが、だからと言って結局それがどうだというのでしょうか。本当の話、それが価値を与えてくれるものではないのです。（「王国の防衛権」2017/12/24）

力強い人間になる価値と願望と喜びを与えてくれるもの。私たちが訓練する理由は、神様を愛し、隣人を愛することです。それはイエス様が凝縮した戒めを現実化したものです。イエス様はパリサイ人にモーセの戒律の（重要なものの）一つが何かと尋ねられて、心を尽くし精神を尽くし、思いを尽くして神様を愛しなさい、そして自分を愛するように隣人を愛することだと言われました。自分を守りたいと思うように隣人を進んで守りなさい、ということです。非常に簡単なことです。平和警察・平和軍の最も重要な中心的推進力は、キリスト教の道徳を実現化する訓練をすることです。つまり神様を愛し隣人を愛するという道徳です。（「王国の防衛権」2017/12/24）

クラスの終わりに王妃と話しましたが、子供たちに「隣人を愛しなさい」と言いたくありません。そうすると隣人が神様だと考えてしまうかもしれません。子供たち自身も、神様を愛し隣人を愛

することが標語だと理解するようにならなければなりません。始めの部分を忘れないでください。そこが重要な部分です。それが隣人を愛する理由なのです。この愛の道徳によってこそ、心を躍らされ情熱的であり続けることができます。それによって、普通の人よりも優れた手段や技能を持った人が、必要なら罪のない人を守ることができるようになります。だからといって何も保障はありません。あらゆる訓練をしていても頭を撃たれて死ぬことがあります。現実に基づいた格闘技では誰もが知っていることです。

刀のように鍛える

この人たちに侍の刀の使い方を教えていたとき彼らに説明したのですが、自分の心と体を訓練するとき、素晴らしい刀を作るにも、玉鋼（たまはがね）の金属の醜い塊から始めなければならないというのです。現実を確認するのです。刀鍛冶は師匠が玉鋼の塊を持って、若い 3 人がパン、パンと打っていきます。そのようにして刀の折り返し、鍛錬の過程を速めていくのです。そして何万回も叩いていきます。叩いては折り返し、叩いては折り返します。文字通り何千という層が中にできるまで、金属の中の不純物を除きます。その後もまだ見た目のひどい刀のままです。それを急冷し火のるつぼの中に入れなければなりません。火に入れてハンマーで完全に叩きます。その後、磨かれて何時間もかけて研がれます。代々受け継がれた刀鍛冶の血統があり、またそれとは別に刀の研ぎ師の血統があります。別々の血統なのですが一緒に働くのです。
若い人たちにはいつも言おうとしていることですが、あなたたちはすばらしい侍の刀のように作られようとしているということです。しかしまだそれはできていないのです。本当の格闘の訓練を行うと分かります。最初は本当にひどい気分を味わいます。自分は強くて誰でも倒せると思っていたのですが、力を振り絞ってもこの痩せた女の子や痩せた男の子にやられていることが分かるようになります。それはまるで鍛冶のように火の中に入れられて叩かれるということです。しかしもっと美しいもの、もっと強いものが作られていくという事なのです。（「不死の王国」 2017/4/23）

鉄の杖で備える

詩篇 2 章　2:8 わたしに求めよ、わたしはもろもろの国を嗣業としておまえに与え、地のはてまでもおまえの所有として与える。2:9 おまえは鉄のつえをもって彼らを打ち破り、陶工の作る器物のように彼らを打ち砕くであろう」と。

自分自身が主管して責任を持って実行するのです。銃の文化が非常に重要になります。鉄の杖の文化です。それによって潜在的な脅威に、危険な現実に、対処せざるを得なくなります。しかし、あまり誇大妄想的になるのではなく、現実的になってできるだけの準備をするということです。（「備える王国」 2017/9/3）

アメリカで、おそらく世界でそのような国はないでしょう。このような拳銃ですが、法的に拳銃ですが、実際には、これは、これは戦争を戦うことができる銃です。このような銃を持って行き来することができる国は、おそらくアメリカしかないでしょう。そうですか、そうではないですか？東洋は絶対禁止！（「銃器所有神学論」2017/12/20）

武器の必要性

今ここの若者たちが二代王と様々な武道の練習を沢山しているでしょ？ブラジリアン柔術と MMA、このような内容をするのですが、今女性達が学んでいるのです。小さな男が女性をこのように上手に主管するのですが、考えてみてください。ジョン・クラークのような大きな力の強い建築、生涯建築をしてきた男性を考えて下さい。どれくらい力が強いでしょうか！昨日、マーシャルとソンヒョの訓練するのを見ましたか？見たでしょ？そのような爆発的な、お前達どのように消化するのですか？女性達？だから、武器が必要なのです。今や理解できるでしょ？実感するでしょ、今それを実質的に経験するから。二代王がいくら言っても、お前達が経験しなければ理解できませんね。そうですか、そうではないですか？そうでしょ、経験するから。だから武器がそのように重要です。（「銃器所有神学論」2017/12/20）

重要なことは、王国において、すべての男女が平和警察平和軍のメンバーであるという理由です。それ（武器）を通してより良い人になるのでそれを使うこともなくなります。実際、それによってもっと愛のある人間になります。そのような訓練によってもっと保護的な人になります。人を守りたい、守る必要があるということに価値を置くようになり、それを考慮するようになります。
レストランで、入口を気にかけて不審者が入ってきたらどうするかを予め考え、自分が守りの一線にならなければならないと考えているのはあなた一人かもしれません。自分を守ろうという意識を全くもたない人ばかりで、ドアに向けて位置を合わせ、何か起きたら行動できるような場所にいるようにしよう、という考えを持つ人間は自分だけかもしれません。それは悪い心構えでしょうか。君は大きな不安の世界で生きている偏執病だ、と言うでしょうか。人を愛したい、守りたいと思うのは偏執病でしょうか。洪水の起きる場所で生活しているのに非常用の物資を準備しておくのは偏執病でしょうか。車を運転するのにシートベルトをするのは偏執病でしょうか。（「王国の防衛権」2017/12/24）

王と王妃の責任で守る

天一国ではこの鉄の槍、鉄の杖、鉄の杖は鉄の棒、この鉄の杖は王と王妃の責任です。天一国において、共産主義の国のようにすべての土地の所有とすべての銃の所有が政府の手にあるのではありません。市民が土地を所有しなければならず、市民が宗族の王と王妃たちとして銃器を所有しなければなりません。なぜ？皆さんは皆さんの村を守らなければならないから！皆さんは平和軍警察だから！（「銃器所有神学論」2017/12/20）

鉄の杖の文化を志向するコミュニティで備える

アメリカにはプレッピング（備え）のコミュニティがあります。なぜかと言えば、まだ銃を持っているからです。銃の性質とその力が（脳の）偏桃体の成長を促します。自分の生命に対する脅

威が存在しているということに気づかなければなりません。そうでなければ銃の訓練を行うことはないでしょう。自分と家族の生命に対する脅威が存在することに気づかなければなりません。政治家や政府の役人のような人に頼ることなく、自分で準備するのです。（「備える王国」 2017/9/3）

アメリカにそのようなプレッパーズやサバイバルのコミュニティがあるのはなぜかと言うと、基本的にまだ銃を持っているからです。鉄の杖を持っているからです。一般市民が途方もない力を持っています。そのような力を持たない他の国では、自動的により大きな権力を信じてしまいます。自動的に天使長の言うことを信じるのです。自動的に中央集権政府の話を信じてしまいます。そのように訓練されているので仕方がありません。（「備える王国」 2017/9/3）

さて、神の国の文化では、連邦の警察はありませんし、連邦の軍隊もありませんので、若いときから若者たちはコミュニティを守るために訓練しなければなりません。まず初めにどのようにして弾丸を防ぐかを学ばなければなりません。自分を守る方法をまず学ばなければなりません。神の国ではブラジリアン柔術のようなものがあります。総合格闘技のようなものがあります。射撃のようなものがあります。ハンティング、釣り、農業のようなものがあります。すべての人の主な訓練としてこのようなものがあるのです。（「教化される王国」 2016/9/18）

日本にそのような文化がなくても、YouTube で話すことでそのような主権の文化をもたらすことができます。そうすれば、日本でその状況を心配している人が、皆さんと話すことができるようになります。それで、アメリカでこういう話を聞いたということを共有できるのです。もちろん法律の範囲内で最善のことをするということです。しかし、何もないのではなく何かは得られるでしょう。コミュニティで対話を始めて、インターネットでそのことを話し、大気の中に放つのです。そうすれば真剣に心配している人たちとつながるようになります。日本には心配している人もいるからです。（「備える王国」 2017/9/3）

銃文化は、準備することと密接にかかわっています。どうして銃器が必要なのか。狩猟に限らず、自衛手段として、それはなぜですか－自分たちは準備する、備える者たちだから。このように備えることと密接に関わっています。そしてそれを大きく超えて、力強い「備蓄文化」がアメリカにはあります。大量の銃器が存在するからです。人びと、銃を所持する人には、（危機を）意識する目覚めた部分があるのです。銃所持コミュニティに所属する人に備える人が多く、また準備もしているのです。どのような状況に対しても。あらゆるすべての事態に備えて準備することはできないかもしれませんが、そのうちのどれかに対して準備することはできます。（「備える王国」 2017/9/3）

悪に銃で備える

イスラエルのような国は、このようなことに頻繁に遭ってきたので、イスラエルはどのようにしたのか？イスラエルはすべての先生が銃を持ち歩かなければなりません。イスラエル！イスラエルですべての公立の学校の先生たち、女、男の先生が銃を持って通います。なぜ？悪い奴が一旦入って来ると、犯人が撃っている時に、もう一度犯人を撃つことができるように。警察が 10 分、15 分かかるから、警察が来る時まで子供たちを最大限保護することができるように！（「銃器所有神学論」 2017/12/20）

迫害を覚悟する

私たちは主権について、堕落について非常に明確に理解し、天一国憲法によって神様の王国についても非常に明確に理解している唯一の集まりです。同時に世界中で王冠を被り、鉄の杖を持つ運動が進んでいます。とても興味深いことに、日本の兄弟姉妹たちは鉄の杖を持って写真を撮っています。本物は手に入らないのでおもちゃですが。最初は迫害を受けています。日本の CIA のようなところ（公安警察）が監視していて彼らに会おうとして「なぜこのようなことをしているのか」「なぜ鉄の杖を持っているのか」と言います。なぜならアメリカのように鉄の杖を所有する権利を必ずしも持っていないからです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

しかしこのような態度は、既存の天使長的な政府にとって好ましいものではありません。ですからこのようなことをすれば迫害があるのです。これまで 2、3 年の間話してきました。迫害が起こることは分かっています。神様の命令だというだけでなく、それを実行しなければなりません。なぜかと言えば悪の略奪者に屈服しても良くなることはないからです。奴隷になれば必ずもっと悪くなります。ですから歴史上のどこかの時点で立ち上がる必要があるのです。もちろんそれは終わりのときに起こります。まさに患難時代の中期に。たとえおもちゃの銃と王冠であっても日本の兄弟姉妹たちは立ち上がっています。それが今、国の政府から迫害を受け始めているのです。もちろん馬鹿な真似はしないでください。法律のことを分かって、違反しないようにしてください。情報、情報戦に基づいてそのために戦うようにしてください。主権において自分の態勢を整えた上でそのために戦ってください。法律を破るようなことをして過度に迫害を呼び込むようなことはしないでください。もちろんそのようなことは望みません。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

7 - 2 聖霊と共に戦う

聖霊を受ける

確信を感じたなら、それは私が確信を与えているのではありません、聖霊の与える確信です。（「王国のカオス」 2017/8/13）

横的に支える聖霊

これが今、統一教会で教えられている中で混乱していることですが、お父様が神様の二性性相を語られるときそれが出てくるのですけれど、摂理の中で最も重要な関係は父と子の縦的関係であるとおっしゃいました。対象をかたられるときは主体の周りをまわる立場としての対象を話されました。ですからお父様は縦的存在として中央に位置しお母様は横的存在として主体のまわりをまわる関係です。神様は男性性相と女性性相をお持ち

ですが聖霊と言いうのは女性性相を反映するものです。だからお母様の役割はその女性性相をあらわすことでした。重要なものは縦的な（父子）の関係であって、対象はそれを横的に支えることです。つまりお父様の中の性相を対象は反映するのです。お母様の役割というのは対象としての立場を完成させ、絶対に対象としての立場を離れてはいけなかったのです。
原理によればお父様が霊界にいかれた後はその主体的立場は息子が継承し、お母様は主体として立った息子のまわりをまわらなければならない。主体のまわりをまわりながら主体の影響を受けながら女性性相を反映する存在が聖霊と呼ばれるものです。ですから現在の異端となった家庭連合には聖霊は存在しません。（「国進様質疑応答」2016/4/11）

イエス様の聖霊とお父様の聖霊

夜の神様という教えをご存知でしょう。夜の神様は創造以前から存在する神様です。基本的にお父様はご自分が神から来た者であるといわれました。基本的にはキリスト教でのキリスト像を再確認されたわけです。つまりイエス様が神様の形として現れ、そして天に戻っていかれたということを再現されました。ですからイエス様とお父様は同じだということになるわけです。ですからイエス様の時の聖霊とお父様の聖霊もおなじ、神様の女性性相を体現するものという意味では同じものなのです。（「国進様質疑応答」2016/4/11）

神様との縦的な関係に依る聖霊

これからも聖霊が私たちを導いて下さるでしょう。なぜなら二代王様がおられることによって縦的関係が維持されているからです。また二代王が立っておられるので夜の神様と昼の神様が一つになっているのです。夜の神様と昼の神様が一つになることによって神様の直接主管の基盤ができるのです。（「国進様質疑応答」2016/4/11）

聖霊によって善悪を見極める

イザヤが言ったように目が開かれるとき、世界が善を悪と見なし、悪を善と見なすときでも、皆さんの目が開かれて、皆さんがキリストにあるならば善と悪が何であるかが本当に分かります。聖霊が注がれると非常に大きな力が出てきます。そして世界が分かり、本当に自分の敵が分かるようになるのです。何が善で何が悪か分からないときには、雲の中で戦おうとしているようなものです。（中略）しかし、善と悪を解読することができてそれが分かれば、悪魔崇拝者が、文字通りに王国を作るためにどのようにこの地上の存在を利用しているかが分かるのです。誰がその役割を演じているか分かるのです。その人々が分かるというのです。それが現れるのがわかります。それが分かると非常に大きな力に満たされます。そして圧制者はそれを嫌うのです。あなたが分かるようになると、彼らは陰に隠れて行動しなければなりません。聖書にあるように、戦いは血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者に対するものですから、彼らは隠れるべきやみが必要です。そしてキリストの体が彼らを見ることができずに、彼らが隠れていて捉えどころがない透明なものであるなら、自分がどこに立てばよいか分かりません。（「死を超える王国」 2017/2/12）

聖霊によって神霊の炎が燃える

しかし、この世の中で、政治的な悪魔崇拝によってサタンが実際に活動していることに目が開ければ・・・見てください。「**あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう**」自分の中にたくさんの炎が燃えて神様の霊と神様の人間に対する贈り物が自分の中で沸き起こります。「人類が死ぬのを眺めてじっとしていられない」、「自分の仲間の男性や女性が地獄に行くのを見てじっとしていられない」、「自分はこれに立ち向かわなければならない」、「悪魔を悪魔と呼ばなければならない」、「悪を悪と呼ばなければならない」と。たとえすべての友人に嫌われても、社会的に排斥されても。差別主義者、偏屈、同性愛嫌悪などと言われたとしても。左翼が皆いつもそう言っています。そんなことは関係ありません。気にならないのです。今私はあなたを超越しています。攻撃されることなど気にしません。悪を悪と、善を善と呼ぶのです。そして神様は素晴らしい、と。（「死を超える王国」 2017/2/12）

聖霊によってキリストの目で見る

これは、イエス様が肉体の死の後であっても、墓を超えてもたらした繋がりなのです。それは神様の王国でした。王国の福音だったのです。それがあなたに聖霊自身の力を吹き込むのです。聖霊があなたに現れて、あなたは火と力で洗礼を受けます。あふれるような力です。征服し破壊する力です。「小さなオオカミさん、いらっしゃい」というような力ではありません。サタンの柱を打ち壊すような力です。サタンの文明を破壊して一掃するような力です。今、私たちはそれがキリストの体において非常に驚くべきことなっているのがわかります。なぜなら本当に政治的に目覚めている人々は、キリストの目で見ることができ、聖霊の目で見ることができ、聖霊の贈り物である識別能力を通して、そのような贈り物を与えた父の目を通して見ることができ、現実の世界でサタンの王国を築こうと求める勢力があることが分かるのです。（「死を超える王国」 2017/2/12）

聖霊の与える贈り物の一つは識別する能力です。イエス様を受け入れてイエスの名において洗礼を受けなければ、聖霊を受ける事はできません。家庭詐欺連合はイエス・キリストと言うことすらできないのです。それを言うと人種差別主義者になると言うのです。そのように文化的な悪魔崇拝が支配しているのが分かります。
再臨主とはイエス様が再臨した方ですよ。イエス様の名前さえ言えずにどうして聖霊を受けることができるでしょうか。イエス様の名前を呼ぶことが悪だと考えるなら、どうやって識別していけると言うのでしょうか。イエス様は私たちが善と悪を識別するのを助けて下さる方なのです。彼は世の光です。すべて宗教は同じで、それで平和だと信じさせることがでたとしても、それは偽りの平和なのです。それは略奪者が自由に略奪できるところです。（「大胆な王国」 2017/3/12）

コミュニティの中で生きる

キリストとの関係性で生きる

時々、その丘の上を歩いてくるとみんながキャンプしている場所が見え、たくさんのキャンプファイアーがあり、何か映画のワンシーンのようでした。何か（スターウォーズの）ジェダイのキャンプか何かみたいでしたよ。本当に神の国ができたかのようでした。それは宗教という意味ではなく、関係性なのです。それは共同体ということですらなく、お父様との関係性です。私たちは共同体を中心としているのではなく、キリストを中心としています。キリストを中心とするときこそ、より強い共同体になります。単に共同体中心だけであったとすると、共同体が崩壊すれば自分も崩壊します。家庭連合に何が起きたでしょうか。彼らは非常に共同体中心的でキリストにつながっておらず、キリスト中心ではありませんでした。ですから共同体が方向性を間違えると、人もだめになってしまいます。彼らは決断することができません。なぜなら彼らは世の中のものに結ばれているからです。そして最も大切なものである神様との関係を結んでいません。天に宝をたくわえることが、私たちが思い出さなければならないとても重要なことです。（「王国の神の光」 2016/10/2）

お父様は王国と三代王権について語られました。お父様にとって地上天国建設が目的でした。王国は宗教ではありません。その王国は政府などの政治機構を持つものです。お父様はワシントンタイムズを創刊し、国連に働きかけたり、カイン UN では駄目だとしてアベル UN を創ろうとされたりしました。このようなお父様を見て「私たちは宗教団体なのに」と戸惑った人もいました。しかしイエス様が宗教を創りに来られたのではなかったようにお父様も宗教を立てるために来られたのではありません。関係性です。関係性を築こうとされたのです。（「御国が来ますように」2016/3/20）

イエス様そして再臨主も、新たな宗教を作るために地上に来られたのではありません。関係を築くためでした。また世界的レベルで神の国を作ることでした。（「神の国」 2016/3/13）

キリスト教は宗教ではありません。それは関係性です。公正で善良であり、私たちが生命を維持し、正義を守ることを望まれる、愛する父との関係性を持つ人々です。私たちは完璧ではありませんが、完璧な神様に仕えています。（「王国の防衛」 2017/6/18）

現代のアメリカで経験できる自由と主権について、少しでも感謝しているのであれば、イエス様に感謝すべきです。なぜなら、その文明からきたものだからです。私たちが話してきたことのすべて。ロゴスから法学の根本的な中核、神様の前での男性と女性の平等の根本的な中核。他の神様から来たものではありません。ユダヤ・キリスト教の価値観。男性と女性は神様の前で、その価値、愛において平等です。役割は異なりますが、価値と愛においては平等です。祈りによって、根本的な意味に戻りましょう。神様の目的。キリストとの関係性。基本的な意味と目的。関係性。それが私たちを根本的な関係性に戻してくれます。それが時空と次元を超えて、すべての始まりと一体化させます。壮大な物語に繋げられます。それは神様の物語です。聖書と関係を持つとき、自分の物語が神様の物語の一部になります。あなたは 14 万 4 千に加わり、選民に加わります。神の摂理に参加し、神様の壮大な物語に参加するのです。途方もない意味と価値を持つようになります。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

神の王国を築くコミュニティ

私たちは実際に地上の神の王国を見据え、神の王国を築く者になるコミュニティにならなければなりませんし、実際、そういうコミュニティです。理論上の王国ではなく、実体の王国を築きたいのです。それが我々のコミュニティが挑戦しなければならないことです。このペンシルベニアのコミュニティがやらなければなりません。それから世界中のサンクチュアリ・コミュニティがそうなるのです。一歩一歩、全員がそこに向けて努力しなければなりません。（「国進様質疑応答」 2017/5/27）

コミュニティの関係性で生きる

私たちは自由です。それは都会のリズム、インターネットの愚かな内容に耽溺していないから。もっと偉大なものをもっている。真のコミュニティと名誉ある人々、誠実な人々とともにあり、鍛えてくれる大自然に囲まれている。我々は何か物理的な建物、清平や天正宮のようなものに縛られない。神様は飛行機でペンシルバニアの一角に降ろして下さった。（「備える王国」 2017/9/3）

患難のときにおいて、それは過ぎていきますが、しかしまた神様は確かに自分の民に生き延びて欲しいと思っています。私も皆さんに生き延びて欲しいと思っています。ですから、私たちにとって、コミュニティと関係性が非常に重要です。経済が崩壊し、戦争が起こり、そういったすべてのことが起こる困難な状況では、これらが重要であり、そのすべての中で私たちを支えるのは関係性なのです。（「逆転の王国」 2016/10/16）

神様との関係性をしっかり持つとき、強力なコミュニティを持つとき、そのようなことは気にならない、脅威でないというのです。悪口雑言も汚水のようにあなたの上を流れるだけで、中まで入ってくることなどありません。（「王国の豊かさ」 2016/11/20）

自分の身は自分で守る

すべてのコミュニティは自分達の安全を自身で守る責任があるからです。幼い時から基本的な自衛の技術を習得することはコミュニティを構成するメンバーの責任だということです。自主独立です。これが天一国文化の中心をなすのです。イエス様がもし金貸しを打つ鞭を製造していたらどうでしょう。イエス様がお父様と一緒に戻られた時、最初に起こした製造業が空気銃の製造だったとしても驚くことはありません。後にはそれが国の防衛産業と共同して韓国民を守るためのバルカン砲を製造することになります。それを年長のカイン（国進様）がその伝統を引き継いで競争の極めて激しい業界で成功を納めています。お父様の後継者としての私が射撃も射撃スポーツも楽しむうえに人を訓練し修錬する武道を愛することは決して偶然ではありません。（「教化される王国」 2016/9/18）

小さなことで分裂してはいけない

聖霊を受け入れてキリストにおいて新生した人々です。キリストにある者は小さいことに干渉すべきではないとパウロは言っているのです。神様は法を超越しており、私たちは神様の恩寵の下にあるからです。（中略）私達が信仰で一つとなりキリストの救いを受けるとき、小さな事で私たちが分裂してはいけないという事なのです。もちろんパウロは、異端はすべて教会から除かれるべきだと言っています。大きな異端が出てきた場合、それは癌のようなものですから、取り除けなければならないのです。（「識別する王国」 2017/3/19）

干渉してはいけない

王国では、人々はどのように神様との関係を持つのかを自分で自由に選択します。ヨーロッパである姉妹が原理講義をしようとしていました。それで人々がこれをしたらダメだとか、あれをしたらダメだとか言い始めたのです。それで、私たちは本部がそのような細かな管理をすべきではないと言いました。もしその祝福準備セミナーが良くないと思うなら、自分でやりなさいというのです。私たちは WEB サイトで、参加したセミナーに対して誰でもコメントができるようにしています。自分でその参加者のレビューを見てみてその祝福準備セミナーに参加するか、子供をそこに送るかどうか判断すれば良いのです。誰かがあれは良くないとか言うこともあるでしょうが、私達は、本部がこうしないといけない、これはいけないといったように干渉はしないのです。権威を乱用するようなことをやっていれば、すぐにそれはインターネットで公開されるでしょう。私たちは WEB サイトでフォーラムを作っていて、例えばこのセミナーはひどいとかコメントができるようにしています。（「識別する王国」 2017/3/19）

パウロが言っているのはそういう事であり、私たちは信者たちのコミュニティで義と平和と調和を持つのだと言っています。神様がそれぞれに求めておられるようなやり方で各自のミニストリー（神のための奉仕）を追及することが許されているのです。皆問題を抱えていますが、神様はそれらのミニストリーをその栄光と王国といった目的のために用いられるのです。些細な事はおいて、自分たちがキリストにある者であるのか、罪を悔い改めたのか、キリストに服従しているのか、キリストとの関係性を追求しているのかといったことがもっと重要なのです。私達は完璧ではありませんが、完璧な方に向かって進んで行くという事です。それは「構え、撃て、狙え」という事です。神様は様々なミニストリーを、つまり私たちが神様の願いに適うように、神様を喜ばせるように、神様に栄光をもたらすように行っていることを形作っていきます。（「識別する王国」 2017/3/19）

お父様の観点で見る

前後事情を考えなさいというのです！お父様の事情です。神が命じられた時、アブラハムはそれに応じて立ち上がった。祭壇を築いてイサクを献祭しようとした。娼婦のラハブは神の人々（イスラエル）を守りました（ヨシュア記）。だから娼婦の中にも色々いるのです。神の人々を売り飛ばす娼婦もいれば、神の人々を保護する娼婦もいるのです。ここぞという時、神様は娼婦を用いることもできるのです。すべての娼婦を用いられるわけではありませんが、ラハブを用いられました。もちろん、それで娼婦自体の罪を断罪されない神様ではありません。要するに、これらを通してお父様は何とおっしゃったでしょうか。家に帰ったら民数記 33 を読んでください。そこに最初の文章を見いだすでしょう。そこで事情の見方が与えられるでしょう。我々の成してきたことを再び想起させ、個人の栄光を求めてここに来たのではありません。嘲り、嘲笑を自分の栄光のために受けてきたのではないでしょう。サドマゾヒズムでそんなことをしたのではないでしょう。一人一人が、もっとも困難な時に立ち上がり、正しいことを成したのです。だから皆さんが完璧なのではありません。皆仲良くやっていけるわけではないのです。しかし 99.999%の人ができないことを成してきたのです。あなたが必ずしも意見が合わない人もそれを成してきたということです。99.999%ができなかったことをした人です。要点が分かりますか。時々、怒り狂わせるようなことをするとしても、喧嘩するとしても、特別な人々ではありませんか。一度私たちのトレーニングに参加してみなさい。2,3 時間もすれば心配事などすべて吹っ飛びます。神様の視点で見なければなりません。だからぜひ試してください。祭壇での本の向きを変えてみなさい。大きな違いを感じることでしょう。どうか試してみて下さい。正しい霊界を周囲に感じることができるでしょう。（「豊かな王国」 2017/7/23）

天聖経（英語版）327：貧しい田舎の農夫として草取りをし、農業をする立場にいたとしても、その農夫に心と体に膨れ上がる愛の情熱が燃え上がっているとすれば、心の五官と体の五官が完全に合わさり、この上もない喜びを味わうことでしょう。このように神様の愛が皆さんに臨む安着点をもっているなら、時計の振り子の振動のように神様の胸が一度だぶんと揺れれば、皆さんの胸が一度だぶんと揺れ、それで皆さんと神様が共に回るというのです。 （祝福家庭と理想天国 I-370）

見てください。「彼らの口には偽りがなく、彼らは傷のない者であった。」やろうと思えば私はローデスを非難することも、ジャマールを非難することもできるでしょう。しかし私はお父様の観点から見なければなりません。なぜなら、お父様が私を代身者、相続者にされたからです。お父様の観点から見るなら、「OK、申し分ない」となります。お父様の観点を保たなければなりません。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

神様との関係を自叙伝として書く

お父様が、私たちに自分の自叙伝を書くように言われたことを覚えているでしょうか。みなさんの物語が重要です。サタンはあなたの物語は重要でないと言いますが、それは重要なのです。それは、人間が単なる血肉ではなく、物語だからです。現代人が神様との関係を捨てるとき、それは自分の物語を捨てているのです。そういうわけで、いつも新しい物語を作り直そうとします。もちろん、それはもっと苦痛と損害、悪意を受けることにつながります。（「揺り動かされない王国」 2017/11/26）

7 - 3 患難期を生き抜く

患難前期（2017/9/23 まで）

私たちがグローバリズムの思想と体制から出ようとすると、世界はまさに変動しようとしており、大きな革命が起ころうとしています。トランプ革命は非常に大きなものです。アメリカは主権のために戦っています。私たちは共産主義体制の中で生きたくありません。もちろん、ですから彼らはロシアと第三次世界大戦を始めようとしています。ロシアも共産主義体制を望んではいません。しかし、しかしこのようなあらゆることにおいてサタンは戦っています。みなさん、サタンはその力のために戦っているのです。それは戦いです。（「逆転の王国」 2016/10/16）

危機に瀕している時（9/23）

鉢からは「悪性のできもの」、「血の海」、「水源の血」、「太陽の炎熱」、「暗黒」、「世界の軍隊」― ああ、確かに現代の科学技術にあるもの、爆発した後、悪性のできものができ、海が血にまみれ、炎熱、闇をもたらす雲と灰・・・それはなんだったかな・・・なにか、似ていますよね・・・問題の、東アジアの北朝鮮、スターリンを彷彿とさせる、現代科学を利用して作った物・・・。何と人々は愚かであることか！悲しいことです。危機に瀕しているのです。そしてこの者は ICBM を日本の上を飛び越して撃った。世界 3 番目の経済大国の上を。いま。つい 2,3 日前に！何が起こっているか見抜けますか。何が起こっているか理解できますか。冗談なんかではありません。核のホロコースト（大量虐殺）に最も近づいているのが今なのです。1 週間ばかり前に、爆発させた小さな核爆弾、それはヒロシマ、ナガサキ型の 10 倍強力だったのです。しかも結構な数のそれをもっている。いやはや・・・。その上、経済崩壊の淵に立っている。そして「天の大いなるしるし」。神様が摂理を通して、今週、「しるしを与えよう」と。しばしば天にその印をこれまでの現わしたように。それは警告だ。ちょうど 3 人の賢者が星に導かれて「主がお生まれになった。さあ行こう」とベツレヘムまで訪ねて行ったように。それを我々は「ベツレヘムの星」と呼びます。そのすべてがここで合致するということは興味深いことではないでしょうか。まさにここで！9 月 23 日。（「王国の王冠」 2017/9/17）

今すべてが崩れています。北朝鮮を主権の側に押し出し、自由市場と人々に自由を与える方向に説得する、そういう機会が消え失せました。そしていま、全く、全く、全くの破壊の淵に立っています。トランプは「嵐の前の静けさ」といっています。聞いた人はいますか。昨日か、おとといのことです。軍の将軍たちとの食事会の席で「嵐の前の静けさだ」と。レポーターは「大統領、何の嵐のことですか」と聞いていました。すると大統領は「そのうち分かる」と答えて、親指を二本立てました。深刻な時代に生きています。しびれるような時です。だからこそ、あちら、こちら、ふらふらしていては駄目です。この試練の時、神様の御旨の中に留まらなければなりません。最も安全な場所は神様の御心の内です。（「王国の王冠」 2017/10/8）

混沌とした水域を航海しているのです。だからいまは祈りの時であり、悔い改めの時なのです。ひざまずいて神様に「私たちは完全なものではありませんが、私たちを用いてくださり、摂理と聖なるみ旨、聖業と一つにしてください。そしてここで立ち上がり人類と共に生き抜き、オオカミと働く山羊を、ライオン、すなわちユダ族の獅子と共に宿る羊にかえて下さい」と祈るべきなのです。これが私たちの日々の祈りとなるべきです。「み国が来ますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように」（「識別する王国」 2017/3/19）

祭日には神様の理由があります。ただのお祝いだけではなく、教育です。神様はそのような祭日を作ってイスラエルの人々が教育されるようにしました。なぜなら、神様は地上に神の王国を作ろうとされていたからであり、人々は移動の準備をし、荷物を持って出る準備をし、患難に備え、前進するときのために備えなければならないからです。それが今、どれだけ深刻でどれだけ重要でしょうか。（「逆転の王国」 2016/10/16）

神様の祭日は別のシンボロジーを与えてくれます。そこには私たちが実践し、学ぶ、違った原理があります。どのような原理かと言えば、子供と一緒に出掛け、家族と一緒に出掛けるということです。神様と心を通わせるという課題を持って外に出るのです。どこに出るかというと、荒野です。人々が恐れる場所です。そこに行って安らぎを探し、罪を克服するために神様を探します。ちょうどイスラエルの民が罪を克服するためにエジプトを離れたように。彼らは確かに荒野でたくさん罪を犯しましたが、彼らは罪から逃れるためにエジプトを旅立ちました。そしてそこに行き神様と暮らし、子供たちと暮らすのです。（「逆転の王国」 2016/10/16）

神様は家族と外に出て自然の中に行くよう命令します。逃げ場のない荒野の中に入るのです。シェルターを作るという目的を持ってそこに行きます。そして神様と心を通わせて 1 週間自立し、その土地でやっていきます。そこでお父様がなぜそのようなことをたくさんされたのかが分かるのです。これはお父様の日常の生活様式の一部でした。なおかつ神様は仮庵の祭の中でその命令をされています。（「逆転の王国」 2016/10/16）

競争の精神、柔術を習う気概、自分を強くし、釣りや狩りをやろうという精神、本物の人々、本物の関係を求めていくことです。自分の限界を超えさせてくれるもの、例えば若者たちは忍者の訓練、武器を使う訓練、激しい武道の訓練、少女が恐れ、少年も恐れるような訓練。まず恐ろしくて 99.9%の人が手を出さない内容です。野外での釣りや狩り。これから、8 マイル（約 13 ㎞）、21 マイル（約 34 ㎞）、40 マイル（約 64 ㎞）のトレッキング（山歩き）を始めるつもりです。こうして強くなるのです。（「王国の豊かさ」 2016/11/20）

私達は非常に重要な時にあります。私達は王国が来ることを知っています。神様の王国が立てられ、私達は堕落せずに、天一国憲法が発表され、神様の王国と自由と責任の時代は訪れようとしています。しかし、それは患難を通して来るのです。良くなるのではなく、悪くなります。私達は準備しなければなりません。王冠の摂理、天一国憲法の摂理、天一国を備えられた

人々に広めていくこと。非常に重要な時です。（「黙示録の王国」 2017/4/2）

「み言をいただく」姿勢を取る

祭壇に関していろいろ議論があります。日本も韓国もそれぞれ、お父様のお写真を飾って、三代王権、そして天聖経を置いて祭壇をつくります。今なら天一国憲法も置くでしょう。またロウソクもあります。祭壇に関してまだ、公式な指示を出していません。しかしこの問題に関する私の助言はこれです。「最良の方法は、常にお父様の立場に立って考えることだ」

例えば普通の祭壇を考えるとき聖書は自分に向けて置いています。原理講論も自分に向けて置いている。しかしそれはあなたの観点です。それを真の所有者であるお父様の方に向ける。祭壇の前に行くたびに「お父様、み言を賜っても構わないでしょうか」と尋ねてから、逆に回して手に取るのです。それはお父様から頂く立場です。あなたが語ったみ言ではありません。これがお父様の視点で見る例です。お父様の観点からみるとき、一般になされている状況は人がみ言や原理講論を所有しているように見えるのです。

それは霊的にも大きな違いがあることが分かるでしょう。教典を真の所有者に向けて置くだけのことです。それだけで、み言を頂くという姿勢を得ることができます。無造作に聖典のページをめくることをせずに。（み言を）乞い願わなければなりません。お父様の写真に体を曲げて、「今日ここからみ言葉を頂いて構わないでしょうか」というのです。（中略）

皆さんも天聖経などをお父様に向けて置いて試してください。天聖経をお父様に向けて置くのです、なぜならお父様こそ、み言の所有者ではないですか。だから祭壇に行くたびに、聖句を奪い取るのではなく、求め願うのです。それだけで正しい秩序を生み出すことが分かるでしょう。（「豊かな王国」 2017/7/23）

自分の責任分担として備える

どうして王様は私の備えについて語るのかと思うでしょう。話さずにはおれないからです。愚か者たちがこう考えているのが分かります。「何かあれば天一宮に入れてもらえばいいじゃない」 収容に限度があるのです。だからあなた方自身で準備しなければならないといっているのです。恐怖に駆られた無法者にならないで下さい、一緒に撃ちますよ。（笑）決して愚かな人にはならないで下さい！他の人の備えを当てにしてはいけません。なぜこういうことを前もって言うかというと－3 年前から言ってきました。なぜなら皆さんの責任分担だからです。自分以外の誰かを当てにするのは止めなさい！生存確保の場所にはそれぞれ限度があるのです。それを超えて人が詰めかけるなら、先に中にいる人の命を脅かすのです。だからブルーストーン牧場にも限度があるし、天一宮にも限度があります。国進兄さんの所も限度があるというのです。物理的限界がある。もし表で 50 人が暴れて襲撃しようものなら、自己防衛しなければなりません。我々は山ほどの銃器をもっています。襲撃する側にはつきたくないでしょう。どうかしています。（「備える王国」 2017/9/3）

「ああ、どうしよう。死ぬかもしれない。助けて！助けて！何とかして！」「わかっている！乾電池はとにかく買い足した」「そんなもので足りないでしょう！」 こうならないで、落ち着いて。スーパーに行ったら、いつもより一つ多めに水を買うのです。たった 1 ドル（1 ガロン＝約 3．8 リットルにつき）です。買い物に行くたびに 1 ドル出して、1 ガロンの水を買い足すのです。あるいは 1 ドル 50 セント出して、缶入りのスープあるいは豆を一つ多めに買う。もし週に 2、3 回スーパーで買い物をするというなら、3、4 ガロンの水を買いだめすることは容易でしょう。地下室に置いておけばいい話です。ひと月もすれば、そこに 16 ガロンの水が蓄えられる。次月には 32 ガロン。その次の月には・・・ 分かりますか。小さなことから始めることができます。ヘッドランプも揃えるといいでしょう。ヘッドランプなら、両手が使えます。備品を点検して単三、単四電池を揃えましょう。電池は持っていれば必要なものと交換もできるのです。人はこういう常識的なことも考えようとしません。自分の生命について深刻さが足りないのです。いかに甘やかされてきたことか。いいですか。事態が悪化する時、皆さんに責任がかかってくるのです。皆さん自身の安全に責任を負うということです。（「備える王国」 2017/9/3）

目ある者は見よ！　耳ある者は聞け！

思い込みはやめなさい。誰かが助けてくれるという考えは捨てなさい。自分が責任をもつのです。そして周囲の人々の救命ボートになりなさい。人のものを盗む群集の中の一人になってはなりません。そんなことをすると撃たれるかもしれません。5 千人もの人々が何かないかと探し回る姿が見えます。聖霊があなた方を裁いてくれるように祈ります。ここにいる人たちだけでなく、ビデオを通してみている世界中の人々を！いい加減に過ごすのはやめなさい。深刻な時です！韓氏オモニがとんでもないことをしでかした結果、韓氏オモニと家庭詐欺連合だけでなく韓国朝鮮と他の世界が破滅する！といったとき、彼らはただ嘲笑し、気が狂っているといった。もちろん韓国朝鮮が痛烈に打たれるでしょうが。オモニも、私が狂っているといいました！「韓国に真の母がいて、完全な勝利に向かっているのに」といって！ここまで惑わされた女性だったのです。傲慢で、自己愛に浸りきった謀反人、神の前に思い上がりに満ちた女性です。韓国がどうなりつつあるか、今目撃しているでしょう！韓国人はいますか。想像だにしなかったことが。あなた方もその一味だった！二代王を呪った仲間だ！当時の韓国人として。今やあなた方の国は跳ね上げられ、主権を守る可能性も失せた。天一国文化をもたらす可能性は失せた！核による大量殺戮の淵に立たされた！（「備える王国」 2017/9/3）

深刻な時です。神様の前にひざまずいて、導きを求めなければなりません。艱難の時が来ました、誰も止めることができません。神さまの導きを乞い求めることはできます。自分と家族のためにだけ生き残るのではありません。そもそも皆さんが生き残る保障などどこにもありません。全員死んでいるかも知れません。追い立てられ、クリスチャンは首を切り落とされ、すべてを検閲し始めているし、都市部に行けと命じられるかもしれません。インターネットでの物の売り買いも許されない。戦争が始まれば、そういうことが起こらないとでも思いますか。インターネットに浸りきっている者を活動停止させることはあまりにも容易い。（「備える王

国」 2017/9/3）

狩りの仕方も知らない。食料確保の方法も知らない。何の準備もしていない！完全にアマゾンに頼り切って。スーパーに物が無くなったらどうする、もうおしまいだ。大弱り、そして「おお、なんてこった！」 何回言わせるのですか。3 年間言い続けてきました。深刻なのです、深刻な時。ただ生き延びる為に生き抜くのではありません。たとえ死んでも霊界ではキリストと共に天国にいる。しかし神の王国は成されます。それを神の息子娘たちが相続しなければなりません。難しかったときに神の王権とともに立った者たちです。子供たちに罵られ、嘲られても、狂っているといわれても・・・。今やその子供たちの方が愚かな狂人であったことが露わになりつつある。彼らがカルトに侵されていたことが明らかになり、愚かな政府子飼いの教師の言うことをそのまま信じていた、淫らなメディアに洗脳されていた。その者達こそ、状況を真に把握している者を笑いものにしてきた愚かな若者たちです。これまで彼らを馬鹿だとか脳が死んでいるとは言ってこなかったのです。（「備える王国」 2017/9/3）

勿論ここにいる人たちの方が備えはできていることでしょう。考えてみて下さい。私が深刻な話をした時、いかに心を塞いできたか。脳の認知力がストップさせていたか。皆さんはおそらく一般の人より十倍は目覚めていることでしょう。しかし深刻な話をしているのにまだ心が眠っています。あなたが責任をもたなければならないのです！「軽く考えろ」と囁く悪魔と自分で戦わなければならないのです。誰も代わりにしてくれない。他人を当てにしていたら、彼等の重荷になるだけです。本来なら他の人のお荷物ではなく、恵み、祝福にならなければならないのでしょう！（「備える王国」 2017/9/3）

テクノロジーに依存してはいけない

人は愚かで脳は死んでる。完全に洗脳されて！もはや本を読むこともできません。タブレットで読むから本がどのようなものか分からない。「タブレットの電源が無くなったらどうしよう」という。電気がこなくなればゲームもできない、人と連絡もできない。連絡先も全部消えてしまう。ちょっと考えてみて下さい。親友の電話番号もおそらく暗記していないでしょう。ただ、名前を探してオンにするだけで通じますから。電話帳に記憶されている 3,4 人の親しい友達の番号を覚えていますか。そうですか、そうでないですか。（そうです）いかにテクノロジーの奴隷になっているかです。テクノロジーは素晴らしいものですが、支配のためにそれを用いるととても厄介です。人びとが中毒になっているものを取り上げるだけで多くのことができるというのです。「もしそれを返してくれさえすれば・・・」 それは中央権力、天使長の常とう手段です！天使長の性質です。（「備える王国」 2017/9/3）

自然を愛する

あるとき私は王妃にこういいました。天一国の文化は全員が自由だということだ。アウトドアを愛する。どこにいようと神様と一つにつながっている。いつでも神様が臨在しておられる。韓オモニについても話しました。オモニは 300 億の王宮（天正宮）にあまりに執着している。核爆弾が落ちたら一瞬で蒸発してしまう、物理的な土地にあまりに縛られて！お父様の伝統、天一国の文化は、アウトドア、自然を愛することです。どこでも自分の家に、自分の王宮になるのです、何処でも。水中は駄目ですが。（「備える王国」 2017/9/3）

神様の備えられた地

皆さんに準備するように言ってからもう何年になるでしょうか。やらなければそれは自分の責任です。（中略）私たちはペンシルベニア北東部にいますので、もちろんそういうことはありません。おそらくこの国で最も安全な場所の一つでしょう。お父様の御手がこの場所に導いてくれました。ここの皆さんは嬉しいかもしれません。しかし、向こうにいる人たちがいます。私が毎週話しているサンクチュアリの人たちは皆あちら側にいます。（「備える王国」 2017/9/3）

この場所は明らかにそれほど危険ではありません。ニューヨークやシカゴに何か起きたとしても、またワシントン DC に起きたとしても・・・。それが祝福だとは言わないでください。LA、サンフランシスコ。最大の被害を及ぼすためには大都市を狙います。北朝鮮はアメリカまでミサイルを到達させられることは明らかでしょうが、核兵器で攻撃できるほど小型化ができているかは分かりません。（「備える王国」 2017/9/3）

明らかにペンシルベニア北東部は神様が準備された場所です。トランプが大統領になるために決定的な地域でした。トランプの家庭とお父様の家庭、王権がつながったところです。世界の大統領が選ばれた場所でした。アメリカは世界の大統領と呼びたくないかもしれませんが。ペンシルベニアは明らかに摂理的な場所です。そして、感謝すべきことに、標的となる可能性のある主要な危険地帯、主要な都市の範囲外にあります。（「備える王国」 2017/9/3）

災難が起きるとき、目覚めた人たち、判断力を持っていて準備していた人たちにこびへつらうようになるのは、滑稽なことではないでしょうか。どのようにあなたに期待すると言うのでしょうか。私の世話をしなければならない、と。いいえ、そのようなことはありません。今はヨナの時ではありません。キリストが審判しに来る終わりの時なのです。そして善と悪をもう一度すべてのために分けるのです。ですから、傲慢さとナルシズムのためにキリストの恩寵と良いところに便乗している人にとっては恐ろしい時です。しかし、それはその人たちが大きな結果を刈り取ることになる時です。（「王国の王冠」 2017/9/17）

患難後期

ヨハネの黙示録 13 章 「1:わたしはまた、一匹の獣が海から上って来るのを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があって、頭には神を汚す名がついていた。2:わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のようであった。龍は自分の力と位と大いなる権威とを、この獣に与えた。3:その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全

地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、4:また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。5:この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた。6:そこで、彼は口を開いて神を汚し、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちとを汚した。7:そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。」

患難時代中期の後、多くの苦難があります。「獣が海から上って来る」とあり、あらゆる混乱が起きるということです。その海とは現在の東シナ海のことです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

海から上って来る獣

ヒョウについては中東のおそらくイランだろうという話をしていました。それが体です。そして今、ロシアと共謀しています。それは熊のことです。ロシアの国の紋章でもあります。興味深いことに足が熊だというのです。そして獅子の口です。北朝鮮のことだと示しました。朝鮮の人は自分たちの国、半島を虎だとみなしています。朝鮮半島が虎のような形を示している絵を見せたと思います。虎の頭が北（朝鮮）です。実際は半島の北東の部分ですが、そちらに虎の頭があります。朝鮮にライオン（獅子）はいませんので、虎がライオンに当たります。9.23 後、一年のうちにここが最先端となる可能性があると分かっています。ここには大きな力が備わっていて、竜が背後から力を与えています。竜とは中国であり、中国は自分たちのことを竜だと言っています。一年前に話したことですが覚えているでしょうか。このような主要な国がこの獣の問題に関わっています。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

本物の怪物が海からやってくると考えているクリスチャンは一人もいません。そのように考えている人は一人もいません。トップレベルの解釈者から学術界、普通の人に至るまで、本物の獣がやって来ると考えている人はいないのです。それはある種の連合であって、地上に破壊をもたらす体を治めている連合体のようなものです。十の角、七つの頭、十の冠。エリート階級の権力構造です。アレックス・ジョーンズはグローバリズムと呼んでいます。我々が政治的悪魔崇拝と呼んでいるものです。それは世界的な機構であって、今週の自由社会の勉強会でも國進様が講義していました。それは、ファシズムも共産主義も同じものであるということです。その違いは、ファシズムは国家的共産主義であり、共産主義は世界的なものだということです。共産主義者は世界的な統治機構を持とうとします。ファシストの場合、例えばムッソリーニなら「イタリア人の国だ」と言いながら、実は基本的に同じ中央集権の天使長的な支配であり、国民は奴隷になるのです。一つは国家的なもので、もう一つは世界的なものです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

様々な獣の問題があります。それで何に対して戦争を起こすのでしょうか。主権に対して戦いを挑みますが、どのような主権の文化でしょうか。主権のために戦う真の文明とは何でしょうか。それはキリスト教文明です。アベル型の主権であり、道徳、キリスト教の道徳、イエス・キリストの道徳、隣人を愛し他のために仕え奉仕し、助けるような道徳に基づく主権です。また迫害する敵のために祈る道徳でもあります。子供を守る道徳です。石臼を首にかけて海に放り込んだほうが良いというのです。子供を守り、未亡人、弱者を守る道徳。これはみなキリスト教の道徳です。もちろんこのようなものの上に良い文明が作られます。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

カトリック教会の問題

残念ながらカトリック教会はその反対になってしまいました。ある程度はそのようなものを用いてはいますが、女神信仰を取り入れ、中央銀行や中央集権国家を完成させています。そしてそのようなものは神の王国ではないのにそうだと主張するのです。20 世紀を見てもあらゆるファシスト、独裁政権の仲間になっていました。カトリック教会はヒットラーを支持していました。自分たちと同じような組織と協調していました。そしてグローバリストの支配を促進しています。貧しい人に炭素税を掛けて、すべての人に世界的な税金を掛けられるようにしています。カトリック教会がそれを支持するとは狂っています。偽りの教皇がそのようなことをやっています。福音派のキリスト教文化は、主権の本質を理解する文化であり、神様との関係を理解する文化なのです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

獣の数字

ヨハネの黙示録 13 章 18:ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である。

興味深いことにはその数字は 600 と、スリースコア（訳注：英語で 60 を表す語。引用された聖句の英語の原文では 666 を"Six hundred threescore and six"と記している）と 6 です。スリースコアとは 3 つのスコアということで、スコアは 20 を表しますが、これについてはまたあとで説明します。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

数のことを話しましょう。非常に興味深いことです。獣の像というものがあります。「**小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ**」 これについては多くの異なる解釈があります。すべてを取り上げるつもりはありません。マイクロチップだという人もいれば、額の印ということで思想だという人もいます。それは外的なものではなく思想を取り入れることだというのです。額ということは頭脳に入れるということです。その思想とはグローバリズム、世界共産主義、世界政府、世界レベルの支配です。それはすなわち政治的な悪魔崇拝です。63206 という数字になるというのは興味深いことではないでしょうか。まるで冗談のような話です。Google でその数字を検索してみました。「Facebook は文字の制限を 63,206 文字に増やす」という記事です。一体これが信じられるでしょうか。もちろんこの Facebook は共産主義者、中国と協調しています。ザ

ッカーバーグは中国政府と協調して、西洋世界でも中国と同じような検閲を導入したいと考えています。文字通りインターネット上のゲットーに入れるということです。そして見てはいけないもの、言ってはいけないことなど、あれこれ禁止して国に反発することや中央権力に逆らうことは見ることも言うこともできなくするのです。もちろん保守的な価値観、銃の権利などを支持する人に対するネット上の検閲があることは分かっています。そしてこの馬鹿者たちはアルゴリズムの中に 63206 という数字を入れているのです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

（以下、記事の読み上げ）「古いノートパソコンでもう少し格闘してみた。Facebook の文字制限は現在 63，206 文字であることが分かった。それ以上入力すると『近況アップデートが長すぎます』というエラーメッセージが表示される。次のように書いてある。『近況アップデートは 63,206 文字以内でなければなりません。あなたはＸ文字入力しました』・・・ではこの 63206 という数はどこから来たのだろうか？Facebook のエンジニア、ボブ・ボールドウィンはこう説明している。『正確な制限値をオタクっぽいものに設定した。Face Boo K … hex(FACE) – K … 64206 – 1000 = 63206』」 どんな偶然でそのような数字になるというのでしょうか。ばかげています。まったく奇妙です。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

9.23 の後にもその 9 日後・・・9 は 3 の 2 乗であるわけですが・・・9 日後にそれは 32（訳注：「さんじゅうに」ではなく、「さん・に」）という数字が出てきます。銃撃犯が撃ったのは 32 階でした。犯人は 23 丁の銃を持っていて 223（0.223 インチ）の弾丸を撃ちました。そして犯人の住所が 320 です。まったくあきれた話です。
それから実在の組織が特にその数字を使っていて、それが 322 なのです。先週見せたでしょうか。私の Facebook に投稿したと思います。それがスカル＆ボーンズというグループです。ロゴにその数字が書かれています。だれか iPhone で検索してウィキペディアにある絵を見せてください。スカル＆ボーンズの 322 という数字は、ウィキペディアでも公表されているようなことなのです。イエール大学のエリートの、学生秘密結社だということは誰もが知っています。（iPhone を見せながら）これが公式のロゴです。322 とあります。この人たちはふざけているのではなく、数秘学を知っています。数にそれぞれ意味と力があるということを知っています。このロゴを見てください。100 年以上前からあるものです。1832 年ですから約 185 年前です。悪魔主義者は様々な数秘術を使っているということが分かります。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

今、明らかになりつつあります。悪魔崇拝者は数秘術に本当に熱心だということです。数に込められた神秘的な力を信じています。彼らはこういった数字を占星術的なサイン、宇宙の惑星の動きやパターンと組み合わせなければなりません。そうして力を最大に高めて儀式を行います。それは私や皆さんが信じるということではなく、彼らが信じていることです。それを本当だと信じているのは彼らなのです。だからそのような数字に熱狂しているのです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

Facebook の問題

おそらくここが世界で最大の独占企業の一つではないでしょうか。CIA とも情報収集で共謀していることが分かっています。黒い馬（の騎士）のために働いています。プロジェクト・ベリタスのチームがユーチューブやニューヨーク・タイムズの偏向を暴露していますが、おそらく Facebook もターゲットになっているでしょう。その数字が 63206 だと分かったのは非常に興味深いことです。彼らは左翼とリベラリズム、そして世界共産主義の思想を推進しています。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

シリコンバレーの技術系大企業は、ハリウッドや小児性愛ネットワーク、リベラルの左翼の文化と共謀しています。ハーヴェイ・ワインスタインをはじめハリウッドの小児性愛ネットワークといったあらゆる悪が明るみに出ています。その頂点は悪魔崇拝者なのです。Facebook がそのような数字を入れたのは全くの冗談だと考えているのです。「獣の数字を入れてしまおう」と。ランダムにそのような数が得られるはずはありません。潜入ジャーナリストが彼らのやっていることを完全に暴露しました。エスタブリッシュメントに、ビルダーバーグの支配者に魂を売ってしまっています。このザッカーバーグが大統領選挙に出ることを考えているのですから哀れな話です。この惨めな CIA の、けばけばしく飾り立てた、偏狭なシロアリ。まったくの負け犬です。
数日前、ジェームズ・オキーフとスティーブン・クラウダ―が言っていました。Facebook は独占していると。ユーチューブのような人々が投稿するようなところの組織も独占していると。個人のジャーナリストは自分たちの作ったものを FOX ニュースに投稿できないのです。CNN にも投稿できません。ユーチューブや Facebook に投稿するしかないのです。それしか彼らの情報のプラットフォームはありません。そしてそれを支配しているのはエリートのごく少数のグループなのです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

ディープ・ステートは最大のソーシャルメディア媒体のいくつかと共謀しています。Facebook もその一つであり、そこが 63206 という数字を使っているということは興味深いことではないでしょうか。彼らはすべてを支配していて、特定の考え方をしているとペナルティーを与えることができるのです。彼らは「あなたは Facebook でビジネスをしてはいけません」「あなたの収益を凍結します」と言うことができます。そのような高圧的なやり方がもう暴露されています。戦いは始まっています。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

YouTube の策略

今週、ユーチューブのことがジェームズ・オキーフの率いるプロジェクト・ベリタスに暴露されました。Facebook、ユーチューブ、Google はもちろん共謀しています。ユーチューブには保守的な考えをブロックするアルゴリズムが設定されています。その隠しカメラで撮影されたインタビューの中で、トレンド動画は（閲覧の）数と関係なく彼らが選んだものだということを認めたのです。ユーチューブの最初のページに表示されるトレンド動画はまったくのでっち上げということです。見てもらいたい動画を選んでいるということです。それは自分で選択していると思い込ませるためです。

そしてもちろん、保守的な動画は数を減らして遮断するというのです。5000 万ビューになったら遮断してもう一度初めからやらせるのです。それで次は 30 万ビューになるということです。30 万でも多いですが 5000 万ではないということになります。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

天の摂理の数

黙示録 14 章 1:なお、わたしが見ていると、見よ、小羊がシオンの山に立っていた。また、十四万四千の人々が小羊と共におり、その額に小羊の名とその父の名とが書かれていた。

いつも取り上げている内容です。この三大王権において天の父、そして小羊は・・・。私は未（ひつじ）年生まれであり、お父様の相続者です。シオンの山、そして 144。144 と 154。154 の数を全て足すと 10 になります。完成数です。154 の摂理（つまり 10 数）を 144 に足すと 154 になります。144 足す 10 で 154 になります。154 摂理（数）はお父様の聖和の正確な日時、時間と分から来ています。もちろん私たちがここにいるのもそのためです。見てください。小羊は地上に、父は天にいます。小羊の額には父の名が書かれているとあります。興味深いと思いませんか。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

患難期後半の 3 年半

神様は世界で態勢を整えています。私たちが今日生きている現実の世界を整え直しているのです。そしてもちろん、北朝鮮では非常に大きな事態が起こりつつあります。残念ながら熱狂的な度合いでエスカレートしています。今、世界に対して予測されること、分かっていることは、それが 3 年半の間同じということではないということです。それは分かりません。すべての地形と地図が変わるかもしれません。特に北朝鮮とトランプが戦術的な先制核攻撃を行う場合、あるいは小規模な攻撃を加えることを決定した場合、それが第三次世界大戦となるかもしれません。中国は北朝鮮を支援すると言っていました。私たちは巨大な問題を抱えています。ティム・エルダーが今週伝えましたが、議会が北朝鮮からの EMP 攻撃に関する報告を受けたというのがトップニュースになりました。EMP 攻撃により、電力網が遮断され 1 年間でアメリカの人口の 90 パーセントが死に至る可能性があります。核爆弾をアメリカの大気圏に突入する前に爆破するだけです。再突入の問題が解決し、誘導システムの問題も解決します。それが今週議会で報告されました。今週議会で報告されたのです。目を覚まさなければなりません。それが合衆国議会のテーブルの上に置かれたのは今週のことです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

黙示録に描かれた総監察官 國進様

黙示録 14 章 14:また見ていると、見よ、白い雲があって、その雲の上に人の子のような者が座しており、頭には金の冠をいただき、手には鋭いかまを持っていた。15:すると、もうひとりの御使が聖所から出てきて、雲の上に座している者にむかって大声で叫んだ、「かまを入れて刈り取りなさい。地の穀物は全く実り、刈り取るべき時がきた」。16:雲の上に座している者は、そのかまを地に投げ入れた。すると、地のものが刈り取られた。17:また、もうひとりの御使が、天の聖所から出てきたが、彼もまた鋭いかまを持っていた。18:さらに、もうひとりの御使で、火を支配する権威を持っている者が、祭壇から出てきて、鋭いかまを持つ御使にむかい、大声で言った、「その鋭いかまを地に入れて、地のぶどうのふさを刈り集めなさい。ぶどうの実がすでに熟しているから」。19:そこで、御使はそのかまを地に投げ入れて、地のぶどうを刈り集め、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ込んだ。20:そして、その酒ぶねが都の外で踏まれた。すると、血が酒ぶねから流れ出て、馬のくつわにとどくほどになり、一千六百丁にわたってひろがった。

黙示録の中の、もう一人の重要な人物が出ています。私たちはお父様がカインとアベルの両方を任命したことを知っています。それでもう一人の重要人物がいるのですが、あまり話題にしていませんでした。その人は王冠を被っていました。小さな紐の王冠。ジャマールが黙示録を読んでいてそれを見つけたのだったと思います。「それは國進様でしょうか」と。「人の子のような者」です。彼も「父」の子です。彼もお父様によって任命された息子でした。権威を持っています。マクロ世界だけではなく、総監察官として。ミクロ世界でもお父様は歴史的な真の兄として任命しました。

そして鋭い鎌を持っています。國進兄さんは秘密の武器を隠し持っているのかもしれないと思いました（笑）。それで鎌というのは驚くべきことに拳銃のような形をしています。この人は武器を手に持っていてそれで収穫するということです。カー・アームズ（KAHR ARMS）の信じられないほどの素晴らしい業績を見ても、それは主権を支援し、人々を助けるだけでなく、銃を撃つ責任を教えているだけでなく、市民に武器を与えるのに貢献しています。

それは重要なことです。神様がどのように展開されているか分かります。工場の土地についても様々なところがアプローチしています。タフ・マダー（トライアスロンに似た障害物レース）も何かしようとしているようです。神様は働いておられます。それでどうするのでしょうか。人々を自由社会につなげたとしても、カー・アームズにつなげたとして。

一人の父の子。王冠を持ち、鋭い鎌を持つ。黄金の王冠を持っているか聞いてみてください。ライオンとカー・アームズのロゴがついているそうです。外では被らないのですが。寝室でこっそりかぶっていると思います。それは内部情報です（笑）。そして刈り入れです。どれくらいの人が主権に関心を持ってきているでしょうか。どれくらいの人が、カーが行っている事業を通して王国に、憲法に、原理につながってきているでしょうか。地域の人を雇うときに、あとどれくらいの人が関心を持ってつながって来るでしょうか。霊的な銃を外に向けて構えるとき、サタンの王国で、サタンの王国を去る準備ができているアベル側の人々がいるのです。（「七年患難の後半」 2017/10/15）

[1] 「メディア」を「言論」に修正。「メディア」だと映画なども含まれるため、言論という言葉にされた経緯をエルダーさんより教えていただく。（2019/1/10）

この冊子は、二代王亨進様と総監察官國進様が、2012 年から 2017 年までの間に語られた「王国のみ言」をテーマごとにピックアップしてまとめたものです。
み言は 「サンクチュアリ NEWS」 や 「真のお父様に帰ろう！『三代王権・こころのサンクチュアリ教会』」 から引用させていただきました。心から御礼申し上げます。

※ サンクチュアリ NEWS：https://nqj17437.wordpress.com/
※ 真のお父様に帰ろう！『三代王権・こころのサンクチュアリ教会』：http://h2fanclub.blogspot.com/

この資料はみ言の発表に伴って随時更新していきますが、最新のファイルは以下の URL からいつでも自由にダウンロードしていただけます。
https://www.cheonilguk-jp.org/王国のみ言/

（王国のみ言ライブラリ）